

salesforce

ISVforce ガイド

バージョン 60.0, Spring '24



 @salesforcedocs

最終更新日: 2023/12/07

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2024 Salesforce, Inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、Salesforce, Inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

第 1 章: ISVforce ガイド: AppExchange ソリューションの作成および配布	1
リリースノート	3
AppExchange での配布準備	3
Salesforce パートナーコミュニティへの参加	3
自分の Salesforce パートナービジネス組織へのアクセスの検証	4
Salesforce パートナービジネス組織の要求	4
Salesforce パートナーの学習リソースのナビゲーション	5
管理パッケージを使用した AppExchange ソリューションの開発	5
AppExchange ソリューションの設計	6
AppExchange パートナーおよびソリューションのセキュリティ要件	6
Group Edition と Professional Edition のアーキテクチャ上の考慮事項	29
AppExchange セキュリティレビューの合格	37
AppExchange セキュリティレビュー	39
AppExchange セキュリティレビューのしくみ	40
Partner Security Portal	43
ソリューション全体のテスト	47
Salesforce Code Analyzer を使用したソリューションのスキャン	50
偽陽性	51
セキュリティレビューリソース	54
AppExchange でのソリューションの公開	55
AppExchange とは?	56
AppExchange での公開	56
AppExchange 検索のしくみ	102
メール通知	105
AppExchange リードの収集	106
AppExchange リスティングでのソリューションの更新	113
FAQ - AppExchange	113
Checkout を使用した AppExchange での販売	118
AppExchange Checkout	119
Checkout 管理アプリケーション	142
AppExchange パートナーの Analytics によるパフォーマンスの監視	156
AppExchange Marketplace Analytics でのリストパフォーマンスの測定	156
AppExchange App Analytics (AppExchange アプリケーションの Analytics)	185
Channel Order App を使用した Salesforce への注文の報告	186
Channel Order App	187
Channel Order App の設定	192
Channel Order App のアップグレード	197
Channel Order App での注文の管理	203
Channel Order Apex API	207

目次

AppExchange ソリューションの無料トライアルの提供	230
AppExchange ソリューションに適したトライアルの提供方法の選択	231
Trialforce による AppExchange のトライアルの提供	232
機能制限トライアルで AppExchange のトライアルを提供	244
Web サイトでの無料トライアルの提供	247
OEM ユーザーライセンスガイド	252

第1章

ISVforce ガイド: AppExchange ソリューションの作成および配布

トピック:

- [リリースノート](#)
- [AppExchange での配布準備](#)
- [管理パッケージを使用した AppExchange ソリューションの開発](#)
- [AppExchange ソリューションの設計](#)
- [AppExchange セキュリティレビューの合格](#)
- [AppExchange でのソリューションの公開](#)
- [Checkout を使用した AppExchange での販売](#)
- [AppExchange パートナーの Analytics によるパフォーマンスの監視](#)
- [Channel Order App を使用した Salesforce への注文の報告](#)
- [AppExchange ソリューションの無料トライアルの提供](#)

独立系ソフトウェアベンダーがSalesforceで成功するビジネスを構築できます。まず、Salesforceパートナープログラムに参加して、AppExchangeISVまたはコンサルティングジャーニーに役立つリソースについて理解します。その後、AppExchangeマーケットプレイスのソリューションを計画、作成、配布、販売、およびサポートを行う方法について学習します。

ISVforce ガイド: AppExchange ソリューションの作成および配布

- [OEM ユーザーライセンスガイド](#)

リリースノート

パッケージ化、分析、セキュアなコーディングツールなど、AppExchange パートナー向けテクノロジーの最新の更新や変更点については、Salesforce のリリースノートを参照してください。

最新の変更については、次のドキュメントを参照してください。

- [AppExchange パートナーのリリースノート](#)
- [「パッケージ化」リリースノート](#)

AppExchange での配布準備

AppExchange にソリューションまたはコンサルティングサービスを登録する前に、前提条件タスクを完了します。まず、Salesforce パートナープログラムにサインアップします。次に、パートナービジネス組織があることを確認します。そして、パートナージャーニーを効率よく進めるためのリソースやドキュメントに慣れます。

Salesforce パートナーコミュニティへの参加

AppExchange ソリューションとコンサルティングサービスは、オフィシャル Salesforce パートナーによって開発されています。パートナーシップジャーニーを開始するには、Salesforce Partner Community に参加します。

自分の Salesforce パートナービジネス組織へのアクセスの検証

Salesforce パートナーは、パートナービジネス組織 (PBO) にアクセスできます。PBO には、AppExchange ISV ビジネスまたはコンサルティング業務を設定して管理するためのツールがあります。ソリューションまたは業務の構築を始める前に、自分の PBO にアクセスできることを確認してください。

Salesforce パートナービジネス組織の要求

Salesforce パートナーコミュニティへの参加時にパートナービジネス組織 (PBO) を受け取っていない場合は、ケースを登録して要求してください。パートナーコミュニティへの参加時に別のユーザー名を作成してある場合は、このステップはスキップしてください。PBO は参加時に自動的にプロビジョニングされています。

Salesforce パートナーの学習リソースのナビゲーション

Trailhead やパートナーコミュニティなど、さまざまなソースから厳選されたリソースで、Salesforce パートナージャーニーを快調に進めて目標を達成しましょう。

Salesforce パートナーコミュニティへの参加

AppExchange ソリューションとコンサルティングサービスは、オフィシャル Salesforce パートナーによって開発されています。パートナーシップジャーニーを開始するには、Salesforce Partner Community に参加します。

Salesforce とのパートナーシップの具体的な内容は、ビジネスの目標によって決まります。Salesforce Partner Community に参加する前に、[AppExchange ISV](#) および [コンサルティングパートナーシップ](#) について学習してください。

- 💡 **ヒント:** すでに Salesforce のユーザー名を持っている場合でも、Partner Community では別のユーザー名を作成することをお勧めします。そうすることで、すぐに自分のパートナービジネス組織 (PBO) にアクセスして、ビジネスを設定して管理するためのツールを利用できます。

1. [Salesforce パートナーコミュニティ](#)に移動します。
2. **[Become a Partner (パートナーになる)]** をクリックします。
3. **[Continue to sign up (サインアップに進む)]** をクリックします。
4. **[Join the Partner Community (パートナーコミュニティに参加)]** をクリックします。
5. **[Get a Salesforce User Name (Salesforce ユーザー名を取得)]** をクリックして、必須項目に入力します。
6. **[Create Username (ユーザー名を作成)]** をクリックします。
アカウントを確認してパスワードを設定するための確認用メールが送信されます。
7. アカウントのパスワードを設定して **[I have my Salesforce User Name - Join the Partner Community. (Salesforce ユーザー名を持っています - パートナーコミュニティに参加)]** をクリックします。
8. パートナーコミュニティにログインし、残りの設定タスクを完了します。

自分の Salesforce パートナービジネス組織へのアクセスの検証

Salesforce パートナーは、パートナービジネス組織 (PBO) にアクセスできます。PBO には、AppExchange ISV ビジネスまたはコンサルティング業務を設定して管理するためのツールがあります。ソリューションまたは業務の構築を始める前に、自分の PBO にアクセスできることを確認してください。

1. パートナーコミュニティに参加したときに作成したユーザー名とパスワードで [Salesforce にログイン](#) します。
2. アプリケーションランチャーをクリックします。
3. **[クイック検索]** ボックスに「**環境ハブ**」と入力し、**[環境ハブ]** をクリックします。
4. **環境ハブ** アプリケーションにリダイレクトされたら、PBO アクセスの検証は完了です。**[クイック検索]** ボックスで環境ハブが見つからない場合は、[Salesforce ヘルプ](#) でケースを登録して、PBO を要求してください。

PBO の詳細を見るには、[Salesforce Partner Learning Camp \(Salesforce パートナー学習キャンプ\)](#) で「**Get to Know Your Partner Business Organization (PBO) Tools (パートナービジネス組織 (PBO) ツールについて知る)**」に登録してください (ログインが必要です)。

Salesforce パートナービジネス組織の要求

Salesforce パートナーコミュニティへの参加時にパートナービジネス組織 (PBO) を受け取っていない場合は、ケースを登録して要求してください。パートナーコミュニティへの参加時に別のユーザー名を作成してある場合は、このステップはスキップしてください。PBO は参加時に自動的にプロビジョニングされています。

1. Salesforce パートナーコミュニティへの登録に使用したユーザー名で [Salesforce ヘルプ](#) にログインします。
2. アカウントスイッチャーをクリックして、自分のパートナーアカウントが選択されていることを確認します。
3. **[Contact Support (カスタマーサポートへの連絡)]** をクリックします。
4. **[Create a Case (ケースを作成)]** をクリックして、必須項目に入力します。
 - a. **[Subject (件名)]** には「**パートナービジネス組織 (PBO) の要求**」と入力します。
 - b. **[Description (説明)]** には、自分が Salesforce パートナーであり、PBO を要求しているということを記入します。

- c. 商品を選択するように要求されたら、[Pick a different product / topic (別の商品/トピックを選択)] をクリックします。
- d. [Product (商品)] では、[Partner Programs & Benefits (パートナープログラムとメリット)] を選択します。
- e. [Topic (トピック)] では、[Demo & Partner Business Orgs (デモおよびパートナービジネス組織)] を選択します。
- f. インスタンス種別と重大度を選択します。

5. [Create Case (ケースを作成)] をクリックします。

ケースの確認後、次の手順についての連絡が送られて来ます。

Salesforce パートナーの学習リソースのナビゲーション

Trailhead やパートナーコミュニティなど、さまざまなソースから厳選されたリソースで、Salesforce パートナージャーニーを快調に進めて目標を達成しましょう。

目的	おすすめのリソース
AppExchange ISV ビジネスを構築するための基礎を学習する。	Trailhead: AppExchange パートナーとしてのビジネスの成長
Salesforce コンサルティング業務を構築するための基礎を学習する。	Trailhead: ISV パートナーとしての業務の構築
第二世代管理パッケージなど、AppExchange ISV のツールやテクノロジーのハンズオン練習を実施する。	Trailhead: AppExchange パートナーとしてのアプリケーションの作成
セキュアなソリューションを作成するためのツールとベストプラクティスを探す。	Salesforce Developers: Security Developer Center (セキュリティデベロッパーセンター)
困ったときに質問をしたり助言をもらったりする。	Salesforce パートナーコミュニティ: Questions & Answers Community Group (質問と回答コミュニティグループ)
Salesforce パートナープログラムに関する変更や最新の情報を入手する。	Salesforce パートナーコミュニティ: Official: AppExchange Partner Program Community Group (AppExchange パートナープログラムコミュニティグループ)

管理パッケージを使用した AppExchange ソリューションの開発

管理パッケージは、Salesforce パートナーがビジネスアプリケーションを作成して AppExchange で顧客に配布するために使用するツールです。管理パッケージには、開発したアプリケーションの配布、ライセンス、パイロット機能、トラブルシューティング、収益化に役立つ機能が用意されています。

パッケージは、Salesforce の顧客にアプリケーションを販売したり配布したりするためのコンテナです。パッケージを作成してから、アプリケーションを構成する機能、カスタマイズ、スキーマを追加します。パッケージ化するメタデータコンポーネントの例は次のとおりです。

- Apex クラスおよびトリガー

- 標準オブジェクトのカスタム項目
- カスタムメタデータ型
- カスタムオブジェクト
- フロー
- Lightning ページ
- ページレイアウト

パッケージには多くの異なるメタデータコンポーネントを含めることができますが、単一コンポーネント(フローなど)をパッケージ化することもできます。

Salesforce では、第二世代管理パッケージ(管理 2GP)と第一世代管理パッケージ(管理 1GP)を提供しています。今後は、すべて管理 2GP を使用して新しいアプリケーションを作成することをお勧めします。第二世代管理パッケージを使用する利点の詳細については、「[第二世代管理パッケージに切り替える理由](#)」を参照してください。

関連トピック:

- [第二世代管理パッケージ開発者ガイド](#)
- [第一世代管理パッケージ開発者ガイド](#)

AppExchange ソリューションの設計

AppExchange ソリューション設計に影響するアーキテクチャ概念とセキュリティ要件を理解します。

- ☑ **メモ:** 新しいアプリケーションを作成するのであれば、第二世代管理パッケージの利用も検討してください。開発者が好んで第二世代管理パッケージを作成するには、柔軟なバージョンングとパッケージ間での名前空間の共有など、多くの理由があります。きっと気に入ると思います。詳しくは、「[第二世代管理パッケージに切り替える理由](#)」と「[第一世代管理パッケージと第二世代管理パッケージの比較](#)」を参照してください。

[AppExchange パートナーおよびソリューションのセキュリティ要件](#)

[発効日: 2023 年 8 月 9 日] Salesforce パートナーは、包括的なセキュリティプログラムを実装および管理し、AppExchange に登録する、または AppExchange パートナープログラムに基づいて配布するすべてのアプリケーションのセキュリティを維持する責任を負うものとします。

[Group Edition と Professional Edition のアーキテクチャ上の考慮事項](#)

AppExchange パートナーおよびソリューションのセキュリティ要件

[発効日: 2023 年 8 月 9 日] Salesforce パートナーは、包括的なセキュリティプログラムを実装および管理し、AppExchange に登録する、または AppExchange パートナープログラムに基づいて配布するすべてのアプリケーションのセキュリティを維持する責任を負うものとします。

- ☑ **メモ:** AppExchange パートナーおよびソリューションのこれらのセキュリティ要件(以後「要件」と記す)は、上記の発効日の時点で最新版となっています。要件は、この同じ URL またはリダイレクトされた URL で、発効日がそれより後のバージョンによって更新されるまで、あるいは更新されない限り、効力が続

きます。SFDC は、これらの要件を独自の判断で随時更新または変更する場合があります。その際、通告は、行う場合もあれば、行わない場合もあります。これらの要件は、<https://www.salesforce.com/company/legal/agreements/>に記載されている AppExchange パートナープログラムポリシーと Salesforce パートナープログラム契約 (「SPPA」) に準拠し、それらの一部を構成します。これらの要件で定義されていない太字の用語は、SPPA で定義されている意味を持ちます。

- ❗ 重要:** パートナーアプリケーション (管理パッケージ、Salesforce Platform API ソリューション、Marketing Cloud API ソリューション、および本文書で言及されるその他のソリューション) は、Salesforce のメインサービス契約 (<https://www.salesforce.com/company/legal/agreements/> またはその後継の URL で入手可能) で定義された非 SFDC アプリケーションです。パートナーアプリケーションのセキュリティレビューにもかかわらず、Salesforce は、パートナーアプリケーションの品質やセキュリティに関して保証を行いません。また、顧客は、パートナーアプリケーションの品質、セキュリティ、および機能を評価する責任があります。

AppExchange パートナープログラムへの参加条件として、このドキュメントに記載されているセキュリティ要件に従う必要があります。これらの要件には、一般要件と追加要件が含まれます。一般要件は、すべての AppExchange パートナーとパートナーアプリケーションに適用される要件です。追加要件は、特定のテクノロジーを使用したり特定のテクノロジーに接続したりするパートナーアプリケーションに固有の要件、または特定の業界で使用することを目的とした要件です。これらの要件では、パートナーアプリケーションは「ソリューション」とも呼ばれます。AppExchange のリストを作成または編集するときは、これらの要件に準拠していることを確認するように求められます。

このドキュメントのセキュリティ要件は、すべてを網羅しているわけではありません。パートナーは、該当するすべての業界セキュリティ標準に従うことをお勧めします。

AppExchange の一般要件

1. すべてのパートナーは、「[セキュリティポリシーの要件](#)」に記載されている要件に従う必要があります。
2. すべてのパートナーアプリケーションは、「[セキュアなコーディングの違反の防止](#)」に記載されている要件に従う必要があります。
3. AppExchange パートナープログラムポリシーで要求された場合、すべてのパートナーアプリケーションは Salesforce セキュリティレビューおよび評価に合格する必要があります。

B2C Commerce ソリューションのセキュリティ要件

パートナーアプリケーションが B2C Commerce カートリッジまたはヘッドレスインテグレーションの場合は、「[B2C Commerce ソリューションの保護](#)」に記載されている要件にも従う必要があります。これらの B2C Commerce 固有の要件は、AppExchange の一般要件に追加されるものです。

Tableau アクセラレーターのセキュリティ要件

パートナーアプリケーションが Tableau アクセラレーターの場合は、「[Tableau アクセラレーターのセキュリティ強化](#)」に記載されている要件にも従う必要があります。これらの Tableau 固有の要件は、AppExchange の一般要件に追加されるものです。

セキュリティポリシーの要件

要件: AppExchange にソリューションを掲載する前に、自社のセキュリティへの取り組みを示すセキュリティプログラムが必要です。また、顧客がソリューションの品質を評価できるようにするため、プログラムの情報を顧客と共有する必要があります。

セキュアなコーディングの違反の防止

AppExchange に掲載されるすべてのソリューションは、以下の AppExchange セキュリティ要件に従う必要があります。AppExchange ソリューションで特に発生する可能性が高い違反、それらの違反がセキュリティリスクをもたらす理由、およびそれらの違反を回避するソリューションの作成方法について説明します。

B2C Commerce ソリューションの保護

AppExchange に掲載されるすべての B2C Commerce カートリッジおよびヘッドレスインテグレーションは、次の要件に従う必要があります。

Tableau アクセラレーターのセキュリティ強化

AppExchange に表示されるすべての Tableau アクセラレーターは、次の要件に従う必要があります。

セキュリティポリシーの要件

要件: AppExchange にソリューションを掲載する前に、自社のセキュリティへの取り組みを示すセキュリティプログラムが必要です。また、顧客がソリューションの品質を評価できるようにするため、プログラムの情報を顧客と共有する必要があります。

推奨: プログラムには、次の項目を含めることをお勧めします。

セキュリティエキスパートの指定

開発のすべてのフェーズでセキュリティの考慮事項を取り入れれば、ソリューションをセキュリティ脅威から保護しやすくなります。ソリューションがセキュリティガイドラインに確実に従うようにする最良の方法の1つは、開発チームにセキュリティエキスパートを指定することです。そして、設計、実装、テストといった開発のすべてのフェーズで開発チーム全体がセキュリティエキスパートと連携します。セキュリティに関する検討を開発の最終フェーズまで後回しにしていると、コーディング中知らぬ間にセキュリティ違反を伝搬させてしまう可能性が高まります。定期的なコラボレーションにより、セキュリティ違反を不要にため込むことがなくなり、AppExchange セキュリティレビュー申請に合格するための準備に手間取ることがなくなります。

セキュリティポリシーの実装

ユーザーデータなどの顧客の資産を自社がどのように保護するかを詳しく説明した、企業のセキュリティポリシーを作成します。ソリューションをエンドツーエンドで保護するために実行できる活動を顧客に知らせます。

サービスおよびアーティファクトの列挙

Web ソリューション、モバイルソリューション、Web サービス、API、SDK など、ソリューションに含まれるサービスやアーティファクトを列挙します。

サードパーティライブラリの在庫

ソリューションが正常に機能するために必要なサードパーティのライブラリやバージョンの在庫を保持します。

アーキテクチャの図の作成

データタッチポイント、情報フロー、認証、承認などのセキュリティコントロールを表示するアーキテクチャ図を用意します。

リスト認定

該当するすべての認定レポートを共有します。たとえば、次のものがあります。

- HIPAA: 医療保険の相互運用性と説明責任に関する法律 (Health Insurance Portability and Accountability Act)
- PCI DSS: クレジットカード業界のデータセキュリティ標準 (Payment Card Industry Data Security Standards)
- SOC 2: 顧客データの管理に関する SOC 2 (System and Organization Controls 2) 基準
- ISO27001: 情報セキュリティ管理

サードパーティ監査の実施

独立したサードパーティにセキュリティ監査を実施してもらいます。監査の概要を顧客と共有します。

セキュリティ保証活動の文書化

企業レベルのセキュリティ保証活動を文書化します。たとえば、次のようなものです。

- ソフトウェア開発ライフサイクル (SDLC) の手法
- 脆弱性管理
- サービスレベル契約 (SLA) の改善
- サプライヤーおよび連動関係のセキュリティプログラム
- セキュリティに関する意識向上トレーニング
- セキュリティ違反への対応手順

機密データの列挙

ソリューションで処理または保存される支払手段データ、個人データ、医療データなどの機密データをすべて列挙します。

データストレージの場所およびプロバイダーの開示

個人識別データや医療データなどの規制対象データをソリューションで保存または処理する場合は、データストレージの場所のリストを開示します。国とプロバイダー (Amazon Web Services (AWS)、Azure、Google Cloud Platform (GCP) など) を明確にします。

サードパーティデータ共有の確認

顧客データを共有するサードパーティサプライヤーのリストを用意します。

連絡先情報の共有

連絡先情報を公開します。これにより、顧客は、簡単にサポートを受けたり、セキュリティインシデントを報告したりできるようになります。

セキュアなコーディングの違反の防止

AppExchange に掲載されるすべてのソリューションは、以下の AppExchange セキュリティ要件に従う必要があります。AppExchange ソリューションで特に発生する可能性が高い違反、それらの違反がセキュリティリスクをもたらす理由、およびそれらの違反を回避するソリューションの作成方法について説明します。

サードパーティエンドポイントからの JavaScript ファイルの読み込み

サードパーティ JavaScript ファイルをコンテンツ配信ネットワーク (CDN) から動的に読み込むことは避けてください。その代わりに、パッケージの静的リソースフォルダーからコードを読み込んでください。

Lightning コンポーネントでのサードパーティ CSS の読み込み

カスケードスタイルシート (CSS) とその他のリソースは、サードパーティから読み込むのではなく、静的リソースに組み込んでください。

CSS 外部コンポーネントの使用

Salesforce Platform は、それぞれの名前空間が分離された Sandbox であることを保証しようとはしますが、必ず分離が保証されるわけではありません。名前空間の分離の違反が発生した場合は、あるコンポーネントが、別のコンポーネントからクリックを盗んだり、別のコンポーネントの使用目的を妨げたりすることができます。こうした悪用を防ぐため、コンポーネントのスタイル分離と互換性がないことが分かっている CSS ディレクティブは使用しないでください。

Salesforce ドメインでの JavaScript の実行

複数のベンダーからの JavaScript コードを同じオリジンで実行できます。コードの干渉を防ぐため、ベンダーの JavaScript コードは Sandbox 化されます。Sandbox の外に出したり、オリジンの外部でコードを実行したりしようとししないでください。適切なオリジンで実行される Visualforce、Aura、または Lightning Web コンポーネントを使用します。

デバッグ時の秘密データの露出

本番環境で debug ステートメントを使用して秘密データをログに記録することは、セキュリティの脆弱性となります。本番環境では、秘密データ、機密情報、パスワード、キー、スタック追跡をログに記録しないでください。これらのデータは、編集するか、ログから省きます。

安全ではない方法による機密データの保存

Salesforce Platform からデータをエクスポートする場合、およびプラットフォームに秘密データを保存する場合は、企業のセキュリティ標準に従います。

既知の脆弱性があるソフトウェアの使用

自分の使用事例に関連する共通脆弱性識別子 (CVE) がソフトウェアに対して文書化されている場合、そのソフトウェアを使用することは、セキュリティの脆弱性となります。ソリューションに既知の脆弱性がある場合、セキュリティパッチが提供されたらできるだけ速やかに、そのパッチをテストしてリリースします。ソリューションで使用しているソフトウェアに、CVE で文書化されている脆弱性があるが、自分の使用事例には関連していない場合は、偽陽性に関するドキュメントを準備します。

本番でのサンプルコードの使用

サンプルコードは、自分でアプリケーションを開発する準備のために教材として使用するのにとどめてください。本番コードを作成するときは、必ず自分でコードを記述します。自分が直接管理していないソースからコードをコピーするのは避けてください。

オブジェクトレベルおよび項目レベルのアクセス設定のスキップ

標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに対して、組織の CRUD (作成、参照、更新、削除) 設定と FLS (項目レベルセキュリティ) 設定を適用するようにソリューションを設計します。

Apex での共有ルールのスキップ

Apex コードでは、プロファイルベースの権限、項目レベルのセキュリティ、共有ルール、組織全体のデフォルトを順守します。

データベースクエリ構造が安全でないことが原因の SOQL インジェクション

Salesforce Object Query Language (SOQL) インジェクションを防ぐには、バインド変数と入力サニタイズを使用します。

クロスサイトリクエストフォージェリ

クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) は、認証済みの Web アプリケーションセッション中に、不要なアクションをエンドユーザーに強制的に実行させる攻撃です。CSRF を防ぐには、`confirmationTokenRequired` を使用するか、またはユーザーアクションによって状態変更をトリガーします。

オープンリダイレクト

オープンリダイレクトが実行されるのは、アプリケーションが検証なしでユーザー制御パラメーター値に動的にリダイレクトされる場合です。オープンリダイレクトを防止するには、ハードコードされたリダイレクトを使用します。

Lightning LockerService の無効化

Lightning LockerService は、Lightning コードの重要なセキュリティ機能です。コンポーネントの分離が提供されるため、安全な標準 API とイベントメカニズムを使用して、多くのソースからのコードを実行および操作できます。Lightning Locker は、Lightning コンポーネントまたはアプリケーションを含む AppExchange パッケージに対して有効にします。

Lightning コンポーネントでの不十分なエスケープ

バンドル内の各コンポーネントは、親コンポーネントやアプリケーションによって提供された入力、または URL パラメーターで提供された入力をサニタイズする責任があります。

コンポーネントの非同期コード

ハッカーは、非同期コードのタイミングを操作して、悪意のある結果を生じさせることができます。現在の実行コンテキストを保持するには、非同期関数コールをラップするか、または複数のアクションを単一の要求にまとめます。

セキュア通信

SFTP や HTTPS などのセキュア接続を使用してソリューションに排他的にアクセスできることを確認します。HTTP や FTP ではインターネットで送信される情報が暗号化されないため、これらのプロトコルは使用しないでください。

サードパーティエンドポイントからの JavaScript ファイルの読み込み

サードパーティ JavaScript ファイルをコンテンツ配信ネットワーク (CDN) から動的に読み込むことは避けてください。その代わりに、パッケージの静的リソースフォルダーからコードを読み込んでください。

サードパーティ JavaScript ファイルを CDN やその他のサードパーティから動的に読み込むことは、2つの理由で許可されていません。

- レビューおよび追跡する製品を明確にするため、ソリューション全体をパッケージバージョン ID でバージョン管理する必要があります。ソリューションがサードパーティエンドポイントからコードを動的に読み込む場合、外部で管理されているコードは、パッケージバージョン ID を変えずに変更されていることがあります。システム管理者および Salesforce セキュリティレビューチームには、コードの変更が通知されません。

Salesforce は、サードパーティコードを最新のセキュリティ脆弱性から保護し続けることを保証できません。コードをパッケージバージョン管理の対象にするには、パッケージの静的リソースフォルダーからコードを動的に読み込みます。パッケージバージョン ID を変更せずに、パッケージ化されたコードを変更することはできません。さらに、バージョン ID を変更すると、コードが変更されたという通知がシステム管理者と AppExchange セキュリティチームに届きます。

- サードパーティエンドポイントからコードを動的に読み込むと、そのエンドポイントは、パッケージのインストール先の Salesforce 組織にコードを挿入できるようになります。パートナーからではなく、Salesforce がコードを管理している、Salesforce 承認の CDN からのみコードを動的に読み込んでください。

簡潔にまとめると、解決策は次のようになります。

- サードパーティ JavaScript ファイルを静的リソースに保存します。
- このリソースをソリューションパッケージに追加します。
- 各 JavaScript ファイルを `$Resource URL` から読み込みます。

Visualforce の例:

次のコードスニペットは、セキュリティ違反と、その違反を Apex で Aura の Lightning コンポーネント用に修正する方法を示しています。次の Visualforce コードは、jQuery がサードパーティソースから読み込まれるため安全ではありません。

```
<apex:includescript value="https://code.jquery.com/jquery-3.2.1.min.js"/>
```

次の Visualforce コードは、`$Resource URL` を使用して jQuery のバージョンをパッケージの静的リソースフォルダーから読み込むため安全です。

```
<apex:includeScript value="{! $Resource.jquery }"/>
```

Aura の例

次の Aura コンポーネントコードは、jQuery がサードパーティソースから直接読み込まれるため安全ではありません。

```
<aura:component>
  <ltng:require afterScriptsLoaded="{!c.initializeUI}"
    scripts="https://code.jquery.com/jquery-2.2.0.min.js"/>
</aura:component>
```

次の Aura コンポーネントコードは、\$Resource URL を使用して jQuery がソリューションパッケージから読み込まれ、静的リソースとして参照されるため安全です。

```
<aura:component>
  <ltng:require afterScriptsLoaded="{!c.initializeUI}"
    scripts="{!$Resource.jsLibraries + '/jsLibOne.js'}/>
</aura:component>
```

Lightning コンポーネントでのサードパーティ CSS の読み込み

カスケードスタイルシート (CSS) とその他のリソースは、サードパーティから読み込むのではなく、静的リソースに組み込んでください。

この要件は、「[サードパーティエンドポイントからの JavaScript ファイルの読み込み](#)」での説明と同じ理由で適用されます。ソリューション全体をバージョン管理下におく必要があり、組織のシステム管理者と Salesforce セキュリティレビューチームが変更を認識する必要があります。

<link> タグを使用して外部 CSS リソースを読み込むことは、このセキュリティポリシーに違反します。

簡潔にまとめると、解決策は次のようになります。

1. サードパーティ CSS ファイルを静的リソースに保存します。
2. このリソースをソリューションパッケージに追加します。
3. .cmp または .app マークアップの <ltng:require> タグを使用して CSS を参照します。

詳細は、『Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド』の「[外部 CSS の使用](#)」を参照してください。

Aura の例

次のコードスニペットは、セキュリティ違反と、その違反を Aura の Lightning コンポーネントで修正する方法を示しています。この Aura コンポーネントコードは、<link> タグを使用して外部 CSS リソースを読み込むため安全ではありません。

```
<aura:component>
  <link rel="stylesheet" href="https://example.com/styles.css" type="text/css">
</aura:component>
```

次の Aura コンポーネントコードは、<ltng:require> を使用しています。静的リソースとしてアップロードされた外部 CSS リソースを参照するには、こちらの方法の方が安全です。

```
<aura:component>
  <ltng:require styles="{!$Resource.SLDSv1 +
  '/assets/styles/lightning-design-system-ltng.css'}" />
</aura:component>
```

CSS 外部コンポーネントの使用

Salesforce Platform は、それぞれの名前空間が分離された Sandbox であることを保証しようとしませんが、必ず分離が保証されるわけではありません。名前空間の分離の違反が発生した場合は、あるコンポーネントが、別のコンポーネントからクリックを盗んだり、別のコンポーネントの使用目的を妨げたりすることができます。こうした悪用を防ぐため、コンポーネントのスタイル分離と互換性がないことが分かっている CSS ディレクティブは使用しないでください。

CSS の例

次の CSS コードは、絶対位置設定を使用しており、スタイル分離と互換性がないため脆弱です。

```
#some_element {
  position: absolute;
  right: 80px;
  top: 160px;
}
```

次の CSS コードは、相対位置設定を使用して、脆弱性を防いでいます。

```
#some_element_revised {
  position: relative;
  right: 80px;
  top: 160px;
}
```

詳細は、『Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド』の「[コンポーネントの CSS のヒント](#)」を参照してください。

Salesforce ドメインでの JavaScript の実行

複数のベンダーからの JavaScript コードを同じオリジンで実行できます。コードの干渉を防ぐため、ベンダーの JavaScript コードは Sandbox 化されます。Sandbox の外に出したり、オリジンの外部でコードを実行したりしないでください。適切なオリジンで実行される Visualforce、Aura、または Lightning Web コンポーネントを使用します。

Salesforce 組織では、パッケージ化されていない顧客コード、Salesforce コード、パッケージ化されているコードなど、多くの異なる種類の JavaScript コードが実行されます。一般にコードは、互いに共同作業する手段を持たない複数のベンダーから提供されます。それらのコードを同じオリジンで実行すると、あるベンダーのコードが他のベンダーのコードに干渉する場合があります。

コードの干渉を防ぐため、ベンダーの JavaScript コードは Sandbox 化されます。Visualforce ソリューションの場合、JavaScript コードは、一意のベンダー固有のオリジンで Sandbox 化されます。Lightning ソリューションと Lightning Web コンポーネント (LWC) の場合、JavaScript は、一意のベンダー固有の Locker で Sandbox 化されます。

Sandbox の外に出したり、オリジンの外部でコードを実行したりしようとするのは、セキュアなコーディングに違反します。ベンダーが作成した JavaScript コードを、ホームページコンポーネント、Web リンク、またはカスタムボタンを介して Salesforce オリジンで実行しようとするのも、セキュアなコーディングの違反に含まれます。

多くの場合、適切なオリジンで実行される Visualforce、Aura、または Lightning Web コンポーネントを使用して、同じ機能を実現できます。

メタデータの例

この例のメタデータは、カスタムオブジェクトを表しています。このカスタムオブジェクト内の Web リンクは、REQUIRESSCRIPT ステートメントを使用して定義されます。管理パッケージで REQUIRESSCRIPT を使用すると、セキュリティの脆弱性が生じます。これは、ベンダーがそのコードを Salesforce オリジンに挿入するからです。管理パッケージは、名前空間の Sandbox 内にとどまる必要があります。この Sandbox の外でスクリプトを実行することはできません。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<CustomObject xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
  <actionOverrides>
    <actionName>Accept</actionName>
    <type>Default</type>
  </actionOverrides>
  <webLinks>
    <fullName>Add_to_List</fullName>
    <openType>onClickJavaScript</openType>
    <url>{!REQUIRESSCRIPT(&quot;/soap/ajax/30.0/connection.js&quot;)}</url>
  </webLinks>
  ...
</CustomObject>
```

オブジェクトにコードを直接埋め込むのではなく、Visualforce Aura コンポーネントの Visualforce ボタンを作成するか、または Lightning Web コンポーネントを使用してください。

デバッグ時の秘密データの露出

本番環境で debug ステートメントを使用して秘密データをログに記録することは、セキュリティの脆弱性となります。本番環境では、秘密データ、機密情報、パスワード、キー、スタック追跡をログに記録しないでください。これらのデータは、編集するか、ログから省きます。

秘密データを debug ステートメントで明らかにすると、Salesforce 組織のシステム管理者は、データへのアクセスを制御することが難しくなります。通常、ログの表示が許可されたプロファイルと、秘密の表示が許可されたプロファイルは、同じではありません。

Apex の例

次の Apex コードの authenticationToken は、デバッグログに書き込まれる暗号化の秘密です。この脆弱性を避けるには、本番コードから system.debug ステートメントを削除します。

```
if (varCount > 0) {
  sensitiveUserData = JSON.serialize(AssignUsrs);
  ReqSignature = RequestWrapper.generateHmacSHA256Signature(sensitiveUserData,
  authenticationToken);
  system.debug('Token--->'+authenticationToken);
}
```

安全ではない方法による機密データの保存

Salesforce Platform からデータをエクスポートする場合、およびプラットフォームに秘密データを保存する場合は、企業のセキュリティ標準に従います。

機密データを安全に保存しないと、ハッカーが多くの方法で脅威を与えることができます。たとえば、API キーを把握することになっている人物は、組織のシステム管理者に限定されています。ハッカーは、暴いた鍵を使用して、データを管理チャネル経由でリモートエンドポイントに送信できます。

Salesforce は、ソリューションで生じたデータへの脅威を深刻に受け止めています。ソリューションの脆弱性によってデータの侵害や消失が発生すれば、ユーザーと Salesforce の関係に支障をきたすことになります。

次の場合は、「[Storing Sensitive Data \(機密データの保存\)](#)」に記載されている企業の標準に従ってください。

- Salesforce Platform から顧客データをエクスポートする。
- 暗号鍵、セッション ID、パスワードなどの秘密を Salesforce Platform に保存する。

メタデータの例

この例のメタデータは、カスタムオブジェクトを表しています。このカスタムオブジェクト定義は、API キー項目の `<visibility>` タグが `Public` に設定されているため安全ではありません。この項目は、プレーンテキストで表示できます。

```
<CustomObject xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
  <fields>
    <fullName>apiKey__c</fullName>
    <externalId>>false</externalId>
    <fieldManageability>DeveloperControlled</fieldManageability>
    <label>apiKey</label>
    <length>50</length>
    <required>>false</required>
    <type>Text</type>
    <unique>>false</unique>
  </fields>
  <label>Phone Verify Setting</label>
  <pluralLabel>Phone Verify Settings</pluralLabel>
  <visibility>Public</visibility>
</CustomObject>
```

API キーなどの秘密をカスタムオブジェクトに保存するときは、秘密を暗号化します。暗号鍵は、保護されたカスタム設定、または保護されたカスタムメタデータ API 項目に別途保存してください。

既知の脆弱性があるソフトウェアの使用

自分の使用事例に関連する共通脆弱性識別子 (CVE) がソフトウェアに対して文書化されている場合、そのソフトウェアを使用することは、セキュリティの脆弱性となります。ソリューションに既知の脆弱性がある場合、セキュリティパッチが提供されたらできるだけ速やかに、そのパッチをテストしてリリースします。ソリューションで使用しているソフトウェアに、CVE で文書化されている脆弱性があるが、自分の使用事例には関連していない場合は、偽陽性に関するドキュメントを準備します。

ハッカーは、ソフトウェアの脆弱性が明らかになると、すぐに攻撃を行います。ほとんどのベンダーは、自社のソフトウェアに脆弱性が発見された場合、パッチや更新を提供します。ソリューションで使用しているソフトウェアに既知の脆弱性があるかどうかを確認するには、[共通脆弱性識別子 \(CVE\) データベース](#)を調べてください。

ソリューションの使用事例に関連するすべてのパッチまたは更新を適用します。脆弱性が自分の使用事例に関連しておらず、AppExchange セキュリティレビュー用にソリューションを準備している場合は、偽陽性として

文書化します。脆弱なソフトウェアをソリューションで使用しても安全である理由を説明します。セキュリティレビューチームは、この情報を使用して、ソフトウェアをソリューションを使用することを承認するかどうかを決定します。詳細は、「[偽陽性](#)」を参照してください。

本番でのサンプルコードの使用

サンプルコードは、自分でアプリケーションを開発する準備のために教材として使用するのにとどめてください。本番コードを作成するときは、必ず自分でコードを記述します。自分が直接管理していないソースからコードをコピーするのは避けてください。

開発者は、インターネットから優れたサンプルコードを入手できます。ベストプラクティスや新しいテクノロジーを学ぶのには役立ちますが、サンプルコードを本番パッケージに直接組み込まないでください。直接再利用すると、サンプルコード作成者が意図したかどうかにかかわらず、脆弱性が多くのパッケージに広がる可能性があります。

オブジェクトレベルおよび項目レベルのアクセス設定のスキップ

標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに対して、組織の CRUD (作成、参照、更新、削除) 設定と FLS (項目レベルセキュリティ) 設定を適用するようにソリューションを設計します。

Salesforce Platform では、プロファイルと権限セットに対して CRUD アクセスと FLS を設定できます。CRUD 設定は、ユーザーがアクセス可能なオブジェクトを決定します。FLS は、ユーザーがアクセス可能なオブジェクト項目を決定します。標準オブジェクトとカスタムオブジェクト、および個々の項目へのアクセスを制限するには、CRUD と FLS を使用します。

顧客は、自分が組織で行った設定にソリューションが違反しないことを期待しています。標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに対して、組織の CRUD 設定と FLS 設定を適用するようにソリューションを設計します。また、ユーザーのアクセスが制限される状況をソリューションが適切に処理することを確認します。

使用事例によっては、CRUD と FLS のスキップが許容されることがあります。たとえば、次のような場合です。

- データを直接公開しない積み上げ集計、または集計を作成する。
- ログやシステムメタデータなどのカスタムオブジェクトまたは項目を変更して、ユーザーが CRUD または FLS 経由で直接アクセスできないようにする。
- 管理者以外のユーザーはアクセスできないメソッドである高特権メソッドからオブジェクトにアクセスする。
- ソリューションがコミュニティまたはサイトの場合は、基盤となるオブジェクトへのゲストユーザーのアクセスを拒否する。
- 特注のセキュリティポリシーを使用して、名前空間に属しているカスタムオブジェクトにアクセスする。この場合は、AppExchange セキュリティレビュー申請の一環として、ポリシーを文書化します。

CRUD および FLS の適用についての詳細は、Trailhead の「[Secure Server-Side Development module \(セキュアなサーバーサイド開発モジュール\)](#)」を確認してください。コードで CRUD/FLS 違反を検出するには、Salesforce Code Analyzer の [Salesforce Graph Engine](#) などのコードスキャナーの使用を検討してください。

Apex の例

次の Apex コードの場合、データ操作言語 (DML) のステートメント `insert account` は、Account オブジェクトの作成アクセス権限がユーザーにあるかどうかを確認せずに実行されます。このコードは、組織のアクセス設定を適用しません。

```
public static Account createIndividualModalData(String name, String email, String mobile)
{
    RecordType recordType = [Select Id from RecordType where DeveloperName =
'IndustriesIndividual' and SubjectType = Account'];
    Account account = new Account();
    account.Name = name;

    if(recordType != null) account.RecordTypeId = recordType.id;
    insert account;
    ...
}
```

この Apex コードは、組織のアクセス設定を適用するため、安全性が高くなっています。`insert account` DML ステートメントが実行される前に `isCreatable()` メソッドをコールします。`isCreatable()` が `true` を返した場合、ユーザーは、Account オブジェクトの作成アクセス権限を所有しており、`insert account` ステートメントが実行されます。それ以外の場合は、アクセス権がないというエラーが報告されます。

```
public static Account createIndividualModalData(String name, String email, String mobile)
{
    RecordType recordType = [Select Id from RecordType where DeveloperName =
'IndustriesIndividual' and SubjectType = 'Account'];
    Account account = new Account();
    account.Name = name;

    if(recordType != null) account.RecordTypeId = recordType.id;

    if (Schema.sObjectType.Account.isCreatable()) {
        insert account;
    } else {
        ApexPages.addMessage(new ApexPages.Message(ApexPages.Severity.ERROR, 'Error:
Insufficient Access'));
    }
    ...
}
```

Apex での共有ルールのスキップ

Apex コードでは、プロファイルベースの権限、項目レベルのセキュリティ、共有ルール、組織全体のデフォルトを順守します。

Salesforce Platform は、データ共有ルールを広範囲に使用します。各オブジェクトは、どのユーザーおよびプロファイルがそのオブジェクト種別のレコードを参照、作成、編集、削除できるかを示す、一意の権限を持つことができます。これらの制限は、コードで標準コントローラーを使用しているときに適用されます。

ただし、カスタム Apex クラスまたは Visualforce ページは、組み込みプロファイル権限、項目レベルのセキュリティ制限、共有ルールをもとに順守しません。デフォルトでは、Apex クラスは組織内のすべてのデータを参照および更新できます。

Apex コードで非表示の機密データをユーザーにさらさないでください。プロファイルベースの権限、項目レベルのセキュリティ、共有ルール、組織全体のデフォルトを順守します。

共有を正しく適用するには、次の一般的なルールに従います。

- すべてのグローバルクラス、または `@NamespaceAccessible` メソッドを含むクラスで `with sharing` を宣言します。共有宣言を省略しないでください。また、ソリューションへのこれらの `EntryPoint` で `without sharing` を使用しないでください。
- グローバルではないコントローラークラス、または `@NamespaceAccessible` とマークされていないコントローラークラスでは、クラスを `with inherited sharing` または `with sharing` として宣言します。共有宣言を省略しないでください。また、ソリューションへのこれらの `EntryPoint` で `without sharing` を使用しないでください。
- データアクセス操作を直接実行するすべてのクラスを `with sharing` として宣言します。ソリューションのクラスが `without sharing` とマークされていない場合は、`with inherited sharing` を使用することもできます。

ただし、注意すべき例外がいくつかあります。次の場合は、一般的なルールに従わないでください。

- サイトまたはコミュニティを作成しており、ゲストユーザーによるデータへのアクセスを拒否したい。
- 特注のセキュリティポリシーを使用して、名前空間に属しているカスタムオブジェクトにアクセスしている。この場合は、AppExchange セキュリティレビュー申請ドキュメントの一部として、ポリシーを文書化します。この例外は、標準オブジェクトには適用されません。組織のシステム管理者は、標準オブジェクトのセキュリティポリシーを単独で所有します。

Apex の例

次の Apex コードでは、クラスのヘッダーに `with sharing` キーワードが追加されていません。デフォルトでは、共有ルールは適用されません。

```
public class maincontroller {
    @AuraEnabled public static String saveJobApplication(String vacId, String userId) {
        ...
    }
}
```

次の Apex コードでは、`with sharing` キーワードが使用されています。共有ルールが適用されます。

```
public with sharing class maincontroller {
    @AuraEnabled public static String saveJobApplication(String vacId, String userId) {
        ...
    }
}
```

共有ルールの適用についての詳細は、Trailhead の「[Secure Server-Side Development module \(セキュアなサーバーサイド開発モジュール\)](#)」を確認してください。

データベースクエリ構造が安全でないことが原因の SOQL インジェクション

Salesforce Object Query Language (SOQL) インジェクションを防ぐには、バインド変数と入力サニタイズを使用します。

SOQL インジェクションは、SOQL データベースクエリの一部がユーザーによって直接制御される脆弱性です。Apex で実行される SOQL クエリは、ユーザー権限を順守しません。したがって、SOQL インジェクションを使用すると、ユーザーの権限を昇格して、ユーザーが自分の権限を越えるデータにアクセスできるようになります。

2つのタイプの SOQL インジェクション脆弱性では、異なる保護のアプローチが必要です。

1つ目のタイプでは、ユーザーがクエリで不適切なテーブル名または項目名を指定します。ユーザーデータで項目名またはテーブル名が識別されたら、指定されたテーブルまたは項目へのアクセス権限がユーザーにあることを確認する必要があります。このタイプは、引用符で囲まれたコンテキストでないことに注意してください。

2つ目のタイプでは、ユーザーが引用符で囲まれた WHERE 句の一部を指定します。引用符で囲まれた文字列コンテキストにユーザーデータが挿入されると、データは、引用符で囲まれたコンテキストの外に出ることがあります。保護のアプローチとして、バインド変数を使用することをお勧めします。EscapeSingleQuotes() を使用することもできます。どちらのアプローチでも、引用符で囲まれたコンテキストの外にユーザーデータが出ることが防止されます。

SOQL クエリの項目名、テーブル名、WHERE 句の入力以外の部分をユーザーに入力させてはなりません。

ユーザーが生成したクエリを Apex で実行することは避けてください。この場合、クエリはシステムモードで実行されます。より複雑なクライアント側 SOQL を生成する必要がある場合は、REST または SOAP API を使用します。これにより、SOQL コールが安全に実行されます。

SOQL インジェクション、およびコードで SOQL インジェクションを防ぐ方法についての詳細は、Trailhead の「[Secure Server-Side Development \(セキュアなサーバーサイド開発\)](#)」を確認してください。

SOQL の例

次の SOQL ステートメントは、文字列と組み込みユーザー入力を連結して作成しているため安全ではありません。database.query ステートメントが実行される前に入力サニタイズは実行されません。

```
string objType = id.valueOf(deduped[0].recordId).getSObjectType().getDescribe().getName();
string soql = 'select id, ' + string.join(fields, ', ') + ' from ' + objType + ' where
id in: lrIDs';
list<subject> records = database.query(soql);
```

動的 SOQL を使用する必要がある場合、EscapeSingleQuotes() メソッドを使用して、ユーザー指定の入力をサニタイズします。このメソッドは、ユーザー指定の文字列にあるすべての単一引用符にエスケープ文字 (\) を追加します。エスケープ文字を追加すると、すべての単一引用符が、データベースコマンドではなく、囲まれた文字列として処理されます。

```
string objType =
escapeSingleQuotes(id.valueOf(deduped[0].recordId).getSObjectType().getDescribe().getName());
string soql = 'select id, ' + string.join(fields, ', ') + ' from ' + objType + ' where
id in: lrIDs';
list<subject> records = database.query(soql);
```

クロスサイトリクエストフォージェリ

クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) は、認証済みの Web アプリケーションセッション中に、不要なアクションをエンドユーザーに強制的に実行させる攻撃です。CSRF を防ぐには、`confirmationTokenRequired` を使用するか、またはユーザーアクションによって状態変更をトリガーします。

Salesforce Platform に対して行われたフォーム要求はすべて保護されます。ボタンのクリックなどユーザーアクションによってトリガーされた挿入、削除、更新、更新/挿入の状態変更操作も保護されます。

ただし、ページのインスタンス化時にトリガーされた状態変更またはデータ操作言語 (DML) 操作は、残りのページを読み込む前に実行され、プラットフォームのデフォルト CSRF 保護はスキップされます。クラスコンストラクターでの状態変更および DML 操作は、次からトリガーされる場合は脆弱です。

- Visualforce ページ
- Lightning Web コンポーネント (LWC)
- Aura
- Visualforce ページのアクションパラメーターからコールされた任意のメソッド

Apex の例

次の Visualforce ページは、ページの初期化時に `!init` アクションがトリガーされるため、CSRF に対して脆弱です。

```
<apex:page controller="maincontroller" action="{!init}">

public pageReference init(){

    UserSetting__c accountToUpdate;
    pageReference p = page.mainview;
    // Retrieve the password and redirect query string parameters from the current page URL

    String password = ApexPages.currentPage().getParameters().get('password');
    String redirect = ApexPages.currentPage().getParameters().get('redirect');
    if(string.isBlank(redirect)){
        p.getParameters().put('redirect', '/home/home.jsp');
        p.setRedirect(true);
    } else {
        p.getParameters().put('redirect', redirect);
    }
    if(string.isBlank(password)){
        p.getParameters().put('password', 'blank');
        p.setRedirect(true);
    } else {
        p.getParameters().put('password', password);
        accountToUpdate = [SELECT password__c FROM UserSetting__c LIMIT 1];
        accountToUpdate.password__C = password;
        update accountToUpdate;
    }
    if(p.getRedirect() == true){
        return p;
    }
    else {
        return null;
    }
}
```

```
}  
}
```

ハッカーは、データベースステートメントを変更するパラメーターが含まれた URL を作成できるため、自分で選んだ悪意のあるアクションを実行できます。アプリケーションにログインしている間にユーザーがそのような URL を開くと、ハッカーが選んだ URL パラメーターを使用してコードが実行されます。被害者のブラウザのコンテキストから、意図しないデータベースアクションが実行されます。

Visualforce ページの保護

ページ初期化で状態が変更されるか、または DML 操作が実行されるときに、Visualforce ページの CSRF に対する脆弱性を保護するには、Visualforce ページで `confirmationTokenRequired` Boolean メタデータ項目を有効にします。

`confirmationTokenRequired` が `true` に設定されている場合は、ページに対する GET 要求で、URL 内に CSRF トークンが必要です。このトークンを省略すると、ページにアクセスできません。

デフォルト設定は `false` で、Apex の組み込み CSRF トークン保護は設定されていません。この項目を設定するには、組織の設定にある関連する Visualforce ページ設定に移動します。

`confirmationTokenRequired` についての詳細は、『メタデータ API 開発者ガイド』の「[ApexPage](#)」を参照してください。

Lightning および LWC CSRF の保護

Lightning または LWC のインスタンス化の際、Apex コントローラーで状態変更や DML 操作を実行しないでください。その代わりに、ボタンのクリックなどのユーザーアクションによって状態変更をトリガーしてください。CSRF、およびコードで CSRF を防ぐ方法についての詳細は、Trailhead の「[Secure Server-Side Development module \(セキュアなサーバーサイド開発モジュール\)](#)」を確認してください。

オープンリダイレクト

オープンリダイレクトが実行されるのは、アプリケーションが検証なしでユーザー制御パラメーター値に動的にリダイレクトされる場合です。オープンリダイレクトを防止するには、ハードコードされたリダイレクトを使用します。

オープンリダイレクトは、任意のリダイレクトまたは検証されないリダイレクトとも呼ばれます。この脆弱性は、フィッシング攻撃でユーザーを任意の URL にリダイレクトするために使用されます。

Apex の例

次の関数定義では、`String.redirect` ステートメントが現在のページの `redirect` URL パラメーターを取得します。このパラメーターは、リダイレクト URL を作成して、その URL へのクライアント側リダイレクトを実行するために使用されます。

```
public PageReference changepassword() {  
    PageReference savePage;  
    String redirect = ApexPages.currentPage().getParameters().get('redirect');  
    redirect = (redirect == NULL) ? '/home/home.jsp' : redirect;  
    savePage = new PageReference(redirect);  
    savePage.setRedirect(true);  
}
```

```
return savePage;
}
```

<apex:form> という Visualforce マークアップ表示は、changePassword アクションをトリガーします。これによって、パッケージにオープンリダイレクトの脆弱性が生じます。

```
<apex:form>
  Redirection action: <apex:inputText value="{!userInput}" />
  <br/><apex:commandButton value="Submit" action="{!changePassword}" />
</apex:form>
```

修正したコード

オープンリダイレクトは、リダイレクトパラメーターを潜在的な攻撃者にさらします。オープンリダイレクトを防止するには、複数の戦略が必要です。戦略の1つとして、ハードコードされたリダイレクトを使用する方法があります。ハードコードされたリダイレクトでは、次の例に示すように値を明示的に設定します。

```
public PageReference changePassword() {
    PageReference savePage;
    savePage = new PageReference('/home/home.jsp');
    savePage.setRedirect(true);
    return savePage;
}
```

オープンリダイレクト、およびオープンリダイレクトをコードで防止する方法の詳細は、Trailhead の「[Secure Server-Side Development module \(セキュアなサーバーサイド開発モジュール\)](#)」を確認してください。

Lightning LockerService の無効化

Lightning LockerService は、Lightning コードの重要なセキュリティ機能です。コンポーネントの分離が提供されるため、安全な標準 API とイベントメカニズムを使用して、多くのソースからのコードを実行および操作できます。Lightning Locker は、Lightning コンポーネントまたはアプリケーションを含む AppExchange パッケージに対して有効にします。

Lightning LockerService は、すべてのカスタム Lightning Web コンポーネントで有効になります。このサービスは、Summer '17 リリースで顧客に対して有効化されました。API バージョン 39.0 以前は、Summer '17 より前に作成されたコンポーネントを対象にしています。これらの API バージョンを使用しているコンポーネントには、Lightning LockerService は適用されません。コンポーネントが API バージョン 40.0 以上に設定されている場合は、Lightning LockerService が有効になります。新しい AppExchange セキュリティレビューと定期的な再レビューでは、Locker が有効になるようにバージョン 40.0 以降のコンポーネントが必要です。

メタデータの例

次のコンポーネントの <AuraDefinitionBundle> メタデータでは、<apiVersion> 項目によって API バージョンが 39.0 に設定されています。LockerService は、API バージョン 39.0 以前を使用するコンポーネントに対しては無効です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<AuraDefinitionBundle xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
  <apiVersion>39.0</apiVersion>
```

```
<description>My Component</description>
</AuraDefinitionBundle>
```

次のコンポーネントの修正済みの `<AuraDefinitionBundle>` メタデータでは、`<apiVersion>` 項目によって API バージョンが 40.0 に設定されています。LockerService は、API バージョン 40.0 以降を使用するコンポーネントに適用されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<AuraDefinitionBundle xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
  <apiVersion>40.0</apiVersion>
  <description>My Component</description>
</AuraDefinitionBundle>
```

詳細は、『Lightning Web Components 開発者ガイド』の「[Summer 2017 リリースノート](#)」と「[Lightning Locker でのセキュリティ](#)」を参照してください。

Lightning コンポーネントでの不十分なエスケープ

バンドル内の各コンポーネントは、親コンポーネントやアプリケーションによって提供された入力、または URL パラメーターで提供された入力をサニタイズする責任があります。

個々のコンポーネントのセキュリティ境界は、コンポーネントバンドルです。バンドル内の各コンポーネントは、親コンポーネントやアプリケーションによって提供された入力、または URL パラメーターで提供された入力をサニタイズする責任があります。onInit ハンドラーでサニタイズしていない場合、公開コンポーネントまたはグループコンポーネントの属性には、攻撃者が制御する入力が含まれていることが考えられます。

入力をサニタイズしないと、クロスサイトスクリプト (XSS) 攻撃や URL リダイレクト攻撃を受ける可能性があります。

Aura の例

次の Aura コードの場合、コンポーネントは、グローバル属性のデータを参照し、エスケープが十分でない状態でそのデータをドキュメントオブジェクトモデル (DOM) に提供します。1つのパラメーターに、悪用されやすいタグ `unescapedHTML` があります。ハッカーやマルウェアは、HTML または JavaScript をビューに挿入して、クロスサイトスクリプト (XSS) 攻撃をトリガーすることができます。

```
<aura:component controller="name_NewsController" access="global" extends="c:name_Name"
implements="force:appHostable, flexipage:availableForAllPageTypes, forceCommunity:availableForAllPageTypes">

  <aura:handler name="baseReady" event="c:name_Name" action="{!c.doInit}"/>
  ...
  <aura:attribute name="newsDetails" type="String" default="" access="global"/>
  ...
  <div class="slds-col_padded slds-size_1-of-1 textDetail">
    <div class="slds-text-longform">
      <aura:unescapedHtml aura:Id="newsDetail" value="{!v.newsDetails}"/>
    </div>
  </div>
  ...
</aura:component>
```

次の Aura コンポーネントコードは、`unescapedHTML` を使用していないため安全です。

```
<aura:component controller="name_NewsController" access="global" extends="c:name_Name"
implements="force:appHostable,flexipage:availableForAllPageTypes,forceCommunity:availableForAllPageTypes">

    <aura:handler name="baseReady" event="c:name_Name" action="{!c.doInit}"/>
    ...
    <aura:attribute name="newsDetails" type="String" default="" access="global"/>
    ...
    <div class="slds-col_padded slds-size_1-of-1 textDetail">
        <div class="slds-text-longform">
            <aura:Id="newsDetail" value="{!v.newsDetails}"/>
        </div>
    </div>
    ...
</aura:component>
```


詳細は、『Secure Coding Guide (セキュアなコーディングのガイド)』の「[Lightning Security \(Lightning のセキュリティ\)](#)」を参照してください。

コンポーネントの非同期コード

ハッカーは、非同期コードのタイミングを操作して、悪意のある結果を生じさせることができます。現在の実行コンテキストを保持するには、非同期関数コールをラップするか、または複数のアクションを単一の要求にまとめます。

`setTimeout()` や `setInterval()` などの非同期関数を使用してコンポーネントを参照するときは、フレームワークのライフサイクルを終了します。非同期コードの実行中にユーザーインターフェースで他の場所に移動すると、フレームワークは、非同期要求を実行したコンポーネントを非表示にして破棄します。そのコンポーネントを引き続き参照できますが、コンポーネントは無効になっています。ハッカーは、この脆弱性を悪用して、アプリケーションをクラッシュさせるなどします。

フレームワークに安全に再入するには、`$A.getCallback()` 関数でコードをラップします。次に、コンポーネントが依然として有効であることを保証するため、コールバックで処理を実行する前に `component.isValid()` 関数を使用します。あるいは、`enqueueAction()` を使用して、複数のアクションを1つの要求にまとめます。

 **メモ:** この脆弱性は、Summer'17 リリース (API v40.0) 以降で作成されたコンポーネントには該当しません。

セキュリティ違反とその修正方法の例を次に示します。

Aura の例

`setInterval()` 関数は、ドキュメントオブジェクトモデル (DOM) へのアクセス権を付与します。しかし、Lightning フレームワークの外部のコンテキストで、`setInterval()` を使用した DOM へのアクセスが発生します。親コンポーネントの状態に関する保証はありません。この関数には親コンポーネントがない可能性があります。状態が変化した場合、コールバック関数は、所有していないデータを操作したり、出現しないデータを待機したりする場合があります。このようなシナリオの場合、アプリケーションはエラーメッセージをスローして、Salesforce ページ全体が停止します。コンポーネントは応答を停止します。

```
vars.Timer = setInterval(function() { helper.action(component); }, 1);
```

getCallback() を使用した修正コードの例

フレームワークに安全に再入するには、`$A.getCallback()` 関数でコードをラップします。次に、コンポーネントが依然として有効であることを保証するため、コールバックで処理を実行する前に `component.isValid()` 関数を使用します。

`$A.getCallback()` を使用して、`setTimeout()` コールや `setInterval()` コールの場合のように通常の再表示ライフサイクル外のコンポーネントにアクセスするコードをラップします。`$A.getCallback()` では、現在の実行コンテキストが保持され、非同期コードに正しいアクセスレベルが付与されます。それ以外の場合では、フレームワークでコンテキストが失われ、グローバルリソースへのアクセスのみが許可されます。

```
window.setTimeout(  
  $A.getCallback(function() {  
    if(cmp.isValid()){  
      cmp.set("v.visible", true);  
    }  
  }  
), 5000  
);
```

enqueueAction() を使用した修正コードの例

`enqueueAction()` を使用して、サーバー側コントローラーのアクションをアクション実行キューに追加する方法もあります。フレームワークでは、個々のアクションごとに個別の要求を送信するのではなく、イベントチェーンを処理し、キューのアクションを1つの要求にまとめます。これらのアクションは非同期で、コールバックが設定されます。

```
var action = component.get("c.usually_a_server_side_controller");  
action.setCallback(this, function(response) {...});  
$A.enqueueAction(action2);
```

詳細は、Trailhead の「[Secure Client-Side Development module \(セキュアなクライアントサイド開発モジュール\)](#)」を確認してください。

セキュア通信

SFTP や HTTPS などのセキュア接続を使用してソリューションに排他的にアクセスできることを確認します。HTTP や FTP ではインターネットで送信される情報が暗号化されないため、これらのプロトコルは使用しないでください。

ファイル転送を送受信するときは、SSH ファイル転送プロトコル (SFTP) を使用します。SFTP では、暗号化アルゴリズムを使用してファイルを安全に転送することができ、FTP より高いレベルの保護が可能です。

Web ブラウザーと Web サイト間では、Hypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS) を使用してデータを送信します。HTTPS では、トランスポート層セキュリティ (TLS) を使用して通信が暗号化され、転送中のデータが保護されます。セキュアバージョンの TLS を使用し、弱い暗号化を無効にします。また、長い鍵を生成し、HTTP を使用する着信要求を HTTPS にリダイレクトします。

中間者ダウングレード攻撃を防止するには、HTTP Strict Transport Security (HSTS) を使用します。この攻撃では、ハッカーが通信を傍受し、訪問者を HTTPS バージョンのリソースから HTTP のコピーにリダイレクトします。

詳細は、「[Secure Coding Secure Communications \(セキュアコーディングによるセキュア通信\)](#)」を参照してください。

B2C Commerce ソリューションの保護

AppExchange に掲載されるすべての B2C Commerce カートリッジおよびヘッドレスインテグレーションは、次の要件に従う必要があります。

暗号化、暗号技術、および秘密の保存

保存されているデータを強力な暗号化スキームを使用して保護し、暗号鍵を保護します。

「[Encryption and Cryptography \(暗号化および暗号技術\)](#)」および「[Secret Storage \(秘密の保存\)](#)」を参照してください。

認証および承認

特権アクションを含む要求を処理する前に、その要求を認証して承認します。また、[Order](#)、[Customer](#)、[PaymentInstrument](#) などの機密オブジェクトを参照するか書き込むときも、認証と承認を適用します。

「[Authentication and Authorization \(認証および承認\)](#)」を参照してください。

Open Commerce API (OCAPI) および Salesforce Commerce API (SCAPI) の設定

OCAPI および SCAPI 権限については、最小権限の原則に従います。ユーザーには、タスクの実行に最低限必要な権限セットを割り当てます。権限を文書化して顧客と共有します。

「[OCAPI Settings \(OCAPI の設定\)](#)」および「[Authorization for SCAPI \(SCAPI の承認\)](#)」を参照してください。

機密データの保存およびロギング

機密データとは、不正アクセスから保護する必要があるすべての情報のことです。各種の規制で情報が機密データとして分類されます。規制には、支払手段、保護された医療情報、個人識別情報、アクセストークン、暗号鍵などを含めることができます。ソリューションで保存または処理される機密データのリストを文書化して顧客に開示します。B2C Commerce [ログファイル](#)の機密データは編集します。

「[Storing Sensitive Data \(機密データの保存\)](#)」を参照してください。

暗号技術

[dw.crypto](#) などのサポートされる暗号技術 API を使用します。カスタム暗号技術は実装しないでください。

クライアント側スクリプト

すべてのクライアント側スクリプトは、B2C Commerce [カートリッジ](#) から静的に組み込んで提供します。コンテンツ配信ネットワーク (CDN) やその他のサードパーティからサードパーティスクリプトを動的に読み込むことは避けてください。

コードインジェクション

入力データをスクリプトとして解釈しないでください。すべてのソースコードは静的に組み込みます。

ユーザー入力の検証

ユーザー入力ソリューションで期待されるタイプのデータであることを確認します。ユーザー入力は処理前にすべて検証します。

「[Data Validation \(データ検証\)](#)」を参照してください。

ユーザー入力

ユーザーが提供したコンテンツは、HTML や JavaScript など任意のコンテキストでレンダリングする前にすべてエスケープします。

「[Template Best Practices \(テンプレートのベストプラクティス\)](#)」を参照してください。

クロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF)

すべての状態変更コントローラーに CSRF 保護を組み込みます。

「[Cross-Site Request Forgery \(クロスサイトリクエストフォージェリ\)](#)」を参照してください。

オープンリダイレクト

オープンリダイレクトは、フィッシング攻撃でユーザーを任意の URL にリダイレクトするために使用されます。信頼されていないデータに基づいてユーザーをリダイレクトしないでください。「[Open Redirect Attacks \(オープンリダイレクト攻撃\)](#)」の手順に従います。

コンテンツセキュリティポリシー

該当する場合は、コンテンツセキュリティポリシーを文書化し、顧客と共有します。

パッチおよびアップグレード

パッチとアップグレードのインストールを簡単にするため、顧客には、可能な限り、カスタマイズごとに個別のカートリッジを使用するように指示してください。

環境

Salesforce B2C Commerce 環境を設定、管理、開発するときは、B2C Commerce のセキュリティ[ガイドライン](#)に従います。

Tableau アクセラレーターのセキュリティ強化

AppExchange に表示されるすべての Tableau アクセラレーターは、次の要件に従う必要があります。

使用可能な機能

アクセラレーターでは、組み込みの Tableau 機能のみを使用してください。ダッシュボード拡張機能、Tableau Exchange のサードパーティ製コネクタ、外部の自社またはサードパーティ製コード、外部サーバーへの接続は使用しないでください。

リンクと URL アクション

アクセラレーターに URL アクションや外部リンクを含めないでください。

サンプルデータの取得元

Tableau アクセラレーターは、ユーザーが自分のデータを接続するまで、ダッシュボードへの入力にサンプルデータを使用します。このサンプルデータは、自分で作成するか、サンプルデータを使用または配布する権限を取得します。これにより、アクセラレーターのリストでソースの帰属を示せます。

匿名化データ

アクセラレーターのデータは匿名化する必要があります。実在する企業やビジネスエンティティの名前など、個人を特定可能な情報を含めることはできません。データセットに含まれる名前や地名から、ユーザーが実際の世界での結論を導き出せないようにする必要があります。

データパッケージ

すべてのサンプルデータから平坦化された抽出データを作成しパッケージ化して、アクセラレーター用の TWBX ワークブックファイルに含めます。データをパッケージ化する前に、未使用の項目を隠します。フラットファイルでも、ライブクエリは含めないでください。カスタム暗号技術は実装しないでください。


データソースのログイン情報

クラウドベースデータへのデータソース接続を検証し、クラウドベースのデータソースへの接続のログイン情報をアクセラレーターから削除します。ユーザーは、データに接続するために自分の認証情報を入力する必要があります。

Group Edition と Professional Edition のアーキテクチャ上の考慮事項

Salesforce CRM は 5 つの階層 (エディション) で提供されています。

- Group Edition (GE)*
- Professional Edition (PE)
- Enterprise Edition (EE)
- Unlimited Edition (UE)
- Performance Edition (PXE)*

 **メモ:** Group Edition および Performance Edition の販売は終了しました。各エディションとその機能の比較表は、[Salesforce の価格とエディションのページ](#)を参照してください。

アプリケーションを既存の Salesforce ユーザーに販売する予定がある場合は、アプリケーションの設計に影響を及ぼすエディション間の差異を理解することが重要です。各クラスター内のエディションは類似する機能を持つため、GE/PE と EE/UE/PXE をクラスター単位で考えると便利です。たとえば、GE と PE では使用できない特定のオブジェクトや機能を必要とするアプリケーションの場合、EE と UE/PXE のみをサポートすることもできます。また、すべてのエディションをサポートする単一のソリューションの代わりに、階層別に提供することもできます。この場合、GE と PE 向けの基本ソリューションと、追加機能を活用した EE と UE/PXE 向けの高度なソリューションに分けます。

EE/UE/PXE は、最も強固な機能を持っています。これらのエディションは、Salesforce CRM ライセンスに加えて Lightning Platform プラットフォームライセンスをサポートしています。アプリケーションが Salesforce CRM 機能 (リード、商談、ケースなど) を必要としない場合、普段は Salesforce ユーザーではない可能性のあるユーザーにそのアプリケーションをリリースする際に、Lightning Platform プラットフォームライセンスは最大限の柔軟性を提供します。アプリケーションには、エディションの制限とパッケージのルールが適用されます。

GE と PE には、Developer Edition (DE) で構築可能な機能のすべてが含まれているわけではありません。そのため、DE 組織で開発したアプリケーションは、GE 組織または PE 組織にインストールできない場合があります。特に GE または PE でのみ機能するアプリケーションを設計する場合は、これらのエディションの違いを意識する必要があります。

これらのエディションをサポートするかどうかを決定する場合は、他にも多くの考慮すべき事項があります。Lightning Platform プラットフォームライセンスは、GE 組織および PE 組織ではプロビジョニングできません。つまり、既存の Salesforce CRM ユーザーのみがアプリケーションを使用できるということです。GE と PE では、一部の機能を使用できません。使用資格のあるパートナーのアプリケーションには、使用可能な特別な権限がいくつか存在し、それらの権限により、これらの制限事項を克服できます。

使用可能な機能、制限、およびその他の設計上の考慮事項については、次のセクションを参照してください。

- [Group Edition および Professional Edition の機能](#)
- [Group Edition および Professional Edition の制限](#)
- [Group Edition と Professional Edition でのアクセス制御](#)
- [Group Edition と Professional Edition での Apex の使用](#)
- [Group Edition と Professional Edition での API アクセス](#)
- [複数のエディションをサポートするアプリケーションの設計](#)
- [設計シナリオのサンプル](#)

[Group Edition および Professional Edition の機能](#)

[Group Edition および Professional Edition の制限](#)

[Group Edition と Professional Edition でのアクセス制御](#)

[Group Edition と Professional Edition での Apex の使用](#)

[Group Edition と Professional Edition での API アクセス](#)

GE 組織および PE 組織では、通常 API アクセスがサポートされません。ただし、アプリケーションがセキュリティレビューに合格すると、一部の API を複合アプリケーションの構築に使用できるようになります。

[複数のエディションをサポートするアプリケーションの設計](#)

[Group Edition と Professional Edition の設計シナリオのサンプル](#)

Group Edition および Professional Edition の機能

特定のエディションで使用可能な機能やオブジェクトを判別する最も簡単な方法は、「[エディション比較表](#)」を参照することです。また、オンラインヘルプを検索することで、特定の機能またはオブジェクトをサポートしているエディションを確認できます。対象エディションに関する情報に基づいた決定ができるように、アプリケーションの設計を開始する前にこれらのリソースを確認することが重要です。アプリケーションの構築が

完了したら、パッケージを GE および PE のテスト組織にインストールして、すべてが適切に機能することを確認することをお勧めします。

次の表に、GE と PE の主な違いを示します。

機能	Group Edition	Professional Edition
納入商品	いいえ	はい
キャンペーン	いいえ	はい
契約	いいえ	はい (Sales Cloud を使用)
売上予測	いいえ	はい (商談分割とカスタム項目の売上予測を除く)
アイデア	いいえ	はい
商品	いいえ	はい
ソリューション	いいえ	はい
レコードのタイプ	いいえ	はい
権限セット	はい	はい
カスタムプロファイル	いいえ	はい
カスタムレポートタイプ	いいえ	はい
ワークフローと承認申請	いいえ	いいえ (注意を参照)。
Apex コード	注意を参照。	注意を参照。
共有ルール	いいえ	はい (一部の機能)
API	注意を参照。	注意を参照。
サイト	いいえ	いいえ

 **メモ:**

- ここに上げられたすべての機能は DE で使用できます。
- パートナーのアプリケーション内のワークフローは Professional Edition 組織で実行されます。ただし、お客様は独自のワークフローを作成できません。Salesforce から機能を直接購入する必要があります。
- クライアント ID によって、アプリケーションで API を使用して複合アプリケーションに統合することが可能になります。詳細は、「[Group Edition と Professional Edition での Apex の使用](#)」および「[Group Edition と Professional Edition での API アクセス](#)」を参照してください。

Group Edition および Professional Edition の制限

すべての Salesforce エディションには、使用できるアプリケーション、オブジェクト、およびタブの数の制限があります。さまざまなエディションの制限についての詳細は、「[Edition Limits Table](#)」を参照してください。

ISV プログラムに登録しているパートナーの場合、ご利用の Salesforce エディションのアプリケーション、オブジェクト、またはタブの制限数の対象から AppExchange に投稿および公開されている管理パッケージが除外されるようになりました。つまり、ISV パートナーは、アプリケーション、オブジェクト、またはタブの制限数を超えたという理由で、パッケージのインストールに失敗する心配がなくなりました。この機能は、アプリケーションがセキュリティレビューに合格すると、自動的に有効になります。

Group Edition と Professional Edition でのアクセス制御

Group Edition は、項目レベルセキュリティおよびカスタムプロファイルをサポートしていません。代わりに各オブジェクトのページレイアウトを使用することによって項目レベルセキュリティを管理できます。顧客は、アプリケーションをインストールするときに、どのプロファイルが何に対するアクセス権を持つかを定義できません。そのため、アプリケーションが標準ユーザープロファイルで確実に機能するよう設計してください。

Group Edition 組織および Professional Edition 組織に権限セットをインストールすることはできますが、更新することはできません。

ページレイアウトで項目レベルセキュリティが処理されるため、表示するすべての項目をページレイアウトに追加します。API または Visualforce からアクセスできるようにする項目もページレイアウトに追加します。

Group Edition と Professional Edition での Apex の使用

アプリケーションには、Apex で記述されたクラス、トリガー、メールサービスなどのビジネスロジックが含まれます。一般的な規則として、Apex は GE および PE ではサポートされておらず、これらのエディションでは実行できません。ただし、ISV アプリケーションの一部として開発され、管理パッケージに含まれている Apex は、デフォルトで Apex をサポートしていない GE および PE でも実行できます。

Salesforce の使用資格のあるパートナーであり、アプリケーションがセキュリティレビューに合格する必要があります。セキュリティレビューに合格すると、適切な権限は自動的に有効になります。

GE または PE で Apex を使用する場合、次のような重要な考慮事項があります。

- GE および PE のユーザーは、アプリケーションの Apex を作成または変更することはできません。可能なのは、既存の Apex を実行することのみです。
- Apex コードが、DE、EE、UE、または PXE のみに存在する機能に依存する場合、アプリケーションのインストールは失敗します。
- Apex メソッドを Web サービスとして公開する予定がある場合は、REST を使用します。SOAP Web サービスとして公開されている Apex クラスは、外部 Web アプリケーションから GE または PE に呼び出すことができません。
- GE または PE では、Web サービスをコールアウトするために Apex を使用することができます。たとえば、外部 Web サービスに Web サービスコールアウトを行う予定がある場合、管理パッケージが承認されていれば、これらのクラスは GE または PE で機能します。

Group Edition と Professional Edition での API アクセス

GE 組織および PE 組織では、通常 API アクセスがサポートされません。ただし、アプリケーションがセキュリティレビューに合格すると、一部の API を複合アプリケーションの構築に使用できるようになります。

- 現在、GE および PE のアプリケーションには標準のデータ SOAP および REST API がサポートされ、PE のアプリケーションではメタデータ API がサポートされています。API アクセス権を申請するには、「[アプリケーションの API トークンを取得する方法は?](#)」を参照してください。また、Salesforce に連絡して、GE 組織または PE 組織で REST API が使用できるように接続アプリケーションの許可リストへの登録を依頼することもできます。
- Bulk API 2.0 や、SOAP Web サービスを使用して公開された Apex メソッドなど、その他の API は引き続き使用できません。
- REST ベースの Web サービスは、接続アプリケーションのコンシューマー許可リストへの登録によって有効にできます。
- メタデータ API を含む SOAP ベースの Web サービスは、クライアント ID という API トークンを使用して有効にできます。このクライアント ID を、インテグレーションコールの SOAP ヘッダーに付加します。この特殊なキーにより、顧客に API アクセス権がなくても、アプリケーションが、データ API の場合は GE および PE 組織に、メタデータ API の場合は PE 組織にコールを行うことができます。

クライアント ID には次のプロパティがあります。

- クライアント ID は、カスタム JavaScript の AJAX Toolkit、S コントロール、またはアプリケーション内の、値がエンドユーザーに公開されるおそれのある場所では使用できません。
- 開発の目的上、環境ハブで作成された GE および PE 組織ではすでに、メタデータ API および SOAP API (データ API) が有効になっています。この場合は、セキュリティレビューを受ける前にアプリケーションを開発およびテストできます。アプリケーションがセキュリティレビューに合格したら、API トークンを取得し、アプリケーションを再度テストして正常に動作することを確認します。
- クライアント ID は、GE および PE による SOAP API へのアクセス権と、PE によるメタデータ API へのアクセス権を付与します。メタデータ API により、通常は [設定] で作成するさまざまなコンポーネントを動的に作成できます。たとえば、API トークンを使用して、PE 組織でカスタム項目を動的に作成できます。

次の表に、GE および PE を使用している場合にアクセスできる API とそのアクセス方法を示します。

API	GE および PE へのアクセス
Web サービス (SOAP)	はい (トークンを使用)
Apex メソッドを Web サービス (SOAP) として公開	いいえ
Web サービス (REST)	はい (接続アプリケーションのコンシューマー許可リスト登録を使用)
Apex メソッドを Web サービス (REST) として公開	はい (接続アプリケーションのコンシューマー許可リスト登録を使用)
Connect REST API	はい
メタデータ API	はい (トークンを使用)
Bulk API 2.0	いいえ

API	GE および PE へのアクセス
データローダーツール (SOAP Web サービスを使用)	いいえ (トークンを設定できない)

Group Edition と Professional Edition での REST API へのアクセス

Lightning Platform REST API では、Lightning プラットフォームを操作するための強力かつ便利な使いやすい API を提供します。適格なパートナーは、アプリケーションが GE 組織または PE 組織に REST API コールを実行できるようにすることを要求できます。


Group Edition と Professional Edition での REST API へのアクセス

Lightning Platform REST API では、Lightning プラットフォームを操作するための強力かつ便利な使いやすい API を提供します。適格なパートナーは、アプリケーションが GE 組織または PE 組織に REST API コールを実行できるようにすることを要求できます。

REST API へのアクセス権を取得するには、次の条件を満たす必要があります。

- パートナーコミュニティへのアクセス。初めてご利用になる場合は、各 ISV パートナープログラムの詳細を確認し、いずれかのプログラムに参加してください。
- セキュリティレビューに合格。AppExchange または OEM プログラムに登録されたすべてのアプリケーションは、定期的なセキュリティレビューを受ける必要があります。
- Salesforce Developer Edition へのアクセス権。まだ DE 組織へのアクセス権がない場合は、環境ハブから Partner Developer Edition を取得できます。

REST API トークンを要求する手順は、次のとおりです。

1. DE 組織から接続アプリケーションを作成します。開発者アカウントで Salesforce 組織にログインします。[設定] の [クイック検索] ボックスに「アプリケーション」と入力し、[アプリケーション] を選択します。[接続アプリケーション] セクションで、[新規] をクリックします。
 -  **メモ:** 管理パッケージまたは Trialforce 管理組織 (TMO) を構築する組織など、長期にわたって使用する予定の組織で作業することを強くお勧めします。
2. 要求される情報を入力し、[保存] をクリックします。アプリケーションを保存すると、そのアプリケーションが Salesforce との通信に使用するコンシューマーキーとコンシューマーの秘密が与えられます。
3. Salesforce パートナーコミュニティでサポートケースを登録します。商品には、「Partner Programs & Benefits (パートナープログラムと特典)」と指定します。トピックには、「ISV Technology Request (ISV テクノロジー要求)」と指定します。DE 組織 ID と接続アプリケーションのログイン情報を入力します。

要求は弊社で評価し、適切な権限を有効化します。弊社からケース通知を送信します。権限が有効化されるまで、24 時間お待ちください。OAuth 認証中に、client_id (またはコンシューマーキー) および client_secret (コンシューマーの秘密) が、ケースで登録した情報と照合されます。一致すると、システムにより GE および PE エディションとの通信が許可されます。

メモ:

- この権限は、REST API のみを対象にしています。アプリケーションが GE および PE エディションで SOAP API、Bulk API、またはメタデータ API などを使用できるようにするものではありません。

- この権限は、当該アプリケーションにのみ適用されます。弊社が GE 組織および PE 組織で API を有効化することはありません。

複数のエディションをサポートするアプリケーションの設計

アプリケーションが複数のエディションをサポートすることで、EE、UE、および PXE で使用でき、より高度な機能をサポートし、さらに豊富な機能を持つバージョンをリリースする機会が得られます。複数のエディションをサポートするために使用できる技術は 2 種類あります。1 つ目のアプローチは拡張パッケージを使用するもの、2 つ目のアプローチは動的 Apex を活用するものです。どちらにもメリットがあるので、アプリケーションを設計する前に両方の技術を確認するようにしてください。

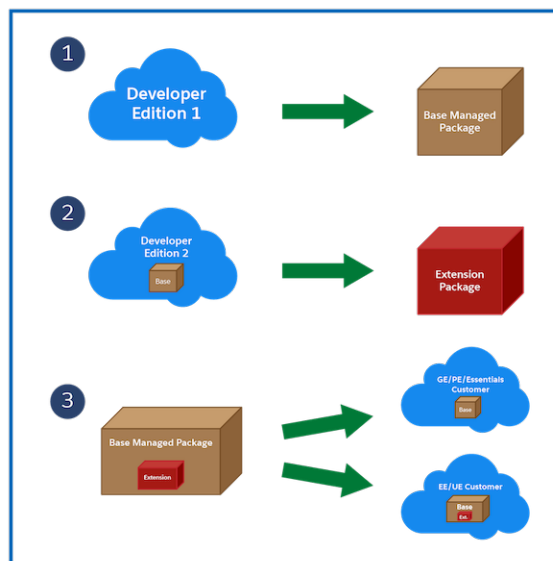
拡張パッケージを使用した複数のエディションのサポート

動的 Apex を使用した複数のエディションのサポート

拡張パッケージを使用した複数のエディションのサポート

このアプローチでは、コアアプリケーション機能を含む基本管理パッケージを使用します。基本パッケージに含まれる機能は、Group Edition および Professional Edition でサポートされている機能のみです。そこで、この基本パッケージを拡張するために 2 つ目の管理パッケージ (拡張パッケージ) を使用します。拡張パッケージでは、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition でサポートされている機能が追加されます。たとえば、在庫を追跡する倉庫アプリケーションがあり、このアプリケーションへの拡張にはワークフロー (Group では使用不可) が含まれるとします。Group Edition と Professional Edition のユーザーは、基本倉庫アプリケーションをインストールでき、その他のユーザーは基本パッケージをインストールしてから、ワークフローコンポーネントを含む拡張パッケージをインストールできます。

基本パッケージおよび拡張パッケージを使用した複数のエディションのサポート




拡張パッケージを使用することで、複数のコードセットの使用を回避してユーザーにアップセルを行うことができます。ユーザーをアップグレードするのに必要なのは、拡張パッケージをインストールすることのみです。

拡張パッケージを作成するプロセスは次のとおりです。

1. Group Edition および Professional Edition でサポートされている機能を使用する基本管理パッケージを作成します。
2. この基本管理パッケージを別の Developer Edition 組織にインストールします。
3. この組織で、Group Edition および Professional Edition でサポートされているその他の機能を含む拡張パッケージを作成します。機能の重複を回避するために、基本管理パッケージを参照することができます。基本管理パッケージを参照するコンポーネントは、自動的にこのパッケージを拡張パッケージとして起動します。

拡張パッケージは基本パッケージに依存するため、アプリケーションおよびパッケージ間のインターフェースを丁寧に設計することが重要です。たとえば、拡張パッケージが基本パッケージの Apex クラスをコールする場合、対象の Apex を global にしておく必要があります。

また、アプリケーションのライフサイクル全体を考慮することも重要です。たとえば、新しい機能を追加する場合は、適切なパッケージに含めるようにします。基本パッケージへの更新で拡張パッケージを壊さないようにします。

 **メモ:** 拡張パッケージでカスタムオブジェクトの履歴情報にアクセスする場合は、基本パッケージの所有者と協力して基本パッケージの組織で履歴管理を有効にします。基本パッケージで履歴管理を有効にすると、パッケージをインストールするときや拡張パッケージのパッチ組織を作成するときに、エラーが発生することがあります。

動的 Apex を使用した複数のエディションのサポート

動的 Apex、動的 SOQL、および動的 DML を使用すると、拡張パッケージを使用しないでサポートすることを計画しているすべてのエディション向けに1つの管理パッケージを作成できます。アプリケーションの動作は、顧客のエディションで使用できる機能に基づいて動的に変更できます。これは、複数のエディションをサポートする意図でアプリケーションを設計するときに便利です。

パッケージの Apex やワークフローなどが、GE または PE でサポートされていない機能への強く型付けされた参照を含まないようにします。これには、キャンペーンなどのサポートされていない標準オブジェクトにカスタム項目を追加することや、マルチ通貨またはテリトリー管理のような機能への Apex 参照の実行が含まれる場合があります。GE または PE でサポートされていないパッケージ内の機能を参照する場合、このパッケージの依存性がインストール失敗の原因になります。

代わりに、機能を参照する前に動的 Apex を使用してその機能が使用可能かを最初に確認することで、GE または PE に管理パッケージを正常にインストールできます。ここで考慮すべきことは、いずれのケースにも対応できるように動的 Apex をコーディングする必要があるということです。そうすることで、顧客が特定の機能またはオブジェクトを所持していない場合でも、アプリケーションは機能します。

Group Edition と Professional Edition の設計シナリオのサンプル

Group Edition および Professional Edition 向けに構築する状況とその方法を理解しやすいように、以下にいくつかのシナリオを紹介します。

シナリオ 1: レコードタイプを使用するアプリケーションを構築する

Group Edition ではレコードタイプを使用できないため、このエディションをサポートするかどうかを決定します。サポートする場合、レコードタイプを含まない基本管理パッケージを作成できます。この管理パッケージをリリース済み状態でアップロードした後、別の Developer Edition 組織にその管理パッケージをインストールし、拡張パッケージの構築を開始できます。拡張パッケージには、Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition および Performance Edition のユーザーがインストールして使用できるレコードタイプを追加できます。

シナリオ 2: 80 個のカスタムオブジェクトを使用するアプリケーションを構築する

このシナリオでは通常、Group Edition および Professional Edition の組織でカスタムオブジェクトの制限による問題が発生します。ただし、アプリケーションを AppExchange に公開すれば、カスタムオブジェクト、タブ、およびアプリケーションの制限に含まれなくなります。つまり、アプリケーションに 80 個のカスタムオブジェクトがあっても、Group Edition および Professional Edition の組織にインストールして機能させることができます。

シナリオ 3: Web サービスに Apex コールアウトを行うアプリケーションを構築する

Apex は、通常 Group Edition または Professional Edition では実行できませんが、セキュリティレビューで管理パッケージが承認されれば、Apex が期待どおりに実行されます。このシナリオでは、外部のサービスを呼び出す Apex コールアウトを構築して、パッケージにこのクラスを含めます。

シナリオ 4: キャンペーンを使用するアプリケーションを構築する

Group Edition ではデフォルトでキャンペーンがサポートされています。このシナリオには、2つのオプションがあります。

- オプション 1: キャンペーンを参照しない基本管理パッケージを構築します。完了したら、アップロードして別の Developer Edition 組織にインストールします。キャンペーン機能は拡張パッケージとして構築します。これで、Group Edition ユーザーが基本パッケージをインストールできる一方で、それ以外のユーザーは拡張パッケージをインストールして他の機能も装備できます。
- オプション 2: 動的 Apex をキャンペーンへの参照のみに使用し(上記のとおり)、キャンペーンにカスタム項目を含まない場合は、このオプションに必要なパッケージは1つのみです。続いて、アプリケーションを Group Edition 以上の組織にインストールできます。ユーザーのエディションにキャンペーンがある場合は、動的 Apex によってキャンペーンを期待どおり操作できます。

シナリオ 5: 着信 API コールを受信する複合アプリケーションを構築する

別個にホストされたアプリケーションがあり、Salesforce と統合する場合は、Group Edition ユーザーおよび Professional Edition ユーザーに API コールを行う必要があります。デフォルトではこうしたコールを実行できませんが、使用資格のあるパートナーの場合は、SOAP コールによって Group Edition 組織および Professional Edition 組織と統合できるようにする特別な API トークンを要求します。外部コードの SOAP ヘッダーに必ずクライアント ID を埋め込みます。

AppExchange セキュリティレビューの合格

[発効日: 2023 年 8 月 9 日] Salesforce にとって、お客様の信頼は何よりも大切です。信頼を得るためにはセキュリティが欠かせません。AppExchange 上で管理パッケージ、Salesforce Platform API ソリューション、または Marketing Cloud API ソリューションを配布するには、セキュリティレビューに合格する必要があります。セキュリティレビューに向けて準備を整え、合格する方法について説明します。

- 📄 **メモ:** このセクションに表示されている AppExchange セキュリティレビューの説明とリンクは、リストされている発効日の時点で最新です。SFDC は、AppExchange セキュリティレビューを独自の判断で随時更新または変更する場合があります。その際、通告は、行う場合もあれば、行わない場合もあります。
- ❗ **重要:** パートナーアプリケーション (管理パッケージ、Salesforce Platform API ソリューション、Marketing Cloud API ソリューション、および本文書で言及されるその他のソリューション) は、Salesforce のメインサービス契約 (<https://www.salesforce.com/company/legal/agreements/> またはその後継の URL で入手可能) で定義された非 SFDC アプリケーションです。パートナーアプリケーションのセキュリティレビューにもかかわらず、Salesforce は、パートナーアプリケーションの品質やセキュリティに関して保証を行いません。また、顧客は、パートナーアプリケーションの品質、セキュリティ、および機能を評価する責任があります。

AppExchange セキュリティレビュー

AppExchange 上で管理パッケージ、Salesforce Platform API ソリューション、または Marketing Cloud API ソリューションを公開するには、事前にセキュリティレビューに合格しておく必要があります。AppExchange セキュリティレビューでは、顧客データをどの程度保護できるかなど、ソリューションのセキュリティ体制をテストします。

AppExchange セキュリティレビューのしくみ

AppExchange セキュリティレビューを開始する前に、独自のテストを実行し、Salesforce が行うソリューションのセキュリティ評価に役立つ補足資料を収集します。レビューでは、Salesforce の製品セキュリティチームがソリューションのセキュリティ脆弱性を探します。チームが脆弱性を特定した場合は、パートナーはパーソナライズされた技術指標にアクセスして、特定された脆弱性に対応できます。

Partner Security Portal

Partner Security Portal は、セキュリティレビューに関するニーズの中央ハブです。このポータルは、自動セキュリティスキャンツールの Source Code Scanner (Checkmarx) と Chimera をホストしています。これらのツールを使用すれば、ソリューションのセキュリティ脆弱性を識別できます。また、このポータルでは AppExchange セキュリティエンジニアやセキュリティレビュー業務チームメンバーとのオフィスアワーを予約することもできます。オフィスアワーは、セキュリティレビュープロセスに関する質問をしたり、セキュリティ脆弱性があるコードを修正する方法について議論できるフォーラムです。

ソリューション全体のテスト

手動テストおよび自動セキュリティスキャナーツールを使用して、ソリューションの全範囲をテストします。セキュリティスキャンを実行するときには、Salesforce Platform と独立して動作する外部エンドポイントをすべて含めます。セキュリティ違反の偽陽性を記録し、Salesforce のセキュリティガイドラインを満たさないコードをすべて修正します。

Salesforce Code Analyzer を使用したソリューションのスキャン

AppExchange パートナーとして管理パッケージをセキュリティレビューに提出する場合は、Salesforce Code Analyzer でパッケージをスキャンし、ソリューションの AppExchange セキュリティレビュー申請でテスト結果を提出する必要があります。このスキャンは、Partner Security Portal が提供するツールを使用して実行する必要があるスキャンの追加として行います。これらのスキャンに使用するツールは Source Code Scanner (Checkmarx スキャナーとも呼ばれます) と、Chimera スキャナーです。

偽陽性

AppExchange セキュリティレビュープロセスを進めると、偽陽性の問題がソリューションで発生する可能性があります。偽陽性が発生するのは、セキュリティスキャンツールまたはコードレビュー担当者が、一見セキュリティ脆弱性があるように見えるが実際にはないコード行にフラグを設定した場合です。つまり、実際にはフラグ設定された脆弱性が存在しない、悪用できない、または有効な使用事例や機能をサポートするために必要ないにもかかわらず、フラグ設定されている場合です。

セキュリティレビューリソース

次のリソースは、AppExchange セキュリティレビューに向けて準備する上で役立ちます。

AppExchange セキュリティレビュー

AppExchange 上で管理パッケージ、Salesforce Platform API ソリューション、または Marketing Cloud API ソリューションを公開するには、事前にセキュリティレビューに合格しておく必要があります。AppExchange セキュリティレビューでは、顧客データをどの程度保護できるかなど、ソリューションのセキュリティ体制をテストします。

セキュリティレビューは、ハッカーやマルウェアなどの脅威に悪用される可能性があるセキュリティ脆弱性を特定するのに役立ちます。Salesforce セキュリティレビューチームは、特に一般的な Web の脆弱性に基づく脅威モデリングプロファイルを使用してソリューションをテストします。チームは、ソリューションにプログラムされた防御の突破を試みます。目標は、セキュリティ脅威が目指すのと同じように、アクセス権限がないデータの抽出や変更を行うことです。

テスト対象となる一般的なセキュリティ脅威の一部を次に挙げます。

- SOQL インジェクションと SQL インジェクション
- クロスサイトスクリプト
- セキュアでない認証やアクセス制御プロトコル
- レコード共有違反など、Salesforce Platform に固有の脆弱性

特に重大な Web アプリケーションのセキュリティリスクについての詳細は、「[Open Web Application Security Project \(OWASP\) Top Ten \(オープン Web アプリケーションセキュリティプロジェクト \(OWASP\) トップ 10\)](#)」 認知ドキュメントを参照してください。OWASP は、ソフトウェアのセキュリティ向上に取り組んでいる非営利財団です。

レビュー中に検出されたセキュリティの脆弱性について、レポートが提供されます。また、脆弱性に対応するために、対面でのサポートを受けることもできます。レポートに記載された問題に対処し、修正したソリューションのフォローアップレビューを申請します。申請ごとに複数回のレビューが提供されるため、ソリューションのセキュリティを微調整できます。

⚠ 重要: アップグレードされたソリューションが最新のセキュリティ脆弱性に対してどの程度防御されているかをテストするため、Salesforce は、AppExchange で配布されるソリューションの定期的な再レビューを実施する権利を保有します。

セキュリティレビュープロセスは、パーソナライズされたアドバイスやツールを備えた強化メカニズムであると考えられます。パートナーはオフィスアワーにアクセスできます。オフィスアワーでは、セキュリティレビューチームのメンバーと直接コミュニケーションを取り、ソリューションに合わせた指標を受けるこ

とができます。また、セキュリティレビューチームはソリューションの調査プロセスの自動化に役立つセキュリティスキャンツールを紹介します。

関連トピック:

<https://owasp.org/www-project-top-ten/>

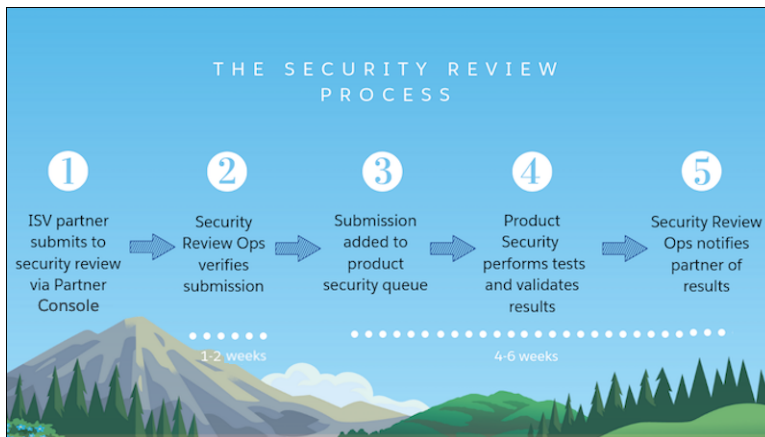
https://owasp.org/www-project-secure-coding-practices-quick-reference-guide/migrated_content

https://trailhead.salesforce.com/content/learn/modules/isv_security_review

AppExchange セキュリティレビューのしくみ

AppExchange セキュリティレビューを開始する前に、独自のテストを実行し、Salesforce が行うソリューションのセキュリティ評価に役立つ補足資料を収集します。レビューでは、Salesforce の製品セキュリティチームがソリューションのセキュリティ脆弱性を探します。チームが脆弱性を特定した場合は、パートナーはパーソナライズされた技術指標にアクセスして、特定された脆弱性に対応できます。


重要: AppExchange で公開する予定のすべての管理パッケージ、Salesforce API、Marketing Cloud API は、セキュリティレビューを受ける必要があります。



準備の確認


セキュリティレビューのしくみを理解するのと同じくらい重要なのは、セキュリティレビューへの準備ができているかどうかを知ることです。次のことが完了すれば、ソリューションのセキュリティレビューを申請する準備ができています。

- 業界最高のセキュリティ標準に従ってソリューションを保護する。
- ソリューションが Lightning 対応であることを確認する。セキュリティレビューを申請するすべての新しいソリューションは、Lightning 対応である必要があります。
- Salesforce パートナーコンソールで次のことを実行する。
 - パッケージ化を行う組織を AppExchange に接続する。
 - プロバイダープロファイルを作成します。
 - ソリューションリストを作成する。

 **メモ:** ソリューションは、AppExchange パートナープログラムに登録されている必要があります。

ソリューションのテスト

ソリューション開発のライフサイクル全体を通じて、自動スキャンツールの実行や手動でのテストを行います。セキュリティスキャンツールは有用ですが、提供されるのはソリューションの脆弱性に関する第一段階でのインサイトに過ぎません。自動スキャンツールで検出されなかった脆弱性を見つけるために、手動でもソリューションをテストします。

 **ヒント:** コードのテストは、開発のライフサイクル全体を通じて行うことをお勧めします。テストと修復を先送りすると、問題が積み重なり、商品化が大幅に遅れる可能性が高くなります。

開発プロセスでは、ソースコード分析用の統合ツールである Salesforce Code Analyzer でコードをスキャンすることをお勧めします。Code Analyzer は、複数のエンジン (PMD、PMD Copy Paste Detector、ESLint、RetireJS、Salesforce Graph Engine) をサポートします。Salesforce Graph Engine は、コードに含まれる作成、参照、更新、削除および項目レベルセキュリティ (CRUD/FLS) 違反の特定に便利です。

ソリューションの開発が完了したら、もう一度手動テストを実施し、製品セキュリティチームによって義務付けられている自動スキャンツールを実行します。どの種類のスキャンを実行する必要があるかは、ソリューションのアーキテクチャによって異なります。


[Partner Security Portal](#) では、Source Code Scanner (Checkmarx スキャナーとも呼ばれる) と Chimera スキャナーにアクセスできます。これらの2つのスキャンツールは、多くの AppExchange ソリューションのテスト要件を満たしています。

ソリューションのレビューを申請する前に、手動テストとスキャンツールで見つかったセキュリティの問題にすべて対応します。コードを修正するか、フラグが付けられた問題が偽陽性であることを文書にします。偽陽性とは、セキュリティリスクが生じるように見えるが実際にはそうではない問題です。

申請前にソリューションをテストすることで、レビューに1回で合格するチャンスが高くなります。事前にテストしていないソリューションが合格することはほとんどなく、レビューで検出されたセキュリティの脆弱性に対処してから再申請する必要があります。再申請すると、ソリューションの公開プロセスが大幅に遅れます。

セキュリティレビューの申請に必要な資料の収集

製品セキュリティチームが徹底した手動レビューを行えるようにする資料を用意します。ほとんどの申請で、配布しようとしているバージョンのソリューションがインストールされた Developer Edition 組織とソリューションに関するドキュメントを提供する必要があります。セキュリティレビューチームは、その Developer Edition 組織をソリューションテスト環境として使用します。Marketing Cloud アプリケーションには組織とドキュメントは必要ありません。その他に必要な資料は、ソリューションの種類によって異なります。

 **ヒント:** セキュリティレビューの準備をしているときや、セキュリティレビュー中、またはその後にさまざまな質問が出てくる場合があります。懸念事項について議論したり、質問への答えを得るには、[Partner Security Portal](#) にアクセスし、オフィスアワーを予約します。ソリューションのレビュー申請についてサポートを受けるには、セキュリティレビュー業務チームを予約します。レビューで特定されたソリューションの問題のトラブルシューティングを行うには、製品セキュリティチームを予約します。

ソリューションのレビュー申請

テストを完了し、申請に必要な資料を収集したら、ソリューションの AppExchange セキュリティレビューを申請する準備が整います。セキュリティレビュー申請インターフェースを使用して、ソリューションと必要な資料を共有し、セキュリティレビュー料金を支払います。ソリューションを無料で配布する予定であれば、料金を支払う必要はありません。

すべてを送信した後の所要期間は次のようになります。

❗ 重要: 時間枠は推定値です。審査の実際の所要時間には、提出物が完備されているかどうかやその分量など、いくつかの要因が影響します。

セキュリティレビューのフェーズ	一般的な期間
セキュリティレビュー業務チームが、ユーザーの申請がレビューできる状況にあるかを確認します。ソリューションのセキュリティテストに必要なものがすべて含まれていれば、申請はすぐにレビューできます。	1～2 週間
製品セキュリティチームが、最初にソリューションをテストする。	3～4 週間
以前承認されなかったソリューションについて、セキュリティ脆弱性の修正の進行が示された場合に製品セキュリティチームが再申請をテストする。	2～3 週間

セキュリティレビューレポートのフォローアップ

セキュリティレビューが完了すると、AppExchange でのソリューションの公開申請が承認されたかどうかを通知するレポートが送信されます。

- 承認された場合: すぐに AppExchange でソリューションを公開してお客様に配布できます。
- 承認されなかった場合: セキュリティレビューチームがソリューションにセキュリティ上の問題を検出しました。ソリューションを AppExchange に掲載したり、お客様に配布することはできません。

ソリューションが承認されなかった場合は、レポートには、検出されたセキュリティ問題の種類に関する情報が含まれています。セキュリティレビューは時間が限られたブラックボックスプロセスです。セキュリティ問題のすべてのインスタンスを挙げることはできません。また、すべての問題の種別を最初に検出できない可能性もあります。セキュリティレビューの結果は、修正する必要のある問題の種類の大まかな代表例として考えてください。そして、ソリューション全体にわたって、各問題のすべてのインスタンスを厳密に見つけて修正します。

検出されたすべてのセキュリティ問題に対処します。必須の自動スキャンツールを再実行し、修正済みソリューションのレポートを生成します。その後、更新されたスキャンレポートを添えて修正済みソリューションを再申請します。

関連トピック:

[パートナーコンソールへの Dev Hub またはパッケージ組織の接続](#)

[プロバイダープロファイルの作成または編集](#)

[AppExchange リストを作成または編集する](#)

[Partner Security Portal](#)

<https://security.secure.force.com/sourcescanner/>

https://partners.salesforce.com/s/education/general/Lightning_Ready

Partner Security Portal

Partner Security Portal は、セキュリティレビューに関するニーズの中央ハブです。このポータルは、自動セキュリティスキャンツールの Source Code Scanner (Checkmarx) と Chimera をホストしています。これらのツールを使用すれば、ソリューションのセキュリティ脆弱性を識別できます。また、このポータルでは AppExchange セキュリティエンジニアやセキュリティレビュー業務チームメンバーとのオフィスアワーを予約することもできます。オフィスアワーは、セキュリティレビュープロセスに関する質問をしたり、セキュリティ脆弱性があるコードを修正する方法について議論できるフォーラムです。

Partner Security Portal ログインの設定

パッケージ組織をパートナーコンソールに接続します。次に、組織のログイン情報を使用して Partner Security Portal にログインします。ログインしたユーザーは、セキュリティスキャンツールにアクセスしたり、オフィスアワーの予定をスケジュールしたりできます。

ポータルのセキュリティスキャナー

セキュリティの脆弱性を特定するために、ソリューションおよび Salesforce Platform と独立して動作するすべての外部エンドポイントに対してセキュリティスキャンツールを実行する必要があります。Partner Security Portal では、Salesforce が推奨する Source Code Scanner (Checkmarx) と Chimera という 2 つのスキャナーがホストされています。

ポータルでのオフィスアワーの予約

Salesforce セキュリティレビューチームは AppExchange パートナーのためのオフィスアワーを設けています。オフィスアワー中には、予約制でセキュリティレビューチームのメンバーとの直接の Web 会議を実行できます。セキュリティレビュー業務チームに申請プロセスについて質問したり、製品セキュリティチームとセキュリティ脆弱性についてトラブルシューティングを行うことができます。

Partner Security Portal ログインの設定

パッケージ組織をパートナーコンソールに接続します。次に、組織のログイン情報を使用して Partner Security Portal にログインします。ログインしたユーザーは、セキュリティスキャンツールにアクセスしたり、オフィスアワーの予定をスケジュールしたりできます。

 **メモ:** Partner Security Portal ログインを設定する前に、開発作業をホストするパッケージ化組織が Salesforce Developer Edition 組織であることを確認してください。


1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [Publishing (公開)] をクリックします。
3. [Technologies (テクノロジー)] タブをクリックします。
4. [Orgs (組織)] タブをクリックします。
5. [Connect Technology (テクノロジーを接続)] をクリックしてから [Orgs (組織)] をクリックします。
6. [Connect (接続)] をクリックします。
7. パッケージ化組織に使用するログイン情報を入力してログインします。
8. [Partner Security Portal](#) にアクセスします。
9. [Login (ログイン)] をクリックします。

関連トピック:

<https://security.my.salesforce-sites.com/sourcescanner/SourceScannerHelp>

ポータルセキュリティスキャナー

セキュリティの脆弱性を特定するために、ソリューションおよび Salesforce Platform と独立して動作するすべての外部エンドポイントに対してセキュリティスキャンツールを実行する必要があります。Partner Security Portal では、Salesforce が推奨する Source Code Scanner (Checkmarx) と Chimera という 2 つのスキャナーがホストされています。

 **ヒント:** 開発ライフサイクルを通して、コードおよび接続しているエンドポイントでセキュリティスキャンを実行することを強くお勧めします。セキュリティの脆弱性が山積みとなり、後で行う作業を増やさないために、開発中には定期的にスキャンを実行して検出された問題を修正してください。

Partner Security Portal では、Salesforce でサポートされる Source Code Scanner (Checkmarx スキャナーとも呼ばれる) と Chimera スキャナーサービスという 2 つのスキャナーにアクセスできます。

Source Code Scanner (Checkmarx) は Apex、Visualforce、Lightning コードをチェックしますが、ソリューションの外部エンドポイントはチェックしません。

Chimera は外部エンドポイントをチェックしますが、開発者が外部サーバーのルートにトークンをアップロードする必要があります。ソリューションが自分が所有しているドメインのエンドポイントに接続する場合は、

ユーザ権限

Partner Security Portal で Source Code Scanner (Checkmarx) にアクセスする

- 「Apex 開発」

ユーザ権限

Partner Security Portal で Source Code Scanner (Checkmarx) にアクセスする

- 「Apex 開発」

Chimera を使用できます。ソリューションが自分が所有していないドメインのエンドポイントに接続する場合は、トークンをアップロードできず、Chimera は使用できません。代替ツールを使用してください。たとえば、無料の OWASP Zed Attack Proxy (ZAP) スキャナーをダウンロードするか、Burp Suite のライセンスを購入してください。

ソリューション(モバイルクライアントおよび API ソリューションを除く)を送信する直前に、Partner Security Portal で Source Code Scanner を実行します。ソリューションが Salesforce 以外のドメインに接続する場合は、外部エンドポイントで Chimera、OWASP ZAP、または Burp Suite も実行します。ソリューションのセキュリティレビューを申請するときに、スキャンのレポートを含めます。

セキュリティスキャナー	スキャン対象	考慮事項
Source Code Scanner (Checkmarx)	Apex、Visualforce、Lightning コード	<ul style="list-style-type: none"> この静的スキャンツールは Checkmarx のセキュリティ技術を使用しています。 Salesforce パッケージまたはコンポーネントを含むセキュリティレビューの申請に必須です。モバイルクライアントまたは API ソリューションには必要ありません。 Source Code Scanner (Checkmarx) は、セキュリティレビュー手数料を支払ったソリューションバージョンにつき 3 回まで実行できます。開発中はオープンソースの PMD Source Code Analyzer などの代替ツールを実行し、最終的に申請するときに Source Code Scanner を実行することを検討してください。 パッケージ化されていないコードのスキャン、またはスキャンの回数制限やパッケージリンク要件を回避する柔軟性と自由が必要な場合は、Checkmarx からライセンスを購入してください。
Chimera	自分が所有しているドメインの外部エンドポイント	<ul style="list-style-type: none"> ソリューションの外部エンドポイントのセキュリティの脆弱性をチェックします。 Salesforce IP アドレスからソリューションをスキャンします。 ダウンロードは必要ありません。 外部サーバーのルートにトークンをアップロードする必要があるため、自分が所有していないドメインのエンドポイントには使用できません。

セキュリティスキャナー	スキャン対象	考慮事項
		<ul style="list-style-type: none"> ソリューションが自分が所有していない外部エンドポイントに接続する場合は、Chimera ではなく、OWASP ZAP または Burp Suite を使用します。

関連トピック:

[ソリューション全体のテスト](#)

<https://owasp.org/www-project-zap/>

<https://portswigger.net/burp>

ポータルでのオフィスアワーの予約

Salesforce セキュリティレビューチームは AppExchange パートナーのためのオフィスアワーを設けています。オフィスアワー中には、予約制でセキュリティレビューチームのメンバーとの直接の Web 会議を実行できます。セキュリティレビュー業務チームに申請プロセスについて質問したり、製品セキュリティチームとセキュリティ脆弱性についてトラブルシューティングを行うことができます。

-  **メモ:** オフィスアワーの予定をスケジュールするには、Partner Security Portal にアクセスしてください。ポータルログインが必要な場合は、「Partner Security Portal ログインの設定」の手順に従ってください。

業務オフィスアワー

業務オフィスアワー中には、セキュリティレビュー業務チームのメンバーがセキュリティレビューの手続きや申請要件についての質問に答えます。一般的な質問には次のようなものがあります。

- セキュリティレビューの範囲に含まれるのはソリューションのどのコンポーネントですか?
- どの種類のレポートやスキャン結果を提供する必要がありますか?
- 申請したソリューションがレビューに合格しなかった場合はどうなりますか?

技術オフィスアワー

技術オフィスアワーは、セキュリティに関して製品セキュリティチームからの具体的な技術的サポートが必要な場合に利用できます。一般的な質問には次のようなものがあります。

- AppExchange のセキュリティ要件を調べるにはどうすればよいですか?
- 私のソリューションの特定の側面をセキュアに設計、実装するにはどうすればよいですか?
- 自動セキュリティスキャンツールで検出された問題に対処するにはどうすればよいですか?
- セキュリティレビューレポートの発見事項にはどのような意味がありますか?
- どのセキュリティスキャン結果を偽陽性とみなすことができますか?
- セキュリティレビューレポートの問題が偽陽性であると思われる場合、どのように解決できますか?
- 私のコード変更によって、セキュリティレビューで識別されたセキュリティ脆弱性は修正されますか?

ソリューション全体のテスト

手動テストおよび自動セキュリティスキャナーツールを使用して、ソリューションの全範囲をテストします。セキュリティスキャンを実行するときには、Salesforce Platform と独立して動作する外部エンドポイントをすべて含めます。セキュリティ違反の偽陽性を記録し、Salesforce のセキュリティガイドラインを満たさないコードをすべて修正します。

テスト範囲

セキュリティレビューを申請するソリューションのあらゆる部分をテストします。Salesforce Platform でホストされないエンドポイントも含めて、ソリューションのアーキテクチャがセキュアであることを確認します。ソリューションのあらゆるコンポーネントとレイヤーに注意することで、ハッカーや不正ソフトウェアによって潜在的なエントリポイントが悪用されるリスクを最小限に抑えることができます。

ソリューションの全範囲がセキュリティレビューテストの対象となります。たとえば、Salesforce は、Development Edition テスト組織を攻撃し、機密データへのアクセスや虚偽のログイン情報を使用した認証を試みる侵入テストを実行することができます。

テスト範囲を判断するために、データをフォローする手法を用います。ユーザーやデータがアクセスする部分がすべて範囲に含まれます。たとえば、お客様である Salesforce ユーザーがあなたの会社の Web サイトにログインする必要がある、またはデータがサードパーティのサーバーに同期されるとします。これらの部分をテストし、ログイン情報とデータが安全に転送されることを確認します。

次の条件のいずれかに当てはまる場合、外部エンドポイントはセキュリティレビューの範囲に含まれ、セキュリティテストの必須部分となります。

- エンドポイントは、ソリューションの購入、サポート、または使用の一環としてエンドユーザーの認証で役割を果たします。この定義には、ログイン情報の手動入力が不要の接続アプリケーションも含まれます。
- Salesforce データはエンドポイントへ、またはエンドポイントから転送されません。

重要: 自分が所有していない外部エンドポイントでセキュリティテストを実行するには、次の2つが必要です。まず、外部エンドポイントを所有しているサードパーティから、セキュリティテストを実行するために必要な権限を取得すること、次に、「許可すべき Salesforce の IP アドレスとドメイン」のガイドラインに従うことです。

自動スキャンツール

ソリューションとエンドポイントのセキュリティの脆弱性を特定するために、特定の自動セキュリティスキャンツールを実行する必要があります。

ヒント: 開発ライフサイクルを通して、コードおよび接続しているエンドポイントでセキュリティスキャンを実行することを強くお勧めします。セキュリティの脆弱性が山積みとなり、後で行う作業を増やさないために、開発中には定期的にスキャンを実行して検出された問題を修正してください。

ソリューションが、管理パッケージ、Salesforce Platform API ソリューション、または Marketing Cloud API ソリューションの場合は、セキュリティレビューに合格する必要があります。管理パッケージを申請する場合は、Salesforce Code Analyzer を使用してソリューションをスキャンし、AppExchange セキュリティレビューウィザードで包括的なスキャン結果を提出する必要があります。Code Analyzer を使用できない場合は、コードに Code Analyzer を実行しなかった理由について明確に説明する必要があります。

ソリューションが管理パッケージではない場合、または Code Analyzer を使用しない場合は、Partner Security Portal で Salesforce がサポートする 2 つのセキュリティスキャナー、すなわち Source Code Scanner (Checkmarx スキャナーとも呼ばれます) と Chimera スキャナーにアクセスできます。

この表には、必須または推奨する自動セキュリティスキャナーツールがまとめられています。

セキュリティスキャナーツール	スキャン対象	考慮事項	申請時に結果を提出	Partner Security Portal でホスト
Salesforce Code Analyzer	Apex、JavaScript、Lightning、TypeScript、および Visualforce コード	<ul style="list-style-type: none"> Salesforce Code Analyzer は、ESLint、JavaScript、PMD、Retire JS、Salesforce Graph Engine などのスキャンツールを 1 つの Salesforce CLI プラグインに統合して、簡単にインストールできるようにしたものです。特に Salesforce Graph Engine は、作成、参照、更新、削除および項目レベルセキュリティ (CRUD/FLS) 違反の検出に役立ちます。 Salesforce Code Analyzer は、ローカル開発マシンにインストールすることも、継続的インテグレーション (CI) プロセスに統合することもできます。 Salesforce Code Analyzer には、Lightning Web コンポーネント JavaScript をスキャンするためのカスタマイズされたルールが含まれています。 Salesforce Code Analyzer は外部エンドポイントをスキャンしません。 Salesforce Code Analyzer は、CSV、HTML、JSON、JUnit という複数の出力形式に対応しています。 	はい	いいえ
Source Code Scanner (Checkmarx)	Apex、Visualforce、Lightning コード	<ul style="list-style-type: none"> この静的スキャンツールは Checkmarx のセキュリティ技術を使用しています。 Salesforce パッケージまたはコンポーネントを含むセキュリティレビューを申請するときは、必ず Checkmarx スキャンを実行する必要があります。このスキャンは、モバイルクライアントや API ソリューションには必要ありません。 Source Code Scanner は、セキュリティレビュー手数料を支払ったパッケージバージョンにつき 3 回まで実行できます。 パッケージ化されていないコードのスキャン、または 3 回までのスキャン制限やパッケージリンク要件を回避する柔軟性と自由が必要な場合 	はい	はい

セキュリティスキャナーツール	スキャン対象	考慮事項	申請時に結果を提出	Partner Security Portal でホスト
		<p>は、Checkmarx からライセンスを購入してください。</p>		
PMD Source Code Analyzer	Apex コード	<ul style="list-style-type: none"> • PMD スキャナーは無料のオープンソースツールであり、VS Code 拡張機能としても利用できます。 • このツールは、Apex コードを含むソリューションで Source Code Scanner の代わりに使用できます。 • セキュリティレビューに備えて、また Source Code Scanner の補足としてソリューションを準備するときは、PMD スキャンを回数の制限なく実行します。 • 通常、PMD では偽陽性が SourceCode Scanner ツールよりも多く報告されます。 	いいえ	いいえ
Chimera	自分が所有しているドメインの外部エンドポイント	<ul style="list-style-type: none"> • Chimera は、ソリューションの外部エンドポイントをチェックします。 • Chimera は、Salesforce IP アドレスからソリューションをスキャンします。 • このスキャナーはダウンロードは不要です。 • 外部サーバーのルートにトークンをアップロードする必要があるため、自分が所有していないドメインのエンドポイントでは Chimera を使用できません。 • ソリューションが自分が所有していない外部エンドポイントに接続する場合は、OWASP ZAP または Burp Suite を使用します。 	はい	はい
OWASP Zed Attack Proxy (ZAP)	外部エンドポイント	<ul style="list-style-type: none"> • ZAP スキャナーは、Web アプリケーションセキュリティテスト用の無料のコミュニティ主導プロキシです。 • Zap はダウンロードが必要です。 • 「Setting Up ZAP for Browser (ブラウザー用 ZAP の設定)」に、このツールを使用したセキュリティスキャンの開始についての指標があります。 	はい	いいえ

セキュリティスキャナーツール	スキャン対象	考慮事項	申請時に結果を提出	Partner Security Portal でホスト
Burp Suite	外部エンドポイント	<ul style="list-style-type: none"> Salesforce では、セキュリティレビューに使用する Burp Suite ライセンスを提供していません。ライセンスは各自で購入してください。 Burp Suite はダウンロードが必要です。 	はい	いいえ

関連トピック:

[ポータルのセキュリティスキャナー](#)

[偽陽性](#)

https://pmd.github.io/latest/pmd_rules_apex.html

<https://owasp.org/www-project-zap/>

<https://portswigger.net/burp>

<https://www.youtube.com/watch?v=1ZYjPjPTIn8>

Salesforce Code Analyzer を使用したソリューションのスクリーンショット

AppExchange パートナーとして管理パッケージをセキュリティレビューに提出する場合は、Salesforce Code Analyzer でパッケージをスキャンし、ソリューションの AppExchange セキュリティレビュー申請でテスト結果を提出する必要があります。このスキャンは、Partner Security Portal が提供するツールを使用して実行する必要があります。これらのスキャンに使用するツールは Source Code Scanner (Checkmarx スキャナーとも呼ばれます) と、Chimera スキャナーです。


- こちらの[手順](#)を参照して、Salesforce CLI をインストールします。
 - CLI の最新バージョンを実行していることを確認するには、`sf update` を実行します。
 - Java Development Kit (JDK) バージョン 8 以降を[インストール](#)します。
 - Salesforce Code Analyzer をインストールするために、`sf plugins install @salesforce/sfdx-scanner` を実行します。
- ソリューションのコードをローカルのコンピューターに保存します。コードのバージョンが、セキュリティレビューに提出するパッケージと一致していることを確認してください。
 - ターミナルまたは任意のコマンドラインインターフェースで、ソリューションのコードとメタデータの最上位ディレクトリに移動します。
 - 最初のスキャンを `sf scanner run` で実行し、`--category="Security"` を指定し、出力ファイル名に `CodeAnalyzerGeneral.csv` を指定します。

ユーザ権限

パートナーコミュニティ、パートナーコンソール、およびパートナーコミュニティにアクセスする

- 「リスティングの管理」

- 2 番目のスキャンを `sf scanner run dfa` で実行し、`--category="Security"` を指定して、出力ファイル名に `CodeAnalyzerDFA.csv` を指定します。コードベースの複雑さによっては、コードの 2 番目の Code Analyzer スキャンには数時間かかることがあります。
- セキュリティレビューに提出する前に、Code Analyzer が検出した問題をすべて修正してください。
- 結果ファイルを再度スキャンして保存します。
- 誤検出を記録 (ページ 51) します。
- セキュリティレビュー申請にはクリーンな `CodeAnalyzerGeneral.csv` と `CodeAnalyzerDFA.csv` ファイルをアップロードします。
- もし誤検出の記録があれば、そのファイルもアップロードしてください。

 **例:** 最初のスキャンを実行します。

```
sf scanner run --format=csv --outfile=CodeAnalyzerGeneral.csv --target="./"
--category="Security"
```

2 番目のスキャンを実行します。

```
sf scanner run dfa --format=csv --outfile=CodeAnalyzerDFA.csv --target="./"
--projectdir="./" --category="Security"
```

Code Analyzer CLI コマンドを正常に実行できない場合は、Salesforce Code Analyzer の [ドキュメント](#) を参照してください。それでも解決しない場合は、[Salesforce Code Analyzer GitHub リポジトリ](#) に問題を登録し、セキュリティレビュー申請用のスキャン結果を生成する際に発生したエラーに関する情報を入力してください。

偽陽性

AppExchange セキュリティレビュープロセスを進めると、偽陽性の問題がソリューションで発生する可能性があります。偽陽性が発生するのは、セキュリティスキャンツールまたはコードレビュー担当者が、一見セキュリティ脆弱性があるように見えるが実際にはないコード行にフラグを設定した場合です。つまり、実際にはフラグ設定された脆弱性が存在しない、悪用できない、または有効な使用事例や機能をサポートするために必要ないにもかかわらず、フラグ設定されている場合です。

最初のまたはフォローアップのセキュリティレビューに合格する可能性を高めるには、送信時に偽陽性に対処する必要があります。フラグが付けられた各偽陽性がセキュリティリスクとならないことを説明するドキュメントを含めます。

偽陽性への対応の文書化

ほとんどの場合、偽陽性は、Source Code Scanner (Checkmarx)、Chimera、ZAP、または Burp Suite のスキャナー結果に現れます。Salesforce セキュリティレビューの異常レポートに現れることもあります。いずれの場合も、コード送信時に偽陽性に関する説明文書を含めることにより、セキュリティレビューに合格する可能性を高めることができます。

Checkmarx スキャン結果の偽陽性への対応例

次の例は、Checkmarx スキャン結果の偽陽性への対応をドキュメント化する方法を示しています。この例は表形式ですが、情報の報告に適していれば、どのような形式でも使用できます。

セキュリティレビューの異常レポートの偽陽性への対応例

次の例は、Salesforce セキュリティレビューの異常レポートにリストされた偽陽性への対応をドキュメント化する方法を示しています。これは、再テストの送信をサポートするために記載されています。

偽陽性への対応の文書化

ほとんどの場合、偽陽性は、Source Code Scanner (Checkmarx)、Chimera、ZAP、または Burp Suite のスキャナー結果に現れます。Salesforce セキュリティレビューの異常レポートに現れることもあります。いずれの場合も、コード送信時に偽陽性に関する説明文書を含めることにより、セキュリティレビューに合格する可能性を高めることができます。

偽陽性ドキュメントテンプレートを使用して対応を定義してください。フラグ設定された問題ごとに、次の内容を含めます。

- 位置 – 報告された脆弱性のコードの位置を示します。
- 説明 – フラグ設定されたコードに脆弱性がない理由を説明します。

偽陽性の論理的根拠を示すほか、文書には、特別な使用事例、状況、または例外を明確にする説明を含めます。

セキュリティスキャンの結果のカテゴリのいくつかは、文書化やコードの変更が不要な偽陽性です。これらのカテゴリは、セキュリティレビューで承認されるほとんどのセキュリティスキャナーに存在します。他のスキャン結果は、既知のセキュリティ脆弱性を示すものであるため、注意が必要な重要度カテゴリに分類されます。正当と認められる偽陽性のドキュメントを送信できない場合は、セキュリティ標準を満たすように、フラグ設定されたコードを変更します。

スキャナー	セキュリティレビューで注意が必要なスキャン結果	注意が不要なスキャン結果
Source Code Scanner (Checkmarx)	重要度レベルに関係なく、[Code Quality (コード品質)] というラベルが付いた問題を除く、すべての問題	[Code Quality (コード品質)] というラベルが付いた問題
ZAP および Burp Suite	重要度が高として分類された問題	重要度が低および中の問題に対しては、アクションは不要です。ただし、セキュリティ脅威の有無について調査を行うことをお勧めします。
Chimera	重要度レベルに関係なく、[Informational/Other (通知/その他)] というラベルが付いた問題を除く、すべての問題	[Informational/Other (通知/その他)] というラベルが付いた問題

Checkmarx スキャン結果の偽陽性への対応例

次の例は、Checkmarx スキャン結果の偽陽性への対応をドキュメント化する方法を示しています。この例は表形式ですが、情報の報告に適していれば、どのような形式でも使用できます。

報告された脆弱性	場所	返答
FLS 更新	パス 1 ~ 17	これらのパスを検査したり、エラーを発生させたりするために、AuthManager クラスを実装してコールしました。これは、ControllerFile.cls の行 241、245、および 249 で確認できます。
FLS 更新	パス 18 ~ 24	修正済みで有効です。
FLS 更新	パス 25、26、および 30	カスタムオブジェクト UsageLog__c に反しており、ユーザーの使用は意図されていません。ユーザーに直接公開されることはありません。
FLS 更新	パス 27 ~ 29	ユーザー入力に関係なく、新規作成オブジェクトを適切に数えるために Account.NumberRelatedIssues__c 項目を更新する必要があります。
共有違反	BatchCleanData.cls	このクラスがコールする関数を最小限に抑え、without sharing が必要な最小セットのみコールされるようにしました。
共有違反	LightningController.cls	宣言を with sharing に変更しました。
共有違反	GlobalIssueReporting.cls	コール側クラスで必要なコンテキストが不明であるため、inherited sharing を使用するように変更しました。
保存された XSS	Issue.page ファイル: パス 1 ~ 3	reportIssueList は、objectID + ' ' + 整数のリストです。XSS リスクはありません。
保存された XSS	Issue.page ファイル: パス 4	escape="false" を削除して修正しました。
保存された XSS	Issue.page	Salesforce SecureFilters ライブラリを使用して、JavaScript で usageLog をサニタイズしました。

セキュリティレビューの異常レポートの偽陽性への対応例

次の例は、Salesforce セキュリティレビューの異常レポートにリストされた偽陽性への対応をドキュメント化する方法を示しています。これは、再テストの送信をサポートするために記載されています。

報告された脆弱性	場所	返答
ソフトウェアバージョンが安全でない	jQueries	更新されました。
ソフトウェアバージョンが安全でない	moment.js	moment 解析に入力されるユーザー入力がありません。ユーザー入力は、Salesforce データ項目にのみ入力されます。
機密データストレージが安全でない	UserConfig_c.object	apiKey__c 項目は、暗号化鍵を使用して、設定前に暗号化されます。暗号化鍵は、保護されたカスタム設定に保存されています。
機密データストレージが安全でない	IssueInvite_c.object	password__c 項目は、リソースをインターネットと公に共有するためにサポートエージェントが選択したパスワードです。ユーザーが所有する秘密ではありません。
機密データストレージが安全でない	APIManagement_c.object	このカスタム設定は非推奨にしましたが、カスタム設定の定義を管理パッケージから削除することはできません。
機密データストレージが安全でない	AuthManager.cls	コメント内のログイン情報は、例にすぎません。どの開発システムや本番システムに対しても認証されません。
保存された XSS	https://content.saslesforce.partner.com	2020 年 2 月 1 日の勤務時間中に、Salesforce の Jane Doe と話しました。この URL は機密でないコンテンツドメインにリンクされています。この URL には、バックエンド情報にアクセスするためのセッションデータはありません。この結果が偽陽性になる場合があることを言われました。

セキュリティレビューリソース

次のリソースは、AppExchange セキュリティレビューに向けて準備する上で役立ちます。

- [AppExchange セキュリティレビュー](#)
- [AppExchange パートナーおよびソリューションのセキュリティ要件](#)

- [セキュリティレビュー要件チェックリスト](#)
- [セキュアなコーディングの違反の防止](#)
- [安全なクラウド開発リソース](#)
- [オープン Web アプリケーションセキュリティプロジェクト \(OWASP\)](#)
- [OWASP Top 10 に関する記事](#)
- [OWASP テスティングガイド](#)
- [OWASP 安全なコーディングのガイド](#)
- [OWASP 安全コーディングプラクティスクイックリファレンス](#)
- [The Top 20 Vulnerabilities Found in the AppExchange Security Review \(AppExchange セキュリティレビューで検出される上位 20 の脆弱性\)](#)

AppExchange でのソリューションの公開

AppExchange パートナーコンソールを使用して、ソリューションリストの作成、セキュリティレビューの開始、ライセンス設定の管理、および Marketplace Analytics でのリストの確認を行うことができます。

AppExchange とは?

AppExchange は、Salesforce を拡張する何千ものソリューションやサービスを提供している Salesforce のマーケットプレイスです。ISV パートナーやコンサルタントの場合、AppExchange は、顧客が自社のソリューションやサービスを発見するのに役立ちます。Salesforce のシステム管理者やユーザーの場合、AppExchange は、自社の生産性を最大限に引き出すツールや人材を発見するのに役立ちます。

AppExchange での公開

自社のソリューションやコンサルティングサービスのリストを AppExchange に公開する方法について説明します。

AppExchange 検索のしくみ

検索は、Salesforce の顧客が AppExchange でソリューションを見つけるための最も一般的な方法の 1 つです。ここでは、キーワードの関連性、エンゲージメント、リストエクスペリエンス、および機械学習が、顧客に表示される検索結果にどのような影響を与えるのかを学びます。また、ヒントを利用して、顧客がビジネス問題のソリューションを検索したときに自分のリストを発見してもらえるようにします。

メール通知

AppExchange リードの収集

リードを収集し、Salesforce 組織に配信するように AppExchange リストを設定できます。顧客の特定の操作(リストのデモ動画の視聴など)によってリード収集をトリガーできます。

AppExchange リスティングでのソリューションの更新

公開したソリューションを修正した場合は、AppExchange リスティングを更新して、新しい顧客が最新バージョンにアクセスできるようにします。ソリューションがセキュリティレビューの対象となる場合、バージョンのセキュリティレビューを申請する前に新しいバージョンを公開リスティングにリンクできますが、新しいバージョンが合格するまで、更新されたリスティングは公開できません。

FAQ - AppExchange

AppExchange とは?

AppExchange は、Salesforce を拡張する何千ものソリューションやサービスを提供している Salesforce のマーケットプレイスです。ISV パートナーやコンサルタントの場合、AppExchange は、顧客が自社のソリューションやサービスを発見するのに役立ちます。Salesforce のシステム管理者やユーザーの場合、AppExchange は、自社の生産性を最大限に引き出すツールや人材を発見するのに役立ちます。

AppExchange はどのように機能しますか?

AppExchange リストは、ソリューションの販売を促進するための主要なマーケティングツールです。リストには、ソリューション、価格設定、サポート、その他の詳細を記載できるため、製品が自分たちの求めるものかどうかを潜在顧客が判断できます。また、提供内容を顧客が理解しやすいように、動画やホワイトペーパーなどのコンテンツをアップロードすることも可能です。提供された情報に基づいて、AppExchange キュレーターがリストを、セールス、マーケティング、分析など 1 つ以上のビジネス領域に分類します。

AppExchange は誰が使用できますか?

誰でもリストを参照し、ソリューションの機能制限トライアルを使用することができます。ソリューションを組織にインストールするには、「パッケージのダウンロード」権限が必要です。パッケージを作成してパートナーコンソールにアップロードするには、「パッケージの作成」権限と「パッケージのアップロード」権限が必要です。リストを作成して公開するには、「リストの管理」権限が必要です。

AppExchange での公開

自社のソリューションやコンサルティングサービスのリストを AppExchange に公開する方法について説明します。

AppExchange パートナーコンソールの起動

パートナーコンソールは、AppExchange リスティングがある ISV パートナーおよびコンサルタント用の包括的なビジネス管理サイトです。パートナーはこのサイトで、リスティングの作成、セキュリティレビューの管理、ソリューションのパフォーマンス総計値の監視を行います。

パートナーコンソールへの Dev Hub またはパッケージ組織の接続

AppExchange ソリューションリストにパッケージを追加するには、最初にそのパッケージに関連付けられている Dev Hub またはパッケージ組織をパートナーコンソールに接続します。

プロバイダープロファイルの作成または編集

洗練された正確なプロバイダープロファイルは、アプリケーション、コンポーネント、コンサルティングサービスで顧客の信頼を確立する要となります。プロファイルでは、ミッションステートメントを共有したり、組織の所在地や従業員数などの情報を提供したりできます。リストを参照する顧客には、この情報が [Provider Details (プロバイダーの詳細)] タブに表示されます。

AppExchange リストを作成または編集する

ソリューションやコンサルティングサービスは、AppExchange に登録して販売します。パートナーコンソールを使用して、顧客に目立つようにリストを作成または編集します。パートナーコンソールにアクセスするには、Salesforce Partner Community で [Publishing (公開)] タブに移動します。

AppExchange ソリューションのビジネスニーズの選択

ソリューションの AppExchange リスティングを作成するときに、ビジネスニーズと呼ばれるカテゴリを最大 3 つ選択します。ビジネスニーズは、ソリューションが担う機能や解決する課題を説明します。AppExchange ソリューションを顧客に見つけてもらうためにビジネスニーズがどのように役立つかを説明します。続いて、ビジネスニーズの選択に関するガイダンスを確認します。

AppExchange リスティングでの多様性に富むメンバーが所有するビジネスの詳細の表示

会社の少なくとも 51% が、女性、退役軍人、マイノリティ、障害者、および LGBTQ コミュニティの 1 つ以上のグループのメンバーによって所有または運営されている場合は、[多様性に富むメンバーが所有するビジネス] バッジをリスティングに追加して顧客に示すことができます。このバッジをリスティングに追加するときに、National Minority Supplier Development Council (米国家マイノリティサプライヤー開発会議) (NSMDC) 認定などの証明書へのリンクも入力します。

AppExchange リスティングでのアクセシビリティの詳細の表示

アクセシビリティを考慮して AppExchange ソリューションを構築した場合は、[アクセシビリティに対応しているソリューション] バッジをリスティングに追加して顧客に示すことができます。このバッジをリスティングに追加するときに、ソリューションのアクセシビリティ適合性レポートへのリンクも入力します。たとえば、Web Content Accessibility Guidelines (Web コンテンツアクセシビリティガイドライン) (WCAG) 2.1 レポートのコピーにリンクできます。

AppExchange リスティングでの Pledge 1% の詳細の表示

Pledge 1% 運動のメンバー企業は、[Pledge 1% (1% の支援約束)] バッジをリスティングに追加して顧客に示すことができます。Pledge 1% のメンバーは、商品、利益、資産、または時間の 1% を非営利団体や運動に提供することを約束しています。

効果的な AppExchange リストにする

優れたアプリケーション、コンポーネントおよびコンサルティングサービスには、それに見合ったリストが必要です。弊社は、顧客や Salesforce のマーケティング専門家からフィードバックを収集しており、リストを目立たせるための一連のヒントを提供できます。

AppExchange リスティングの承認

AppExchange リスティングを公開する前に、Salesforce はリスティングがパートナーブランドガイドラインとパートナープログラムポリシーに準拠していることを確認する必要があります。

インストール方法の選択

AppExchange ソリューションのインストールが容易なほど、見込み客が購入する可能性が高くなります。パートナーコンソールでリスティングを作成するときに、インストール方法を選択するように求められます。顧客の操作が最良になる方法を選択してください。

パッケージを登録しライセンス設定を選択する

パッケージを登録してライセンス管理アプリケーション (LMA) を設定すると、顧客がアプリケーションまたはコンポーネントをインストールするたびにライセンスレコードが届きます。ライセンスによって、どのユーザーがどの程度長くアプリケーションまたはコンポーネントを使用しているかを追跡できます。

セキュリティレビューサイクルの完了

AppExchange 上で管理パッケージ、Salesforce Platform API ソリューション、または Marketing Cloud API ソリューションを配布するには、セキュリティレビューに合格する必要があります。レビューの管理には、Salesforce パートナーコンソールのセキュリティレビューウィザードを使用します。初回レビューのためにソリューションを申請します。また、以前のレビューで検出されたセキュリティ上の問題を修正したソリューションを再申請します。セキュリティレビュー料金を支払います。

AppExchange パートナーコンソールの起動

パートナーコンソールは、AppExchange リスティングがある ISV パートナーおよびコンサルタント用の包括的なビジネス管理サイトです。パートナーはこのサイトで、リスティングの作成、セキュリティレビューの管理、ソリューションのパフォーマンス総計値の監視を行います。

パートナーコンソールにアクセスするには、Salesforce パートナーコミュニティのログイン情報が必要です。詳細は、『[パートナーコミュニティ登録ガイド](#)』を参照してください。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [公開] をクリックします。

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

- 「リスティングの管理」

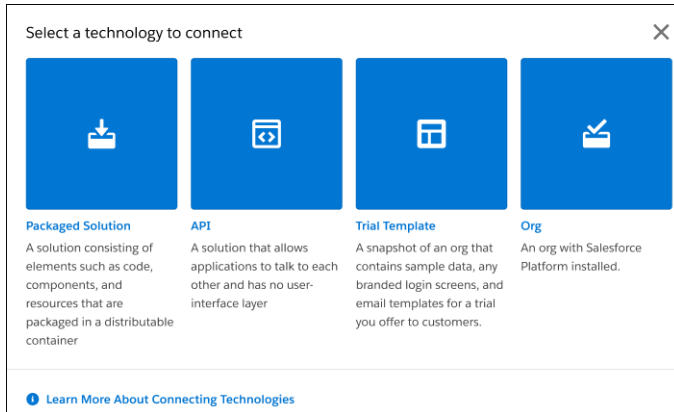
パートナーコンソールへの Dev Hub またはパッケージ組織の接続

AppExchange ソリューションリストにパッケージを追加するには、最初にそのパッケージに関連付けられている Dev Hub またはパッケージ組織をパートナーコンソールに接続します。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [Publishing (公開)] をクリックします。
3. [Technologies (テクノロジー)] タブをクリックします。
4. [Orgs (組織)] タブをクリックします。
5. [Connect Technology (テクノロジーを接続)] をクリックしてから [Orgs (組織)] をクリックします。
6. [Connect (接続)] をクリックします。
7. リストするパッケージが含まれた組織のログイン情報を入力します。

接続された組織のパッケージが、パートナーコンソールの [Solutions (ソリューション)] タブに表示されます。[Solutions (ソリューション)] タブでは、ソリューションのセキュリティレビューを申請できます。

組織がパートナーコンソールに接続されたら、パッケージ化されたソリューション、API ソリューション、またはトライアルテンプレートをリストに関連付けることができます。



- パッケージ化されたソリューションを既存のリストに関連付けるには、**[Packaged Solution (パッケージ化されたソリューション)]** をクリックしてから、プロンプトに従って、パッケージ化されたソリューションを組織に接続します。そしてパートナーコンソールでリストを編集して、**[Link Your Solution (ソリューションをリンク)]** セクションでソリューションをリストに追加します。
- API ソリューションを既存のリストに関連付けるには、**[API]** をクリックしてから、プロンプトに従って、パッケージ化されたソリューションを組織に接続します。そしてパートナーコンソールでリストを編集して、**[Link Your Solution (ソリューションをリンク)]** セクションで API をリストに追加します。
- ソリューションの無料トライアルを提供するには、**[Trial Template (トライアルテンプレート)]** をクリックし、プロンプトに従って無料トライアルオファーを設定します。そしてパートナーコンソールでリストを編集して、**[Grow Your Business (ビジネスを成長させる)]** セクションでトライアルテンプレートを選択します。

詳細は、「[AppExchange リストを作成または編集する](#)」を参照してください。

プロバイダープロフィールの作成または編集

洗練された正確なプロバイダープロフィールは、アプリケーション、コンポーネント、コンサルティングサービスで顧客の信頼を確立する要となります。プロフィールでは、ミッションステートメントを共有したり、組織の所在地や従業員数などの情報を提供したりできます。リストを参照する顧客には、この情報が **[Provider Details (プロバイダーの詳細)]** タブに表示されます。

プロフィールを作成または編集する手順は、次のとおりです。

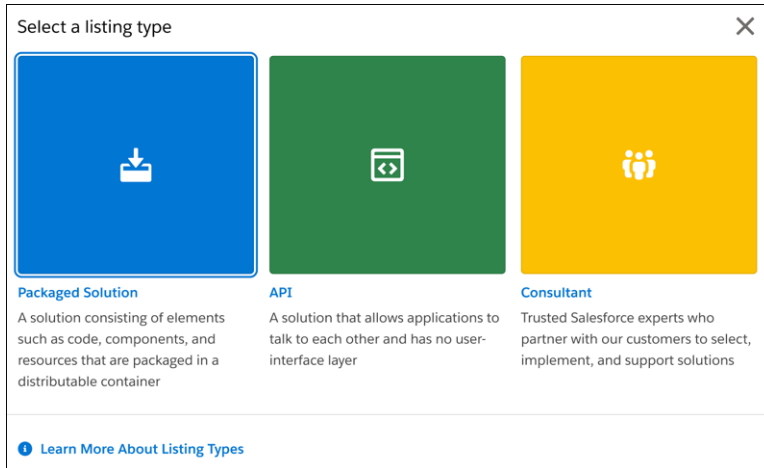
1. [Salesforce パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. **[Publishing (公開)]** タブをクリックしてパートナーコンソールを起動します。
3. パートナーコンソールで **[Home (ホーム)]** > **[Overview (概要)]** > **[Company Info (組織情報)]** をクリックします。
4. 組織のプロフィールを更新します。
5. 変更内容を保存します。

AppExchange リストを作成または編集する

ソリューションやコンサルティングサービスは、AppExchange に登録して販売します。パートナーコンソールを使用して、顧客に目立つようにリストを作成または編集します。パートナーコンソールにアクセスするには、Salesforce Partner Community で **[Publishing (公開)]** タブに移動します。

AppExchange リストを作成する

リストを作成するには、まず Listing Bootstrapper を起動して、リスト種別を選択します。Bootstrapper を起動するには、パートナーコンソールの [Listings (リスト)] タブに移動して、[New Listing (新規リスト)] をクリックします。



AppExchange には、パッケージ化されたソリューション、API、コンサルタントの 3 種類のリストを追加できません。

リスト種別	説明
パッケージ化されたソリューション	<p>配布可能なコンテナでパッケージ化されたコード、コンポーネント、リソースなどの要素で構成されるソリューション。</p> <p>次のパッケージ種別のリストを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Salesforce Platform: Salesforce 組織間でメタデータを移動するのに使用する、パッケージ化された機能、カスタマイズ、スキーマのセット。Platform パッケージリストでは、アプリケーション、Bolt、フロー、またはコンポーネントのどれをリストするのも指定します。 <ul style="list-style-type: none"> - Salesforce アプリケーション: Salesforce と連携して機能し、標準ではサポートされない、すぐにインストールできる要素のコレクション。 - Bolt ソリューション: Sales Cloud などの Salesforce 製品と連携して動作し、ビジネスロジックとオートメーションが組み込まれていて、カスタマイズ可能なユーザーインターフェースを備えた完全な業種ソリューション。Lightning Bolt には、Customer 360 製品にシームレスに統合される業種プロセスフロー、アプリケーション、

リスト種別	説明
	<p>Lightning コンポーネントが含まれる場合もあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - フローソリューション: ユーザーの代わりにタスクを自動的に完了してくれる、事前構築された標準の機能要素、または業界に特化したエンドツーエンドの設定可能なビジネスプロセス。フローソリューションにより、顧客はコードを開発せずにプロセスオートメーションを実現できます。 - Lightning コンポーネント: アプリケーションや Web ページをより便利にしてくれるモジュール型の機能ピース。 <ul style="list-style-type: none"> • B2C Commerce カートリッジ: Salesforce B2C Commerce Cloud の機能を拡張するソリューション。カートリッジでは、ソリューションのコードとデータがリリース可能なコンテナに格納されています。 • Tableau アクセラレーター: カスタマイズ可能で、データと結合された、すぐに使用できるダッシュボード。ユーザーは、アクセラレーターによって、データに基づいたインサイトをすばやく得ることができます。
API	<p>アプリケーションどうしが通信するためのアプリケーションプログラミングインターフェース (API) で、ユーザーインターフェースレイヤーは持ちません。</p> <p>次の API 種別のリストを作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Salesforce Platform API: REST API、SOAP API、または他のプラットフォーム API を使用して Salesforce Platform を操作するソリューション。 • B2C Commerce ヘッドレスインテグレーション: API 優先インテグレーションパターンで構築された B2C Commerce ソリューション。このインテグレーションパターンはフロントエンドとバックエンドを分離して、ストアフロントとユーザーインターフェースレイヤーを使用して優れたユーザーエクスペリエンスを創出できる柔軟性を提供します。このソリューションタイプは、Commerce API と共に、Progressive Web App (PWA) Kit と Managed Runtime (MRT) で構成されるコンポーザブルストアフロントを使用します。

リスト種別	説明
	<ul style="list-style-type: none"> Marketing Cloud API: Marketing Cloud REST API および SOAP API または他の API を使用して、内部データベースまたはアプリケーションのアセットを共有したり、Web サービス情報を Salesforce Marketing Cloud に渡したりするソリューション。
コンサルタント	<p>コンサルタントは、顧客と連携してソリューションを選択、実装、サポートする、信頼できる Salesforce のエキスパートです。コンサルタントリストを提供することで、コンサルティングサービスの恩恵を受ける潜在的なクライアントをターゲットにすることができます。</p>

リスト種別を選択すると、言語を選択するように要求されます。リストを AppExchange で公開する場合は [English (英語)] を選択します。リストを AppExchange Japan で公開する場合は [Japanese (日本語)] を選択します。言語をすると、Listing Bootstrapper が終了して、AppExchange リストビルダーが起動します。リストビルダーは、パートナーが AppExchange リストを作成および編集するためのツールです。

AppExchange リストを編集する

リストを編集するには、パートナーコンソールの [Listings (リスト)] タブに移動します。編集するリストを見つけて開きます。リストビルダーが起動します。

AppExchange リストビルダーのセクション

リストビルダーは、パートナーが AppExchange リストを作成および編集するためのツールです。リストの作成または編集時に操作するセクションを下表に示します。

セクション	操作内容	タブを使用できるリストの種類:
Fill In the Basics (基本情報を入力)	<p>ソリューションのタイトルと、ソリューションを使用することで顧客にどのようなメリットがあるかを簡単に伝える説明文を入力します。</p> <p>ソリューションで必須の Salesforce 製品と、ソリューションの機能を強化する追加の製品を選択します。</p>	すべてのリスト
Set Pricing (価格設定)	<p>価格設定モデル、支払管理、集金戦略を設定します。価格設定と支払戦略を設定したら、[Get Approved (承認)] をクリックして、リストの承認を申請します。</p>	すべてのリスト

セクション	操作内容	タブを使用できるリストの種類:
Add Details (詳細を追加)	ソリューションの詳細な説明と、AppExchange の検索と絞り込み機能でソリューションを見つけやすくするための追加情報を入力します。ソリューションに適用される契約条件も入力できます。 ソリューションや会社のロゴがあれば、[Include Visuals(ビジュアルを含める)]セクションで追加できます。	すべてのリスト
Link Your Solution (ソリューションをリンク)	このリストにリンクさせるソリューションを選択します。インストール方法も選択できます。	すべてのソリューションリスト
Grow Your Business (ビジネスを成長させる)	リードを収集し、Salesforce 組織に配信するように AppExchange リストを設定します。顧客の特定のインタラクション(リストのデモ動画の視聴やトライアルのダウンロードなど)によってリード収集をトリガーできます。詳細は、「 AppExchange リード 」を参照してください。	すべてのリスト
Listing Status (リスト状況)	公開プロセスの各ステップの状況を表示します。必須情報が入力されていない場合やエラーが検出された場合は、未完了タスクの横に警告アイコンが表示されます。各タスクが完了したら、リストを AppExchange で公開できます。 AppExchange で公開済みのリストを削除することもできます。	すべてのリスト

AppExchange ソリューションのビジネスニーズの選択

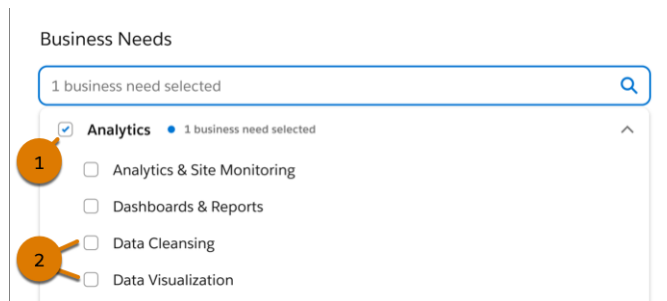
ソリューションの AppExchange リスティングを作成するときに、ビジネスニーズと呼ばれるカテゴリを最大 3 つ選択します。ビジネスニーズは、ソリューションが担う機能や解決する課題を説明します。AppExchange ソリューションを顧客に見つけてもらうためにビジネスニーズがどのように役立つかを説明します。続いて、ビジネスニーズの選択に関するガイダンスを確認します。

ビジネスニーズのカテゴリとサブカテゴリ

ビジネスニーズのカテゴリとサブカテゴリに分類されます。カテゴリは、一般的なビジネスプロセスやタスクに対応します。たとえば、セールス、サービス、マーケティングなどがあります。各カテゴリには 1 つ以上のサブカテゴリが含まれています。サブカテゴリは、そのカテゴリに関連する特定のビジネスプロセスやタスクに対応します。たとえば、セールスカテゴリであれば、売上予測や契約管理といったサブカテゴリがありません。

Salesforce パートナーコンソールでは、AppExchange リスティングごとに最大3つのビジネスニーズを選択できます。カテゴリ、サブカテゴリ、またはこの2つの組み合わせを選択できます。カテゴリとサブカテゴリの選択は独立しています。カテゴリを選択しても、関連サブカテゴリはリスティングに追加されません。同様に、サブカテゴリを選択しても、関連カテゴリはリスティングに追加されません。

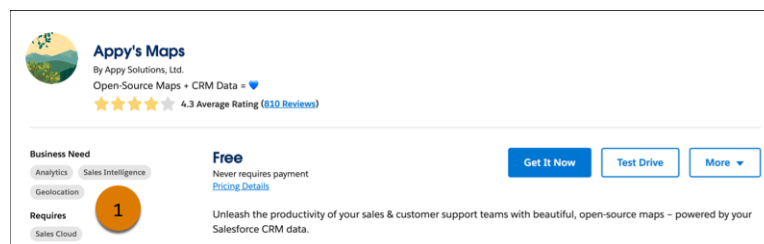
例: Appy's Maps は、顧客が Salesforce CRM データをオープンソースの地図に表示するために使用できるデータ視覚化ツールです。Appy's Maps のマーケティングスペシャリストである Sarah は、3つのビジネスニーズを選択します。2つのビジネスニーズは、[セールスインテリジェンス] と [地理位置情報] というサブカテゴリです。もう1つのビジネスニーズは、[分析] というカテゴリです (1)。カテゴリとサブカテゴリの選択は独立しているため、[分析] に関連するサブカテゴリは選択されないままです (2)。



AppExchange リスティングとビジネスニーズ

ビジネスニーズは、AppExchange リスティングの概要エリアにバッジとして表示されます。このバッジを見て、顧客はソリューションが課題の解決に役立ちそうかどうかを理解できます。これは、AppExchange の外部のソース (広告やサードパーティ検索など) からリスティングにアクセスした顧客にとって特に便利です。

例: Luis は、クライアントの Sales Cloud の実装を設計する Salesforce コンサルタントです。地理位置情報アプリケーションを実装に含める予定です。Google 検索を実行したら、上位の結果に Appy's Maps の AppExchange リスティングが表示されました。リスティングにアクセスすると、ビジネスニーズとして [地理位置情報] (1) が表示されています。また、ソリューションの概要動画にも感心しました。そこで、Appy's Maps に問い合わせ、ライブデモを手配します。

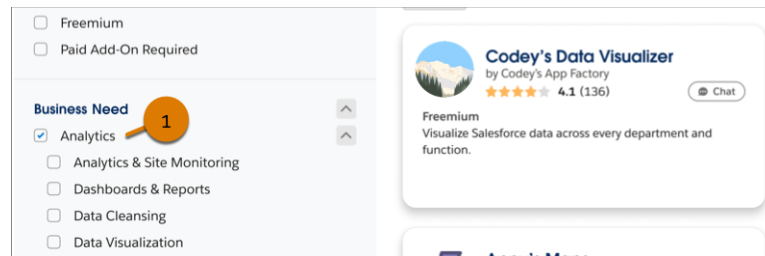


AppExchange 検索とビジネスニーズ

ビジネスニーズは、AppExchange 検索結果の検索条件としても使用できます。この検索条件は、顧客が解決しようとしている課題に関連するソリューションに絞り込むのに役立ちます。

顧客がビジネスニーズの検索条件を適用すると、検索結果に対する影響は、検索条件がカテゴリなのかサブカテゴリなのかによって異なります。顧客がサブカテゴリの検索条件を適用する場合、そのサブカテゴリでタグ付けされたソリューションのみが表示されます。顧客がカテゴリの検索条件を適用する場合、そのカテゴリとすべての関連サブカテゴリを含むソリューションが表示されます。

例: Luis は、Appy's Maps を競合するソリューションと比較します。AppExchange でキーワード検索を実行し、検索条件を適用して結果を絞り込みます。Sales Cloud の実装を設計しているため、Sales Cloud という検索条件を適用します。次に、[地理位置情報] というビジネスニーズの検索条件を適用します。[地理位置情報] はサブカテゴリであるため、結果には[地理位置情報]でタグ付けされたソリューションのみが表示されません。Luisはこの検索条件の組み合わせを使用して、Appy's Mapsの他に2つのソリューションを特定します。範囲を広げるために、[地理位置情報] 検索条件を削除し、[分析] 検索条件を適用します (1)。[分析] はカテゴリであるため、[分析]の他に、[ダッシュボード & レポート] や [データの視覚化] などの関連サブカテゴリでタグ付けされたソリューションも表示されます。この結果から、Luisは比較するソリューションをさらに2つ特定します。



ビジネスニーズの選択に関するヒント

リスティングの選択ニーズを検討するときには、次のヒントに従います。

ヒント	詳細
見込み客や顧客と話す。	対象市場のビジネスニーズを理解するために、見込み客や顧客に話を聞きます。そのときに次について質問します。 <ul style="list-style-type: none"> 重要なビジネス目標または課題 ソリューションをどのようにして見つけたか リスティングに関連付けられたビジネスニーズが正確であると感じたかどうか
試してみて結果を監視する。	リスティングのビジネスニーズはいつでも更新できます。カテゴリとサブカテゴリのさまざまな組み合わせを試してみてください。いつ変更を適用したかをメモしておき、AppExchange Marketplace Analytics を使用して影響を監視します。
適合するサブカテゴリが見つからない場合は、最も近い関連カテゴリを選択します。	パートナーコンソールのカテゴリとサブカテゴリには、一般的なビジネスニーズが多数含まれていますが、すべてを網羅しているわけではありません。ソリューションが、パートナーコンソールにないビジネスニーズに対応している場合は、最も近い関連カテゴリを選択してください。

ヒント	詳細
	たとえば、ソリューションがセールスサイクルの特定のプロセスをサポートする場合は、[セールス] を選択します。

AppExchange リスティングでの多様性に富むメンバーが所有するビジネスの詳細の表示

会社の少なくとも 51% が、女性、退役軍人、マイノリティ、障害者、および LGTBQ コミュニティの 1 つ以上のグループのメンバーによって所有または運営されている場合は、[多様性に富むメンバーが所有するビジネス] バッジをリスティングに追加して顧客に示すことができます。このバッジをリスティングに追加するときに、National Minority Supplier Development Council (米国家マイノリティサプライヤー開発会議) (NSMDC) 認定などの証明書へのリンクも入力します。

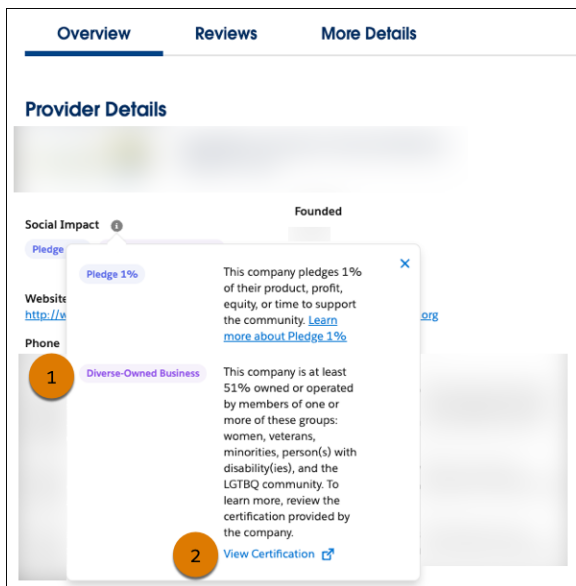
ユーザ権限

AppExchange リスティングを作成または更新する

- 「リスティングの管理」

1. Salesforce パートナーコミュニティにログインします。
2. [公開] をクリックします。
3. [リスティング] をクリックします。
4. 既存のリスティングを選択するか、リスティングを作成します。
5. [基本情報を入力] をクリックします。
6. [平等] で、[多様性に富むメンバーが所有するビジネス] オプションを選択し、証明書の URL を入力します。
7. [保存 & 終了] をクリックします。

リスティングを公開したら、[ソーシャルインパクト] セクションの [概要] タブに [多様性に富むメンバーが所有するビジネス] バッジ (1) が表示されます。顧客が [証明書を表示] (2) をクリックすると、新しいブラウザータブで証明書が開きます。

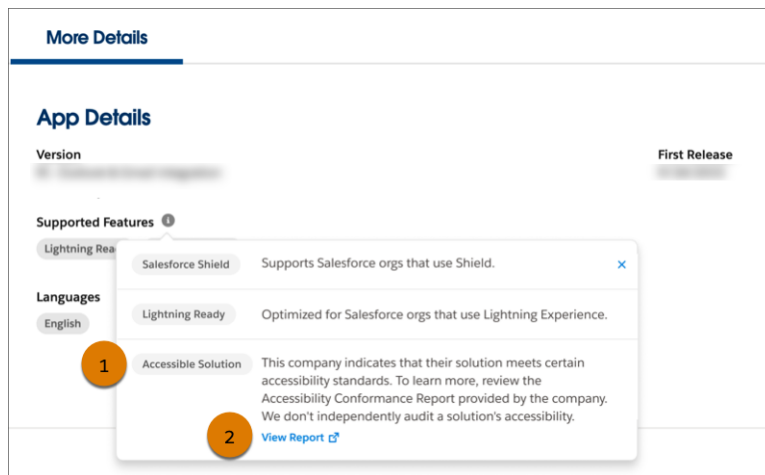


AppExchange リスティングでのアクセシビリティの詳細の表示

アクセシビリティを考慮して AppExchange ソリューションを構築した場合は、[アクセシビリティに対応しているソリューション] バッジをリスティングに追加して顧客に示すことができます。このバッジをリスティングに追加するときに、ソリューションのアクセシビリティ適合性レポートへのリンクも入力します。たとえば、Web Content Accessibility Guidelines (Web コンテンツアクセシビリティガイドライン) (WCAG) 2.1 レポートのコピーにリンクできます。

1. Salesforce パートナーコミュニティにログインします。
2. [公開] をクリックします。
3. [リスティング] をクリックします。
4. 既存のリスティングを選択するか、リスティングを作成します。
5. [基本情報を入力] をクリックします。
6. [平等] で、[アクセシビリティに対応しているソリューション] オプションを選択し、アクセシビリティ適合性レポートの URL を入力します。
7. [保存 & 終了] をクリックします。

リスティングを公開したら、[サポートされる機能] セクションの [詳細] タブに [アクセシビリティに対応しているソリューション] バッジ (1) が表示されます。顧客が [レポートを表示] (2) をクリックすると、新しいブラウザタブでアクセシビリティ適合性レポートが開きます。



AppExchange リスティングでの Pledge 1% の詳細の表示

Pledge 1% 運動のメンバー企業は、[Pledge 1% (1%の支援約束)] バッジをリスティングに追加して顧客に示すことができます。Pledge 1% のメンバーは、商品、利益、資産、または時間の 1% を非営利団体や運動に提供することを約束しています。

Pledge 1% は、あらゆる規模や段階の企業による社会貢献を奨励し、可能にするグローバルな運動です。この運動の詳細や参加方法については、[Pledge 1% Web サイト](#)を参照してください。

1. Salesforce パートナーコミュニティにログインします。

ユーザ権限

AppExchange リスティングを作成または更新する

- 「リスティングの管理」

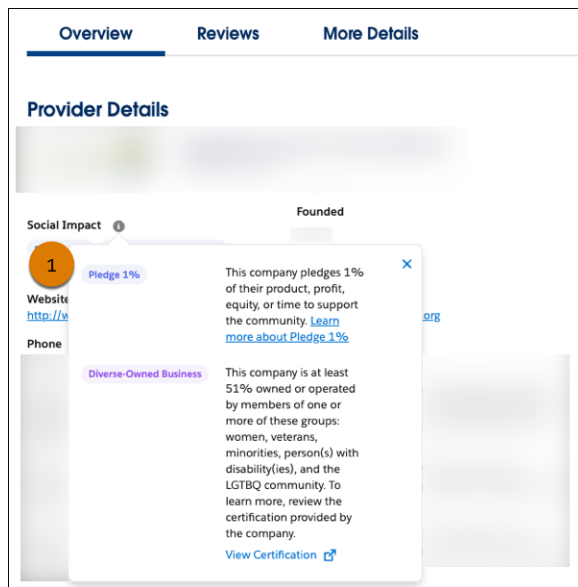
ユーザ権限

AppExchange リスティングを作成または更新する

- 「リスティングの管理」

2. [公開] をクリックします。
3. [リスティング] をクリックします。
4. 既存のリスティングを選択するか、リスティングを作成します。
5. [基本情報を入力] をクリックします。
6. [慈善活動] で、[Pledge 1% (1% の支援約束) の参加者] を選択します。
7. [保存 & 終了] をクリックします。

リスティングを公開したら、[ソーシャルインパクト] セクションの [概要] タブに [Pledge 1% (1% の支援約束)] バッジ (1) が表示されます。



効果的な AppExchange リストにする

優れたアプリケーション、コンポーネントおよびコンサルティングサービスには、それに見合ったリストが必要です。弊社は、顧客やSalesforceのマーケティング専門家からフィードバックを収集しており、リストを目立たせるための一連のヒントを提供できます。

説明とビジュアル

効果的なリストは、顧客本位の簡潔な説明と説得力のあるビジュアルを兼ね備えています。リストを作成する場合、次のヒントに留意してください。

- 使用事例を強調する — 顧客がリストに目を通すときには、どのような問題を解決できるのか、対象利用者に該当するのか、および他の製品と何が違うのかを知りたいと思っています。ソリューションを説明する場合、顧客の関心がある用語を使用してください。たとえば、コンポーネントを使用すればサポート担当者がケースを 10% 高速に解決できる場合、そのように説明します。
- スクリーンショット、動画、およびデモを追加する — 顧客はビジュアルのあるリストに興味を示す傾向にあります。大部分の顧客は、購入前に最低でもその動作を確認したいと考えます。

- リストを読みやすくする — お客様と同じように、AppExchange 顧客は多忙であることがほとんどです。リストを読みやすくして顧客が重要なポイントをスムーズに理解できるようにします。文章は常に短くし、箇条書きなどの書式設定を使用して重要なポイントに注目を集めるようにします。スクリーンショットや動画を追加する場合、ズームやアノテーションを使用して機能をアピールします。

無駄のないシンプルな設計

効果的なリストは、無駄のないシンプルな設計になっている傾向があります。設計を決定する場合、次のヒントに留意してください。

- 設計リファレンスを特定する — ロゴ、バナー、またはその他のグラフィックを作成する前に、目的の設計を特定し、どのような点が優れているのかについて考えておきます。たとえば、視覚的に美しいフォントが使用されているかどうかを考えます。設計の間、次のようなことに留意してください。
- 公開前にプレビューする — AppExchange では、公開前にリストをプレビューできるため、製品が顧客にどのように表示されるのかを正確に把握できます。顧客の立場になって、「このリストを見たとき、このアプリケーションまたはコンポーネントを快く購入するだろうか?」と自問してみてください。

その他のヒントについては、[パートナーコミュニティ](#)の [Education (教育)] セクションにある『*Partner Logo and Branding Usage Guidelines*』を参照してください。

AppExchange リスティングの承認

AppExchange リスティングを公開する前に、Salesforce はリスティングがパートナーブランドガイドラインとパートナープログラムポリシーに準拠していることを確認する必要があります。

パートナーコンソールでソリューションの [基本情報を入力] ステップと [ソリューションの価格を設定] ステップを完了した後に、リスティングの承認を申請できます。

Get Approved

Before you can publish your listing, we must check that it complies with our [partner brand guidelines](#) and partner program policies. Everything we need to check is on the [Fill in the Basics and Price Your Solution](#) steps. As soon as you complete those steps, submit your listing for approval. Come back here to check the status.

While we're working, you can continue to create your listing.

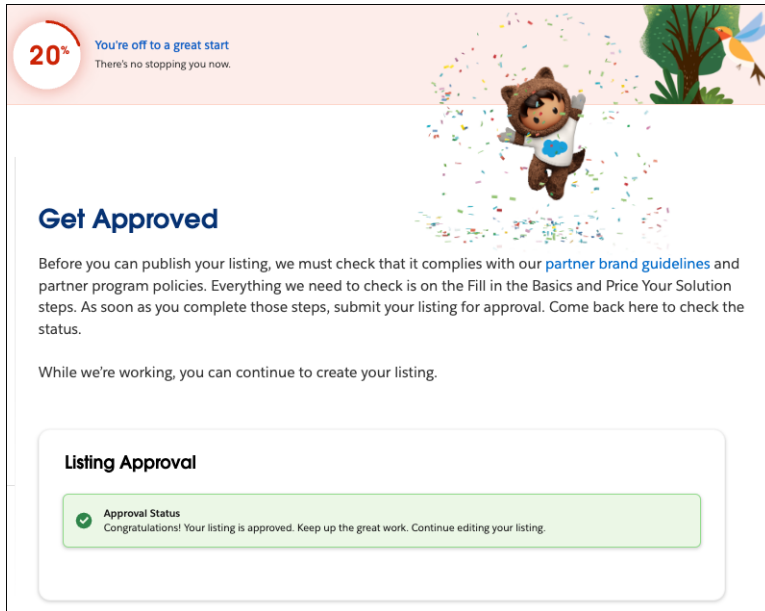
Listing Approval

Approval Status
Your listing is ready to submit for approval.

Submit

Back Next

Salesforce が申請情報をレビューします。リスティングが承認されたら、申請状況が自動的に更新されます。



必須のパートナーアプリケーションディストリビューション契約の署名

リスティングが承認されたら、パートナーアプリケーションディストリビューション契約(PADA)に署名する必要があります。

- リスティングで AppExchange Checkout を使用する場合は、クリックスルー PADA に署名する必要があります。「[パートナーアプリケーションディストリビューション契約の署名](#)」(ページ 73)を参照してください。
- リスティングが Checkout を使用しない [有料] ソリューションである場合や、[フリーミアム] または [有料アドオンが必須] ソリューションをリスティングする場合は、パートナーコンソールの外部でオフラインで PADA に署名する必要があります。詳細は、アカウントマネージャーにお問い合わせください。

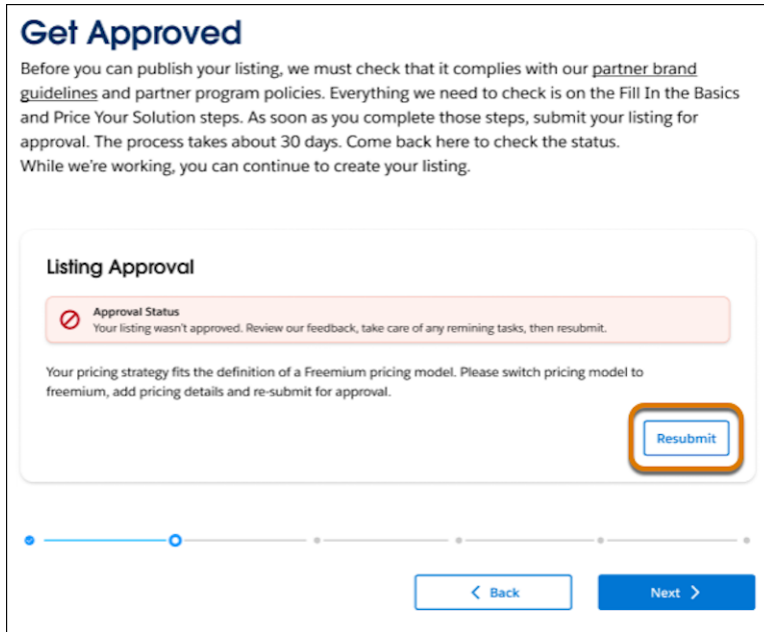
リスティングを編集した後の承認の再申請

承認を申請した後にリスティングを編集する場合はどうなるのでしょうか? 何を編集したかと、リスティングの仕様によって異なります。ソリューションのリスティングで次のいずれかの変更を行う場合、編集内容を保存してからリスティングの承認を再申請してください。

- 価格設定モデルを [無料] から別の価格設定モデルに変更
- 価格設定モデルを別の価格設定モデルから [無料] に変更
- 支払管理を Checkout から Checkout 以外に変更
- 支払管理を Checkout 以外から Checkout に変更
- 価格設定プランの単位

最初の未承認後の承認の再申請

リスティングは1回で承認されないことがあります。リスティングを編集したら [承認を得る] ステップに移動し、修正が必要である特定のフィードバックを確認してください。リスティングを更新した後、[承認を得る] ステップに戻って [再申請] をクリックします。



リスティングの承認の取得

リスティングの承認を申請するパートナーコンソールの [承認を得る] タスクの手順を説明します。

パートナーアプリケーションディストリビューション契約の署名

ソリューションの支払管理システムとして AppExchange Checkout を使用する場合は、クリックスルー形式のパートナーアプリケーションディストリビューション契約を読み、デジタル署名をする必要があります。

関連トピック:

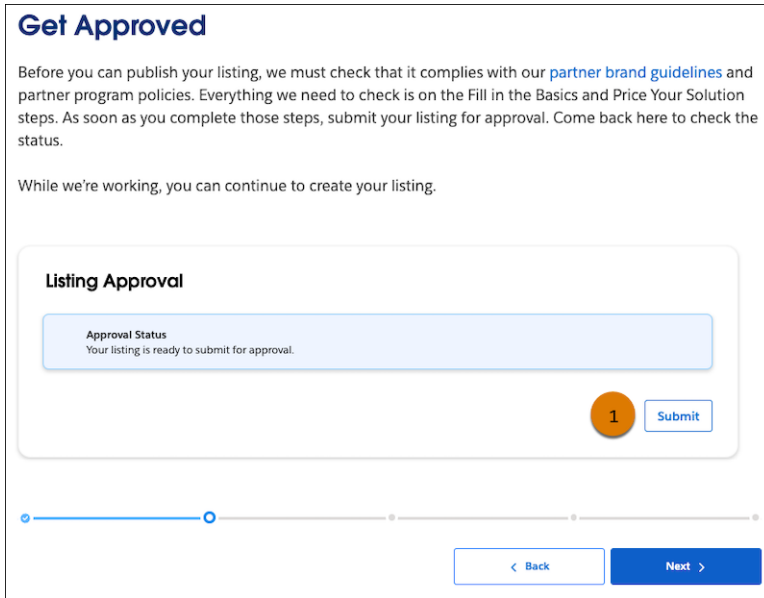
[Trailhead: パートナー向けの AppExchange の公開](#)

リスティングの承認の取得

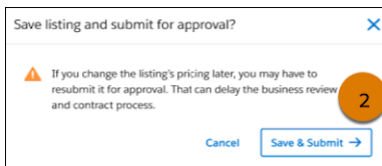
リスティングの承認を申請するパートナーコンソールの [承認を得る] タスクの手順を説明します。

このプロセスは、パートナーコンソールに進行中の AppExchange リスティングがあることを前提としています。また、[基本情報を入力] ステップと [ソリューションの価格を設定] ステップを完了していることも前提としています。

1. パートナーコンソールのリスティングから、[価格設定] をクリックします。
2. [承認を得る] をクリックします。
3. [申請] (1) をクリックします。

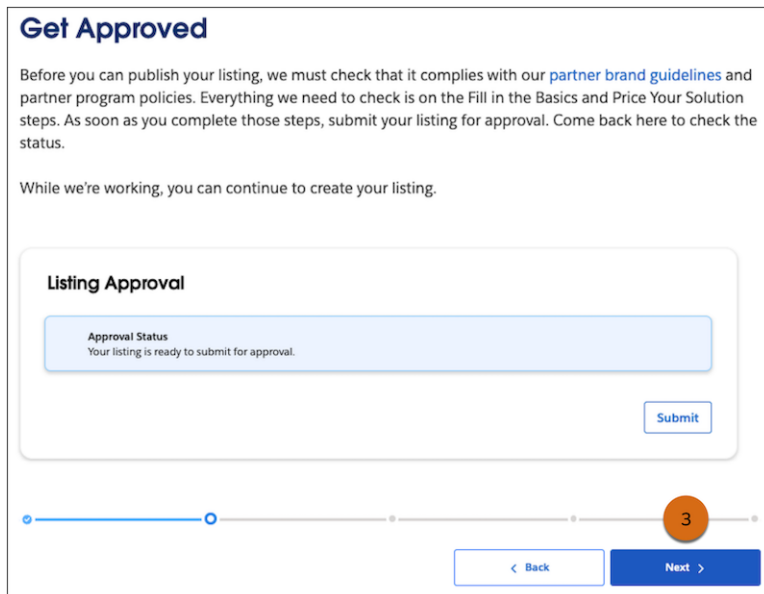


4. [保存 & 申請] (2) をクリックします。



リスティングはレビュー中です。承認状況を確認するには、リスティングの [承認を得る] ステップに戻ります。

5. その間、リスティングでの作業を続行するには、[次へ] (3) をクリックします。



ソリューションの支払管理システムとして AppExchange Checkout を使用する場合は、クリックスルー形式のパートナーアプリケーションディストリビューション契約を読み、デジタル署名をする必要があります。リスティングが Checkout を使用しない [有料] ソリューションである場合や、[フリーミアム] または [有料アドオンが必須]

ソリューションをリスティングする場合は、アカウントマネージャーに連絡し、パートナーコンソールの外部でオフラインで PADA に署名してください。

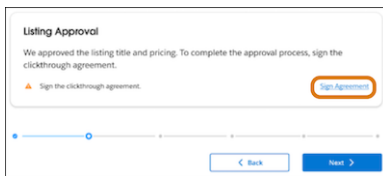
パートナーアプリケーションディストリビューション契約の署名

ソリューションの支払管理システムとして AppExchange Checkout を使用する場合は、クリックスルー形式のパートナーアプリケーションディストリビューション契約を読み、デジタル署名をする必要があります。

このプロセスは、ソリューションのリスティングが承認済みであることを前提としています。

ソリューションの支払管理システムとして AppExchange Checkout を使用する場合は、次の手順に従います。

1. パートナーアプリケーションディストリビューション契約 (PADA) を起動するには、[契約に署名] をクリックします。

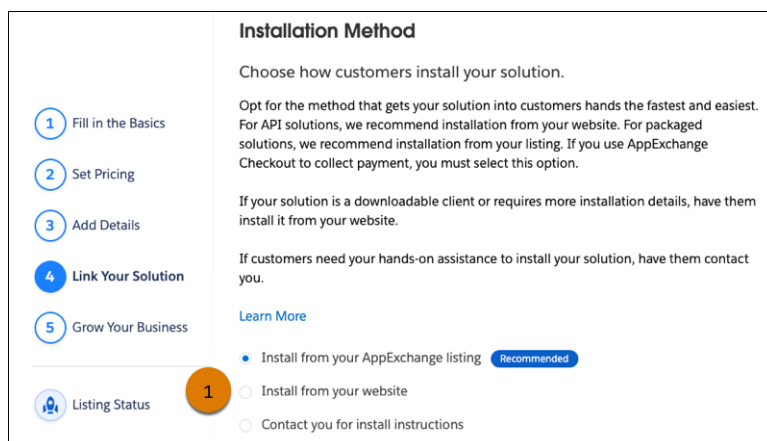


2. PADA を読んで入力します。
 - a. この契約の署名権限があることを示すチェックボックスをオンにします。
 - b. 契約に同意することを示すチェックボックスをオンにします。
3. 契約のデジタル署名を完了するには、[同意] をクリックします。

インストール方法の選択

AppExchange ソリューションのインストールが容易なほど、見込み客が購入する可能性が高くなります。パートナーコンソールでリスティングを作成するときに、インストール方法を選択するように求められます。顧客の操作が最良になる方法を選択してください。

インストール方法のオプションは、リスティング種別によって異なります。管理パッケージのリスティングの場合は、3つのオプションがあります (1)。



方法

この方法を選択するケース

AppExchange リスティングからインストール

- この方法は、コンポーネントに必須で、アプリケーションに推奨されます。
- ソリューションが管理パッケージの場合、この方法が最も簡単なインストール操作になります。顧客は、プロバイダーからのサポートなしで、AppExchange インストールシーケンスを使用して、ソリューションを Salesforce Sandbox または本番環境にインストールできます。
- API ソリューションを AppExchange から直接インストールすることはできません。

インストール方法について御社に問い合わせる

- インストールまたは選択プロセスでサポートが必要な場合、この方法を選択する必要があります。
- 契約条件に同意した後、顧客には、インストールをサポートするためにプロバイダーからまもなく連絡があると伝えられます。プロバイダーは、潜在的な顧客をサポートできるようにリソースを配置してください。

Web サイトからインストール

- ソリューションがダウンロード可能なクライアントの場合、またはインストールするために追加の情報が必要な場合、この方法が最適です。
- ユーザーがリスティングで [今すぐ入手] をクリックし、契約条件に同意すると、アプリケーションプロバイダーの Web サイトに移動してインストールプロセスが完了します。プロバイダーは、明確なダウンロード手順を提供し、必要な設定または構成を実行してください。

Tableau Exchange リスティングからインストール

- ソリューションが Tableau アクセラレーターの場合、この方法を使用する必要があります。
- AppExchange に掲載されたアクセラレーターには、Tableau Exchange に対応するリスティングがあります。AppExchange でアクセラレーターのインストールを選択した顧客は、Tableau Exchange のインストールフローにリダイレクトされます。

パッケージを登録しライセンス設定を選択する

パッケージを登録してライセンス管理アプリケーション (LMA) を設定すると、顧客がアプリケーションまたはコンポーネントをインストールするたびにライセンスレコードが届きます。ライセンスによって、どのユーザーがどの程度長くアプリケーションまたはコンポーネントを使用しているかを追跡できます。

 **メモ:** パッケージを登録する前に、次の点を確認してください。

- アプリケーションまたはコンポーネントが管理パッケージに含まれている。
- LMA がインストール済みである。ほとんどの場合、LMA はパートナーのビジネス組織にインストールされます。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. **[Publishing (公開)]** タブをクリックしてパートナーコンソールを起動します。
3. パートナーコンソールで、**[Technologies (テクノロジー)]** タブをクリックします。
4. **[Solutions (ソリューション)]** をクリックします。
5. 登録するパッケージバージョンを探して、**[Register Package (パッケージを登録)]** をクリックします。
6. ライセンス管理組織にログインして、デフォルトのライセンス設定を編集します。
7. デフォルトのライセンスが **[Free Trial (無料トライアル)]** か **[Active (有効)]** かを選択します。無料トライアルの場合は、90 日以内の日数を入力します。
8. ライセンスが **[Per seat (シートごと)]** または **[Site-wide (サイト全体)]** のどちらで適用されるのかを選択します。シート数には、ライセンスに割り当てるシート数を入力します。
9. 変更内容を保存します。

セキュリティレビューサイクルの完了

AppExchange 上で管理パッケージ、Salesforce Platform API ソリューション、または Marketing Cloud API ソリューションを配布するには、セキュリティレビューに合格する必要があります。レビューの管理には、Salesforce パートナーコンソールのセキュリティレビューウィザードを使用します。初回レビューのためにソリューションを申請します。また、以前のレビューで検出されたセキュリティ上の問題を修正したソリューションを再申請します。セキュリティレビュー料金を支払います。

セキュリティレビューの申請に必要なデータ

AppExchange セキュリティレビュー用にソリューションを申請するときに用意しなければならないデータ、たとえばテスト環境やドキュメントなどについて説明します。モバイルアプリケーションには、プラットフォーム固有の申請要件があります。拡張パッケージは、セキュリティレビューの対象です。Salesforce では、拡張パッケージの場合も、スタンドアロンソリューションの場合と同じデータが必要です。

AppExchange セキュリティレビューウィザード

セキュリティレビューウィザードは、管理パッケージ、Salesforce API ソリューション、Marketing Cloud API ソリューションのセキュリティレビューを申請するために、ISV パートナーが使用するツールです。申請後、ウィザードを使用してレビューの進行状況を追跡し、レビューを担当しているチームからフィードバックをもらい、連絡を取り合います。このウィザードは、AppExchange パートナーコンソールの機能です。

セキュリティレビューの管理

AppExchange パートナーコンソールのセキュリティレビューウィザードでセキュリティレビューを管理します。ソリューションを作成してレビューを申請します。ウィザードで提供される詳細な状況情報を確認します。レビューを担当しているチームと直接連絡を取り合います。レビューレポートをダウンロードします。誤検出に関するドキュメントを送信します。

セキュリティレビューの結果に基づく行動

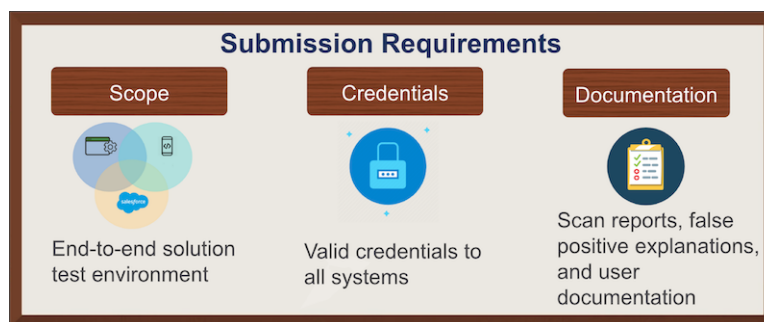
ソリューションの最初のレビューを申請してから約4～6週間後にセキュリティレビューが完了します。ソリューションが合格したかどうかを AppExchange パートナーコンソールで確認します。合格したソリューションの公開方法と、合格しなかったソリューションのフォローアップレビューの申請方法を説明します。

AppExchange での定期的なセキュリティ再レビュー

最新の脆弱性に対する保護措置として、AppExchange ソリューションのセキュリティの再レビューを定期的に行っています。これらのレビューでは、最初のセキュリティレビューと同じ範囲で、自動テストと手動テストを実施します。ソリューションの再レビューを自発的に申請することもできます。また、ソリューションの再レビューが必要であることを Salesforce から通知する場合があります。どちらの場合も、セキュリティレビュー料金が発生します。

セキュリティレビューの申請に必要なデータ

AppExchange セキュリティレビュー用にソリューションを申請するときに用意しなければならないデータ、たとえばテスト環境やドキュメントなどについて説明します。モバイルアプリケーションには、プラットフォーム固有の申請要件があります。拡張パッケージは、セキュリティレビューの対象です。Salesforce では、拡張パッケージの場合も、スタンドアロンソリューションの場合と同じデータが必要です。



セキュリティレビューでは、製品セキュリティチームがソリューションの必須部分と省略可能部分をテストします。通常、テスト範囲を判断するために、データをフォローする手法が用いられます。ユーザーがアクセスする部分すべてが対象となります。たとえば、ソリューションを使用するために、お客様である Salesforce ユーザーがあなたの会社の Web サイトでアカウントを作成しなければならない、またはデータがサードパーティのサーバーに同期されるとします。Salesforce のレビューチームはこれらの部分をテストし、Salesforce ログイン情報とデータが安全に転送されることを確認します。

以下を含め、ソリューションで使用されるすべての環境、パッケージ、および外部コンポーネントへのアクセスを提供します。

- 外部の Web アプリケーションまたはサービス。
- 必須または省略可能なクライアントアプリケーションまたはモバイルアプリケーション。

- ソリューションに含まれるすべての Apex と Visualforce。

メモ: 申請は「管理 — リリース済み」パッケージであることを確認してください。未管理パッケージやベータパッケージは受け付けることができません。

ソリューションの一部を含めるかどうか不明確な場合は、ひとまず含めてください。レビューチームは範囲外の部分はテストしませんが、必須の部分が省かれていればレビューが遅れます。

当社では、ソリューションが企業のセキュリティ標準を満たしていることを確かめるときに、精査が実施されていることを確認したいと考えています。セキュリティスキャンレポートと、テスト結果に表示された偽陽性の説明を含めてください。

また、詳細なソリューションユーザードキュメントと貴社の情報セキュリティポリシーも提出してください。広範囲にわたるドキュメントの提供は、小規模または新規の会社にとっては実用的ではないため、提出されたドキュメントのレビューでは、会社の規模と成熟度を考慮しています。

ソリューションに合わせてカスタマイズされたチェックリストを生成するには、Salesforce パートナーコミュニティの [セキュリティレビュー申請要件チェックリストビルダー](#) を使用してください。以下は、Lightning コンポーネントのチェックリストです。

Security Review Submission Requirements Checklist Builder

Tell Us About Your App

Select all details below that apply to your app in order to create a custom checklist of required information in your Security Review submission

On Salesforce Platform

- Apex/Visualforce Package
- Lightning Component
- Quip App
- Marketing Cloud App

External to Salesforce Platform

- Website
- API Endpoints
- Mobile App
- Browser Extension
- Desktop/Client App

Compile Checklist

Your Checklist

- 1

Force.com Source Code (Checkmarx) Scanner Results

 - Access the scanner via the [Partner Security Portal](#) >
 - Please resolve any issues ahead of the scan to show clean results
 - For any issues on the report which can't be resolved, be sure to explain in a separate false positive document
- 2

Salesforce test environment:

 - Create a Developer Edition org via [Environment Hub](#) or [here](#)
 - Install your managed package in the org
 - Populate test data
 - Provide credentials for an admin-level user
 - [Enable My Domain](#) if package contains Lightning >
- 3

Basic app usage instructions to help orient the Security review team

* Prior to submitting, steps 1-8 on the [Trailblazer Checklist](#) must be completed.

次の表は、アーキテクチャの範囲に基づいて申請するデータをまとめたものです。

申請データ	Salesforce ネイティブソリューション	Lightning コンポーネントを使用する Salesforce ネイティブソリューション	外部の Web アプリケーションまたは サービスを使用するソリューション	モバイルクライアントを使用するソリューション	API のみ	Marketing Cloud アプリケーション
Salesforce Developer Edition 組織	X	X	X	X	X	
Developer Edition 組織にインストールされる管理パッケージ	X	X	X	X		
認証が必要な外部コンポーネントの URL およびログイン情報			X	X	X	
Checkmarx レポート	X	X	X	X		
Zap または Chimera スキャンレポート			X	X	X	X
偽陽性に関するドキュメント (該当する場合)	X	X	X	X	X	X
ソリューションドキュメント	X	X	X	X	X	X
インストールリンクまたはファイルがあるプラットフォーム				X		
Marketing Cloud 環境へのログイン情報						X

モバイルアプリケーション

モバイルアプリケーションのテストの場合は、配布予定のすべてのプラットフォーム向けのアプリケーションを提供します。iOSの場合は、テストリリース、個別リリースに対応します。その他のプラットフォームでは、ファイルのアプリケーションに対応します (Android パッケージング (.apk) ファイルなど)。

拡張パッケージ

拡張パッケージには、ソリューションのアドオンであるパッケージと、2つのソリューションの機能を統合するパッケージがあります。拡張パッケージを AppExchange に公開する前に、そのパッケージと拡張するソリューションがセキュリティレビューに合格する必要があります。

拡張パッケージが、セキュリティレビューに合格している基本ソリューションのアドオンである (または統合される) 場合、拡張パッケージのみのレビューを申請します。ただし、基本ソリューションがセキュリティレビューに合格していない場合は、拡張パッケージとソリューションのレビューを申請してください。

拡張パッケージのセキュリティレビュー申請要件は、類似のアーキテクチャを持つソリューションの場合と同じです。たとえば、拡張パッケージで外部コールアウトが使用される場合は、そのコールアウトを使用するパッケージの Web スキャン結果を個々に添付します。

製品セキュリティチームがソリューション全体をレビューします。セキュリティレビューを申請する完全なソリューションを Developer Edition 組織にインストールします。拡張パッケージを含めます。また、パッケージが拡張または統合するソリューションの基本パッケージと連動パッケージもすべてインストールします。これは、基本ソリューションがセキュリティレビューにすでに合格していてもいなくても必須です。

Salesforce セキュリティチームによってすべての拡張パッケージがレビューされることが重要です。パッケージのサイズが小さくても、セキュリティに脆弱性をもたらす可能性があります。

関連トピック:

偽陽性

https://partners.salesforce.com/s/education/appinnovators/Security_Review#media

AppExchange セキュリティレビューウィザード

セキュリティレビューウィザードは、管理パッケージ、Salesforce API ソリューション、Marketing Cloud API ソリューションのセキュリティレビューを申請するために、ISV パートナーが使用するツールです。申請後、ウィザードを使用してレビューの進行状況を追跡し、レビューを担当しているチームからフィードバックをもらい、連絡を取り合います。このウィザードは、AppExchange パートナーコンソールの機能です。

AppExchange セキュリティレビューのフェーズ

AppExchange セキュリティレビューは4つのフェーズから成るプロセスです。パートナーとして、どのようなフェーズがあり、各フェーズでどのようなこと起こるかを理解し、レビューがどのフェーズにあるかを把握することが重要です。

ウィザードでの AppExchange セキュリティレビューのフィードバック

セキュリティレビューが進行すると、レビューチームから定期的に質問されたり、情報が更新されたりします。共有する情報がある場合、チームはセキュリティレビューウィザードの[概要]ページに詳細なフィードバックを投稿します。フィードバックの種別は、申請確認やテストなど、レビューのフェーズによって異なります。また、レビューの状況に変更があるたびに、セキュリティレビュー連絡先にメールを送信し、[概要]ページに新しい情報があることをお知らせします。

AppExchange セキュリティレビューのフェーズ

AppExchange セキュリティレビューは4つのフェーズから成るプロセスです。パートナーとして、どのようなフェーズがあり、各フェーズでどのようなこと起こるかを理解し、レビューがどのフェーズにあるかを把握することが重要です。

AppExchange セキュリティレビューは、ソリューションのセキュリティレビューを申請するために使用するツールであるセキュリティレビューウィザードを起動し、情報の入力を開始すると正式に始まり、レビューチームがテストを完了し、結果をパートナーと共有すると終了します。その間に多くのことが起こります。セキュリティレビューには4つのフェーズがあります。

準備 & 申請

このフェーズでは、パートナーがセキュリティレビューウィザードを使用して必須情報をすべて入力し、ソリューションのレビューを申請します。

申請確認

申請を受け取りました。セキュリティレビュー業務チームが、申請に含まれているすべての内容を評価しています。必須情報がすべて申請に含まれていれば、テストを開始できます。含まれていない場合は、ウィザードの[概要]ページに何が不足しているかについてフィードバックを投稿します。

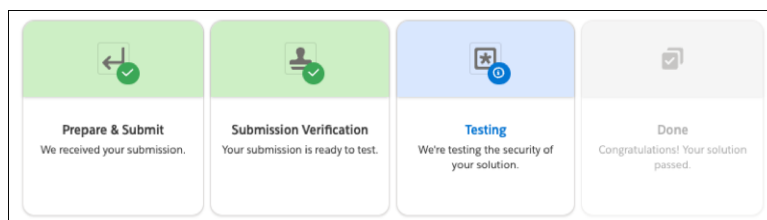
テスト

製品セキュリティチームがソリューションをテストしています。




完了


レビューが完了しました。詳細はウィザードの[概要]ページに掲載されます。

レビューがどのフェーズにあるかを確認するには、セキュリティレビューウィザードの[概要]ページでトラッカーを確認します。インジケータの各タイトルは、AppExchange セキュリティレビューの4つのフェーズのいずれかを表します。



タイトルは色分けされており、各ステージの進行状況に関する手がかりとなります。

- 緑色の背景にチェックマークアイコン  が表示されていれば、フェーズは完了です。
- 青色の背景に情報記号  が表示されていれば、それが現在のフェーズであることを意味します。
- オレンジ色の背景と警告アイコン  は、そのフェーズで問題が発生したことを示します。

- 赤色の背景とエラーアイコン  は、障害が発生したことを示します。
- グレー表示になっているタイトルは、フェーズが開始されていないことを意味します。

各フェーズで実行されるタスク、タスクを完了する担当チーム、考えられる結果を次の表にまとめました。

表 1: セキュリティレビューのフェーズ

フェーズ	サブフェーズ	意味
準備 & 申請	すべての手順を完了して、ソリューションのレビュー申請を行います。	これは、レビューを申請する前のデフォルトのフェーズです。このフェーズでは、ソリューションのセキュリティ体制をテストするために必要なすべての情報を提供します。 レビューを申請するまで、レビュー状況は表示されません。
	申請を受け取りました。	ソリューションのレビューを申請します。セキュリティレビュー業務チームは申請を受け取りましたが、処理を開始していません。 チームはレビュー状況を [申請済み] に設定します。パートナーは何もする必要がありません。
申請確認	申請にすべての必要な資料が含まれていることを確認しています。	セキュリティレビュー業務チームが、申請に含まれているすべての内容を評価しています。目標は、ソリューションのセキュリティのテストを開始するために必要なものがすべて揃っていることを確認することです。 レビュー状況は [申請済み] です。パートナーは何もする必要がありません。
	申請をテストする準備ができました。	ソリューションをテストするために必要な資料がすべて揃っています。製品セキュリティチームに、ソリューションをテストする準備ができたことを通知しました。 製品セキュリティチームがテストを開始すると、レビューは次の

フェーズ	サブフェーズ	意味
		<p>フェーズである [テスト] に進みます。</p> <p>レビュー状況は [申請済み] です。パートナーは何もする必要がありません。</p>
	<p>申請を返却させていただきました。フィードバックを確認し、申請内容を更新して、再申請してください。</p>	<p>有効なテスト環境ログイン情報や外部コンポーネントなど、テストに必要なものが不足しているため、セキュリティレビュー業務チームは申請を返却しました。不足しているものを受け取るまで、処理は一時停止されます。</p> <p>チームはレビュー状況を [返却済み] に設定し、セキュリティレビューウィザードの [概要] ページにフィードバックを投稿します。フィードバックに対処し、同じレビューを再申請してください。返却した申請の再申請には料金は発生しません。</p>
<p>テスト</p>	<p>ソリューションのセキュリティをテストしています。</p>	<p>製品セキュリティチームがソリューションの技術テストを開始しました。レビュー状況は [申請済み] です。パートナーは何もする必要がありません。</p>
	<p>申請を返却させていただきました。フィードバックを確認し、申請内容を更新して、再申請してください。</p>	<p>テスト中に、製品セキュリティチームはソリューションを完全にテストできない問題を発見しました。</p> <p>製品セキュリティチームは申請を返却し、レビュー状況を [返却済み] に設定しました。</p> <p>レビューが返却された理由がセキュリティレビューウィザードの [概要] ページに表示されます。フィードバックに対処し、同じレビューを再申請してください。返却した申請の再申請には料金は発生しません。</p>

フェーズ	サブフェーズ	意味
	<p>ソリューションは合格しませんでした。</p>	<p>製品セキュリティチームはテストを終了し、セキュリティの脆弱性が見つかりました。ソリューションは合格しませんでした。レビュー状況は [不合格] に設定されます。</p> <p>セキュリティウィザードの [概要] ページに移動し、セキュリティレビューレポートをダウンロードして、結果を確認してください。コードの修正、誤検出の文書化、またはその両方を行い、レポートの問題に対処します。</p> <p>コードを修正する必要がある場合は、新しい API ソリューションまたは管理パッケージバージョンを作成し、新しいレビューを開始する必要があります。修正したソリューションの再テストには料金が発生します。</p> <p>誤検知を報告する必要があるけれども、コードを修正する必要がない場合は、誤検出に関するドキュメントを不合格になったレビューに追加して再申請できます。誤検出の評価に料金は発生しません。</p>
	<p>セキュリティレビューが完了しました。</p>	<p>製品セキュリティチームはソリューションのセキュリティのテストを終了し、セキュリティの問題は見つかりませんでした。</p> <p>レビュー状況は [申請済み] です。パートナーは何もする必要がありません。レビューは自動的に次のフェーズである [完了] に進みます。</p>
<p>完了</p>	<p>おめでとうございます! ソリューションが合格しました。</p>	<p>レビュー状況は [合格] に設定されます。AppExchange でのソリューションの公開に向けて一歩前進しました。</p>

フェーズ	サブフェーズ	意味
期限切れ	セキュリティレビューの期限が切れました。	<p>[期限切れ] は非公式な 5 つ目のフェーズで、レビュー状況です。これは、レビューに合格した後、AppExchange での配布の基準を満たさなくなったソリューションに適用されます。セキュリティレビューは、収益分配の未払いなど、さまざまな理由で期限切れになることがあります。レビュー状況は [期限切れ] に設定されます。</p> <p>期限切れのレビューが、公開リスティングにリンクされているソリューションに関するものであれば、そのリスティングは AppExchange から削除されますが、再リスティングできます。アカウントマネージャーと協力して、レビューが期限切れになった理由を把握します。すべての問題に対処してから、再リスティングしてください。</p>

ウィザードでの AppExchange セキュリティレビューのフィードバック

セキュリティレビューが進行すると、レビューチームから定期的に質問されたり、情報が更新されたりします。共有する情報がある場合、チームはセキュリティレビューウィザードの [概要] ページに詳細なフィードバックを投稿します。フィードバックの種別は、申請確認やテストなど、レビューのフェーズによって異なります。また、レビューの状況に変更があるたびに、セキュリティレビュー連絡先にメールを送信し、[概要] ページに新しい情報があることをお知らせします。

申請確認に関するフィードバック

申請確認フェーズでは、技術テストを開始するために必要なすべてがセキュリティレビュー申請に含まれているかどうかを確認します。このフェーズでのフィードバックは、3つのカテゴリに分類されます。

技術テスト中のフィードバック

ソリューションのセキュリティを評価するために必要なすべてが申請に含まれていることを確認したら、製品セキュリティチームが技術テストを開始します。

完了したレビューに関するフィードバック

AppExchange セキュリティレビューの結果は 2 つあります。ソリューションが合格したか、しなかったかです。いずれの場合でも、フィードバックセクションに、次に何をすべきかについてヒントが表示されます。

申請確認に関するフィードバック

申請確認フェーズでは、技術テストを開始するために必要なすべてがセキュリティレビュー申請に含まれているかどうかを確認します。このフェーズでのフィードバックは、3つのカテゴリに分類されます。

- **ログイン情報とテスト環境:** 申請に含まれている組織またはテスト環境に問題があります (認証ログイン情報の期限切れ、Web アプリケーションまたはサービスのアクセス URL が無効など)。セキュリティレビューウィザードの [環境を指定] ステップで入力した情報を確認し、必要に応じて更新します。
- **ドキュメント:** 申請に必要なドキュメント (誤検出に関するドキュメントなど) が含まれていません。含めたドキュメントを修正するには、セキュリティレビューウィザードの [ドキュメントをアップロード] ページに移動します。
- **組織とパッケージ:** 申請に含めた組織またはパッケージに何らかの問題があります。テスト組織の代わりにパッケージング組織を指定したか、テスト組織に申請したものと異なるパッケージバージョンが含まれています。フィードバックを確認し、すべてのアクション項目に対処します。

レビューチームが確認に関するフィードバックを投稿した場合、続行方法のオプションが表示されます。ほとんどの場合、申請を更新してからレビューを再申請する必要があります。また、次の最善のステップが明確でない場合もあります。ページの [What happens next? (この後のステップ)] (1) と [Opportunities (機会)] (2) セクションでガイダンスを確認してください。確認に関するフィードバックに異議がある場合は、見直しを要求します (3)。

Your submission was returned

We reviewed your submission, but need some info to continue.


Submission Feedback

- Fix credential or test environment issues [Update Credentials or Environments](#)
- Add or update your documentation [Add Documentation](#)
- Fix Salesforce org or package issues

What happens next? 1

Review and address our feedback, and resubmit.

Address our feedback by editing your submission. If you disagree with any feedback, ask us to take a second look. Then resubmit your solution for review. We respond to most resubmissions within 2 weeks. There's no additional charge for us to take another look.



Opportunities 2

- Visit Security Review Operations office hours and ask questions about submission requirements or logistics. [Make Appointment](#)
- Think our feedback isn't quite right? Tell us why and we'll take another look. To have us take a second look, enter details, and resubmit.

3

Enter details...

After you enter details, [resubmit](#)

関連トピック:

[AppExchange リストを作成または編集する](#)

技術テスト中のフィードバック

ソリューションのセキュリティを評価するために必要なすべてが申請に含まれていることを確認したら、製品セキュリティチームが技術テストを開始します。

技術テストフェーズでは、通常、[概要]ページに表示される活動はあまりありません。テストが完了すると、[概要]ページに結果が掲載されます。また、次の連絡先にメールが送信されます。

- AppExchange パートナーコンソールの会社情報ページに登録されているセキュリティレビュー連絡先。
- セキュリティレビューウィザードの [連絡先を追加] ページに登録されている主連絡先とバックアップ連絡先。

完了したレビューに関するフィードバック

AppExchange セキュリティレビューの結果は2つあります。ソリューションが合格したか、しなかったかです。いずれの場合でも、フィードバックセクションに、次に何をすべきかについてヒントが表示されます。

ソリューションが合格した場合は、おめでとうございます。AppExchange でのソリューションの公開に向けて一歩前進しました。ソリューションが合格しなかった場合は、製品セキュリティチームがソリューションにセキュリティの問題を検出したということです。まだソリューションを AppExchange に掲載したり、お客様に配布したりすることはできません。[概要] ページに移動して、レビューレポートをダウンロードしてください。検出したセキュリティの問題や脆弱性の種別が記載されていますが、すべてのインスタンスが含まれているわけではありません。

レポートに記載された問題が正当な脆弱性であることに同意する場合は、ソリューションを修正します。問題がセキュリティリスクを引き起こさないとと思われる場合、誤検出として文書化します。

すべての問題に対処してから、次のことを行います。

- ソリューションを修正し、誤検出がない場合は、[ソリューション] ページから新しいレビューを開始します。必須情報をすべて入力したら、フォローアップレビューを要求します。API ソリューションタイプの場合は、フォローアップレビューのために別のソリューションを作成する必要があります。修正したソリューションの再テストには料金が発生します。
- ソリューションを修正し、誤検出がある場合は、[ソリューション] ページから新しいレビューを開始します。必須情報をすべて入力し、誤検出レポートをアップロードします。次に、フォローアップレビューを要求します。API ソリューションタイプの場合は、フォローアップレビューのために別のソリューションを作成する必要があります。修正したソリューションの再テストには料金が発生します。
- 誤検出の文書化のみを行った場合は、セキュリティレビューウィザードの [概要] ページに移動し、誤検出レポートをアップロードして、同じレビューを再申請します。誤検出レポートの評価には料金は発生しません。

追加の質問や懸念事項がある場合は、再申請について製品セキュリティチームとやりとりできるように、テクニカルオフィスアワーの予定を予約してください。

関連トピック:

[偽陽性への対応の文書化](#)

[不合格になったセキュリティレビューのすべての問題が誤検出であった場合の再申請](#)

[新しいパッケージバージョンのフォローアップセキュリティレビューの要求](#)

[コードの修正と誤検出があった管理パッケージのフォローアップセキュリティレビューの要求](#)

[コードを修正した API 限定ソリューションのフォローアップセキュリティレビューの要求](#)

[コードの修正と誤検出があった API ソリューションのフォローアップセキュリティレビューの要求](#)

セキュリティレビューの管理

AppExchange パートナーコンソールのセキュリティレビューウィザードでセキュリティレビューを管理します。ソリューションを作成してレビューを申請します。ウィザードで提供される詳細な状況情報を確認します。レビューを担当しているチームと直接連絡を取り合います。レビューレポートをダウンロードします。誤検出に関するドキュメントを送信します。

AppExchange セキュリティレビューの開始

セキュリティレビューを開始するには、AppExchange パートナーコンソールの [ソリューション] ページからセキュリティレビューウィザードを起動します。一部の情報を入力して保存しておき、後で完了することができます。

AppExchange セキュリティレビューの申請前の編集

ソリューションのセキュリティレビュー申請を開始し、申請前にまだ他に入力する情報がある場合は、セキュリティレビューウィザードに戻り、引き続き情報を入力します。

ソリューションの AppExchange セキュリティレビューの申請

AppExchange パートナーコンソールで、ソリューションのセキュリティレビューを申請します。ソリューションと必要なすべての資料を共有して、適用手数料を支払います。

返却された AppExchange セキュリティレビューの更新

ソリューションのセキュリティレビューを申請しました。その後、テストに必要なものが不足しているか、誤りがあるため、レビューチームから返却されました。レビューの状況は [返却済み] です。セキュリティレビューウィザードに戻り、問題を修正して再申請します。

AppExchange セキュリティレビューの状況の確認

AppExchange パートナーコンソールで、セキュリティレビューの状況を調べます。ソリューションのレビューを申請した後に、最新の状況が表示されます。

申請確認に関するフィードバック時の見直しの要求

ソリューションのセキュリティレビューを申請すると、レビューの申請確認フェーズが開始されます。このフェーズでは、レビューチームが申請に含まれているすべての内容を評価します。何か不足しているか、誤りがある場合、セキュリティレビューウィザードの [概要] ページにフィードバックを投稿し、申請を返却します。確認に関するフィードバックに異議がある場合は、見直しを要求します。確認に関するフィードバック時の見直しには料金は発生しません。

AppExchange セキュリティレビューレポートのダウンロード

ソリューションが AppExchange セキュリティレビューに合格しなかった場合、ソリューションで見つかった脆弱性がレビューレポートに記載されます。レポートをダウンロードするには、セキュリティレビューウィザードの [概要] ページに移動します。

返却されたセキュリティレビューのすべての問題が誤検出であった場合の再申請

申請確認フェーズで、スキャン結果が、誤検出に関するドキュメントを使用して対処しなかったセキュリティの問題を示している場合、レビューの状況が [返却済み] に設定されます。ドキュメントを受け取るまでレビューは一時停止されます。セキュリティレビューウィザードの [概要] ページに移動し、誤検出レポートをアップロードして、ソリューションのレビューを再申請します。誤検出に関するドキュメントの評価には料金は発生しません。

不合格になったセキュリティレビューのすべての問題が誤検出であった場合の再申請

AppExchange セキュリティレビューの結果を受け取り、特定された問題のすべてを誤検出と判断した場合は、誤検出に関するドキュメントを不合格になったレビューに追加して再申請します。誤検出に関するドキュメントの評価には料金は発生しません。

期限切れの AppExchange セキュリティレビュー

レビュー済みソリューションが AppExchange での配布の基準を満たさなくなった場合、セキュリティレビューは期限切れになります。期限切れのレビューが、公開リストティングにリンクされているソリューションに関するものであれば、そのリストティングは AppExchange から削除されますが、再リストティングできます。

期限切れのセキュリティレビューのトラブルシューティング

AppExchange セキュリティレビューが期限切れになる最も一般的な理由は、再レビューの見逃し、レビュー料金の支払期限が過ぎている、収益分配の未払いです。期限切れのレビューの原因をトラブルシューティングする方法を説明します。

AppExchange セキュリティレビューの開始

セキュリティレビューを開始するには、AppExchange パートナーコンソールの[ソリューション]ページからセキュリティレビューウィザードを起動します。一部の情報を入力して保存しておき、後で完了することができます。

レビューを開始する前に、ソリューションまたはソリューションを含む Salesforce 組織を、パートナーコンソールに接続します。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#)にログインします。
2. [公開]>[テクノロジー]>[ソリューション]をクリックします。
3. ソリューション名をクリックします。
4. [レビューを開始]をクリックします。
セキュリティレビューウィザードが起動し、必須情報の入力を開始できます。
5. 変更を保存し、後で申請する場合は、[保存&終了]をクリックします。

関連トピック:

[パートナーコンソールへの Dev Hub またはパッケージ組織の接続](#)

AppExchange セキュリティレビューの申請前の編集

ソリューションのセキュリティレビュー申請を開始し、申請前にまだ他に入力する情報がある場合は、セキュリティレビューウィザードに戻り、引き続き情報を入力します。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#)にログインします。
2. [公開]>[テクノロジー]>[ソリューション]をクリックします。
3. ソリューションの名前をクリックします。
4. [レビューを編集]をクリックします。
セキュリティレビューウィザードが起動し、レビューを編集できます。

ソリューションの AppExchange セキュリティレビューの申請

AppExchange パートナーコンソールで、ソリューションのセキュリティレビューを申請します。ソリューションと必要なすべての資料を共有して、適用手数料を支払います。

ソリューションのセキュリティレビューを申請する前に、次を行う必要があります。

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

- 「リスティングの管理」

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

- 「リスティングの管理」

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

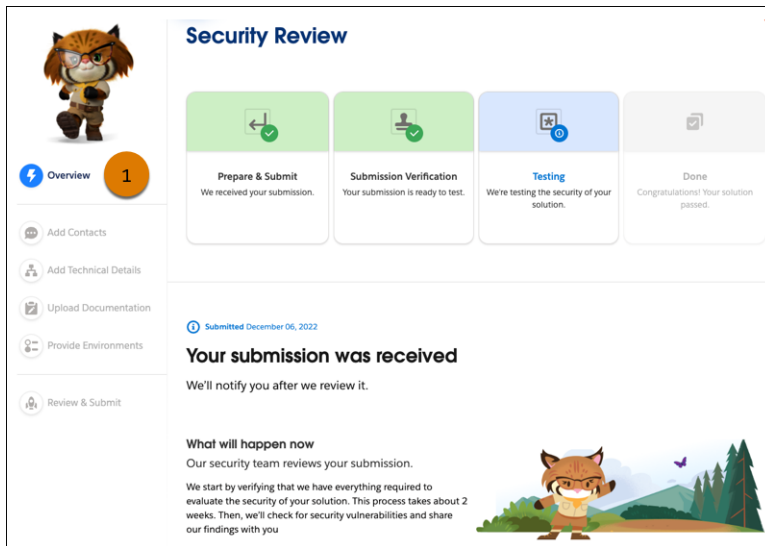
- 「リスティングの管理」

- 自分が AppExchange パートナープログラムに登録されており、販売契約を結んでいることをパートナー採用担当者に確認する。
- ソリューションにパッケージが含まれる場合は、関連する DevHub またはパッケージ組織をパートナーコンソールに接続します。
- ソリューションをインストールした Developer Edition テスト環境を設定する。Salesforce はこの環境を使用してソリューションをテストします。

ヒント: ソリューションのレビューを申請したら、テクニカルオフィスアワーの予定をスケジュールしてください。Partner Security Portal にアクセスし、3~4週間後の日付を選択します。ソリューションが合格しない場合に備えてすでに予定を予約してあります。

1. Salesforce パートナーコミュニティにログインします。
2. [Publishing (公開)] > [Technologies (テクノロジー)] > [Solutions (ソリューション)] をクリックします。
3. ソリューションのすべてのバージョンを表示するには、ソリューション名をクリックします。
4. [Start Review (レビューを開始)] をクリックします。
5. 必要な詳細を入力し、レビュー料金を支払って、要求を送信します。

レビューの進行状況は、申請の[概要]ページ(1)で確認できます。最新の状況、アクション項目、またはセキュリティチームからのフィードバックについては通知が送られます。申請内容の確認後、レビュープロセスには最大4週間かかります。



返却された AppExchange セキュリティレビューの更新

ソリューションのセキュリティレビューを申請しました。その後、テストに必要なものが不足しているか、誤りがあるため、レビューチームから返却されました。レビューの状況は[返却済み]です。セキュリティレビューウィザードに戻り、問題を修正して再申請します。

1. Salesforce パートナーコミュニティにログインします。

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

- 「リスティングの管理」

2. AppExchange パートナーコンソールを起動するには、[公開] をクリックします。
3. [テクノロジー]>[ソリューション] をクリックします。
4. ソリューションの名前をクリックします。
5. セキュリティレビューウィザードを起動するには、[状況を確認] をクリックします。
6. [概要] をクリックします。
7. フィードバックを確認します。
8. すべての問題に対処します。
9. [レビュー & 申請] をクリックします。
10. [申請] をクリックします。

AppExchange セキュリティレビューの状況の確認

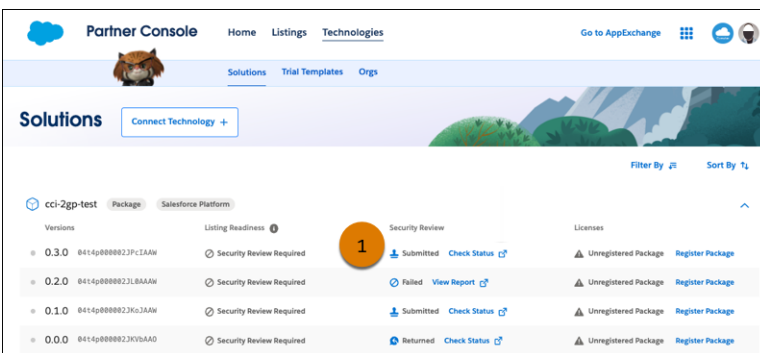
AppExchange パートナーコンソールで、セキュリティレビューの状況を調べます。ソリューションのレビューを申請した後に、最新の状況が表示されます。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. パートナーコンソールを起動するには、[公開] をクリックします。
3. [テクノロジー]>[ソリューション] をクリックします。
4. [セキュリティレビュー] 列を見つけます。ソリューションがセキュリティレビューの対象ではない場合、この列は省略されます。
5. レビュー状況を確認します (1)。

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

- 「リスティングの管理」



6. 進行中のレビューについて追加の状況情報を表示するには、[状況を確認] をクリックします。セキュリティレビューウィザードの [概要] ページが読み込まれます。詳細な状況、レビューチームからのフィードバック、推奨されるアクション項目が表示されます。

申請確認に関するフィードバック時の見直しの要求

ソリューションのセキュリティレビューを申請すると、レビューの申請確認フェーズが開始されます。このフェーズでは、レビューチームが申請に含まれているすべての内容を評価します。何かが不足しているか、誤りがある場合、セキュリティレビューウィザードの [概要] ページにフィードバックを投稿し、申請を返却します。確認に関するフィードバックに異議がある場合は、見直しを要求します。確認に関するフィードバック時の見直しには料金は発生しません。

1. [Salesforce パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. パートナーコンソールを起動するには、[公開] をクリックします。
3. [テクノロジー] > [ソリューション] をクリックします。
4. 返却されたソリューションの名前をクリックします。
5. セキュリティレビューウィザードの [概要] ページに移動するには、[状況を確認] をクリックします。
6. [Request a Second Look (見直しを要求)] をクリックします。
7. 申請の見直しが必要であると思われる理由を記入します。懸念事項を完全に理解できるように十分な詳細を含めます。
8. [resubmit (再申請)] をクリックします。

ほとんどの見直し要求には、2 週間以内に回答しています。

AppExchange セキュリティレビューレポートのダウンロード

ソリューションが AppExchange セキュリティレビューに合格しなかった場合、ソリューションで見つかった脆弱性がレビューレポートに記載されます。レポートをダウンロードするには、セキュリティレビューウィザードの [概要] ページに移動します。

1. [Salesforce パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. AppExchange パートナーコンソールを起動するには、[公開] をクリックします。
3. [テクノロジー] > [ソリューション] をクリックします。
4. レビューが不合格になったソリューションの名前をクリックします。
5. セキュリティレビューウィザードの [概要] ページに移動するには、[レポートを表示] をクリックします。
6. [レポートをダウンロード] をクリックします。

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

- 「リスティングの管理」

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

- 「リスティングの管理」

返却されたセキュリティレビューのすべての問題が誤検出であった場合の再申請

申請確認フェーズで、スキャン結果が、誤検出に関するドキュメントを使用して対処しなかったセキュリティの問題を示している場合、レビューの状況が[返却済み]に設定されます。ドキュメントを受け取るまでレビューは一時停止されます。セキュリティレビューウィザードの[概要]ページに移動し、誤検出レポートをアップロードして、ソリューションのレビューを再申請します。誤検出に関するドキュメントの評価には料金は発生しません。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. AppExchange [パートナーコンソール](#) を起動するには、[公開] をクリックします。
3. [テクノロジー] > [ソリューション] をクリックします。
4. 返却されたソリューションの名前をクリックします。
5. セキュリティレビューウィザードの [概要] ページに移動するには、[状況を確認] をクリックします。
6. [ドキュメントをアップロード] をクリックします。
7. [レビュー & 申請] をクリックします。
8. [申請] をクリックします。

関連トピック:

[偽陽性への対応の文書化](#)

不合格になったセキュリティレビューのすべての問題が誤検出であった場合の再申請

AppExchange セキュリティレビューの結果を受け取り、特定された問題のすべてを誤検出と判断した場合は、誤検出に関するドキュメントを不合格になったレビューに追加して再申請します。誤検出に関するドキュメントの評価には料金は発生しません。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. AppExchange [パートナーコンソール](#) を起動するには、[公開] をクリックします。
3. [テクノロジー] > [ソリューション] をクリックします。
4. レビューが不合格になったソリューションの名前をクリックします。
5. 該当するソリューションバージョンの [レポートを表示] をクリックします。
6. [セキュリティレビューで特定されたすべての脆弱性が誤検出] を選択します。
7. 誤検出に関するドキュメントをアップロードします。
8. [次へ] をクリックします。

ユーザ権限

AppExchange [パートナーコンソール](#) にアクセスする

- 「[リスティングの管理](#)」

ユーザ権限

AppExchange [パートナーコンソール](#) にアクセスする

- 「[リスティングの管理](#)」

9. [申請] をクリックします。

関連トピック:

[偽陽性への対応の文書化](#)

期限切れの AppExchange セキュリティレビュー

レビュー済みソリューションが AppExchange での配布の基準を満たさなくなった場合、セキュリティレビューは期限切れになります。期限切れのレビューが、公開リスティングにリンクされているソリューションに関するものであれば、そのリスティングは AppExchange から削除されますが、再リスティングできます。

セキュリティレビューはさまざまな理由で期限切れになることがあります。たとえば、ソリューションが定期的なセキュリティ再レビューの対象になった場合、Salesforce は複数回メールを送信します。応答がなく、パートナーが再レビューを見逃した場合、ソリューションのすべてのバージョンでセキュリティレビューの承認が期限切れとなります。問題の原因は、連絡先情報が古いという単純な理由である場合があります。パートナーコンソールの[会社情報]ページで連絡先情報を定期的に確認して更新してください。再レビューを見逃した後にソリューションを再リスティングするには、新しいバージョンを作成してレビューを申請します。

他に期限切れの一般的な原因として、レビュー料金の支払期限が過ぎていることや、収益分配の未払いなどがあります。登録されている会社の請求情報が最新であることを確認してください。サポートが必要な場合は、集金部門またはアカウントマネージャーにお問い合わせください。支払の問題を解決した後にソリューションを再リスティングするには、アカウントマネージャーと協力してください。

期限切れのセキュリティレビューのトラブルシューティング

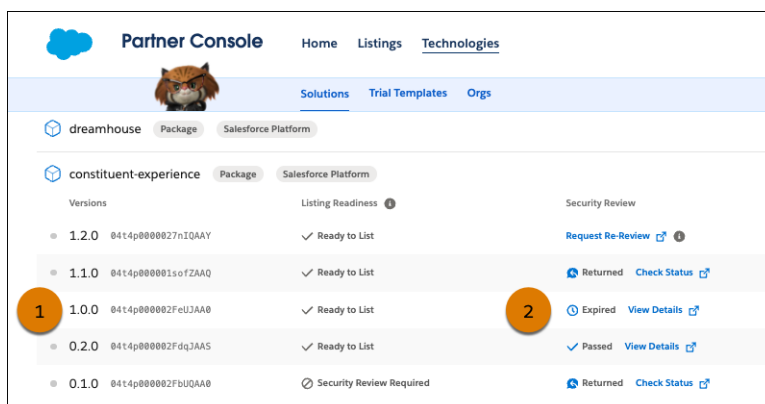
AppExchange セキュリティレビューが期限切れになる最も一般的な理由は、再レビューの見逃し、レビュー料金の支払期限が過ぎている、収益分配の未払いです。期限切れのレビューの原因をトラブルシューティングする方法を説明します。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [公開] > [テクノロジー] > [ソリューション] をクリックします。
3. ソリューションのバージョンを見つけます (1)。
4. [セキュリティレビュー] 列 (2) に [期限切れ] が表示されていることを確認します。

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

- 「リスティングの管理」



5. [詳細の参照] をクリックします。
6. ページの [What happens next? (この後のステップ)] (1) と [Opportunities (機会)] (2) セクションでトラブルシューティングのガイダンスを確認してください。

The screenshot displays the 'Security Review' process flow with four stages: 'Prepare & Submit', 'Submission Verification', 'Testing', and 'Expired'. The 'Expired' stage is highlighted in red and includes a red 'X' icon. Below the flow, a red banner indicates 'Expired March 11, 2022'. The main heading is 'Your security review expired', followed by the message 'Your listing was removed from AppExchange, but you can relist.' Two numbered sections provide next steps: '1 What happens next?' with instructions to address the cause and relist, and '2 Opportunities' with links to 'Troubleshoot an expired security review' and 'Check that your contact information is accurate'. An illustration of a tiger character in a forest is on the right.

Security Review

Prepare & Submit
Complete all the steps, then submit your solution for review.

Submission Verification
Once your review is submitted, it will be processed.

Testing
We're testing the security of your solution.

Expired
Your security review expired.

Expired March 11, 2022

Your security review expired

Your listing was removed from AppExchange, but you can relist.

1 What happens next?
Address the cause and relist your solution.
If you missed a re-review, create a new package version and submit it for review. If you have an overdue invoice, remit payment. For other issues, contact your account manager.

2 Opportunities

- 1 Troubleshoot an expired security review.
[Learn More](#)
- 1 Check that your contact information is accurate.
[Review Contact Info](#)

セキュリティレビューの結果に基づく行動

ソリューションの最初のレビューを申請してから約4～6週間後にセキュリティレビューが完了します。ソリューションが合格したかどうかを AppExchange パートナーコンソールで確認します。合格したソリューションの公開方法と、合格しなかったソリューションのフォローアップレビューの申請方法を説明します。

ソリューションのフォローアップ AppExchange セキュリティレビューの申請

ソリューションのセキュリティレビューが完了しましたが、セキュリティチームがセキュリティの脆弱性を見つけました。ソリューションは、AppExchange での配布が承認されていません。望んでいた結果ではありませんでしたが、あなたに限ったことではなく、ほとんどのソリューションは1回で合格することはありません。脆弱性を修正し、ソリューションのフォローレビューを申請してください。

AppExchange でのソリューションの公開

セキュリティレビューが完了し、ソリューションが合格しました。おめでとうございます。AppExchange でソリューションを公開して配布しましょう。

ソリューションのフォローアップ AppExchange セキュリティレビューの申請

ソリューションのセキュリティレビューが完了しましたが、セキュリティチームがセキュリティの脆弱性を見つけました。ソリューションは、AppExchange での配布が承認されていません。望んでいた結果ではありませんでしたが、あなたに限ったことではなく、ほとんどのソリューションは1回で合格することはありません。脆弱性を修正し、ソリューションのフォローレビューを申請してください。

セキュリティレビューレポートには、製品セキュリティチームが見つけたセキュリティの脆弱性の種類が表示されます。脆弱性の各種類について、レポートには以下の情報が含まれます。

- ソリューションから見つかった具体的な例
- 問題を再現する手順
- 問題の修正方法に関するドキュメントまたはコメントへのリンク

Salesforce の目標はできるだけ多くの異なる種類の脆弱性を見つけることですが、セキュリティレビューはブラックボックスのテストであり、時間が制限されているプロセスであることに留意してください。セキュリティの脆弱性のすべての事例を挙げることができるとは限らず、すべての問題の種類を最初に検出できない場合もあります。セキュリティレビューの結果は、修正する必要がある問題の種類の見本として考えてください。レポートに特に記載がない限り、ソリューション全体に関して、すべてのクラスの問題を修正する必要があります。

Salesforce が、検出事項の分析とセキュリティ脆弱性のトラブルシューティングをお手伝いします。[Partner Security Portal](#) で、テクニカルオフィスアワーの予定をスケジュールしてください。

ソリューションを改正するときには、レビューで見つかったセキュリティ問題と既存のパッケージのコードのみを修正します。その他の修正(機能変更など)を行った場合は、変更されたソリューションの最初のセキュリティレビューを申請する必要があります。修正したコードで新しいパッケージを作成した場合も同様です。

⚠ 重要: パッケージ ID と名前空間が変更されなければ、再申請はフォローアップレビューを受けることができます。

ソリューションを修正した後、フォローアップレビューを行うために必要なデータを集めます。改正したソリューションで必須のスキャナーツールを再実行し、更新されたスキャンレポートを生成します。管理パッケージでの問題を修正した場合は、更新されたソーススキャナー結果を提出します。外部エンドポイントで検出された問題を修正した場合は、更新された ZAP または Chimera スキャンレポートを提出します。該当する場合は、[偽陽性への対応を文書化](#) (ページ 52) します。

提出するデータについての詳細は、「[セキュリティレビューの申請に必要なデータ](#)」(ページ 76)を参照してください。

新しいパッケージバージョンのフォローアップセキュリティレビューの要求

前回のセキュリティレビューで発見されたセキュリティの脆弱性を修正するために、管理パッケージのコードを変更した場合は、AppExchange パートナーコンソールで新しいパッケージバージョンのフォローアップレビューを要求します。

コードを修正した API 限定ソリューションのフォローアップセキュリティレビューの要求

前回のレビューで検出されたセキュリティの問題を修正するために、Salesforce 外部で実行されるコードのみを変更した場合や、API 限定ソリューションを変更した場合は、フォローアップレビューを要求します。フォローアップレビューを要求するには、別のソリューションを作成して AppExchange パートナーコンソールに接続し、レビューを申請します。修正したコードの再テストには料金が発生します。

コードの修正と誤検出があった管理パッケージのフォローアップセキュリティレビューの要求

管理パッケージの AppExchange セキュリティレビューで特定された一部の脆弱性を誤検出と判断し、その他の脆弱性を修正するためにコードを変更した場合は、フォローアップレビューを要求します。フォローアップレビューを要求するには、AppExchange セキュリティレビューウィザードの [ソリューション] ページから新しいレビューを開始します。修正したソリューションと誤検出に関するドキュメントを送信します。修正したソリューションの再テストには料金が発生します。

コードの修正と誤検出があった API ソリューションのフォローアップセキュリティレビューの要求

API ソリューションの AppExchange セキュリティレビューで特定された一部の脆弱性を誤検出と判断し、その他の脆弱性を修正するためにコードを変更した場合は、フォローアップレビューを要求します。フォローアップレビューを要求するには、AppExchange パートナーコンソールの [ソリューション] ページから新しいレビューを開始します。修正したソリューションと誤検出に関するドキュメントを送信します。修正したソリューションの再テストには料金が発生します。

関連トピック:

[偽陽性への対応の文書化](#)

[セキュリティレビューの申請に必要なデータ](#)

新しいパッケージバージョンのフォローアップセキュリティレビューの要求

前回のセキュリティレビューで発見されたセキュリティの脆弱性を修正するために、管理パッケージのコードを変更した場合は、AppExchange パートナーコンソールで新しいパッケージバージョンのフォローアップレビューを要求します。

管理パッケージのフォローアップレビューを要求する前に、別のパッケージバージョンを作成して AppExchange パートナーコンソールに接続します。新しいバージョンのレビューを申請します。

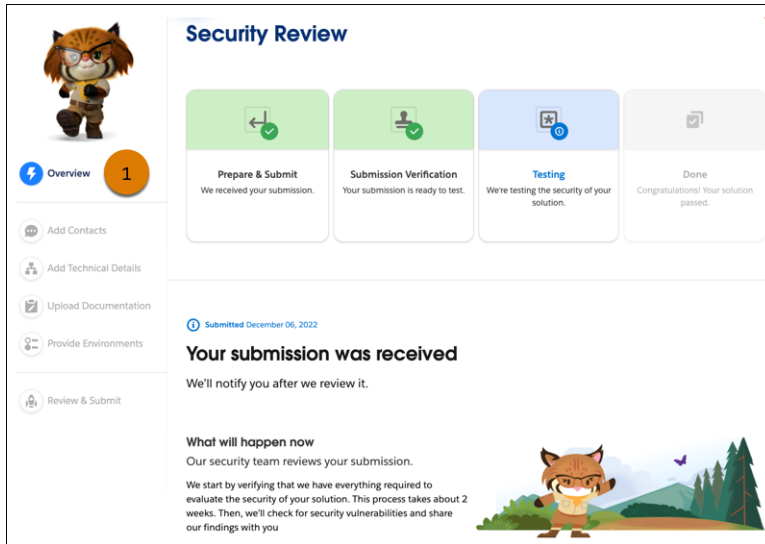
1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [Publishing (公開)] > [Technologies (テクノロジー)] > [Solutions (ソリューション)] をクリックします。
3. 関連するバージョンを表示するには、ソリューション名をクリックします。
4. [Start Review (レビューを開始)] をクリックします。
5. 必要な詳細を入力し、レビュー料金を支払って、要求を送信します。

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールでセキュリティレビューを管理する

- 「リスティングの管理」

レビューの進行状況は、申請の [Overview (概要)] 領域 (1) で確認できます。最新の状況、アクション項目、またはセキュリティチームからのフィードバックについては通知が送られます。申請内容の確認後、フォローアップレビュープロセスには最大 4 週間かかります。



コードを修正した API 限定ソリューションのフォローアップセキュリティレビューの要求

前回のレビューで検出されたセキュリティの問題を修正するために、Salesforce 外部で実行されるコードのみを変更した場合や、API 限定ソリューションを変更した場合は、フォローアップレビューを要求します。フォローアップレビューを要求するには、別のソリューションを作成して AppExchange パートナーコンソールに接続し、レビューを申請します。修正したコードの再テストには料金が発生します。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [Publishing (公開)] > [Technologies (テクノロジー)] > [Solutions (ソリューション)] をクリックします。
3. [テクノロジーを接続] をクリックします。
4. [API] を選択します。
5. API ソリューションのタイプを選択します。
6. 新しい API ソリューションについて必須情報を入力します。
7. [接続] をクリックします。
これで API ソリューションが [ソリューション] ページに表示されます。
8. [ソリューション] ページで新しい API ソリューションを見つけます。
9. セキュリティレビューウィザードを起動するには、[レビューを開始] をクリックします。
10. 申請を編集し、レビュー料金を支払って、要求を再送信します。

ユーザ権限

Salesforce パートナーコンソールでセキュリティレビューを管理する

- 「リスティングの管理」

コードの修正と誤検出があった管理パッケージのフォローアップセキュリティレビューの要求

管理パッケージの AppExchange セキュリティレビューで特定された一部の脆弱性を誤検出と判断し、その他の脆弱性を修正するためにコードを変更した場合は、フォローアップレビューを要求します。フォローアップレビューを要求するには、AppExchange セキュリティレビューウィザードの [ソリューション] ページから新しいレビューを開始します。修正したソリューションと誤検出に関するドキュメントを送信します。修正したソリューションの再テストには料金が発生します。

管理パッケージのフォローアップレビューを要求する前に、別のパッケージバージョンを作成して AppExchange パートナーコンソールに接続します。新しいバージョンのレビューを申請します。

1. [Salesforce パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [公開] > [テクノロジー] > [ソリューション] をクリックします。
3. 新しいソリューションの名前をクリックします。
4. 適切なパッケージバージョンの [レビューを開始] をクリックします。
5. [ドキュメントをアップロード] をクリックします。
6. 誤検出に関するドキュメントをアップロードし、わかりやすいタイトルを付けます。
7. セキュリティレビューウィザードでその他の必須情報をすべて入力し、レビュー料金を支払い、新しいパッケージのレビューを申請します。

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

- 「リスティングの管理」

コードの修正と誤検出があった API ソリューションのフォローアップセキュリティレビューの要求

API ソリューションの AppExchange セキュリティレビューで特定された一部の脆弱性を誤検出と判断し、その他の脆弱性を修正するためにコードを変更した場合は、フォローアップレビューを要求します。フォローアップレビューを要求するには、AppExchange パートナーコンソールの [ソリューション] ページから新しいレビューを開始します。修正したソリューションと誤検出に関するドキュメントを送信します。修正したソリューションの再テストには料金が発生します。

フォローアップレビューを要求する前に、レビューを申請する新しい API ソリューションを作成します。

1. [Salesforce パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [公開] > [テクノロジー] > [ソリューション] をクリックします。
3. 新しい API ソリューションをパートナーコンソールに接続します。
 - a. [テクノロジーを接続] をクリックします。
 - b. [API] を選択します。
 - c. API ソリューションのタイプを選択します (Salesforce Platform、Marketing Cloud など)。
 - d. 新しい API ソリューションについて必須情報を入力します。
 - e. [接続] をクリックします。

ユーザ権限

AppExchange パートナーコンソールにアクセスする

- 「リスティングの管理」

これで API ソリューションが [ソリューション] ページに表示されます。

4. [ソリューション] ページで新しい API ソリューションを見つけます。
5. セキュリティレビューウィザードを起動するには、[レビューを開始] をクリックします。
6. [ドキュメントをアップロード] をクリックします。
7. 誤検出に関するドキュメントをアップロードし、わかりやすいタイトルを付けます。
8. セキュリティレビューウィザードでその他の必須情報をすべて入力し、レビュー料金を支払い、新しいソリューションのレビューを申請します。

AppExchange でのソリューションの公開

セキュリティレビューが完了し、ソリューションが合格しました。おめでとうございます。AppExchange でソリューションを公開して配布しましょう。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [公開] をクリックします。
3. [リスト] をクリックします。
4. ソリューションのタイルをクリックし、必要に応じてリストを編集します。
5. [Publish Listing (リストを公開)] をクリックします。
6. 確認のために、もう一度 [Publish Listing (リストを公開)] をクリックします。

Salesforce は、リストの公開準備ができていることを確認します。たとえば、タイル画像がアップロードされていることや、ソリューションがセキュリティレビューに合格したことなどが確認されます。確認が成功したら、リストは公開され、AppExchange にアクセスするすべてのユーザーに表示されます。

関連トピック:

https://partners.salesforce.com/s/education/general/AppExchange_Listing

[AppExchange リストを作成または編集する](#)

ユーザ権限

公開コンソールにアクセスする

- 「リストの管理」

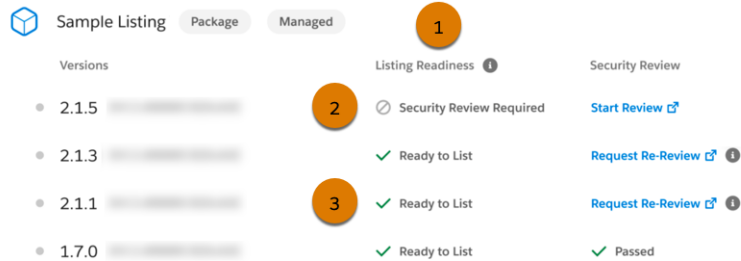
AppExchange での定期的なセキュリティ再レビュー

最新の脆弱性に対する保護措置として、AppExchange ソリューションのセキュリティの再レビューを定期的に行っています。これらのレビューでは、最初のセキュリティレビューと同じ範囲で、自動テストと手動テストを実施します。ソリューションの再レビューを自発的に申請することもできます。また、ソリューションの再レビューが必要であることを Salesforce から通知する場合があります。どちらの場合も、セキュリティレビュー料金が発生します。

セキュリティレビューに合格したソリューションの管理パッケージバージョンをアップグレードする場合は、すべてのレビュープロセスを再度行うことはありません。新しいバージョンを AppExchange リストにすぐに連携付けることができます。

再レビューの対象となるソリューションは、潜在的なリスクと、ソリューションがリストで公開されてからの時間を考慮して決めます。潜在的なリスクは、リスク要因レポートを実行して判断します。ソリューションに大幅な変更があることが示された場合は、再レビューを実施する可能性があります。ただし、リスク要因が低いソリューションでも再レビューの対象となる場合があります。

ソリューションの再レビューが必要であるかどうかを確認するには、Salesforce パートナーコンソールの [Solutions (ソリューション)] ページで [Listing Readiness (リスト対応状況)] 領域 (1) を確認します。[Security Review Required (セキュリティレビューが必要)] (1) と表示されている場合は、ソリューションは再レビューの対象です。[Ready to List (リスト準備完了)] (3) と表示されている場合は、自発的に再レビューを要求することができますが、必須ではありません。



ソリューションがSalesforceのセキュリティ標準を満たしていないことが見つかった場合は、その旨をメールで通知し、問題を解決するための時間 (通常は 60 日間) を猶予します。極端なケースでは、AppExchange 上で一般に表示されないようにします。配布のために再度表示されるようにするには、セキュリティ問題を修正し、フォローアップレビューを申請する必要があります。

AppExchange ソリューションの定期的なセキュリティ再レビューの申請

AppExchange ソリューションが定期的なセキュリティ再レビューの対象であるという通知を受け取った場合は、Salesforce パートナーコンソールを使用して必要な資料を送信してください。最初のセキュリティレビューに合格している場合は、以降のバージョンについて、セキュリティの再レビューを自発的に申請することができます。

AppExchange ソリューションの定期的なセキュリティ再レビューの申請

AppExchange ソリューションが定期的なセキュリティ再レビューの対象であるという通知を受け取った場合は、Salesforce パートナーコンソールを使用して必要な資料を送信してください。最初のセキュリティレビューに合格している場合は、以降のバージョンについて、セキュリティの再レビューを自発的に申請することができます。

1. Salesforce パートナーコミュニティにログインします。
2. [Publishing (公開)] > [Technologies (テクノロジー)] > [Solutions (ソリューション)] をクリックします。
3. ソリューション名をクリックして関連バージョンを表示します。
4. ソリューションのバージョンが再レビューの対象であるという通知を受け取った場合は、そのバージョンを探して選択し、[Start Review (レビューを開始)] (1) をクリックします。再レビューを自発的に申請する場合は [Request Re-Review (再レビューを要求)] (2) をクリックします。

ユーザ権限

- Salesforce パートナーコンソールでセキュリティレビューを管理する
- 「リストの管理」

Sample Listing	Package	Managed
<p>Listing Readiness ⓘ</p> <p>Security Review Required</p>	<p>Security Review Required</p> <p>Start Review ⓘ 1</p>	<p>Security Review</p> <p>Request Re-Review ⓘ ⓘ</p>
<p>2.1.5</p>	<p>Ready to List</p>	<p>Request Re-Review ⓘ ⓘ</p>
<p>2.1.3</p>	<p>Ready to List</p>	<p>Request Re-Review ⓘ ⓘ</p>
<p>2.1.1</p>	<p>Ready to List</p>	<p>Request Re-Review ⓘ ⓘ</p>
<p>1.7.0</p>	<p>Ready to List</p>	<p>Passed</p>

セキュリティレビューウィザードが起動します。

5. 必要な詳細を入力し、レビュー料金を支払って、要求を送信します。

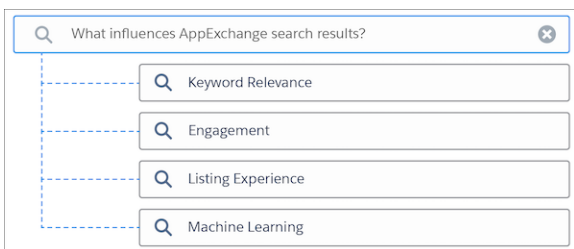
要求の送信後、必要な資料が揃っていることを確認してから、レビューを開始します。再レビューには最大6週間かかります。

AppExchange 検索のしくみ

検索は、Salesforce の顧客が AppExchange でソリューションを見つけるための最も一般的な方法の1つです。ここでは、キーワードの関連性、エンゲージメント、リストエクスペリエンス、および機械学習が、顧客に表示される検索結果にどのような影響を与えるのかを学びます。また、ヒントを利用して、顧客がビジネス問題のソリューションを検索したときに自分のリストを発見してもらえるようにします。

AppExchange の検索結果に影響を与えるもの

AppExchange を検索する場合、表示される結果に影響を与える要素が4つあります。最も重要な要素はキーワードの関連性で、エンゲージメント、リストエクスペリエンス、機械学習がその後続きます。



キーワードの関連性

キーワードの関連性では、顧客の検索語がリストのテキストにどの程度一致しているかが検討されます。検索語とリストのテキストの一致度が高いほど、キーワードの関連性は高くなります。タイトル、タグライン、および概要説明のテキストは、リストの他のテキストより加重が大きくなります。

例

ある顧客が AppExchange にアクセスして、アンケート管理用のアプリケーションを検索します。この検索には、フィードバックおよび収集という語が含まれます。これらの語を含む AppExchange のリストは、これらの語を含まないリストよりも、キーワードの関連性が高くなります。

エンゲージメント

エンゲージメントは、リストの人気度を基準に通知されます。エンゲージメントでは、スクリーンショットの表示、機能制限トライアル、インストールなどの顧客の活動が考慮されます。これらの活動は毎日測定され、過去 30 日間にわたって集計されます。リスト上で発生した顧客の活動が多いほど、顧客のエンゲージメントが高いこととなります。

例

ある顧客が AppExchange にアクセスして、ドキュメント生成アプリケーションを検索します。検索の実行後、顧客は 2 つのリストにアクセスします。最初のリストは、解像度の低いスクリーンショットがいくつかあるだけです。このため、顧客は、操作を行わずにリストを離れます。2 番目のリストは、解像度の高いスクリーンショット、動画、無料トライアルがあります。顧客は、それぞれのものを操作します。このシナリオでは、顧客の行動から、最初のリストより 2 番目のリストの方がエンゲージメントが高くなります。

リストエクスペリエンス

リストエクスペリエンスでは、キーワードの関連性やエンゲージメント要素に含まれない、リストの他の側面が考慮されます。これらの側面には、「Pledge 1% (1% の支援約束)」プログラムへの参加など、Salesforce パートナーシップに関連するものもあれば、リスト上のレビューの数や品質、ソリューションの最終更新日時など、ソリューションに対する顧客のエクスペリエンスに関連するものもあります。

例

ある Salesforce パートナーが AppExchange 上に新しいテレフォニーアプリケーションをリストします。アプリケーションの認知度とインストールを促進するために、このパートナーは、マーケティングキャンペーンを立ち上げます。次に、アプリケーションをインストールした顧客にフォローアップメールを送信します。このメールには、アプリケーションを試していただくことに対する顧客への感謝と、AppExchange 上でフィードバックを共有することへの依頼が記載されています。これにより、レビュー数とリストエクスペリエンスが増加します。

機械学習

機械学習では、AI を使用して AppExchange 上での検索エクスペリエンスが改善されます。他の検索プロバイダーと同様、機械学習アルゴリズムに関する詳細は共有されません。ただし、アルゴリズムの設計の中心にあるのは、信頼と顧客の成功です。信頼とは、確実性を保証するためアルゴリズムが検索結果を絶えず調整することを意味します。顧客の成功とは、アルゴリズムが顧客の検索目的について推測し、肯定的な結果が得られる可能性が最も高くなるように、結果に優先順位を付けることを意味します。

例

ある顧客が AppExchange にアクセスして、Appy's Maps という名前のソリューションを検索します。検索結果には、Appy's Maps とともに、競合するソリューションが表示されます。このソリューションが表示されるのは、Appy's Maps を検索したユーザーが、この競合するソリューションを最終的にインストールしたためです。機械学習アルゴリズムは、この結果を肯定的と判断し、競合するソリューションを Appy's Maps に関連付けます。

顧客が AppExchange を検索するときに、自分のリストを簡単に見つけてもらうには、どうすればよいですか？

AppExchange の検索結果で自分のリストを目立たせるのに役立つヒントを次に示します。

要素	ヒント
キーワードの関連性	<ul style="list-style-type: none"> • オファリングで解決されるビジネス問題を明確化して、リストのキーワードを選択します。キーワードをリストに取り込むときは、タイトル、タグライン、および概要説明に的を絞ります。 • キーワードの詰め込みを避けます。リストに含めるキーワードが多すぎたり、無関係すぎたりすると、顧客がその価値を理解することが難しくなります。また、機械学習アルゴリズムにも悪影響が及びます。 • Marketplace Analytics の視覚化を使用して、リストの活動に影響を与えるキーワードをレビューします。この視覚化により、表示回数が最多のタイトル、動画、およびデモに関連付けられているキーワードを確認できます。エンゲージメントを評価するために分析を定期的にレビューして、オファリングを改善します。
エンゲージメント	<ul style="list-style-type: none"> • リストにスクリーンショット、グラフィックのタイトル、動画、およびデモが含まれていることを確認します。エンゲージメントは、顧客がメディアを操作すると強化されます。このため、数量ではなく、品質を重視します。 • ソリューションのメリットを説明するスクリーンショットを顧客にスクロールしてもらるようにします。行動喚起や視覚的な補助を追加して、顧客がデモビデオを見るように導きます。 • 動画を使用してソリューションを宣伝します。 • デモビデオを使用して、ソリューションの機能を詳細に説明します。
リストエクスペリエンス	<ul style="list-style-type: none"> • ソリューションが受け取るフィードバックを監視します。肯定的なフィードバックには感謝の念を持って対応し、否定的なフィードバックには役立つヒントや解決策を示して対応します。AppExchange では、公開されたレビューを編集しません。ただ

要素	ヒント
	<p>し、顧客は、あなたとの肯定的な対話に基づいてレビューを編集できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リストを常に新しい状態に保ちます。新しいパッケージをアップロードし、新しいバージョンをリリースするときは、リストの内容をレビューします。最新の機能が説明されていることを確認して、最適なキーワードを使用します。 • Salesforce リリースに関する最新情報を把握します。ソリューションが Salesforce の最新テクノロジーとともに機能するかを確認し、状況に応じてリストを更新します。

検索位置を上位に保つことは、マラソンのようなもので、短距離走的なものではありません。すべての検索要素が一体となって働き、各要素は時間とともに変化する可能性があります。リストのキーワード、内容、および分析を定期的にレビューして、機械学習に寄与できるようにしてください。また、制御対象の要素を更新してください。

関連トピック:

[効果的な AppExchange リストにする](#)

[AppExchange リードの収集](#)

[顧客はどのように私のリストを見つけるのですか?](#)

メール通知

インストール通知メール

アプリケーションまたはコンポーネントをインストールしてから 30 日後に、Salesforce から登録者にメールが送信されます。このメールでは、登録者に感謝すると共に、登録者がレビューを書いて他の人と体験を共有することを促します。メールが送信されるのは、次の場合のみです。

- 登録者に有効なメールアドレスがある。
- 登録者がまだ通知を受け取っていない。
- 登録者がまだレビューを投稿していない。

レビュー通知メール

登録者がリストに関するレビューやコメントを投稿すると、関心があると思われる関係者にメールが送信されます。登録者が受け取る通知は、会話におけるロール(プロバイダー、レビュー作成者、コメント投稿者)に応じて異なります。

メール通知の種別	送信先	詳細
リストに対する新規レビュー	プロバイダー	リストのレビューをユーザーが投稿すると常に送信されます。
レビューに対する新規コメント	レビュー作成者	レビュー作成者以外のユーザーがレビューに対してコメントし、作成者が自分のプロフィールでメール通知を受信するように選択している場合にのみ送信されます。作成者が通知に返信すると、返信はレビューに対する新規コメントとして投稿されます。
レビューに対する他のユーザーのコメント	レビューにコメントしたユーザー	コメントしたレビューに対して他のユーザー (レビュー作成者以外) もコメントし、自分のプロフィールでメール通知を受信するように選択している場合にのみ送信されます。新規コメントごとに各コメント投稿者に送信されるメール通知は最大1つです。ユーザーが通知に返信すると、返信はレビューに対する新規コメントとして投稿されます。
リストのレビューに対する新規コメント	プロバイダー	リストのレビューに対してユーザーが新規コメントを書くと常に送信されます。

AppExchange リードの収集

リードを収集し、Salesforce 組織に配信するように AppExchange リストを設定できます。顧客の特定の操作 (リストのデモ動画の視聴など) によってリード収集をトリガーできます。

AppExchange リード

AppExchange リストでリード収集を有効にしている場合に、顧客がリストを操作すると、AppExchange がリードを記録します。Salesforce 組織で Web-to-リードを有効にしている場合には、AppExchange がリードをその組織に配信できます。Web-to-リードの設定の中には、リードが組織に配信されないようにするものもあります。

AppExchange リードとライセンス活動

AppExchange リストでリード収集を有効にしている場合に、顧客がリストを操作すると、AppExchange がリードを記録します。ライセンスレコードは、顧客がソリューションをインストールした場合に生成されます。

AppExchange リード収集の有効化

顧客が AppExchange リストを操作したときにリードを収集します。

AppExchange リードソースコード

リードソースコードからリードが作成された状況に関する情報が得られるため、今後の対処法の判断に役立てることができます。

AppExchange リードのトラブルシューティング

AppExchange リストでリード収集を有効にしましたが、組織のリード数が予想と異なっています。リード転送ルール、reCaptcha 確認、その他の設定によって、AppExchange が Salesforce 組織に送信するリードがどのように決定されるのかを説明します。

関連トピック:

[AppExchange Marketplace Analytics のリードイベントとリードの違いは何ですか?](#)

https://help.salesforce.com/articleView?id=setting_up_web-to-lead.htm

AppExchange リード

AppExchange リストでリード収集を有効にしている場合に、顧客がリストを操作すると、AppExchange がリードを記録します。Salesforce 組織で Web-to-リードを有効にしている場合には、AppExchange がリードをその組織に配信できます。Web-to-リードの設定の中には、リードが組織に配信されないようにするものもあります。

リードを収集できる顧客の操作は次のとおりです。


- ソリューションをインストールする
- 機能制限トライアルを試用する
- デモまたは動画を視聴する
- 無料トライアルにサインアップする
- [詳細はこちら] をクリックする

リストでリード収集を有効にする前に、次のことを実行します。

- リードを受信する組織で Web-to-リードを設定する。
- 組織の Web-to-リード設定で [reCaptcha 確認が必要] を無効にする。reCaptcha が有効になっている場合は、AppExchange リードが組織に送信されません。

リード収集はリストごとに設定します。各リストで、リード収集をトリガーする顧客の操作を有効にします。また操作ごとに、必要な設定を完了します。たとえば、顧客がデモを視聴した場合にリードを収集する場合は、リストにデモ動画を追加する必要があります。

顧客がリストで操作を行い、その操作でリード収集が有効になっている場合は、顧客に AppExchange リードのサインアップフォームへの記入を求めるメッセージが表示されます。フォームで収集された情報が顧客の活動データと組み合わせられ、リードとして共有されます。

 **メモ:** 顧客に記入を求めるリードフォームを変更することはできません。リードフォームを改善するアイデアがある場合は、[IdeaExchange](#) でお知らせください。

リストのリード収集の設定に関係なく、顧客はデモの視聴、機能制限トライアルの試用、[詳細はこちら] のクリック、ソリューションのインストールを実行できます。

AppExchange リードとライセンス活動

AppExchange リストでリード収集を有効にしている場合に、顧客がリストを操作すると、AppExchange がリードを記録します。ライセンスレコードは、顧客がソリューションをインストールした場合に生成されます。

AppExchange は、リードの生成を選択した特定のアクションを顧客がリストで実行したときにリードを生成できます。

リードを生成できる顧客の操作は次のとおりです。

- ソリューションをインストールする
- 機能制限トライアルを試用する
- デモまたは動画を視聴する
- 無料トライアルにサインアップする
- [詳細はこちら] をクリックする

これに対し、ライセンスレコードが生成されるのは、顧客がソリューションをインストールした場合のみです。ライセンスを受信するには、パートナービジネス組織で [ライセンス管理アプリケーション \(LMA\)](#) も有効にしている必要があります。

AppExchange リード収集の有効化

顧客が AppExchange リストを操作したときにリードを収集します。

リード収集を有効にする前に、リードを受信する Salesforce 組織の準備が整っていることを確認します。

- リードは、Developer Edition 組織ではなく、標準の Salesforce 組織で受信する必要があります。
 - リードを受信する組織の Web-To-リードが有効になっていなければなりません。
 - Web-to-リードの設定の [reCaptcha 確認が必要] は無効にしておきます。
1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
 2. [Publishing (公開)] タブをクリックしてパートナーコンソールを起動します。
 3. [Listings (リスト)] タブで、リストタイトルをクリックします。
 4. [Grow Your Business (ビジネスを成長させる)] をクリックします。
 5. リードを受信する Salesforce 組織を指定します。リードとライセンスを1つの便利な場所から管理できるようにするため、パートナービジネス組織を使用することをお勧めします。
 6. 1つ以上の活動のリード収集を有効にして、必要な設定を完了します。
 7. 変更内容を保存します。

ユーザ権限

AppExchange リストを編集する



- 「リストの管理」

AppExchange リードソースコード

リードソースコードからリードが作成された状況に関する情報が得られるため、今後の対処法の判断に役立てることができます。


AppExchange リードソースコードは、常に SFDC-XX | リスト名または SFDC-dup-XX | リスト名の形式で表示されます。XX は、ユーザーが実行してリードが生成されることになったアクションを表します。

次の表は AppExchange のアクションとその意味を示しています。

アクション	説明
IN	<p>ユーザーがリストで[今すぐ入手]をクリックし、ソリューションのインストールプロセスを開始した。このアクションでは、契約条件に同意し、確認ページのインストールボタンをクリックします。</p> <p> メモ: 時として、ユーザーがインストールを完了しないことや、後からソリューションをアンインストールすることがあります。パッケージのインストールを追跡する場合は、ライセンス管理アプリケーション (LMA) を使用します。</p>
DM	ユーザーがリストで[デモを見る]をクリックし、デモ動画の一部または全部を視聴した。
LM	<p>ユーザーがリストで[詳細はこちら]をクリックした。</p> <p> メモ: これまでリストに表示されていた[詳細はこちら]ボタンが[今すぐ入手]ボタンになり、IN アクションでリードソースコードを受信するようになりました。</p>
TS	ユーザーがリストで[今すぐ入手]をクリックし、Salesforce とソリューションの30日間無料トライアルを開始した。このユーザーは Salesforce の既存のユーザーである可能性があります。
TD	ユーザーがリストで[Test Drive (機能制限トライアル)]をクリックし、テスト組織でソリューションを試用した。

パッケージのインストールのリード

パッケージのインストールは、リードの作成をトリガーするユーザー活動の一例です。ただし、AppExchange がインストールリードを収集する唯一的手段ではありません。ライセンス管理アプリケーション (LMA) でもインストールリードが作成されます。例を見てみましょう。ユーザーがソリューションを購入し、インストール URL を使用してインストールしたとします。AppExchange はこのユーザーの活動を認識していないため、リードは作成されません。他方、このインストールによって LMA のリードの作成がトリガーされます。どのアプリケーションによってリードが作成されたのかを知りたい場合は、リードソースコードを確認します。

 **メモ:** LMA リードのソースコードは Package Installation です。

では、上記の例を少しひねって、同じパッケージで複数のインストールリードが作成される場合を見てみましょう。最初に、ユーザーが[今すぐ入手]をクリックしてインストールを開始しますが、完了しませんでした。AppExchange がリードを作成します。このソースコードは SFDC-IN|Simple Sample App です。後に、同じユーザーがソリューションを購入し、インストール URL を使用してインストールしました。LMA が 2 人目のリードを作成し、このソースコードは Package Installation です。同じユーザーです。パッケージも同じです。一見リードが重複しているように思われますが、リードソースコードが異なります。

LMA リードについての詳細は、「[LMA のリードレコードとライセンスレコード](#)」を参照してください。

重複リード

重複リードとは、過去 180 日間以内に、ユーザー、リスト、アクションについて AppExchange が組織に送信済みのリードです。

重複リードのソースコードには常に `-dup-` 文字列が追加され、`SFDC-dup-XX|` リスト名という形式で表示されます。たとえば、`SFDC-dup-DM|Simple Sample App` は、`[Simple Sample App]` リストで `[デモを見る]` をクリックしたユーザーが重複リードであることを示します。

AppExchange リードのトラブルシューティング

AppExchange リストでリード収集を有効にしましたが、組織のリード数が予想と異なっています。リード転送ルール、reCaptcha 確認、その他の設定によって、AppExchange が Salesforce 組織に送信するリードがどのように決定されるのかを説明します。

カスタムリード転送ルール

カスタムリード転送ルールは一般に、重複リードや不要なリードが営業チームに送られないようにする目的で設定します。

たとえば、あなたの会社の従業員が AppExchange リストでデモ動画を視聴したとします。そして、連絡先情報の入力を求められたときに、会社のメールアドレスを入力しました。AppExchange がこの操作をリードとして記録します。営業の側から言えば、これは不要なリードです。

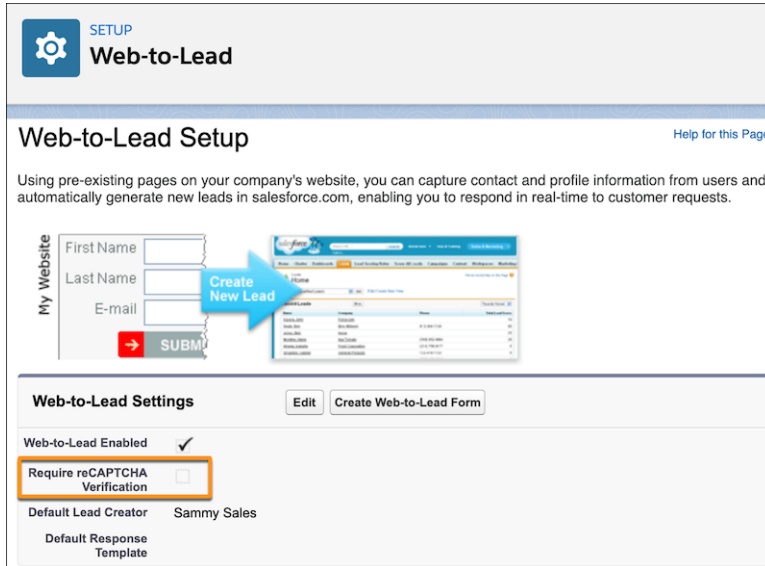
自社のメールアドレスを入力したユーザーが Salesforce 組織に伝達されないようにするには、カスタムリード転送ルールを作成できます。「[Lead Routing in Salesforce \(Salesforce でのリード転送\)](#)」を参照してください。

顧客の連絡設定

顧客は、AppExchange プロバイダーと連絡先情報を共有し、AppExchange プロバイダーからの連絡を許可するかどうかを選択できます。AppExchange は、プロバイダーからの連絡を許可する顧客のリードのみを Salesforce 組織に送信します。

Web-to-リードの reCaptcha

Salesforce 組織で AppExchange リードを受信するためには、組織の Web-to-リード設定で `[reCaptcha 確認が必要]` を無効にします。reCaptcha が有効になっている場合は、AppExchange リードが組織に送信されません。



州/国/テリトリー選択リスト

AppExchange は Web-to-リードを使用してリードを組織に送信します。ユーザーは、AppExchange の Web-to-リードフォームに記入して、リードの連絡先情報を提供します。この時、選択リストから国またはテリトリーを選択する必要があります。選択した国またはテリトリーはテキスト値として保存されます。たとえば、ユーザーが [日本] を選択したとします。ここで保存される値は、「日本」というフルネームです。国が「日本」に設定されている組織に AppExchange リードが送信されます。

州と国/テリトリーの選択リストが有効になっている組織では、必要に応じて、Salesforce が事前定義した標準の州と国のリストから、これらの選択リストに値を入力できます。国名やインテグレーション値(API参照名ともいう)も編集できます。

Web-to-リードフォームは、州と国/テリトリーの選択リストのインテグレーション値を使用します。AppExchange リードを正常に作成するためには、組織の国/テリトリーのインテグレーション値が、AppExchange の Web-to-リードフォームで取得した値と一致している必要があります。この例では、両方の値が「日本」でなければなりません。

The screenshot shows the 'Country/Territory Details' configuration page in Salesforce. The breadcrumb trail is 'Data Management > State and Country/Territory Picklists > Configure States and Countries and Territories'. The page title is 'Country/Territory Details'. There are 'Save' and 'Cancel' buttons at the top. The main section is 'Country/Territory Information' and contains the following fields: 'Country/Territory Name' (Japan), 'Country/Territory Code' (JP), and 'Integration Value' (Japan). There are also checkboxes for 'Active' and 'Visible', both of which are checked. Below this section is a 'States (0)' section with a 'New State' button and a message 'No records to display'. At the bottom of the page are 'Save' and 'Cancel' buttons.

国/テリトリーの名前を変更しても AppExchange リードの作成には影響ありませんが、インテグレーション値を変更すると影響が生じます。インテグレーション値は変更しないでください。AppExchange リードで送信された国またはテリトリーが、組織のインテグレーション値と一致している必要があります。一致するものがなければ、リードの作成に失敗します。州選択リストでも同じ問題が生じます。

州と国/テリトリーの選択リストに関連するリードの失敗を回避するために、2つのオプションがあります。選択リストの標準インテグレーション値を使用する方法と、州と国/テリトリーを2通りの値で選択リストに追加する方法です。

- 選択リストの標準インテグレーション値の使用

このオプションを実施する場合は、組織で Salesforce の標準の州選択リストと国/テリトリー選択リストを使用し、インテグレーション値はそのままにします。ほとんどのパートナーにはこのオプションをお勧めします。

このオプションでは、AppExchange リードが州と国/テリトリーのフルネームとともに組織に伝達されます。これらの名前は、標準選択リストのインテグレーション値に一致します。

- 州と国/テリトリーを2通りの値で選択リストに追加

組織で州や国/テリトリーの2文字の省略名を使用する必要がある場合はこのオプションを実施します。たとえば、ユーザーインターフェースに省略名を表示する場合や、省略名を使用して他のシステムと統合する場合です。

州と国/テリトリーのインテグレーション値とは異なる2つ目の値も選択リストに追加します。一方の値を州または国/テリトリーの2文字の省略名に設定します。他方の値を州または国/テリトリーのフルネームに設定します。選択リストには、2文字の省略名のエントリのみが表示されるようにします。

このオプションでは、AppExchange リードが州と国/テリトリーのフルネームとともに組織に伝達され、組織のフルネームのインテグレーション値と照合されます。また、必要に応じて 2 文字のインテグレーション値を使用できます。

関連トピック:


<https://www.salesforce.com/products/guide/lead-gen/routing-assignment-rules/>

https://help.salesforce.com/articleView?id=admin_state_country_picklists_standard_countries.htm

https://help.salesforce.com/articleView?id=admin_state_country_picklists_integ_values.htm

AppExchange リスティングでのソリューションの更新

公開したソリューションを修正した場合は、AppExchange リスティングを更新して、新しい顧客が最新バージョンにアクセスできるようにします。ソリューションがセキュリティレビューの対象となる場合、バージョンのセキュリティレビューを申請する前に新しいバージョンを公開リスティングにリンクできますが、新しいバージョンが合格するまで、更新されたリスティングは公開できません。

 **メモ:** Salesforce では、AppExchange にあるソリューションの定期的な再レビューを実施しています。ソリューションがセキュリティレビューの対象となり、大幅に変更されていた場合は、新しいバージョンの再レビューを手配するために Salesforce から連絡があります。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [公開] をクリックします。
3. [リスティング] をクリックします。
4. 更新するリストをクリックします。
5. [Link Your Solution (ソリューションをリンク)] をクリックします。
6. サイトに関連付けるソリューションのバージョンを探します。
7. [リスティング状況] をクリックします。
8. [公開] をクリックします。

FAQ - AppExchange

次のリストは、AppExchange での販売に関するよくある質問を示しています。

- [業種を追加できますか?](#)
- [AppExchange でアプリケーションまたはコンポーネントを公開するのに APO が必要ですか?](#)
- [会社名を変更できますか?](#)
- [Salesforce Sandbox でソリューションを作成し、AppExchange にアップロードできますか?](#)
- [レビューを編集できますか?](#)
- [リストは変えずに、リストが提供するパッケージを変更することはできますか?](#)
- [管理パッケージを新しいバージョンまたはパッチで更新できますか?](#)
- [顧客はどのように私のリストを見つけるのですか?](#)
- [アプリケーションの API トークンを取得する方法は?](#)

- リストの人気度を上げる方法は?
- Salesforce によって削除されたリストを確認する方法は?
- 顧客を新バージョンにアップグレードする方法は?
- 無料トライアルと機能制限トライアルの違いは?
- アイデアはどこで共有できますか?
- レビューはどこで書けますか?

業種を追加できますか?

AppExchange でアプリケーションまたはコンポーネントを公開するのに APO が必要ですか?

会社名を変更できますか?

Salesforce Sandbox でソリューションを作成し、AppExchange にアップロードできますか?

レビューを編集できますか?

リストは変えずに、リストが提供するパッケージを変更することはできますか?

管理パッケージを新しいバージョンまたはパッチで更新できますか?

顧客はどのように私のリストを見つけるのですか?

アプリケーションの API トークンを取得する方法は?

リストの人気度を上げる方法は?

Salesforce によって削除されたリストを確認する方法は?

顧客を新バージョンにアップグレードする方法は?

無料トライアルと機能制限トライアルの違いは?

アイデアはどこで共有できますか?

レビューはどこで書けますか?

1つのソリューションに対して複数のリスティングを設定できますか?

業種を追加できますか?

いいえ。不正使用を防止するために、リストごとに指定できる業種は2つのみです。より多くの業種を対象とする場合は、リストの詳細説明または概要説明内にその旨を明記してください。

AppExchange でアプリケーションまたはコンポーネントを公開するのに APO が必要ですか?

いいえ、AppExchange でアプリケーションまたはコンポーネントを公開するのに、AppExchange 配信組織(APO)は不要になりました。アプリケーションまたはコンポーネントを開発した組織を AppExchange 公開コンソールに直接接続できるようになりました。組織を接続するには、パートナーコミュニティで [Publishing (公開)] ページを開き、[Organizations (組織)] タブをクリックします。組織を接続する前に、パートナーコミュニティで「リストの管理」権限があることを確認してください。

会社名を変更できますか?

はい、パートナーコンソールの [会社情報] ページで、会社名や組織プロフィールの他の内容 (ロゴ、連絡先情報など) を変更できます。

Salesforce Sandbox でソリューションを作成し、AppExchange にアップロードできますか?

いいえ。ソリューションのインストールとテストには Sandbox を使用できますが、ソリューションの作成とアップロードには Developer Edition 組織を使用する必要があります。

レビューを編集できますか?

自分が作成したレビューは編集できます。自分以外が書いたレビューにはコメントできます。

リストは変えずに、リストが提供するパッケージを変更することはできますか?

はい、パートナーコンソールの [リスティング] タブで、リスティングにリンクされているパッケージを変更できます。

まず、新しいパッケージを含む組織がパートナーコンソールに接続されていることを確認します。リスティングが公開されている場合は、パッケージが AppExchange セキュリティレビューに合格していることを確認します。

次に、パートナーコンソールの [リスティング] タブに移動します。更新するリスティングを編集します。パッケージを変更するには、[ソリューションをリンク] ページに移動し、新しいパッケージバージョンを選択します。

管理パッケージを新しいバージョンまたはパッチで更新できますか?

はい、ただし、[パッケージをライセンス管理アプリケーション \(LMA\) に登録](#)する必要があります。

顧客はどのように私のリストを見つけるのですか?

顧客は、ソリューションやコンサルティングサービスをさまざまな方法で検索します。AppExchange では、キーワードを使用した検索やカテゴリを使用した参照が行われます。また、Google のような外部検索プロバイダーを使用してリストが検索されることもあります。これらの各シナリオでリストがどのようにランキングされているかを理解すると、潜在的な顧客への露出度を高めるうえで役立ちます。

キーワード

ほとんどの場合、顧客がソリューションやコンサルティングサービスを探るときは、AppExchange 上で用語 (キーワードとも呼ばれる) を検索します。AppExchange は、一致する結果を返し、キーワードの関連性に基づいて結果を並び替えます。この仕組みについて次のヒントを参考にしてください。

- リストのどこかにキーワードを含めると、リストがそのキーワードの検索結果に表示されます。
- 一般に、リスト内でキーワードが早く現れるほど、キーワードの関連性は高くなります。

- 一般に、リスト内にキーワードが複数回現れると、キーワードの関連性は高くなります。ただし、複数回キーワードを含めても、リストのランキングは上がりません。
- 複数のキーワードが検索されると、同じ順序ですべてのキーワードが含まれるリストのみが返されます。さらに、複数のキーワードが検索されると、キャメルケース語も一致します。たとえば、Great App を検索すると、GreatApp に一致します。

人気度

顧客がカテゴリを参照してソリューションまたはコンサルティングサービスを検索すると、カテゴリ内のリストは、過去 30 日間の人気度に基づいて並び替えられます。人気度は、デモビデオの視聴や [詳細はこちら] リンクのクリックなど、顧客が実行するアクションに基づいています。ソリューションのインストールなど、購入確率が高い活動は、スクリーンショットのクリックなど購入確率の低い活動よりも多く重み付けされます。リストに対するレビュー数と平均評価は、人気度には影響を与えません。

並び替え

顧客は、評価、Salesforce エディション、価格などの属性で結果を並び替えることもできます。評価で並び替える場合、最初に星の数、次にレビュー数が基準として使用されます。たとえば、星 5 個のレビューが 1 件あるリストは、星 4 個のレビューが 20 件あるリストよりも上位にランクされます。

検索エンジン


AppExchange は公開 Web サイトであるため、検索エンジンは、リストページをインデックス化して、検索結果で返します。外部検索プロバイダーでのランキングを上げるには、Web サイト、ブログ、Facebook、および Twitter ページでリストの URL が相互参照されるようにします。

関連トピック:

[AppExchange 検索のしくみ](#)

アプリケーションの API トークンを取得する方法は?

アプリケーションが AppExchange セキュリティレビューに合格したら、そのアプリケーションの API トークンを要求できます。トークンを要求するには、[Salesforce パートナーコミュニティ](#) でサポートケースを登録します。商品には、「Partner Programs & Benefits (パートナープログラムと特典)」と指定します。トピックには、「ISV Technology Request (ISV テクノロジー要求)」と指定します。

 **メモ:** この機能は使用資格のあるパートナーが使用できます。資格要件を含むパートナープログラムの詳細は、www.salesforce.com/partners を参照してください。

リストの人気度を上げる方法は?

人気度は、顧客の活動に基づいて決まります。AppExchange では、Install (インストール)、Learn More (詳細)、Test Drive (機能制限トライアル)、Demo (デモ)、View Screenshots (スクリーンショットの表示)、White Papers (ホワイトペーパー)、Data Sheets (データシート) など、リストに対してユーザーが行うすべての操作を測定します。AppExchange では、ユーザーの関心を示す活動を重要度に従って重み付けし、システムの不正使用と思われる操作は測定結果から除外します。

AppExchange では、毎日人気度を再計算して、30 日間で結果を集計し、評価します。カテゴリ別に参照すると、過去 30 日間の相対的人気度で並び替えられたリストが表示されます。

顧客によるリストへのレビューや評価は人気度には影響しません。AppExchange 訪問者は必要に応じて評価順でリストを並び替えることができます。

ランキングを上げるためのいくつかのヒントを次に示します。

- 機能制限トライアルを含める。ユーザーはアプリケーションまたはコンポーネントを試すことができることを好みます。機能制限トライアルの数は人気度に影響します。リードを収集できるという利点もあります。
- 画像を追加する。訪問者が最初に行うことの1つは、[View Screenshots (スクリーンショットを表示)] ボタンをクリックすることです。スクリーンショットがないと、多くのユーザーはリストを見ようとしません。
- アプリケーションまたはコンポーネントが顧客の最終的な目的にどのように影響するかを示すリソースを追加する。たとえば、担当者がケースをすばやく解決するのに役立つコンポーネントを示す調査がある場合は、その情報をデータシートに含めます。
- 価格を明らかにする。リストに価格情報がないと、ユーザーはすぐに関心を失います。

Salesforce によって削除されたリストを確認する方法は?

AppExchange では、Salesforce によって削除されたリストを表示することはできません。ただし、パートナーコンソールには非公開リストが表示されます。このリストには、通常は定期的なセキュリティレビューで検出された問題のために Salesforce によって削除されたリストが含まれる場合があります。パートナーコンソールで非公開リストを表示するには、[Listings (リスト)] タブに移動します。[Not Published (未公開)] 検索条件を使用して、すべての非公開リストを表示します。

顧客を新バージョンにアップグレードする方法は?

管理パッケージの新しいバージョンを作成し、リリース済み状態でアップロードします。アップロードしたら、既存の顧客がアップグレードできるようにインストール URL を共有できます。顧客にバグ修正のみをリリースし、自動的にアップグレードを行う場合は、「[転送アップグレードのスケジューリング](#)」を参照してください。まだアップグレードしていない顧客を確認するには、ライセンス管理アプリケーション (LMA) を使用できます。

顧客は、AppExchange にログインして [私のインストール&サブスクリプション] ページを表示し、アップグレードが利用できるかどうかを確認することもできます。ソリューションの新しいバージョンを利用できる場合、このページに表示されます。

無料トライアルと機能制限トライアルの違いは?

無料トライアルとは、ソリューションのパッケージとサンプルデータが含まれる非本番 Salesforce 組織です。トライアルの有効期限が切れる前に顧客がソリューションの購入を選択すると、この組織が本番バージョンになります。データクリーンアップスクリプトを作成し、顧客にサンプルデータを削除するオプションを提供するソリューションにボタンを追加することをお勧めします。

また、機能制限トライアルの提供を選択することもできます。機能制限トライアルでは、トライアルを実行するすべての顧客が参照専用バージョンのソリューションにログインします。無料トライアルと同様、機能制限トライアルでは、サンプルデータとプロバイダーが選択した任意の設定を含む Developer Edition 組織を使用しません。

アイデアはどこで共有できますか?

AppExchange または Salesforce パートナープログラムの改善に関するアイデアは、パートナーコミュニティの [[コラボレーション](#)] セクションで共有できます。これらのアイデアは、Salesforce およびその他のパートナーにのみ表示されます。より広くアイデアを公開して共有するには、アイデアを [IdeaExchange](#) に投稿してください。

レビューはどこで書けますか?

リストページで、レビューの数字か、[Write the first (最初のレビューを書く)] をクリックします。すでにレビューがある場合、レビューページに移動し、そこで [Write a review (レビューを書く)] をクリックできます。各ユーザーが書けるレビューは、1 リストにつき 1 つのみです。

! **重要:** 自分のリストにレビューを書くことはできません。その他の規約情報の詳細は、AppExchange の [Terms of Use \(利用規約\)](#) を確認してください。

1 つのソリューションに対して複数のリスティングを設定できますか?

はい、1 つのソリューションを複数のリスティングにリンクできます。ただし、そうすると AppExchange でのリスティングのランキングに影響する可能性があります。Salesforce がソリューションのランク付けに使用する総計値 (ページビューなど) が、複数のリスティングに分散されます。

Checkout を使用した AppExchange での販売

クレジットカード支払および銀行送金をリストから直接受け入れるには、AppExchange Checkout を使用します。販売および収益データをインサイトおよびアクションに変換するには、Checkout 管理アプリケーションを使用します。

[AppExchange Checkout](#)

Checkout は、AppExchange の統合支払プラットフォームです。ソリューションのオンライン支払を管理したり、AppExchange ソリューションの売上を監視したりするために使用できます。Checkout を使用すると、顧客は、クレジットカードや銀行送金を使用して、ソリューションをリストから直接購入できます。Checkout を使用するには、ソリューションを管理パッケージで配布する必要があります。また、OEM アプリケーションには Checkout を使用できません。Checkout は、ライセンス管理を完全に自動化するライセンス管理アプリケーション (LMA) と一緒に使用できます。さらに、パフォーマンス追跡およびメール通知ツールである Checkout 管理アプリケーション (CMA) と一緒に使用することができます。


[Checkout 管理アプリケーション](#)

Checkout 管理アプリケーション (CMA) によって、Salesforce の機能が AppExchange Checkout に統合されます。洗練されたダッシュボードに AppExchange Checkout のデータが視覚的に表示されるため、提供しているアプリケーションのパフォーマンスを簡単に確認できます。自動メール通知によって、提供アプリケーションに関する活動が発生するたびに、顧客やチームメンバーに最新の情報を提供できます。

AppExchange Checkout

Checkout は、AppExchange の統合支払プラットフォームです。ソリューションのオンライン支払を管理したり、AppExchange ソリューションの売上を監視したりするために使用できます。Checkout を使用すると、顧客は、クレジットカードや銀行送金を使用して、ソリューションをリストから直接購入できます。Checkout を使用するには、ソリューションを管理パッケージで配布する必要があります。また、OEM アプリケーションには Checkout を使用できません。Checkout は、ライセンス管理を完全に自動化するライセンス管理アプリケーション (LMA) と一緒に使用できます。さらに、パフォーマンス追跡およびメール通知ツールである Checkout 管理アプリケーション (CMA) と一緒に使用することができます。

 **メモ:** AppExchange Checkout は英語のみで、使用資格のある Salesforce パートナーに提供されます。資格要件を含むパートナープログラムの詳細は、<https://partners.salesforce.com> を参照してください。

 **ヒント:** Checkout を使い始めたばかりの場合は、Trailhead にアクセスして、[AppExchange Checkout](#) バッジを獲得してください。

AppExchange でのソリューションの販売が Checkout によってどのくらい簡単になるかを次に示します。

目的	Checkout
最新かつ柔軟性のある支払エクスペリエンス。	<p>オンライン支払における業界のリーダーである Stripe と連動します。</p> <p>Checkout を使用することで、次のことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クレジットカード、銀行支払、またはその両方に対応できます。 • 1 回限りの価格設定プランとサブスクリプション価格設定プランを提供できます。 • クーポンとトライアルを提供できます。 • 付加価値税 (VAT) と米国売上税を収集できます。
ソリューションのライセンス許可の自動化。	<p>LMA と一緒に使用できます。</p> <p>顧客が Checkout を使用してソリューションを購入する場合、ライセンスレコードは、LMA で自動的にプロビジョニングされます。顧客がサブスクリプションをアップグレード、更新、またはキャンセルすると、Checkout はライセンスを更新します。</p>
顧客に関するインサイト。	<p>CMA と一緒に使用できます。</p> <p>CMA により、Salesforce CRM の機能が Checkout で使用可能になります。CMA のダッシュボードを使用して、収益、サブスクリプションの状況、およびその他の重要なデータを調べることができます。トライアルの期限切れや支払の却下などのイベントに関する通知をカスタマイズして顧客およびチームメンバーに送信できます。</p>

AppExchange Checkout の価格設定プラン

Checkout は、一括払いとサブスクリプションの2つの種別の価格設定プランをサポートしています。どちらの種別のプランでも、ユーザーまたは会社ごとに顧客に請求できます。ユーザーごとに請求する場合、顧客は、ソリューションを使用する組織内のすべてのユーザーのライセンスを個々に購入します。会社ごとに請求する場合、顧客は、組織全体を対象にした1つのライセンスを購入します。組織全体のライセンスは、組織内のすべてのユーザーがソリューションを使用できることを意味します。リストで複数の価格設定プランを提供することにより、顧客は柔軟な支払オプションを利用できるようになります。

AppExchange Checkout の支払方法

Checkout は、クレジットカードと銀行口座送金の2つの支払方法をサポートしています。リストでは、これらの支払方法の1つまたは両方を受け付けることができます。

AppExchange Checkout での収益の分配方法

Salesforce パートナーとして、貴社は販売するすべての AppExchange ソリューションについて収益を共有することに同意するものとします。Salesforce で分配する収益は、支払種別によって異なります。顧客が銀行送金で支払う場合、収益の分配は15%です。顧客がクレジットカードで支払う場合、収益の分配は、15%+支払パートナーの Stripe が課金するトランザクション料金あたり 0.30 ドルとなります。支払種別にかかわらず、収益分配の最小額はありませぬ。セットアップ料金、月次サービス料金、カード保管料もありません。

AppExchange Checkout の使用開始

Checkout によって、顧客は AppExchange のリストから直接、クレジットカードまたは銀行送金でソリューションを購入できます。Checkout での支払いの対応を開始するには、Stripe アカウントを作成し、アカウントをリストに接続して、リストに価格プランを追加します。これらはすべて Salesforce パートナーコンソールで行います。

AppExchange Checkout での国際支払のサポート

いくつかのステップを行うことにより、欧州連合 (EU) およびその他の地域の顧客からの支払を Checkout で受け付けることができます。まず、会社が EU または英国に本社を置いていることを確認します。次に、所在国の税務当局が付加価値税 (VAT) の徴収を義務付けている場合は、公開コンソールで VAT を有効にします。

AppExchange Checkout サブスクリプションの管理

Checkout サブスクリプションに関連する一般的な顧客の要求、たとえば、支払履歴の表示、ライセンスの追加や削除、サブスクリプションのキャンセルなどを処理します。

AppExchange Checkout の FAQ

Checkout に関するよくある質問への回答を確認してください。

AppExchange Checkout の価格設定プラン


Checkout は、一括払いとサブスクリプションの2つの種別の価格設定プランをサポートしています。どちらの種別のプランでも、ユーザーまたは会社ごとに顧客に請求できます。ユーザーごとに請求する場合、顧客は、ソリューションを使用する組織内のすべてのユーザーのライセンスを個々に購入します。会社ごとに請求する場合、顧客は、組織全体を対象にした1つのライセンスを購入します。組織全体のライセンスは、組織内のすべてのユーザーがソリューションを使用できることを意味します。リストで複数の価格設定プランを提供することにより、顧客は柔軟な支払オプションを利用できるようになります。

提供できるプランの詳細を次に示します。

価格設定プラン	価格設定単位	顧客への請求	プランの設定手段
一括払い	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーごと 会社ごと 	購入時に 1 回	Salesforce パートナーコンソールのリストビルダー
サブスクリプション	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーごと 会社ごと 	定期的 (毎月または毎年)	Salesforce パートナーコンソールのリストビルダー

AppExchange Checkout の支払方法

Checkout は、クレジットカードと銀行口座送金の 2 つの支払方法をサポートしています。リストでは、これらの支払方法の 1 つまたは両方を受け付けることができます。

-  **メモ:** Stripe でのあなたの会社の住所により、受け付け可能な銀行送金の種別が決まります。Automated Clearing House (ACH) 支払に対応するには、会社の本社が米国に置かれている必要があります。Single Euro Payment Area (SEPA) 支払に対応するには、会社の本社が欧州連合に置かれている必要があります。ACH と SEPA 両方の支払を受け付けることはできません。

支払方法	顧客の支払手段	メモ
クレジットカード	Visa、MasterCard、American Express、JCB、Discover、または Diners Club クレジットカード。	支払は即座に処理されます。
米国銀行送金	<p>米国を拠点とする銀行の当座預金口座、預貯金口座、またはマネーマーケットアカウント。</p> <p>支払は ACH ネットワークを使用して処理されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支払の処理には最大 5 日かかります。 Stripe の価格設定プランは、米ドル (USD) である必要があります。 顧客は業務用銀行口座で支払う必要があります。Checkout は個人用銀行口座からの ACH 支払をサポートしていません。 顧客には米国の請求先住所が必要です。
ヨーロッパの銀行送金	<p>欧州連合を拠点とする銀行の当座預金口座、預貯金口座、またはマネーマーケットアカウント。</p> <p>支払は SEPA フレームワークを使用して処理されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 支払は即座に処理されます。 Stripe の価格設定プランは、ユーロ (EUR) である必要があります。 顧客には EU の請求先住所が必要です。

AppExchange Checkout での収益の分配方法

Salesforce パートナーとして、貴社は販売するすべての AppExchange ソリューションについて収益を共有することに同意するものとします。Salesforce で分配する収益は、支払種別によって異なります。顧客が銀行送金で支払う場合、収益の分配は 15% です。顧客がクレジットカードで支払う場合、収益の分配は、15% + 支払パートナーの Stripe が課金するトランザクション料金あたり 0.30 ドルとなります。支払種別にかかわらず、収益分配の最小額はありませぬ。セットアップ料金、月次サービス料金、カード保管料もありません。

収益分配のしくみを確認するために、いくつか例を見てみましょう。

支払種別	例
銀行送金	<p>毎月ユーザーあたり 50 ドルのアプリケーションを販売します。顧客が銀行送金で 10 ライセンスを購入する場合、収益の分配方法は、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> トランザクション総額は、毎月 500 ドルです (毎月ユーザーあたり 50 ドル x 10 ユーザー)。 Salesforce に分配される金額は、毎月 75 ドルです (15% x 毎月 500 ドル)。
クレジットカード	<p>毎年ユーザーあたり 1,000 ドルのアプリケーションを販売します。顧客がクレジットカードで 5 ライセンスを購入する場合、収益の分配方法は、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> トランザクション総額は、毎年 5,000 ドルです (毎年ユーザーあたり 1,000 ドル x 5 ユーザー)。 Salesforce に分配される金額は、毎年 750.00 ドルです (15% x 毎年 5,000 ドル)。 Stripe に分配される金額は、0.30 ドルです (1 クレジットカードトランザクション x トランザクション料金あたり 0.30 ドル)。

AppExchange Checkout の使用開始

Checkout によって、顧客は AppExchange のリストから直接、クレジットカードまたは銀行送金でソリューションを購入できます。Checkout での支払いの対応を開始するには、Stripe アカウントを作成し、アカウントをリストに接続して、リストに価格プランを追加します。これらはすべて Salesforce パートナーコンソールで行います。

[AppExchange Checkout の Stripe アカウントの作成](#)

AppExchange リストで Checkout を使用するには、当社の支払パートナーである Stripe でアカウントを作成する必要があります。

[AppExchange リストへの Stripe アカウントの接続](#)

AppExchange のリストで Checkout を使用するには、Salesforce パートナーコンソールで Stripe アカウントをリストに接続します。

AppExchange Checkout リストの価格設定プランの追加

AppExchange Checkout を使用したソリューションへの登録を提供するには、Salesforce パートナーコンソールで価格設定プランを作成します。次に、そのプランを Stripe に同期します。価格設定プランでは、ソリューションのコスト、通貨、および請求サイクルを設定します。

AppExchange Checkout の銀行支払の有効化

顧客が銀行送金でソリューションの支払を行えるようにするには、Stripe でこの支払方法を要求します。Stripe が要求の確認と承認を行ったら、銀行支払を受け付けることができます。所在地に応じて、Automated Clearing House (ACH) ネットワークまたは Single Euro Payment Area (SEPA) フレームワークを介した支払を受け付けることができます。

AppExchange Checkout 購入に対するメール領収書の送信

Checkout 購入の領収書を顧客に送信するには、Stripe ダッシュボードでメール領収書を設定します。

AppExchange Checkout エクスペリエンスのプレビュー

リストで Checkout を有効にした場合、AppExchange リストの URL を変更して、顧客の購入エクスペリエンスをプレビューできます。

無料の AppExchange リストを有料に変換

無料の AppExchange リストに関連付けられているソリューションがセキュリティレビューに合格した場合は、Checkout を使用して支払を受け付けるようにリストを変換できます。Salesforce パートナーコンソールで [Checkout(チェックアウト)] を有効化します。次に、必要に応じてセキュリティレビュー料金を支払います。

AppExchange Checkout の Stripe アカウントの作成

AppExchange リストで Checkout を使用するには、当社の支払パートナーである Stripe でアカウントを作成する必要があります。

Stripe アカウントを作成する前に、次の情報を用意します。

- ビジネスの短い説明(販売する製品など)。
- ビジネスの基本情報(住所など)
- 外部 ID プロバイダーのログイン情報(Google、Facebook、LinkedIn など)
- 支払の受け取り先とする銀行口座の口座番号およびルーティング番号

上記の情報を集めたら、先に進むことができます。

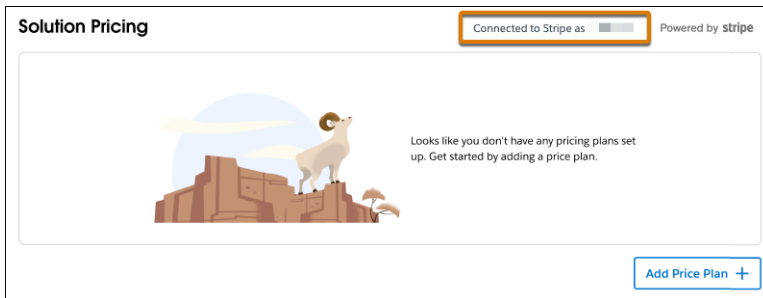
1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [Publishing (公開)] をクリックして Salesforce パートナーコンソールに移動します。
3. [Listings (リスト)] をクリックします。
4. リストを作成するか、既存のリストを編集します。
5. [Set Pricing (価格設定)] > [Price Your Solution (ソリューションの価格を設定)] をクリックします。
6. 価格設定モデルには、[Paid (有料)] を選択します。
7. 支払方法には、[AppExchange Checkout] を選択します。
8. ソリューションのインストール前またはインストール後に顧客から支払の詳細を収集するタイミングを選択します。

ユーザ権限

AppExchange リストを管理する

- 「リストの管理」

9. **[Connect to Stripe (Stripe に接続)]** をクリックします。このオプションが表示されない場合は、Stripe アカウントがすでに接続されている可能性があるため、最後のステップに進んでください。
新しいブラウザタブに Stripe Web サイトが開きます。
10. Stripe アカウントを作成するには、Stripe Web サイトの指示に従ってください。
この手順を完了すると、Stripe タブが閉じて、パートナーコンソールに戻ります。
11. 正常に作成できているかを確認します。[Solution Pricing (ソリューションの価格設定)] セクションに [Connected to Stripe as (次の形式で Stripe に接続済み)] と表示されていれば、設定は完了です。Stripe アカウントが付与されて、リストに接続されています。



アカウントを作成したら、[Stripe Web サイト](#)でアカウントを管理できます。

AppExchange リストへの Stripe アカウントの接続

AppExchange のリストで Checkout を使用するには、Salesforce パートナーコンソールで Stripe アカウントをリストに接続します。

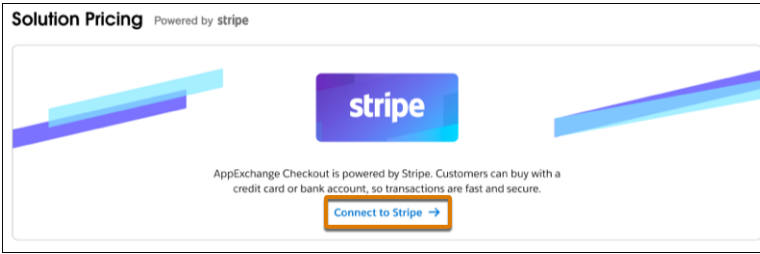
Stripe アカウントがない場合には、まず「[AppExchange Checkout の Stripe アカウントの作成](#)」の説明に従ってアカウントを作成してください。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#)にログインします。
2. **[Publishing (公開)]** をクリックして Salesforce パートナーコンソールに移動します。
3. **[Listings (リスト)]** をクリックします。
4. リストを作成するか、既存のリストを編集します。
5. **[Set Pricing (価格設定)]** > **[Price Your Solution (ソリューションの価格を設定)]** をクリックします。
6. 価格設定モデルには、**[Paid (有料)]** を選択します。
7. 支払方法には、**[AppExchange Checkout]** を選択します。
8. ソリューションのインストール前またはインストール後に顧客から支払の詳細を収集するタイミングを選択します。
9. **[Connect to Stripe (Stripe に接続)]** をクリックします。このオプションが表示されない場合は、Stripe アカウントがすでに接続されている可能性があるため、最後のステップに進んでください。

ユーザ権限

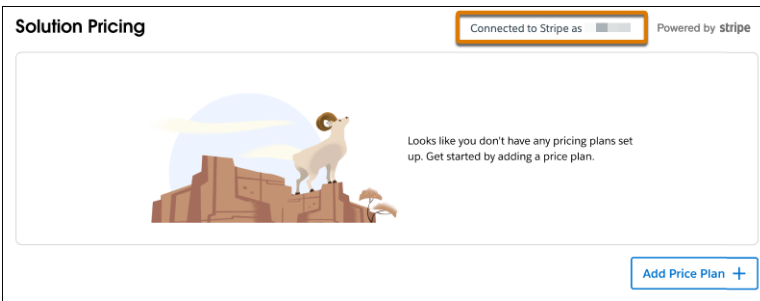
AppExchange リストを管理する

- 「リストの管理」



新しいブラウザタブに Stripe Web サイトが開きます。

- Stripe アカウントに接続するには、Stripe Web サイトの指示に従ってアカウントにログインしてください。Stripe アカウントがない場合は、画面の指示に従ってアカウントを作成してください。この手順を完了すると、Stripe タブが閉じて、パートナーコンソールに戻ります。
- リストが Stripe に接続されていることを確認します。[Solution Pricing (ソリューションの価格設定)] セクションに [Connected to Stripe as (次の形式で Stripe に接続済み)] と表示されていれば、設定は完了です。



Stripe アカウントを接続したら、価格設定プランをリストに追加できます。

関連トピック:

[AppExchange Checkout リストの価格設定プランの追加](#)

AppExchange Checkout リストの価格設定プランの追加

AppExchange Checkout を使用したソリューションへの登録を提供するには、Salesforce パートナーコンソールで価格設定プランを作成します。次に、そのプランを Stripe に同期します。価格設定プランでは、ソリューションのコスト、通貨、および請求サイクルを設定します。

価格設定プランを作成する際には、あらかじめ Stripe アカウントを作成しておき、そのアカウントが Salesforce パートナーコンソールに接続されている必要があります。詳細は、「[AppExchange リストへの Stripe アカウントの接続](#)」を参照してください。

重要: Stripe Web サイトでプランを編集することは可能ですが、編集はパートナーコンソールでのみ行ってください。Stripe Web サイトで行った変更は、パートナーコンソールに同期されず、リストに表示されません。

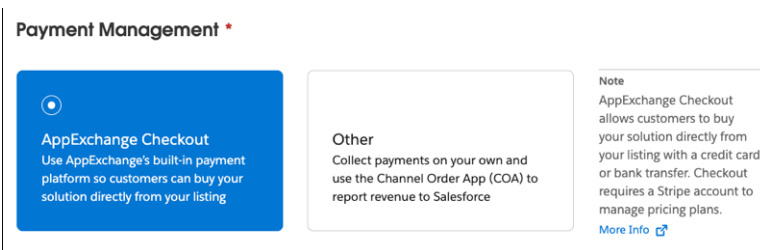
ユーザ権限

AppExchange リストを管理する

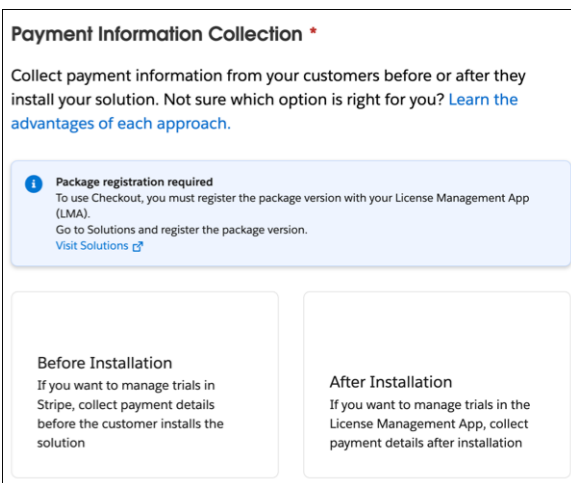
- 「リストの管理」

リストごとに複数の価格設定プランを作成できます。たとえば、月次請求を使用するプランを作成し、さらに年次請求を使用するプランも作成できます。

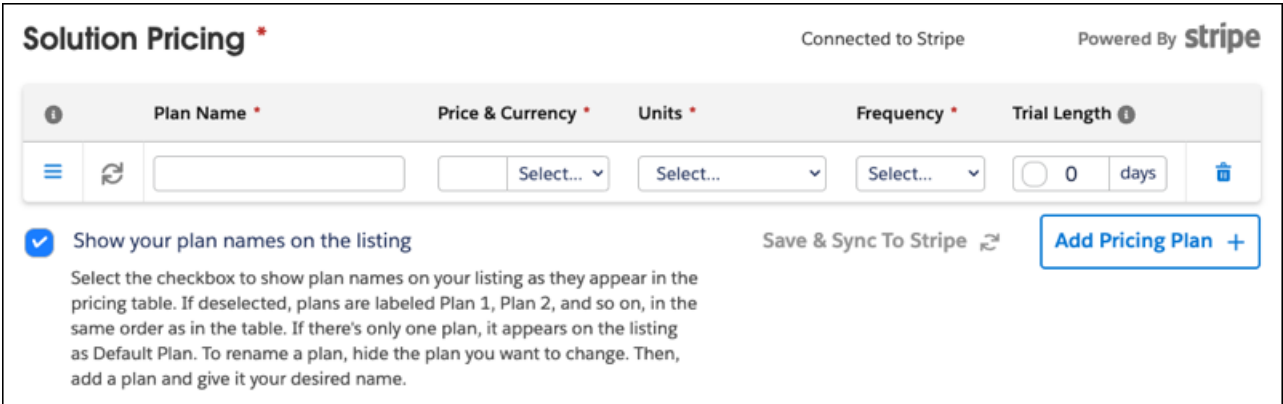
1. [Salesforce パートナーコミュニティ](#)にログインします。
2. **[Publishing (公開)]** をクリックして Salesforce パートナーコンソールに移動します。
3. **[Listings (リスト)]** をクリックします。
4. リストを作成するか、既存のリストを編集します。リストを作成する場合は、**[Fill In the Basics (基本情報を入力)]** ステップのすべての必須項目に入力します。
5. **[Set Pricing (価格設定)]** をクリックします。
6. 価格設定モデルには、**[Paid (有料)]** を選択します。
7. 支払管理については、**[AppExchange Checkout]** を選択します。



8. ソリューションのインストール前またはインストール後に顧客から支払い情報を収集するタイミングを選択します。



9. 国が事前に選択されていない場合には、選択します。
10. 必要な税情報を入力します。
11. **[Add Pricing Plan (価格設定プランを追加)]** をクリックします。
12. 必須の詳細情報を入力します。




価格設定プラン	詳細
Plan Name (プラン名)	プランにわかりやすい名前を付けます。この名前には、年次などの請求サイクルを含めることをお勧めします。
Price (価格)	このプランの費用を入力します。
Currency (通貨)	顧客がソリューションの支払いに使用できる通貨を選択します。[US dollars (USD) (米国ドル (USD))] を選択すると、顧客が米国の銀行口座で支払えます。[euros (EUR) ユーロ (EUR)] を選択すると、顧客がヨーロッパの銀行口座で支払えます。
Units (単位)	ユーザーごとに価格を設定するか、会社単位 (組織全体) で価格を設定するかを選択します。
Frequency (頻度)	月次、年次、または 1 回限りの請求サイクルを選択します。
Trial Length (トライアル期間の長さ)	(省略可能)顧客にソリューションのトライアルを 30 日間など特定の期間で提供できます。

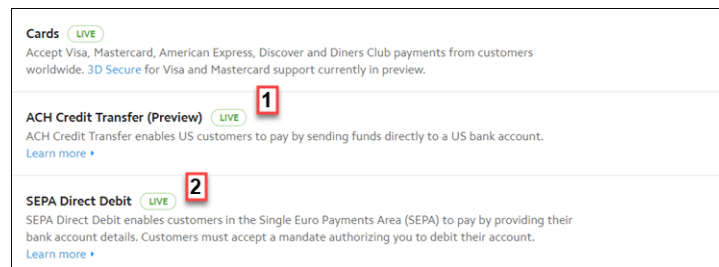
13. ソリューションの価格設定テーブルに表示されているプラン名をリストに表示するか、Plan 1、Plan 2 のように表示するかを選択します。プランが 1 つしかない場合は、デフォルトプランとしてリストに表示されません。
14. [Save & Sync to Stripe (保存して Stripe と同期)] をクリックします。
15. [Save & Sync (保存して同期)] をクリックします。
このリストに加えた未保存の変更がすべて保存され、価格設定プランは接続された Stripe アカウントと同期されます。同期された価格設定プランは、公開されたリストですぐに利用できます。

AppExchange Checkout の銀行支払の有効化

顧客が銀行送金でソリューションの支払を行えるようにするには、Stripe でこの支払方法を要求します。Stripe が要求の確認と承認を行ったら、銀行支払を受け付けることができます。所在地に応じて、Automated Clearing House (ACH) ネットワークまたは Single Euro Payment Area (SEPA) フレームワークを介した支払を受け付けることができます。

 **メモ:** Stripe でのあなたの会社の住所により、受け付け可能な銀行送金の種別が決まります。ACH 支払を受け付けるには、会社が米国を拠点としている必要があります。SEPA 支払を受け付けるには、会社が欧州連合を拠点としている必要があります。ACH と SEPA 両方の支払を受け付けることはできません。

1. Stripe Web サイトに移動します。
2. Stripe アカウントにログインします。
3. [設定] をクリックします。
4. [Payments and Payouts (支払と支出)] で [Payment methods (支払方法)] をクリックします。
5. アカウントの [ACH Credit Transfer (ACH 送金)] (1) または [SEPA Direct Debit (SEPA 口座振替)] (2) を要求します。



有効化の要求が Stripe に送信されて処理されます。要求が承認されると、メールで通知されます。

6. ACH 送金を要求した場合、正常に有効化されたことを確認します。
 - a. Stripe Web サイトに再度移動します。
 - b. Stripe アカウントにログインします。
 - c. Stripe の「ACH Guide (ACH ガイド)」に移動します。
 - d. [Enable ACH (ACH を有効化)] をクリックします。ACH を有効にするオプションが表示されない場合は、アカウントで ACH 送金がすでに有効になっています。

関連トピック:

[AppExchange Checkout の支払方法](#)

AppExchange Checkout 購入に対するメール領収書の送信

Checkout 購入の領収書を顧客に送信するには、Stripe ダッシュボードでメール領収書を設定します。

1. Stripe にログインします。
2. Stripe ダッシュボードから [設定] をクリックします。
3. [Payments and Payouts (支払と支出)] で [Email receipts (メール領収書)] をクリックします。
4. 設定を有効にして、支払が適切に行われるようにします。
5. [Save (保存)] をクリックします。

AppExchange Checkout エクスペリエンスのプレビュー

リストで Checkout を有効にした場合、AppExchange リストの URL を変更して、顧客の購入エクスペリエンスをプレビューできます。


1. ソリューションの AppExchange リストに移動します。
2. `&modal=appx_getitnow_buyform_modal` をリストの URL に付加して、ページを更新します。

無料の AppExchange リストを有料に変換


無料の AppExchange リストに関連付けられているソリューションがセキュリティレビューに合格した場合は、Checkout を使用して支払を受け付けるようにリストを変換できます。Salesforce パートナーコンソールで [Checkout (チェックアウト)] を有効化します。次に、必要に応じてセキュリティレビュー料金を支払います。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. リストで Checkout を有効にします。
 - a. [Publishing (公開)] をクリックして Salesforce パートナーコンソールに移動します。
 - b. [リスト] をクリックします。
 - c. 更新するリストを見つけ、そのタイルをクリックします。
 - d. [Set Pricing (価格設定)] > [Price Your Solution (ソリューションの価格を設定)] をクリックします。
 - e. [Paid (有料)] を選択します。
 - f. [AppExchange Checkout] を選択します。
 - g. ソリューションのインストール前またはインストール後に顧客から支払の詳細を収集するタイミングを選択します。
 - h. 国が事前に選択されていない場合には選択し、必要な税情報を入力します。
 - i. 価格設定プランを追加します。
 - j. 受け付ける支払方法を選択します。
 - k. [Next (次へ)] をクリックします。

3. [Get Approved (承認を取得)] のステップで、承認のためにリストを送信します。

 **メモ:** 承認処理の間も、引き続きリストを作成することができます。リストが完成し、承認されたら、AppExchange に公開できます。

4. セキュリティレビュー料金を支払うには、サポートケースを登録します。

 **メモ:** ソリューションの料金を請求するときは、セキュリティレビュー料金が収集されます。この料金は無料リストには適用されません。

- a. Salesforce パートナーコミュニティへの登録に使用したユーザー名で [Salesforce ヘルプ](#) にログインします。
- b. [サポートに連絡] をクリックします。
- c. [ケースを作成] をクリックして、必須項目に入力します。
- d. 件名には「*Security Review Fees*」(セキュリティレビューの料金) と入力します。

ユーザ権限

AppExchange リストを管理する

- 「リストの管理」

- e. 説明には、AppExchange の無料リストを有料に変換する Salesforce パートナーであることを記入します。
- f. 製品を選択するように求められたら、[Partner Community & AppExchange (パートナーコミュニティと AppExchange)] を選択します。
- g. トピックには、[Security Review (セキュリティレビュー)] を選択します。
- h. インスタンス種別と重大度を選択します。
- i. [ケースを作成] をクリックします。
Salesforce からセキュリティレビュー料金の支払手続きについて連絡があります。

関連トピック:

[AppExchange Checkout リストの価格設定プランの追加](#)

[AppExchange Checkout の銀行支払の有効化](#)

AppExchange Checkout での国際支払のサポート

いくつかのステップを行うことにより、欧州連合 (EU) およびその他の地域の顧客からの支払を Checkout で受け付けることができます。まず、会社が EU または英国に本社を置いていることを確認します。次に、所在国の税務当局が付加価値税 (VAT) の徴収を義務付けている場合は、公開コンソールで VAT を有効にします。

AppExchange Checkout トランザクションの VAT の収集

お住まいの国の税務当局が付加価値税 (VAT) の徴収を義務付けている場合は、Checkout トランザクションに VAT を含めてください。Salesforce パートナーコンソールでこのオプションを有効にすると、Stripe で VAT が請求書に適用されます。ISV は VAT の登録、必須データの管理、徴収した税の分配を行う必要があります。

AppExchange Checkout のための強力なカスタマー認証

強力なカスタマー認証 (SCA) は、ID 検証ステップによってオンライン支払のセキュリティを強化します。SCA の仕組み、SCA が必要となる地域、および Checkout の支払にどのように影響するかについて説明します。そして、自社と顧客の環境を SCA に対応するように準備します。

AppExchange Checkout トランザクションの VAT の収集

お住まいの国の税務当局が付加価値税 (VAT) の徴収を義務付けている場合は、Checkout トランザクションに VAT を含めてください。Salesforce パートナーコンソールでこのオプションを有効にすると、Stripe で VAT が請求書に適用されます。ISV は VAT の登録、必須データの管理、徴収した税の分配を行う必要があります。

1. Salesforce パートナーコミュニティにログインします。
2. [Publishing (公開)] をクリックして Salesforce パートナーコンソールに移動します。
3. [Listings (リスト)] をクリックします。
4. リストを作成するか、既存のリストを編集します。
5. [Set Pricing (価格設定)] > [Price Your Solution (ソリューションの価格を設定)] をクリックします。
6. 価格設定モデルには、[Paid (有料)] を選択します。

ユーザー権限

AppExchange リストを管理する

- 「リストの管理」

7. 支払管理については、[AppExchange Checkout] を選択します。

Payment Management

AppExchange Checkout
Use AppExchange's built-in payment platform so customers can buy your solution directly from your listing

Other
Collect payments on your own and use the Channel Order App (COA) to report revenue to Salesforce

Note
AppExchange Checkout allows customers to buy your solution directly from your listing with a credit card or bank transfer. Checkout requires a Stripe account to manage pricing plans.
[More Info](#)

8. ソリューションのインストール前またはインストール後に顧客から支払の詳細を収集するタイミングを選択します。
9. 国が事前に選択されていない場合には、選択します。

Tax Requirements

Select the country where you primarily operate for tax purposes. We use this to determine what tax information to collect from you.

Country

Sweden

European Union Tax Information

If your customers live in European Union countries that charge a Value Added Tax (VAT), you can include VAT in AppExchange Checkout transactions. Checkout calculates VAT amounts, collects VAT on your behalf, and deposits the taxes into your bank account.

Collect VAT for AppExchange transactions

Provide a VAT number for every EU country where you collect VAT.

Country **VAT Number**

Sweden

[Add Country](#) +

10. AppExchange トランザクションの VAT を徴収するオプションを選択します。

メモ: 1 回限りの購入では VAT はサポートされません。

11. 国を選択し、VAT を徴収するすべての欧州連合 (EU) 加盟国の VAT 番号を入力します。
12. 変更内容を保存します。

Checkout 管理アプリケーションを使用して Checkout のデータを管理する場合、アプリケーションを使用して VAT レポートの情報を表示できます。

AppExchange Checkout のための強力なカスタマー認証

強力なカスタマー認証 (SCA) は、ID 検証ステップによってオンライン支払のセキュリティを強化します。SCA の仕組み、SCA が必要となる地域、および Checkout の支払にどのように影響するかについて説明します。そして、自社と顧客の環境を SCA に対応するように準備します。

強力なカスタマー認証とは何ですか?

強力なカスタマー認証 (SCA) は、ID 検証ステップによってオンライン支払のセキュリティを強化します。SCA は、AppExchange の支払を含む欧州経済圏でのオンライン支払に必要です。

強力なカスタマー認証が AppExchange Checkout に与える影響

強力な顧客認証 (SCA) は、ヨーロッパの顧客の Checkout 支払環境に自動的に統合されます。SCA が初回の購入と定期的な支払にどのように影響するかについて説明します。

AppExchange Checkout のための強力なカスタマー認証のベストプラクティス

強力なカスタマー認証 (SCA) を必要とする地域で AppExchange ソリューションの販売を行う場合には、次の Checkout のベストプラクティスに従ってください。

強力なカスタマー認証とは何ですか?

強力なカスタマー認証 (SCA) は、ID 検証ステップによってオンライン支払のセキュリティを強化します。SCA は、AppExchange の支払を含む欧州経済圏でのオンライン支払に必要です。

SCA は、EU の決済サービス指令 (Second Payment Services Directive: PSD2) によって義務付けられています。この指令は、欧州経済圏でのオンライン支払のセキュリティを強化する法律を導入するものです。2019 年 9 月 14 日以降、この地域に住んでいる顧客は、オンラインで購入を行うために、ID 検証ステップを実行するよう求められる場合があります。

顧客は身元検証のために、パスワード、モバイルデバイスに送付されるコード、または指紋などの生体データを使用することができます。この確認手順は、1 回限りの購入と、サブスクリプションなどの定期的な支払いに適用されます。顧客の銀行またはクレジットカード発行者は、本人確認による顧客の購入認証をいつ要求するかを決定します。

2019 年 9 月 14 日より、Checkout では、SCA がヨーロッパの顧客の支払環境に自動的に統合されます。SCA についての詳細は、<https://stripe.com/docs/strong-customer-authentication> を参照してください。

強力なカスタマー認証が AppExchange Checkout に与える影響

強力な顧客認証 (SCA) は、ヨーロッパの顧客の Checkout 支払環境に自動的に統合されます。SCA が初回の購入と定期的な支払にどのように影響するかについて説明します。

初回購入

初回の購入は、顧客の最初の Checkout トランザクションです。初回購入では、顧客は Checkout ウィザードを使用して支払の計画と方法を選択し、請求情報と連絡先情報を指定して、支払を確認します。SCA を必要とする地域では、チェックアウトウィザードにより ID 検証ステップが追加されます。

顧客が [購入] をクリックすると、Checkout が顧客に ID の検証を求めます。たとえば、顧客の支払方法に関連付けられているモバイルデバイスに送信された検証コードの入力が顧客に求められます。この検証ステップでは、3D Secure 2 プロトコルが使用され、ステップの管理には Checkout の支払パートナーである Stripe が使用されます。顧客が身元を確認すると、Stripe によって支払が処理されます。

AppExchange Checkout

Confirm your order

One last thing: Double check your order details, and then agree to our terms and conditions. If you're purchasing a subscription, you can edit it anytime on the My Installs and Subscriptions page of your AppExchange profile.

Payment Plan	*Users	Coupon Code	Subtotal	\$100.00
\$10 USD per user per month	10	FABISOFOREVER	Discount	-50%
			US Sales Tax	\$4.63*
			Payment (Monthly)	\$54.63*

* Subject to change based on shipping address and tax changes.

Start Date 2/12/2021
Provider Northern Star

Payment Method	Contact Information	Billing Address	Shipping Address
Credit Card	Dee Mato dmato@example.com	1 Main Birch Ter Fremont, CA 94536, US	1 Main Birch Ter Fremont, CA 94536, US

Your bank or credit card issuer may require you to authorize future payments. If your authorization is required, the provider will notify you.

Back Purchase

定期的な支払

顧客は、毎月または毎年の定期的な支払を行うこともできます。SCAが必要な地域では、初回購入が最初の支払であり、顧客には取引を完了するためにIDの検証を求められる場合があります。Checkoutが、サブスクリプションの契約条件に従って、後続の支払の処理を試行します。その際、初回購入時に入力された請求の詳細が使用されます。SCAを必要とする地域では、顧客の銀行またはクレジットカード発行会社が支払の試行を確認し、顧客の認証を要求するかどうかを決定します。

顧客の認証が必要な場合、Stripe では支払いが失敗としてマークされます。顧客が次に AppExchange にログインすると、Checkout によって顧客に支払の認証が求められます (1)。顧客が [認証] (2) をクリックすると、初回購入と同じ手順で身元が検証されます。顧客が身元を確認すると、Stripe によって支払が処理されます。

1 Authorize your AppExchange subscription payment

We tried to process a payment for an AppExchange subscription, but your bank or credit card issuer requires your authorization.

To continue the subscription, review the following details and authorize the payment of \$36.00. When you authorize the payment, you'll be prompted by your bank or credit card issuer to verify your identity.

Subscription Details

Solution	Appy's Maps	
Provider	Appy's Geospatial Solutions, LLC	
Payment Plan	Users	Monthly Payment
\$12 USD per user per month	3	\$36.00
Payment Method	Visa ending in [REDACTED]	

Cancel 2 Authorize

AppExchange Checkout のための強力なカスタマー認証のベストプラクティス

強力なカスタマー認証 (SCA) を必要とする地域で AppExchange ソリューションの販売を行う場合には、次の Checkout のベストプラクティスに従ってください。

1. 強力なカスタマー認証のための顧客準備

欧州経済圏の顧客にサービスを提供する場合は、AppExchange ソリューションの支払を含むオンライン支払に強力なカスタマー認証 (SCA) がどの程度影響するかを説明してください。

2. 顧客の認証が必要な AppExchange Checkout サブスクリプションの支払の管理

顧客の認証が必要なため Checkout サブスクリプションの支払が失敗した場合には、Stripe による関連するサブスクリプションの処理方法を決定してください。たとえば、サブスクリプションをキャンセルするように Stripe を設定したり、サブスクリプションを未払としてマークするように設定したり、なにも処理しないように設定したりできます。

3. 顧客の認証が必要な AppExchange Checkout サブスクリプションの支払の表示

顧客の認証が必要なため Checkout サブスクリプションの支払を処理できなかった場合、Stripe によって支払が失敗とマークされます。Stripe ダッシュボードでこの支払いを表示して、顧客の連絡先情報などの取引の詳細を確認します。この情報を利用することで顧客をフォローアップし、AppExchange で支払を認証する手順を提供できます。

4. AppExchange Checkout サブスクリプションの支払の許可

強力な顧客認証 (SCA) が必要な地域では、顧客の銀行またはクレジットカード発行会社が、顧客に定期的に Checkout サブスクリプションの支払を承認するよう要求する場合があります。顧客の認証が必要な支払を確認するには、Stripe ダッシュボードを参照してください。認証が必要な場合には、AppExchange へのログイン時に顧客へ認証を求めます。また、支払を承認するためのセルフサービスの手順を顧客に提供することもできます。

強力なカスタマー認証のための顧客準備

欧州経済圏の顧客にサービスを提供する場合は、AppExchange ソリューションの支払を含むオンライン支払に強力なカスタマー認証 (SCA) がどの程度影響するかを説明してください。

顧客とのコミュニケーションでは、以下について実施することをお勧めします。

- SCA について定義し、SCA によってオンラインショッピング体験がどのように変わるかを説明します。
- SCA は、AppExchange の支払を含む、欧州経済圏でのさまざまなタイプのオンライン支払に影響することについて述べます。
- 顧客に AppExchange の支払を定期的に承認するよう求める場合があることを説明します。これには ID 検証ステップが含まれます。
- 認証が必要な場合は、AppExchange へのログイン時に認証を求めるとを説明します。
- AppExchange サブスクリプションの支払を承認するためのセルフサービスの手順を示します。

関連トピック:

[顧客の認証が必要な AppExchange Checkout サブスクリプションの支払の管理](#)

[顧客の認証が必要な AppExchange Checkout サブスクリプションの支払の表示](#)

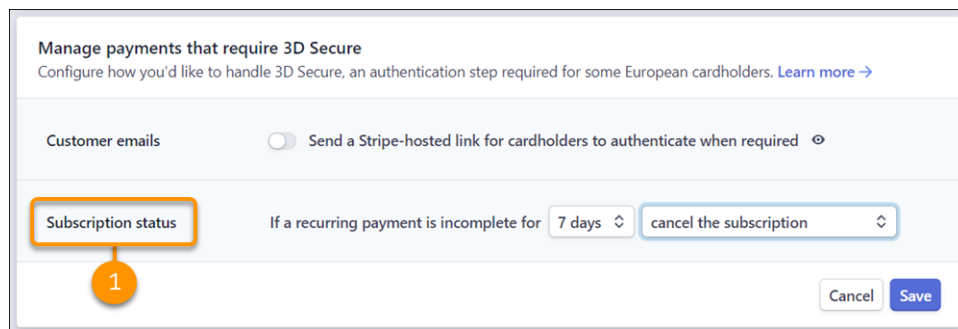
[AppExchange Checkout サブスクリプションの支払の許可](#)

顧客の認証が必要な AppExchange Checkout サブスクリプションの支払の管理

顧客の認証が必要なため Checkout サブスクリプションの支払が失敗した場合には、Stripe による関連するサブスクリプションの処理方法を決定してください。たとえば、サブスクリプションをキャンセルするように Stripe を設定したり、サブスクリプションを未払としてマークするように設定したり、なにも処理しないように設定したりできます。

1. [Stripe](#) にログインします。
2. Stripe ダッシュボードから [設定] をクリックします。
3. [請求] で、[Subscriptions and emails (サブスクリプションとメール)] をクリックします。
4. [Manage payments that require 3D Secure (3D セキュアを必要とする支払いの管理)] に進み、[Subscription status (サブスクリプション状況)] を設定します (1)。

重要: [Customer emails (顧客のメール)] の設定は有効にしないでください。顧客は、支払を承認するには、AppExchange にログインする必要があります。



顧客の認証が必要な AppExchange Checkout サブスクリプションの支払の表示

顧客の認証が必要なため Checkout サブスクリプションの支払を処理できなかった場合、Stripe によって支払が失敗とマークされます。Stripe ダッシュボードでこの支払いを表示して、顧客の連絡先情報などの取引の詳細を確認します。この情報を利用することで顧客をフォローアップし、AppExchange で支払を認証する手順を提供できます。

1. [Stripe](#) にログインします。
2. Stripe ダッシュボードから [支払] をクリックします。
3. 次の手順で、支払条件を設定します。

検索条件	値
状況	不完全

4. [完了] をクリックします。
5. 支払をクリックして、取引に関する詳細を表示します。

AppExchange Checkout サブスクリプションの支払の許可

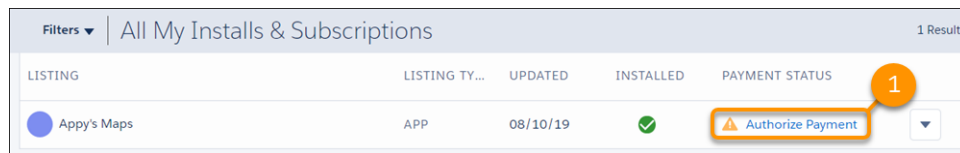
強力な顧客認証 (SCA) が必要な地域では、顧客の銀行またはクレジットカード発行会社が、顧客に定期的に Checkout サブスクリプションの支払を承認するよう要求する場合があります。顧客の認証が必要な支払を確認するには、Stripe ダッシュボードを参照してください。認証が必要な場合には、AppExchange へのログイン時に顧客へ認証を求めます。また、支払を承認するためのセルフサービスの手順を顧客に提供することもできます。

ユーザ権限

AppExchange サブスクリプションを管理する

- 「請求情報の管理」

1. [AppExchange](#) にログインします。
2. ユーザープロファイルメニューから [私のインストール & サブスクリプション] をクリックします。
3. 認証が必要なサブスクリプションを見つけます。
4. [支払認証] をクリックします (1)。



5. サブスクリプションの詳細を確認し、[承認] をクリックします。

関連トピック:

[顧客の認証が必要な AppExchange Checkout サブスクリプションの支払の表示](#)

AppExchange Checkout サブスクリプションの管理

Checkout サブスクリプションに関連する一般的な顧客の要求、たとえば、支払履歴の表示、ライセンスの追加や削除、サブスクリプションのキャンセルなどを処理します。

AppExchange Checkout 領収書の表示

顧客が以前の Checkout 支払の領収書を要求した場合、AppExchange の支払履歴を表示するためのセルフサービスステップを共有できます。

AppExchange Checkout サブスクリプションのライセンスの追加または削除

顧客は、AppExchange の Checkout サブスクリプションのライセンスを追加したり、削除したりできます。現在の請求期間の間に顧客がライセンスを追加した場合、追加したライセンスは、すぐに使用できます。Checkout は、次の請求期間で、契約期間で按分した金額を顧客に請求します。顧客がライセンスを削除した場合、このライセンスの削除は、次の請求期間の開始時に有効になります。Checkout は、削除が有効になると、削減されたライセンス数に対する金額を顧客に請求します。AppExchange のサブスクリプションを更新するためのこれらのセルフサービスステップを共有します。

AppExchange Checkout サブスクリプションのキャンセル

顧客が Checkout サブスクリプションを終了する場合、AppExchange のサブスクリプションをキャンセルするためのセルフサービスステップを共有できます。キャンセルは、契約期間の終了時に有効になります。

AppExchange Checkout 領収書の表示

顧客が以前の Checkout 支払の領収書を要求した場合、AppExchange の支払履歴を表示するためのセルフサービスステップを共有できます。

1. [AppExchange](#) にログインします。
2. ユーザープロフィールメニューから [私のインストール & サブスクリプション] をクリックします。
3. 支払履歴を表示するサブスクリプションを検索します。
4. ドロップダウンリストから、[登録を管理] を選択します。
5. [Payment History (支払履歴)] に移動して請求書をクリックすると、購入に関する詳細が表示されます。


ユーザ権限

AppExchange サブスクリプションを管理する

- 「請求情報の管理」

AppExchange Checkout サブスクリプションのライセンスの追加または削除

顧客は、AppExchange の Checkout サブスクリプションのライセンスを追加したり、削除したりできます。現在の請求期間の間に顧客がライセンスを追加した場合、追加したライセンスは、すぐに使用できます。Checkout は、次の請求期間で、契約期間で按分した金額を顧客に請求します。顧客がライセンスを削除した場合、このライセンスの削除は、次の請求期間の開始時に有効になります。Checkout は、削除が有効になると、削減されたライセンス数に対する金額を顧客に請求します。AppExchange のサブスクリプションを更新するためのこれらのセルフサービスステップを共有します。

 **警告:** Stripe Web サイトを使用して AppExchange 顧客のライセンスに含まれているシート数を変更しないでください。このような変更を行うと、Checkout やライセンス管理アプリケーション (LMA) への同期が行われません。代わりに、「[ライセンスレコードの変更](#)」の手順に従って、LMA でライセンスを更新してください。

1. [AppExchange](#) にログインします。
2. ユーザープロフィールメニューから [私のインストール & サブスクリプション] をクリックします。
3. 更新するサブスクリプションを検索します。
4. ドロップダウンリストから、[登録を管理] を選択します。
5. [編集] をクリックします。
6. [支払いの詳細] に移動して、サブスクリプションに関連付けられているライセンス数を編集します。
7. [変更の確認] をクリックします。
8. 契約条件に同意し、[保存] をクリックします。

ユーザ権限

AppExchange サブスクリプションを管理する

- 「請求情報の管理」

AppExchange Checkout サブスクリプションのキャンセル

顧客が Checkout サブスクリプションを終了する場合、AppExchange のサブスクリプションをキャンセルするためのセルフサービスステップを共有できます。キャンセルは、契約期間の終了時に有効になります。

1. [AppExchange](#) にログインします。

ユーザ権限

AppExchange サブスクリプションを管理する

- 「請求情報の管理」

2. ユーザープロフィールメニューから [私のインストール & サブスクリプション] をクリックします。
3. キャンセルするサブスクリプションを検索します。
4. ドロップダウンリストから、[登録を管理] を選択します。
5. [サブスクリプションを終了] をクリックし、キャンセルを確認します。

AppExchange Checkout の FAQ

Checkout に関するよくある質問への回答を確認してください。

AppExchange Checkout はライセンス管理アプリケーションに代わるものですか?

いいえ。Checkout は LMA と連携してライセンスプロセスをサポートします。顧客がソリューションを購入する場合、Checkout は、LMA のライセンスレコードを作成します。顧客がシートを追加するなどして AppExchange のサブスクリプションを編集した場合、LMA のライセンスレコードは、それらの変更を反映するように自動的に更新されます。

AppExchange Checkout が Trialforce とリード管理に与える影響は?

Checkout は、Trialforce 設定やリードの管理方法には影響を与えません。ただし、顧客が Checkout を使用してトライアルにサインアップすると、その顧客はライセンス管理アプリケーションに (LMA) [有効] として記載されます。

AppExchange Checkout の顧客から支払い情報を収集するのは、インストールの前と後のどちらがよいですか?

どちらの方法にも利点があります。対象顧客と自分のビジネスプロセスについて検討した後に決定することをお勧めします。判断の参考として次の表をご利用ください。

AppExchange Checkout はマルチ通貨をサポートしていますか?

はい。リストで別の通貨に対応するには、パートナーコンソールに移動し、リストにプランを追加します。顧客がソリューションを購入する場合、Checkout は、プランで指定された通貨で請求を行います。Stripe で支払を転送する場合、その支払はお使いの銀行口座で使用されている通貨に変換されます。

AppExchange Checkout を使用してソリューションを販売する場合、顧客は AppExchange から購入する必要がありますか?

はい。購入は AppExchange で行う必要があります。また、収益は Salesforce パートナシップ契約に従って分配されます。また、トランザクションが別の方法で処理される場合、Checkout は、購入をソリューションに関連付けたり、ライセンス管理アプリケーション (LMA) でライセンスをプロビジョニングしたりできません。

顧客は別の AppExchange Checkout 支払プランに切り替えることはできますか?

はい。顧客を Stripe の別のプランに切り替えることができます。新しいプランは、次の請求期間の開始時に有効になります。変更がすぐに有効になるようにする場合は、Stripe の現在のプランをキャンセルし、リストから新しいプランを購入するように顧客に依頼します。

顧客のクレジットカード支払が AppExchange Checkout で認証されなかった場合、ライセンスは無効になりますか?

Stripe 設定で、クレジットカードが認証されなかったときの処理を決定します。支払いを再試行するか、サブスクリプションを無効にするかを選択できます。サブスクリプションを無効にした場合、ライセンスは無効になります。

現在の請求期間の途中で AppExchange Checkout の顧客がライセンスを追加または削除した場合、請求はどのように行われますか?

現在の請求期間の間に顧客がライセンスを追加した場合、そのライセンスは、すぐに使用できます。Checkout は、次の請求期間で、契約期間で按分した金額を顧客に請求します。顧客がライセンスを削除した場合、このライセンスの削減は、次の請求期間の開始時に有効になります。顧客は、現在の請求期間の間、そのライセンスを使用し続けることができます。Checkout は、次の請求期間から、削減されたライセンス数に対する金額を顧客に請求します。

管理者が AppExchange Checkout でソリューションを購入してインストールする場合、別のユーザーが AppExchange のサブスクリプションを編集することはできますか?

はい。ただし、サブスクリプションに関連付けられている Salesforce 組織でユーザーが「請求情報の管理」権限を持っていることが条件です。

顧客が AppExchange Checkout で購入できない理由

顧客がリストで [今すぐダウンロード] をクリックしたが、Checkout で購入できない場合は、AppExchange へのログイン時に指定された Salesforce 組織がサポートされているかどうかを確認します。Checkout では、状況が [有効] の有料組織のみがサポートされます。トライアル組織、Sandbox 組織、および Developer Edition 組織は、サポートされません。

AppExchange Checkout では、Stripe で作成された税率がサポートされますか?

いいえ。Stripe で税率を作成できますが、Checkout では、Stripe の税率をサポートしていません。Salesforce は、米国売上税や付加価値税 (VAT) などの税率を内部的に管理しています。

AppExchange Checkout はライセンス管理アプリケーションに代わるものですか?

いいえ。Checkout は LMA と連携してライセンスプロセスをサポートします。顧客がソリューションを購入する場合、Checkout は、LMA のライセンスレコードを作成します。顧客がシートを追加するなどして AppExchange のサブスクリプションを編集した場合、LMA のライセンスレコードは、それらの変更を反映するように自動的に更新されます。

AppExchange Checkout が Trialforce とリード管理に与える影響は?

Checkout は、Trialforce 設定やリードの管理方法には影響を与えません。ただし、顧客が Checkout を使用してトライアルにサインアップすると、その顧客はライセンス管理アプリケーションに (LMA) [有効] として記載されません。

AppExchange Checkout の顧客から支払い情報を収集するのは、インストールの前と後のどちらがよいですか?

どちらの方法にも利点があります。対象顧客と自分のビジネスプロセスについて検討した後に決定することをお勧めします。判断の参考として次の表をご利用ください。

支払情報が収集されるタイミング	このアプローチを使用する利点	トライアルが管理される場所	仕組み
インストール前	<ul style="list-style-type: none"> • トライアル期間は、価格設定プランをリストに追加した時点で設定されます。 • 注文を処理するために必要な情報を取得しているため、顧客はトライアル体験と有料体験を簡単に切り替えることができます。 	Stripe	<p>顧客は、パッケージをインストールする前にプランを選択して支払の詳細を入力します。</p> <p>AppExchange は、選択されたプランとトライアル情報に基づいて、Stripe で登録を作成します。</p> <p>次に、パッケージが登録されているパートナービジネス組織でライセンスが作成されます。</p> <p>トライアル期間は Stripe で管理されません。トライアル期間が終了すると、Stripe は直接クレジットカードに課金します。</p>
インストール後	<ul style="list-style-type: none"> • トライアル期間はライセンス管理アプリケーション (LMA) で設定されます。 • 顧客は、支払情報を事前に入力する必要がないため、ソリューションをすぐに試すことができます。 • このオプションは、対象の市場に起業の顧客が含まれている場合に理想的です。これらの企業の多くでは、支払の詳細を入力する際に購入承認プロセスが必要です。 	ライセンス管理アプリケーション (LMA)	<p>顧客は、AppExchange の [私のインストール&サブスクリプション] ページからソリューションを購入します。</p> <p>パッケージの登録中に設定したデフォルトのライセンス動作に基づいて LMA でライセンスが作成されます。</p> <p>トライアル期間は、設定したデフォルトのライセンス動作によって決まります。</p> <p>顧客が購入プロセスを完了すると、AppExchange は Stripe で登録を作成します。</p> <p>LMA でトライアルを管理する場合、顧客からは LMA の設定を表示できないことに注意してください。トライアル期間の長さを連絡するには、リストの [Additional Pricing Details (追加の価格設定の詳細)] 項目を使用します。</p>

AppExchange Checkout はマルチ通貨をサポートしていますか？

はい。リストで別の通貨に対応するには、パートナーコンソールに移動し、リストにプランを追加します。顧客がソリューションを購入する場合、Checkout は、プランで指定された通貨で請求を行います。Stripe で支払を転送する場合、その支払はお使いの銀行口座で使用されている通貨に変換されます。

関連トピック:

[AppExchange Checkout リストの価格設定プランの追加](#)

AppExchange Checkout を使用してソリューションを販売する場合、顧客は AppExchange から購入する必要がありますか？

はい。購入は AppExchange で行う必要があります。また、収益は Salesforce パートナーシップ契約に従って分配されます。また、トランザクションが別の方法で処理される場合、Checkout は、購入をソリューションに関連付けたり、ライセンス管理アプリケーション (LMA) でライセンスをプロビジョニングしたりできません。

顧客は別の AppExchange Checkout 支払プランに切り替えることはできますか？

はい。顧客を Stripe の別のプランに切り替えることができます。新しいプランは、次の請求期間の開始時に有効になります。変更がすぐに有効になるようにする場合は、Stripe の現在のプランをキャンセルし、リストから新しいプランを購入するように顧客に依頼します。

顧客のクレジットカード支払が AppExchange Checkout で認証されなかった場合、ライセンスは無効になりますか？

Stripe 設定で、クレジットカードが認証されなかったときの処理を決定します。支払いを再試行するか、サブスクリプションを無効にするかを選択できます。サブスクリプションを無効にした場合、ライセンスは無効になります。

現在の請求期間の途中で AppExchange Checkout の顧客がライセンスを追加または削除した場合、請求はどのように行われますか？

現在の請求期間の間に顧客がライセンスを追加した場合、そのライセンスは、すぐに使用できます。Checkout は、次の請求期間で、契約期間で按分した金額を顧客に請求します。顧客がライセンスを削除した場合、このライセンスの削減は、次の請求期間の開始時に有効になります。顧客は、現在の請求期間の間、そのライセンスを使用し続けることができます。Checkout は、次の請求期間から、削減されたライセンス数に対する金額を顧客に請求します。

管理者が AppExchange Checkout でソリューションを購入してインストールする場合、別のユーザーが AppExchange のサブスクリプションを編集することはできますか？

はい。ただし、サブスクリプションに関連付けられている Salesforce 組織でユーザーが「請求情報の管理」権限を持っていることが条件です。

顧客が AppExchange Checkout で購入できない理由


顧客がリストで[今すぐダウンロード]をクリックしたが、Checkout で購入できない場合は、AppExchange へのログイン時に指定された Salesforce 組織がサポートされているかどうかを確認します。Checkout では、状況が [有効] の有料組織のみがサポートされます。トライアル組織、Sandbox 組織、および Developer Edition 組織は、サポートされません。

AppExchange Checkout では、Stripe で作成された税率がサポートされますか?

いいえ。Stripe で税率を作成できますが、Checkout では、Stripe の税率をサポートしていません。Salesforce は、米国売上税や付加価値税 (VAT) などの税率を内部的に管理しています。

Checkout 管理アプリケーション

Checkout 管理アプリケーション (CMA) によって、Salesforce の機能が AppExchange Checkout に統合されます。洗練されたダッシュボードに AppExchange Checkout のデータが視覚的に表示されるため、提供しているアプリケーションのパフォーマンスを簡単に確認できます。自動メール通知によって、提供アプリケーションに関する活動が発生するたびに、顧客やチームメンバーに最新の情報を提供できます。

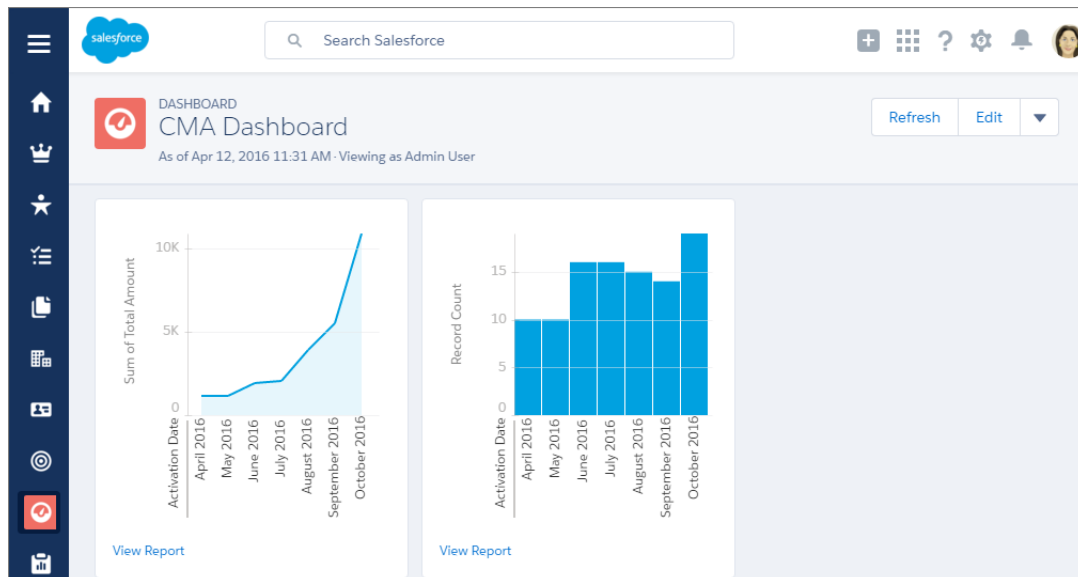
 **メモ:** CMA は英語と日本語で、使用資格のある Salesforce パートナーに提供されます。資格要件を含むパートナープログラムの詳細は、<https://partners.salesforce.com> を参照してください。

まずダッシュボードで、AppExchange Checkout データの全体像を掴みます。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**



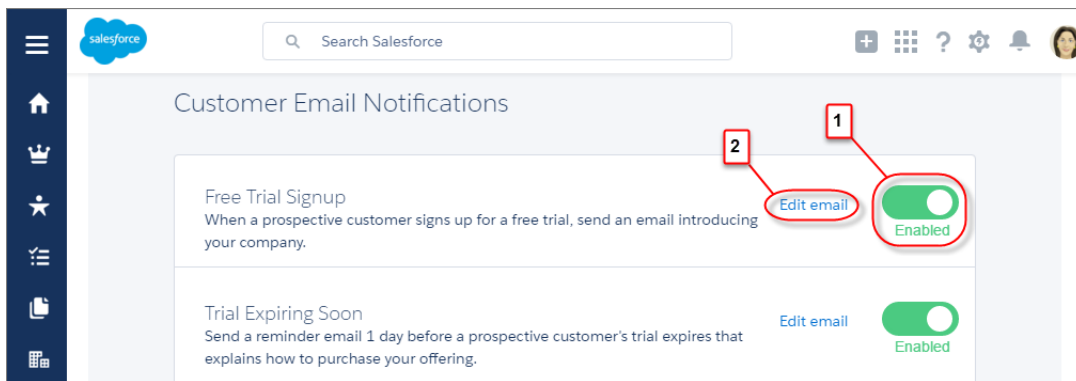
ダッシュボードは次のものを表示するように事前設定されています。

- 月別の収益 (業績)。財務業績は常に一番手前の中央に表示されます。

- 月別の新規登録者。登録者数が伸びた月を簡単に把握できます。
- ユニット別のサブスクリプションプラン。どの設定が顧客に人気かを知ることができます。
- 月別のサブスクリプション状況。トライアル、購入、更新の状況を把握できます。

標準の Salesforce ツールを使用してダッシュボードをカスタマイズできます。データの詳細を参照するには、個々の顧客、サブスクリプションプラン、サブスクリプション、請求書、およびトランザクションレコードを表示します。

関係者への連絡をできるだけ迅速に行えるように、パートナーとして送る必要がある通知 (更新のお知らせなど) を CMA からメールで送信できます。必要に応じてメール通知を有効にし (1)、会社の ID を反映するようにカスタマイズします (2)。カスタマイズを使用しないこともできます。テンプレートを使用すれば、親しみやすく十分に情報が伝わるデフォルトコンテンツを生成できます。



Checkout 管理アプリケーションのベストプラクティス

Checkout 管理アプリケーション (CMA) を使用するとき、次のガイドラインおよびベストプラクティスに従います。

Checkout 管理アプリケーションのオブジェクト

サブスクリプションプラン、サブスクリプション、請求書、請求書品目、およびトランザクションオブジェクトは、Checkout 管理アプリケーション (CMA) の基礎となるものです。CMA を最大活用するには、これらのオブジェクトが何を表し、互いにどう関連するのかを理解します。

Checkout 管理アプリケーションの使用開始

Checkout 管理アプリケーション (CMA) を Salesforce 組織にインストールし、その後、ユーザーが適切なレベルのデータアクセス権を得られるようにアプリケーションを設定します。メール通知を有効にして、顧客やチームメンバーへの伝達を簡素化できます。会社のニーズに合わせて通知テンプレートをカスタマイズすることもできます。

Checkout 管理アプリケーションのカスタマイズ例

Checkout 管理アプリケーション (CMA) は、そのままでも強力なツールですが、カスタマイズすることでさらに威力を発揮します。次の例では、顧客やチームメンバーのニーズに合わせてダッシュボードとメール通知を変更する方法を示します。

Checkout 管理アプリケーションの設定の更新

顧客やチームメンバーが Checkout 管理アプリケーション (CMA) からメールを受信するタイミングを制御します。また、CMA に関連付けられている Stripe アカウントを変更し、Salesforce 組織に手動でデータを再インポートすることもできます。管理ユーザーのみが、CMA の設定を更新できます。

Checkout 管理アプリケーションログの表示

Stripe に接続したり、データを同期したりすると、Checkout 管理アプリケーション (CMA) によってログが作成されます。CMA で問題が発生した場合、原因の診断に役立つログを表示します。

Checkout 管理アプリケーションのベストプラクティス

Checkout 管理アプリケーション (CMA) を使用するときには、次のガイドラインおよびベストプラクティスに従います。

- CMA は、ライセンス管理アプリケーション (LMA) がすでにインストールされている Salesforce 組織にインストールします。通常、これはパートナービジネス組織になります。組織に LMA がインストールされていない場合は、CMA をインストールできません。
- サブスクリプションプラン、サブスクリプション、請求書、またはトランザクションオブジェクトレコードの管理項目のデータを編集しないでください。CMA は Stripe データを一方向に参照のみで同期するため、変更を行っても Stripe に反映されません。サブスクリプションプラン、サブスクリプション、請求書、請求書アイテム、またはトランザクションデータを更新するには、Stripe ダッシュボードまたは API を使用します。
- 通知テンプレートを有効にする前に、レビューとカスタマイズを行います。自社のロゴを追加し、テンプレートのコンテンツをカスタマイズして自社のアイデンティティを反映すれば、AppExchange 上の他の製品と一線を画すことができます。カスタマイズに要する時間はほんの数分で、コーディングは必要ありません。

関連トピック:

[Checkout 管理アプリケーションの通知テンプレートの変更](#)

Checkout 管理アプリケーションのオブジェクト

サブスクリプションプラン、サブスクリプション、請求書、請求書品目、およびトランザクションオブジェクトは、Checkout 管理アプリケーション (CMA) の基礎となるものです。CMA を最大活用するには、これらのオブジェクトが何を表し、互いにどう関連するのかを理解します。

CMA はデータを AppExchange Checkout の支払パートナーである Stripe から取り込み、サブスクリプションプラン、サブスクリプション、請求書、請求書品目、およびトランザクションオブジェクトに入力します。次に、これらのオブジェクトとその相互関係の概要を示します。



オブジェクト	目的	リレーション
サブスクリプションプラン (1)	提供アプリケーションの価格設定モデルに関する情報が含まれます。たとえば、サイト単位、ユーザー単位、月額単位などです。	子オブジェクト: <ul style="list-style-type: none"> サブスクリプション
サブスクリプション (2)	提供アプリケーションに関する顧客の履歴と使用に関する情報が含まれます。たとえば、サブスクリプションの開始時期などです。	親オブジェクト: <ul style="list-style-type: none"> サブスクリプションプラン

オブジェクト	目的	リレーション
		子オブジェクト: <ul style="list-style-type: none"> 請求書 トランザクション
請求書 (3)	特定期間のサブスクリプションに関する請求および支払情報が含まれます。たとえば、顧客の支払予定総額などです。	親オブジェクト: <ul style="list-style-type: none"> サブスクリプション 同階層オブジェクト: <ul style="list-style-type: none"> トランザクション
請求書品目 (4)	特定期間の特定の請求および支払イベントに関する情報が含まれます。たとえば、クレジット1回払いなどです。複数の請求書品目を1つの請求書に関連付けることができます。	親オブジェクト: <ul style="list-style-type: none"> 請求書
トランザクション (5)	顧客の支払行為に関する情報が含まれます。たとえば、支払方法や支払が成功したかどうかなどです。	親オブジェクト: <ul style="list-style-type: none"> サブスクリプション 同階層オブジェクト: <ul style="list-style-type: none"> 請求書

表には記載していませんが、注意が必要なオブジェクトがもう1つあります。それは顧客です。顧客オブジェクトには、登録者に関する情報が含まれ、サブスクリプション、請求書、トランザクションなど CMA の他のオブジェクトから収集されます。

CMA では、Stripe のデータが更新されると自動的に同期され、必要に応じてオブジェクトレコードが更新されます。ただし、同期は一方の参照のみであるため、オブジェクトレコードに加えた変更が Stripe に反映されることはありません。サブスクリプションプラン、サブスクリプション、請求書、請求書アイテム、またはトランザクションデータを更新するには、Stripe ダッシュボードまたは API を使用します。

Checkout 管理アプリケーションの使用開始

Checkout 管理アプリケーション (CMA) を Salesforce 組織にインストールし、その後、ユーザーが適切なレベルのデータアクセス権を得られるようにアプリケーションを設定します。メール通知を有効にして、顧客やチームメンバーへの伝達を簡素化できます。会社のニーズに合わせて通知テンプレートをカスタマイズすることもできます。

Checkout 管理アプリケーションのインストール

Checkout 管理アプリケーション (CMA) を、ライセンス管理を行う Salesforce 組織 (通常はパートナービジネス組織) にインストールします。CMA を使用するにはライセンス管理アプリケーション (LMA) が必要であるため、最初にこの組織に LMA がインストールされていることを確認します。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: **Enterprise Edition**、**Performance Edition**、および **Unlimited Edition**

Checkout 管理アプリケーションの設定

Checkout 管理アプリケーション (CMA) 設定ツールを使用して、Stripe アカウントを接続し、データを Salesforce 組織にインポートします。次に、ダッシュボードの操作を習得し、顧客やチームメンバーが CMA からメール通知を受信するタイミングを選択します。

Checkout 管理アプリケーションへのアクセス権の割り当て

権限セットを使用してチームメンバーに Checkout 管理アプリケーション (CMA) への適切なレベルのアクセス権を割り当てます。チームメンバーがアクセスする必要がある機能に応じて、CMA 標準ユーザー権限セットまたは CMA 管理ユーザー権限セットを割り当てることができます。

Checkout 管理アプリケーションの通知テンプレートの変更


Checkout 管理アプリケーション (CMA) では、トライアルインストール、購入、およびその他のサブスクリプションの変更に応じてメール通知を送信できます。すぐに使用を開始できるようにデフォルトの通知が用意されていますが、会社のニーズに合わせてテンプレートをカスタマイズできます。

Checkout 管理アプリケーションのログの設定

Checkout 管理アプリケーション (CMA) によって、問題のトラブルシューティングに役立つデバッグログが作成されます。デフォルトでは、すべてのログが保存されますが、必要なくなったログを削除するように CMA を設定することもできます。ログを定期的に削除して、ご使用の Salesforce エディションのデータストレージ制限を超えないようにしてください。

Checkout 管理アプリケーションのインストール

Checkout 管理アプリケーション (CMA) を、ライセンス管理を行う Salesforce 組織 (通常はパートナービジネス組織) にインストールします。CMA を使用するにはライセンス管理アプリケーション (LMA) が必要であるため、最初にこの組織に LMA がインストールされていることを確認します。

 **メモ:** パートナーコミュニティへの参加時にパートナービジネス組織を受信した場合は、CMA があらかじめインストールされています。CMA が組織にインストールされているかどうか確認するには、アプリケーションランチャーに移動し、使用可能なアプリケーションのリストで CMA を探します。


1. まだログインしていない場合は、CMA をインストールする組織のログイン情報を使用して AppExchange にログインします。
2. CMA の AppExchange リスト (<https://appexchange.salesforce.com/listingDetail?listingId=a0N3A000000rMclUAE>) に移動します。
3. [今すぐ入手] をクリックします。
4. [本番組織にインストール] をクリックします。
5. 契約条件に同意し、[確認してインストール] をクリックします。
6. CMA をインストールする組織にログインします。
7. パッケージインストールの詳細を確認し、[続行] をクリックします。
8. サードパーティ Web サイトによるアクセスを承認し、[続行] をクリックします。
9. パッケージの API アクセス要件を確認し、[次へ] をクリックします。

ユーザー権限

パッケージをインストールする

- 「AppExchange パッケージのダウンロード」

10. パッケージ内容へのアクセス権を付与し、[次へ]をクリックします。

 **メモ:** アクセス権はシステム管理者にのみ付与し、他のユーザーにはアプリケーションのインストール後に必要に応じてアクセス権を割り当てることをお勧めします。

11. [インストール]をクリックします。

12. インストールが完了したら、アプリケーションランチャーに移動し、使用可能なアプリケーションのリストに CMA が表示されることを確認します。

関連トピック:

[Checkout 管理アプリケーションへのアクセス権の割り当て](#)

Checkout 管理アプリケーションの設定

Checkout 管理アプリケーション (CMA) 設定ツールを使用して、Stripe アカウントを接続し、データを Salesforce 組織にインポートします。次に、ダッシュボードの操作を習得し、顧客やチームメンバーが CMA からメール通知を受信するタイミングを選択します。


デモを見る:  [Set Up the Checkout Management App \(Checkout 管理アプリケーションの設定\)](#)

1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[Checkout 管理アプリケーション]をクリックします。
3. [Checkout の設定]をクリックします。
4. Stripe アカウントを接続します。
 - a. [Stripe アカウントを接続] セクションで、[実行する]をクリックします。
 - b. [Stripe から API キーを取得]をクリックします。
新しいタブに Stripe ダッシュボードが開きます。
 - c. Stripe ダッシュボードでライブシークレット API キーをコピーします。
 - d. CMA で、キーを [ライブシークレット API キー] に貼り付けてから、[Stripe アカウントを接続]をクリックします。
5. サイトを作成および設定して、データ同期を設定します。データ同期を設定すると、新しい Stripe データが自動的に組織に同期されます。
 - a. [データ同期の設定]をクリックします。
 - b. [Force.com ドメインを登録する]をクリックし、CMA の設定手順に従います。
 - c. [Force.com サイトを作成する]をクリックし、CMA の設定手順に従います。
 - d. [サイトへのアクセスを設定する]をクリックし、CMA の設定手順に従います。
 - e. [サイトを Stripe に接続する]をクリックし、CMA の設定手順に従います。
6. Stripe データをインポートします。AppExchange Checkout を使用して製品を販売したことがない場合は、Stripe データが存在しないため、このステップをスキップしてください。

ユーザ権限

Checkout 管理アプリケーションを設定する

- CMA 管理ユーザー

- a. [既存のデータをインポート]をクリックします。
 - b. [データをインポート]をクリックします。
Stripe データの量によっては、インポートに時間がかかる場合があります。データのインポート中は、CMA レポートまたはダッシュボードを使用しないでください。
 - c. インポートが終了したら、ダイアログを閉じて設定ウィザードに戻ります。
7. メール通知を設定します。
-  **ヒント:** 通知を有効にする前に、提供されたデフォルトのコンテンツを確認します。そうすることで、顧客やチームメンバーが受信する内容を正確に知ることができ、会社のアイデンティティを反映するようにカスタマイズできます。
- a. [通知の設定] セクションで [実行する] をクリックします。
 - b. 必要に応じて顧客通知を有効にします。
 - c. チームメンバーのメールアドレスを追加するには、[表示/編集] をクリックし、[保存] をクリックします。
 - d. 必要に応じてパートナー通知を有効にします。
 - e. 設定ウィザードに戻ります。
8. ダッシュボードを確認します。
- a. [ダッシュボードへようこそ] セクションで、[実行する] をクリックします。
 - b. 事前作成済みのダッシュボードを表示するか、Trailhead にアクセスしてダッシュボードのカスタマイズ方法を学習します。

これで作業は完了です。設定の詳細を後で更新するには、[Checkout の設定]に戻ります。

関連トピック:

[Checkout 管理アプリケーションのカスタマイズ例](#)

Checkout 管理アプリケーションへのアクセス権の割り当て

権限セットを使用してチームメンバーに Checkout 管理アプリケーション (CMA) への適切なレベルのアクセス権を割り当てます。チームメンバーがアクセスする必要がある機能に応じて、CMA 標準ユーザー権限セットまたは CMA 管理ユーザー権限セットを割り当てることができます。

標準ユーザーには、ダッシュボードとオブジェクトレコードへの参照のみアクセス権があり、通知設定の参照と更新はできません。システム管理者または CMA 管理ユーザー権限セットを持つユーザーには、オブジェクトの編集権限を含む、ダッシュボード、通知、およびオブジェクトへのフルアクセス権があります。CMA 管理ユーザー権限セットは、CMA を管理するユーザーにのみ割り当てます。

1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ユーザー」と入力し、[ユーザー] をクリックします。
3. ユーザーを選択します。

ユーザー権限

権限セットを割り当てる


- 「権限セットの割り当て」

4. [権限セットの割り当て] 関連リストで、[割り当ての編集] をクリックします。
5. CMA 標準ユーザーまたは CMA 管理ユーザー権限セットを選択し、[追加] をクリックします。
6. [保存] をクリックします。

Checkout 管理アプリケーションの通知テンプレートの変更

Checkout 管理アプリケーション (CMA) では、トライアルインストール、購入、およびその他のサブスクリプションの変更に応じてメール通知を送信できます。すぐに使用を開始できるようにデフォルトの通知が用意されていますが、会社のニーズに合わせてテンプレートをカスタマイズできます。

CMA の通知テンプレートは Visualforce メールテンプレートに基づいています。テンプレートでは、差し込み項目や数式などの高度なカスタマイズがサポートされています。

 **メモ:** CMA の通知テンプレートには、メールのスタイル設定に影響するカスタムコンポーネントも含まれています。これらのコンポーネントは変更できませんが、削除することはできます。

1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[Checkout 管理アプリケーション] をクリックします。
3. [Checkout の通知設定] をクリックします。
4. カスタマイズするテンプレートを見つけ、[編集] を選択します。
5. [テンプレートを編集] をクリックし、必要に応じて変更してから、[保存] をクリックします。

関連トピック:

[通知での組織の共有アドレスの使用](#)

[通知へのリンクの追加](#)

Checkout 管理アプリケーションのログの設定

Checkout 管理アプリケーション (CMA) によって、問題のトラブルシューティングに役立つデバッグログが作成されます。デフォルトでは、すべてのログが保存されますが、必要なくなったログを削除するように CMA を設定することもできます。ログを定期的に削除して、ご使用の Salesforce エディションのデータストレージ制限を超えないようにしてください。

1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. CMA ログの保存期間を設定します。
 - a. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「カスタム設定」と入力し、[カスタム設定] をクリックします。
 - b. CMALogSettings の場合、[管理] をクリックします。
 - c. [新規] をクリックします。
 - d. 名前を入力します。たとえば、「CMA Log Settings」(CMA ログの設定) と入力します。

ユーザ権限

通知の有効化、無効化、またはカスタマイズを行う

- CMA 管理ユーザー
- Visualforce メールテンプレートを作成または変更する
- 「アプリケーションのカスタマイズ」

ユーザ権限


カスタム設定を管理、作成、編集、削除する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

Apex クラスとトリガーへの変更を保存する

- 「Apex 開発」

- e. CMALogLifeSpan の場合、ログを保存する日数を入力します。たとえば、過去 30 日間に作成されたすべてのログを保存するには「30」と入力します。

 **メモ:** CMA ログの保存期間を変更するには、この手順で設定した値を編集します。値を CMALogSettings に追加しないでください。

3. 古い CMA ログを削除するように Apex ジョブをスケジュールします。
 - a. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「Apex クラス」と入力し、[Apex クラス] をクリックします。
 - b. [Apex をスケジュール] をクリックします。
 - c. ジョブを設定する手順は、次のとおりです。

項目	値
ジョブ名	CMA Log Cleanup (CMA ログのクリーンアップ)
Apex クラス	ScheduledDeleteCMALogs  メモ: 名前空間プレフィックス: sfcma
頻度	週または月の間隔を指定します (少なくとも 1 週間に 1 回はジョブを実行することをお勧めします)
開始日	今日の日付
終了日	将来の日付 (少なくとも数年後の日付を指定することをお勧めします)
希望開始時刻	任意の値 (組織の負荷が高くない時刻を選択することをお勧めします)

- d. [保存] をクリックします。

Checkout 管理アプリケーションのカスタマイズ例

Checkout 管理アプリケーション (CMA) は、そのままでも強力なツールですが、カスタマイズすることでさらに威力を発揮します。次の例では、顧客やチームメンバーのニーズに合わせてダッシュボードとメール通知を変更する方法を示します。

通知での組織の共有アドレスの使用

デフォルトでは、Checkout 管理アプリケーション (CMA) によって送信される通知の [差出人] 項目には汎用メールアドレスが記載されています。ただし、たとえばサポートや請求など、社内の特定のチームの連絡先情報を記載する必要がある場合、通知に組織の共有アドレスを指定することで、顧客の返信が社内の適切なユーザーに転送されます。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

通知へのリンクの追加

顧客が製品をインストールするときに、設定ドキュメントなど、通知には収まらない情報を提供する必要があります。そのような情報を顧客に伝えるために、Checkout 管理アプリケーション (CMA) の通知にリンクを含めることができます。

レポートに製品の年間売上を表示するカスタマイズ

必要な情報が Checkout 管理アプリケーション (CMA) ダッシュボードに標準で表示されない場合は、レポートを変更します。この例では、すべての製品の月間売り上げの代わりに 1 つの製品の年間売り上げを表示する手順を示します。

通知での組織の共有アドレスの使用

デフォルトでは、Checkout 管理アプリケーション (CMA) によって送信される通知の [差出人] 項目には汎用メールアドレスが記載されています。ただし、たとえばサポートや請求など、社内の特定のチームの連絡先情報を記載する必要がある場合、通知に組織の共有アドレスを指定することで、顧客の返信が社内の適切なユーザーに転送されます。

会社で返金に関する問い合わせを担当している請求スペシャリストのメールアドレスが `billing@example.com` だとします。顧客が質問があるときに問い合わせ先がわかるように、このメールアドレスを [返金通知] テンプレートに追加する手順は次のとおりです。

1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. 組織の共有メールアドレスを作成します。
 - a. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「組織のアドレス」と入力し、[組織のアドレス] をクリックします。
 - b. [追加] をクリックします。
 - c. 表示名には、メールを受信するユーザーに送信者として表示される単語または語句を入力します。この例では、「Billing Support」(請求サポート) と入力します。
 - d. メールアドレスを入力します。この例では、「`billing@example.com`」 と入力します。
 - e. このアドレスを使用できるプロファイルを選択します。この例では、すべてのプロファイルでこのアドレスを有効にします。
 - f. [保存] をクリックします。
3. 組織の共有メールアドレスを通知テンプレートに追加します。
 - a. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「メールアラート」と入力し、[メールアラート] をクリックします。
 - b. 更新する通知テンプレートを見つけ、[編集] をクリックします。この例では、[顧客返金通知] テンプレートを選択します。
 - c. [差出人メールアドレス] で、組織の共有メールアドレスを選択します。この例では、「"Billing Support" <billing@example.com>」を選択します。
4. [保存] をクリックします。

ユーザ権限

通知の有効化、無効化、またはカスタマイズを行う

- CMA 管理ユーザー

組織の共有アドレスを設定する

- 「すべてのデータの編集」


通知へのリンクの追加

顧客が製品をインストールするときに、設定ドキュメントなど、通知には収まらない情報を提供する必要がある場合があります。そのような情報を顧客に伝えるために、Checkout 管理アプリケーション (CMA) の通知にリンクを含めることができます。

インストール後に設定が必要な製品を販売しているとします。顧客が良いスタートを切るために、設定のヒントが掲載されている Web サイト上のページに案内します。[無料トライアルサインアップ]テンプレートへのリンクを追加する手順は次のとおりです。

1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[Checkout 管理アプリケーション]をクリックします。
3. [Checkout の通知設定]をクリックします。
4. 使用するテンプレートを見つけ、[編集]をクリックします。この例では、[無料トライアルサインアップ]テンプレートを選択します。
5. [テンプレートを編集]をクリックします。
6. メールテンプレートに、外部 URL を指し示すことができる `<apex:outputLink>` コンポーネントが含まれるように変更します。この例では、このコンポーネントをメッセージ本文の最後の文の後に追加します。

```
<apex:outputLink value="https://example.com/getstarted" target="_blank">Check out our website for configuration tips.</apex:outputLink>
```

 **メモ:** target 属性は空白に設定します。こうすることで、新しいページに URL が開きます。

7. [保存]をクリックします。

レポートに製品の年間売上を表示するカスタマイズ

必要な情報が Checkout 管理アプリケーション (CMA) ダッシュボードに標準で表示されない場合は、レポートを変更します。この例では、すべての製品の月間売上げの代わりに 1 つの製品の年間売上げを表示する手順を示します。

1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[Checkout 管理アプリケーション]をクリックします。
3. [ダッシュボード]をクリックして、[CMA ダッシュボード]をクリックします。
4. [月間売上] グラフで、[レポートの表示]をクリックします。
5. [編集] ドロップダウンリストから、[コピー]を選択します。
6. 項目値を次のように指定し、[作成]をクリックします。

ユーザ権限

通知の有効化、無効化、またはカスタマイズを行う

- CMA 管理ユーザー
- Visualforce メールテンプレートを作成または変更する
- 「アプリケーションのカスタマイズ」

ユーザ権限

CMA レポートをカスタマイズする

- CMA 管理ユーザー
- レポートを作成、編集、および削除する
- 「レポートの作成とカスタマイズ」
- および
- 「レポートビルダー」

項目名	値
Name	Revenue Per Year (年間売り上げ) ダッシュボードを整理された状態に保つには、製品の名前を含めます。たとえば、「Revenue Per Year (Sample App)」(年間売り上げ(サンプルアプリケーション))などとします。
Folder	CMA レポート

7. [編集] をクリックします。
8. 特定の製品の売り上げを表示するための条件を追加します。
 - a. [追加] ドロップダウンリストから、[項目の絞り込み] を選択します。
 - b. 検索条件を入力します。SampleApp という名前のリスト項目の売り上げのみを表示するには、[リスト名がサンプルアプリケーションに等しい] という条件を作成します。
 - c. [OK] をクリックします。
9. [プレビュー] セクションで、[有効化日] ドロップダウンリストから、[集計期間単位] > [年] を選択します。これで、レポートは月間売り上げではなく年間売り上げを表示するように設定されました。
10. [保存] をクリックして、[レポート実行] をクリックします。

Checkout 管理アプリケーションの設定の更新

顧客やチームメンバーが Checkout 管理アプリケーション (CMA) からメールを受信するタイミングを制御します。また、CMA に関連付けられている Stripe アカウントを変更し、Salesforce 組織に手動でデータを再インポートすることもできます。管理ユーザーのみが、CMA の設定を更新できます。

Checkout 管理アプリケーションの通知設定の変更

個々の Checkout 管理アプリケーション (CMA) メール通知を顧客およびチームメンバーのニーズに応じて有効化または無効化できます。

Checkout 管理アプリケーションに関連付けられた Stripe アカウントの変更

別の Stripe アカウントからサブスクリプションの管理を開始する場合、Checkout 管理アプリケーション (CMA) でアカウント設定を更新して、Stripe データの同期を維持します。

Checkout 管理アプリケーションへの Stripe データの再インポート

Checkout 管理アプリケーション (CMA) は自動的に新しい Stripe データを組織に取り込むため、通常、手動でインポートを行う必要はありません。ただし、CMA のデータに欠落または誤りが生じた場合は、手動で Stripe データを再インポートできます。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

Checkout 管理アプリケーションの通知設定の変更

個々の Checkout 管理アプリケーション (CMA) メール通知を顧客およびチームメンバーのニーズに応じて有効化または無効化できます。


1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[Checkout 管理アプリケーション] をクリックします。
3. [通知の設定] をクリックします。
4. 顧客通知またはパートナー通知を有効化または無効化します。

関連トピック:

[Checkout 管理アプリケーションの通知テンプレートの変更](#)

Checkout 管理アプリケーションに関連付けられた Stripe アカウントの変更


別の Stripe アカウントからサブスクリプションの管理を開始する場合、Checkout 管理アプリケーション (CMA) でアカウント設定を更新して、Stripe データの同期を維持します。

1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[Checkout 管理アプリケーション] をクリックします。
3. [Checkout の設定] をクリックします。
4. [Stripe アカウントを接続] セクションで、[変更] をクリックします。
5.  **メモ:** 現在の Stripe アカウントを変更または切断しても、既存の Stripe データは組織に残ります。

新しい Stripe アカウントを関連付けるには、[Stripe アカウントを変更] をクリックし、新しいライブシークレット API キーを入力します。

Checkout 管理アプリケーションへの Stripe データの再インポート

Checkout 管理アプリケーション (CMA) は自動的に新しい Stripe データを組織に取り込むため、通常、手動でインポートを行う必要はありません。ただし、CMA のデータに欠落または誤りが生じた場合は、手動で Stripe データを再インポートできます。

 **警告:** 再インポートすると、組織内の既存の Stripe データは上書きされます。既存のデータに対して行った変更は失われます。レポートとダッシュボードのカスタマイズや、通知設定への影響はありません。

1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[Checkout 管理アプリケーション] をクリックします。
3. [Checkout の設定] をクリックします。
4. [既存のデータをインポート] セクションで、[Re-import Data (データを再インポート)] を選択します。

ユーザ権限

通知の有効化、無効化、またはカスタマイズを行う

- CMA 管理ユーザー

ユーザ権限

Checkout 管理アプリケーションを設定する

- CMA 管理ユーザー

ユーザ権限

Checkout 管理アプリケーションを設定する

- CMA 管理ユーザー

5. 既存の Stripe データを上書きすることを確認し、[Yes, Reimport Data (はい、データを再インポートする)] をクリックします。

Checkout 管理アプリケーションログの表示

Stripe に接続したり、データを同期したりすると、Checkout 管理アプリケーション(CMA)によってログが作成されます。CMA で問題が発生した場合、原因の診断に役立つログを表示します。

1. CMA がインストールされている組織にログインします。
2. Lightning Experience で CMA ログを表示する手順は、次のとおりです。
 - a. アプリケーションランチャーを開き、[その他の項目]をクリックします。
 - b. [Checkout ログ] をクリックします。
3. Salesforce Classic で CMA ログを表示する手順は、次のとおりです。
 - a. アプリケーションランチャーを開き、[Checkout 管理アプリケーション] をクリックします。
 - b. メインタブの横にあるプラスアイコン (+) をクリックします。

ユーザ権限

アプリケーションを管理する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

CMA ログを表示する

- CMA 管理ユーザー



- c. [Checkout ログ] をクリックします。

AppExchange パートナーの Analytics によるパフォーマンスの監視

顧客が AppExchange リストをどのように検索し、使用しているかを Marketplace Analytics ダッシュボードで確認します。App Analytics データを調べて、登録者がパッケージをどのように使用しているかを確認します。

AppExchange Marketplace Analytics でのリストパフォーマンスの測定

リストの総計値、トレンド、検索データを調べることで、AppExchange のビジネス戦略を微調整します。

AppExchange App Analytics (AppExchange アプリケーションの Analytics)

AppExchange の App Analytics は、登録者が AppExchange ソリューションをどのように操作しているかに関する利用状況データを提供します。これらの詳細を利用して、減少のリスクを特定したり、機能開発の決定を知らせたり、ユーザーエクスペリエンスを向上させたりすることができます。

AppExchange Marketplace Analytics でのリストパフォーマンスの測定

リストの総計値、トレンド、検索データを調べることで、AppExchange のビジネス戦略を微調整します。

AppExchange Marketplace Analytics の概要

AppExchange Marketplace Analytics は、総計値、トレンド、および視覚化を使用して、Salesforce の顧客がアプリケーションやコンサルティングサービスのリストをどのように検索し、使用しているかを示します。

AppExchange マーケティングプログラム (AMP) の参加者の場合、Marketplace Analytics は AMP プロモーションパフォーマンスに関するインサイトを提供します。

AppExchange Marketplace Analytics の使用開始

AppExchange Marketplace Analytics のナビゲーション方法について学習します。AppExchange Marketplace Analytics へのアクセス権を付与して、チームメンバーが視覚化とデータを表示できるようにします。AppExchange Marketplace Analytics データをエクスポートして、Salesforce や他のツールで分析します。

AppExchange Marketplace Analytics の FAQ

AppExchange Marketplace Analytics に関するよくある質問への回答を確認してください。

AppExchange Marketplace Analytics の概要

AppExchange Marketplace Analytics は、総計値、トレンド、および視覚化を使用して、Salesforce の顧客がアプリケーションやコンサルティングサービスのリストをどのように検索し、使用しているかを示します。AppExchange マーケティングプログラム (AMP) の参加者の場合、Marketplace Analytics は AMP プロモーションパフォーマンスに関するインサイトを提供します。

 **メモ:** AppExchange Marketplace Analytics は資格のある Salesforce パートナーが使用できます。資格要件を含むパートナープログラムの詳細は、<https://partners.salesforce.com> を参照してください。

Marketplace Analytics を利用して、以下の情報を発見します。

- AppExchange のホームページと検索結果ページで顧客がリストタイルを表示する頻度
- Google 広告などのトラフィックの参照元がリストの顧客の活動にどのように寄与しているか
- 顧客がリストを見つけ出した上位の AppExchange 検索用語
- 顧客がリストを見ながらエンゲージしたリストリソース (スクリーンショットやホワイトペーパーなど)
- AMP プロモーションがリストでの顧客の活動にどのように寄与しているか

これらの情報から学んだ内容に基づいて AppExchange ビジネス戦略を策定し、リード数、インストール数、購入数を増やすための機会を捉えます。

AppExchange Marketplace Analytics の活動の概要

AppExchange Marketplace Analytics の活動の概要領域で、リストの主要な総計値を確認します。[ホーム] タブには、タイルビュー数、タイルにマウスポインターを置いた数、ビジター数、リードのイベント数、およびインストール数の概要が表示されます。[AMP インサイト] タブには、スポンサー付きのタイルビュー数、スポンサー付きのタイルにマウスポインターを置いた数、ビジター数、リードのイベント数、およびインストール数の概要が表示されます。トレンドインジケータは、前の期間と比較した総計値のパフォーマンスを示します。デフォルトでは過去 30 日間の総計値が表示されますが、別の固定の期間を選択したり、カスタムの期間を定義したりすることもできます。

AppExchange Marketplace Analytics の検索条件

AppExchange Marketplace Analytics で検索条件を適用して、関連性の高いデータに着目します。グローバル検索条件は、活動の概要とすべての視覚化のデータに適用されます。ローカル検索条件は、個々の視覚化のデータにのみ適用されます。

AppExchange Marketplace Analytics の視覚化

トレンドを観察して機会を見つけ出すための AppExchange Marketplace Analytics の視覚化について調べます。

AppExchange Marketplace Analytics の CSV ファイル

AppExchange Marketplace Analytics のデータは、カンマ区切り値 (.csv) 形式でエクスポートできます。データをエクスポートすると、Marketplace Analytics によってダッシュボードの視覚化ごとに個別の .csv ファイルが作成され、すべてのファイルが .zip ファイルにパッケージ化されます。

AppExchange Marketplace Analytics のリードイベントとリードの違いは何ですか?

AppExchange Marketplace Analytics でのリストのリードイベントの定義と、Salesforce 組織に表示されるリードとの違いについて学習します。

AppExchange Marketplace Analytics の活動の概要

AppExchange Marketplace Analytics の活動の概要領域で、リストの主要な総計値を確認します。[ホーム] タブには、タイトルビュー数、タイトルにマウスポインターを置いた数、ビジター数、リードのイベント数、およびインストール数の概要が表示されます。[AMP インサイト] タブには、スポンサー付きのタイトルビュー数、スポンサー付きのタイトルにマウスポインターを置いた数、ビジター数、リードのイベント数、およびインストール数の概要が表示されます。トレンドインジケータは、前の期間と比較した総計値のパフォーマンスを示します。デフォルトでは過去 30 日間の総計値が表示されますが、別の固定の期間を選択したり、カスタムの期間を定義したりすることもできます。



要素	説明
総計値 (1)	特定の期間中にイベントまたは使用が発生した回数。1,000 を超える値の場合、ダッシュボードには丸められた数字が表示されます。正確な数を表示するには、総計値にマウスポインターを置きます。
トレンドインジケータ (2)	前の期間と比較した総計値の変化率。正の値は期間ごとの比較で増加していることを表します。負の値は期間ごとの比較で減少していることを表します。トレンドは、次の期間で表示できます。 <ul style="list-style-type: none"> 過去 7 日間 過去 30 日間 過去 1 年間

例:

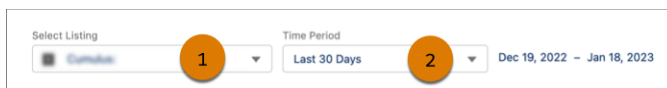


この例では、Appy's Maps という名前のソリューションが、過去 30 日間で 1,200 回のタイトルビュー (1) を受信したことを示しています。これは、前の 30 日間 (3) と比較して 9% 増加 (2) しています。

AppExchange Marketplace Analytics の検索条件

AppExchange Marketplace Analytics で検索条件を適用して、関連性の高いデータに着目します。グローバル検索条件は、活動の概要とすべての視覚化のデータに適用されます。ローカル検索条件は、個々の視覚化のデータにのみ適用されます。

グローバル検索条件




検索条件	説明
リスト (1)	データを調べる AppExchange リストを選択します。公開されているリストのみを表示できます。
期間 (2)	データの固定期間を選択するか、または開始日と終了日のカスタム値を定義します。

ローカル検索条件



検索条件	説明	視覚化
参照元 (3)	視覚化に表示するトラフィックの参照元を選択します。 トラフィックの参照元は、AppExchange の検索や Facebook の広告など、AppExchange リストの活動がどこから発生したかを理解するのに役立ちます。	<ul style="list-style-type: none"> 活動参照元タイムライン 地域別の活動の概要
活動 (4)	視覚化に表示する活動総計値を選択します。 活動総計値は、AppExchange リストでイベントや操作が何回発生したかを示します。	<ul style="list-style-type: none"> 活動参照元タイムライン 活動参照元

検索条件	説明	視覚化
		<ul style="list-style-type: none"> 地域別の活動の概要 AMP パフォーマンスタイムライン チャットエンゲージメント 顧客エンゲージメント 上位の AppExchange 検索
項目ごとの参照 (5)	<p>視覚化の期間を調整します (日、週、月、または四半期)。</p> <p>週は W_n の書式で表示されます (n は週番号)。たとえば、W1 は年の最初の週を表します。同様に、四半期は Q_n の書式で表示されます (n は四半期番号)。たとえば、Q4 は、年の第 4 四半期を表します。</p> <p>週と四半期は両方とも、1月1日に年度が始まります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動参照元タイムライン AMP パフォーマンスタイムライン チャットエンゲージメント 顧客エンゲージメント リードイベントタイムライン
リード種別	<p>デモの表示からのリードイベントなど、視覚化に表示するリードイベントの種別を選択します。</p> <p> メモ: Marketplace Analytics は、2021 年 4 月 16 日以降、リスト活動でリードイベントを分類しています。この日付より前は、履歴リードイベントのみが表示されます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> リードイベントタイムライン リードのイベント数
プロモーション名	<p>視覚化に表示する AppExchange マーケティングプログラム (AMP) のプロモーションを選択します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> AMP パフォーマンスタイムライン

AppExchange Marketplace Analytics の視覚化

トレンドを観察して機会を見つけ出すための AppExchange Marketplace Analytics の視覚化について調べます。

AppExchange Marketplace Analytics での活動参照元タイムライン

内部および外部のトラフィックの参照元が、指定した期間の AppExchange リストの動作に、どのように寄与しているかを確認できます。たとえば、顧客が AppExchange の検索ページでリストタイルを表示した回数と、ホームページやコレクションページで表示した回数を比較できます。

AppExchange Marketplace Analytics での活動参照元

インストールおよび外部トラフィックの参照元が AppExchange リストでの活動にどのように寄与しているかが表示されます。たとえば、AppExchange での検索と Google での検索でリストを見つけた顧客によるインストール数をそれぞれ確認できます。

AppExchange Marketplace Analytics での顧客エンゲージメント

時間の経過に沿った顧客のリストとリソースの操作について表示されます。たとえば、顧客がホワイトペーパーを表示した回数とカスタマイズガイドを表示した回数を比較できます。

AppExchange Marketplace Analytics での上位の AppExchange 検索

リストで最も使用頻度が多い上位 10 件の AppExchange 検索キーワードを参照します。たとえば、最も多いソリューションのインストール数につながった検索語を確認できます。

AppExchange Marketplace Analytics での地域ごとの活動の概要

米国内や世界中の地理的な条件が AppExchange リスト上での活動にどのように寄与しているかを表示します。たとえば、リストで最も多くのリードイベントを発生させた米国の州を特定できます。

AppExchange Marketplace Analytics でのリードイベントタイムライン

AppExchange リスト上でのリードイベントの経時的な変化を表示します。たとえば、テストドライブまたはデモのパフォーマンスを四半期ごとに追跡できます。

AppExchange Marketplace Analytics でのリードイベント

AppExchange リストで活動がどのようにリードイベントに寄与しているかが表示されます。たとえば、デモビューで生成されたリードイベント数と AppExchange チャットインタラクションで生成されたリードイベント数を比較できます。

AppExchange Marketplace Analytics でのチャットエンゲージメント

AppExchange チャット環境をどのように操作しているかを確認します。たとえば、営業担当が先週ホストした会話の数を確認できます。

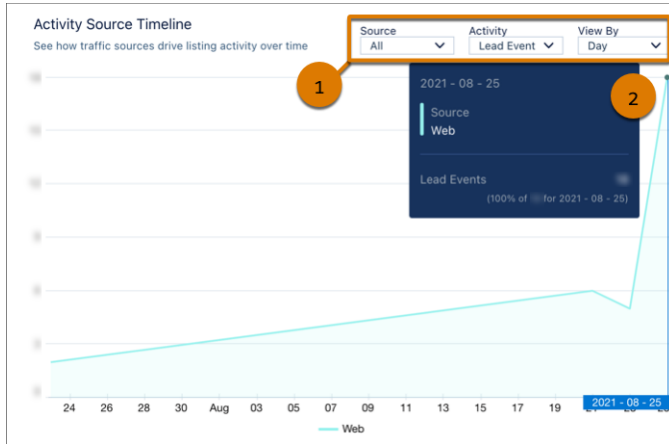
AppExchange Marketplace Analytics での AMP パフォーマンスタイムライン

AppExchange マーケティングプログラム (AMP) のプロモーションがリスト活動にどのように寄与しているかが経時的に表示されます。たとえば、前四半期に購入した業種のプロモーションによって発生したリストへのアクセス数を確認できます。

AppExchange Marketplace Analytics での活動参照元タイムライン

内部および外部のトラフィックの参照元が、指定した期間の AppExchange リストの動作に、どのように寄与しているかを確認できます。たとえば、顧客が AppExchange の検索ページでリストタイルを表示した回数と、ホームページやコレクションページで表示した回数を比較できます。

内部トラフィックは AppExchange Web サイトで発生します。たとえば、顧客がパーソナライズされたおすすりをクリックしてリストにアクセスする場合などです。外部トラフィックは AppExchange の外部で発生します。たとえば、顧客が Facebook の広告をクリックしてリストにアクセスする場合などです。



トラフィックの参照元、活動、または時間単位を変更するには、ローカル検索条件を調整します(1)。Y軸は、選択したトラフィックの参照元と活動に基づいてサイズ変更されます。X軸のサイズを変更するには、[項目ごとの参照] 検索条件を変更します。正確な値を確認するには、グラフの線の上にマウスポインターを置きます(2)。

ヒント: 仮想化にデータが表示されない場合は、別の総計値で絞り込むか、期間を変更してください。

定義

この視覚化に表示される総計値の定義を次に示します。

総計値	説明
インストール数	AppExchange、Web サイト、またはコードリポジトリから開始されたソリューションのインストールの回数。AppExchange のインストールについては、[今すぐ入手] のインストールフローが正常に完了した回数が数えられます。本番組織および Sandbox 組織でのインストール回数がカウントされます。
リードのイベント	リストのリードイベント数。イベントには、デモ、機能制限トライアル、チャットのやりとり、[詳細はこちら] のクリック数、[今すぐ入手] のクリック数またはインストール数が含まれます。[今すぐ入手] をクリックしてソリューションをインストールした顧客は、1つのリードイベントとして数えられます。
タイルにマウスポインターを置く	リストのタイルにマウスポインターを置いた回数。カーソルを置いたことが認識されるには、タイルの上で十分な時間カーソルを停止する必要があります。これにより、リストの詳細のポップオーバーが表示されます。顧客が繰り返しマウスポインターを置いた回数も数えられます。 メモ: 顧客は、AppExchange のカテゴリおよびコレクションのページで、リストタイルにカーソルを合わせることができます。ホームページおよび検索ページのタイルでは、タイルにカーソルを合わせるアクションは使用できません。

総計値	説明
タイルビュー	リストのタイルの表示回数。表示として認識されるには、顧客のブラウザでタイル全体が表示される必要があります。顧客が繰り返し表示した回数もすべてカウントされます。
アクセス	リストへのアクセス回数です。顧客が繰り返しアクセスした回数もカウントされます。

次の内部トラフィックの参照元は活動に関連付けられています。

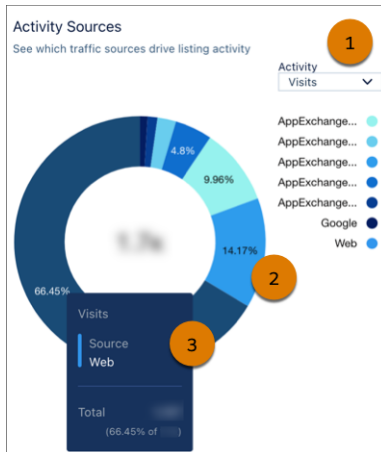
トラフィックの参照元	説明
AppExchange の参照	他の参照元に含まれていない AppExchange の領域からリストにアクセスした顧客の活動。たとえば、製品コレクション、業種コレクション、または AppExchange ホームページを参照した顧客などがあります。
AppExchange カテゴリ	AppExchange の [タイプ別のソリューション] のいずれかのカテゴリからリストにアクセスした顧客の活動。
スポンサー付き AppExchange	AppExchange の [スポンサー付きソリューション] セクションからリストにアクセスした顧客の活動。
AppExchange 推奨	AppExchange のパーソナライズされたおすすめからリストにアクセスした顧客の活動。
AppExchange 検索	AppExchange の検索バーで実行した検索からリストにアクセスした顧客の活動。

次の外部トラフィックの参照元は活動に関連付けられます。

トラフィックの参照元	説明
Facebook	Facebook のページまたは広告からリストにアクセスした顧客の活動。オーガニック検索トラフィックと、Facebook サイトまたは Facebook の Audience Network に表示される広告からのトラフィックが対象となります。
Google	Google の検索または広告からリストにアクセスした顧客の活動。オーガニック検索トラフィックと、Google 検索ネットワークおよび Google ディスプレイネットワークに表示される広告からのトラフィックが対象となります。
Web	Facebook や Google と提携していない Web ソースからリストにアクセスした顧客の活動。会社の Web サイトからのトラフィックが含まれます。

AppExchange Marketplace Analytics での活動参照元

インストールおよび外部トラフィックの参照元が AppExchange リストでの活動にどのように寄与しているかが表示されます。たとえば、AppExchange での検索と Google での検索でリストを見つけた顧客によるインストール数をそれぞれ確認できます。



活動を変更するには、ローカル検索条件を調整します (1)。グラフ区分内のパーセント値 (2) は、活動の合計にトラフィックの参照元がどの程度寄与しているかを表します。正確な値を確認するには、グラフ区分にマウスポインターを置きます (3)。

ヒント: 仮想化にデータが表示されない場合は、別の総計値で絞り込むか、期間を変更してください。

定義

この視覚化に表示される総計値の定義を次に示します。

総計値	説明
デモ	検索語に関連付けられた [デモ] ボタンのクリック数。
インストール数	検索語に関連付けられたインストール数。 インストール数として認識されるのは、AppExchange、Web サイト、またはコードリポジトリから開始されたものです。AppExchange のインストールの場合、この数は [今すぐ入手] のインストールフローが正常に完了した回数を表し、本番組織と Sandbox 組織でのインストールが対象となります。
リードのイベント	検索語に関連付けられたリードイベントの数。 リードイベントには、デモ数、機能制限トライアル、チャットのやりとり、[詳細はこちら] のクリック数、[今すぐ入手] のクリック数またはインストール数が含まれます。[今すぐ入手] をクリックしてソリューションをインストールした顧客は、1 つのリードイベントとして数えられます。
機能制限トライアル	検索語に関連付けられた [機能制限トライアル] ボタンのクリック数。

総計値	説明
アクセス	検索語に関連付けられたリストへのユニーク訪問者の数。

次の内部トラフィックの参照元は活動に関連付けられています。

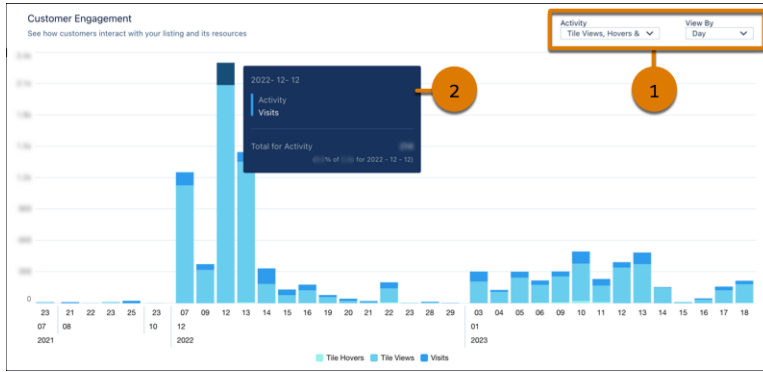
トラフィックの参照元	説明
AppExchange の参照	他の参照元に含まれていない AppExchange の領域からリストにアクセスした顧客の活動。たとえば、製品コレクション、業種コレクション、または AppExchange ホームページを参照した顧客などがあります。
AppExchange カテゴリ	AppExchange の [タイプ別のソリューション] のいずれかのカテゴリからリストにアクセスした顧客の活動。
スポンサー付き AppExchange	AppExchange の [スポンサー付きソリューション] セクションからリストにアクセスした顧客の活動。
AppExchange 推奨	AppExchange のパーソナライズされたおすす​​めからリストにアクセスした顧客の活動。[あなたへのおすす​​め] および [選択はアプリケーションにお任せ] が対象になります。
AppExchange 検索	AppExchange の検索バーで実行した検索からリストにアクセスした顧客の活動。

次の外部トラフィックの参照元は活動に関連付けられます。

トラフィックの参照元	説明
Facebook	Facebook のページまたは広告からリストにアクセスした顧客の活動。オーガニック検索トラフィックと、Facebook サイトまたは Facebook の Audience Network に表示される広告からのトラフィックが対象となります。
Google	Google の検索または広告からリストにアクセスした顧客の活動。オーガニック検索トラフィックと、Google 検索ネットワークおよび Google ディスプレイネットワークに表示される広告からのトラフィックが対象となります。
Web	Facebook や Google と提携していない Web ソースからリストにアクセスした顧客の活動。会社の Web サイトからのトラフィックが含まれます。

AppExchange Marketplace Analytics での顧客エンゲージメント

時間の経過に沿った顧客のリストとリソースの操作について表示されます。たとえば、顧客がホワイトペーパーを表示した回数とカスタマイズガイドを表示した回数を比較できます。



活動または時間単位を変更するには、ローカル検索条件を調整します(1)。Y軸は、選択した活動に基づいてサイズ変更されます。X軸のサイズを変更するには、[項目ごとの参照] 検索条件を変更します。正確な値を確認するには、グラフ区分にマウスポインターを置きます(2)。

ヒント: 仮想化にデータが表示されない場合は、別の総計値で絞り込むか、期間を変更してください。

定義

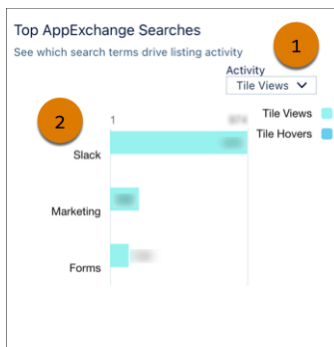
この視覚化に表示される総計値の定義を次に示します。


総計値	説明
Case Studies (ケーススタディ数)	リストのケーススタディの表示数。
Customization Guides (カスタマイズガイド)	リストのカスタマイズガイドの表示数。
Data Sheets (データシート)	リストのデータシートの表示数。
Demos (デモ)	リストの [デモを見る] ボタンのクリック数。
Get It Now (今すぐ入手した数)	リストの [今すぐ入手] ボタンのクリック数。顧客がこのボタンをクリックすることによって、[今すぐ入手] インストールフローが開始されますが、完了しない場合もあります。
Tile Hovers (タイルにマウスポインターを置いた数)	リストのタイルにマウスポインターを置いた回数。カーソルを置いたことが認識されるには、タイルの上で十分な時間カーソルを停止する必要があります。これにより、リストの詳細のポップオーバーが表示されます。顧客が繰り返しマウスポインターを置いた回数もカウントされます。 メモ: 顧客は、AppExchange のカテゴリおよびコレクションのページで、リストタイルにカーソルを合わせることができます。ホームページまたは検索ページのタイルでは、タイルにカーソルを合わせるアクションは使用できません。
Installs (インストール数)	AppExchange、Web サイト、またはコードリポジトリから開始されたソリューションのインストールの回数。AppExchange のインストールについては、[今すぐ入手]

総計値	説明
	のインストールフローが正常に完了した回数が数えられます。本番組織および Sandbox 組織でのインストール回数がカウントされます。
LeadEvents (リードのイベント数)	リストのリードイベント数。イベントには、デモ、機能制限トライアル、チャットのやりとり、[詳細はこちら] のクリック数、[今すぐ入手] のクリック数またはインストール数が含まれます。[今すぐ入手] をクリックしてソリューションをインストールした顧客は、1つのリードイベントとして数えられます。
Saves (保存数)	リストの [保存] ボタンのクリック数。
Screenshot <i>n</i> (スクリーンショット <i>n</i>)	スクリーンショット番号 <i>n</i> の表示回数。この番号は、リストの画像カルーセルに表示されている番号に対応します。
Test Drives (機能制限トライアル数)	リストの [機能制限トライアル] ボタンのクリック数。
Testimonials (推薦文数)	リストの推薦文の表示回数。
Tile Views (タイルビュー数)	リストのタイルの表示回数。表示として認識されるには、顧客のブラウザでタイル全体が表示される必要があります。顧客が繰り返し表示した回数もカウントされます。
Webinars (Web セミナー数)	リストの Web セミナーの表示回数。
White Papers (ホワイトペーパー数)	リストのホワイトペーパーの表示数。
Visits (アクセス数)	リストへのアクセス回数です。顧客が繰り返しアクセスした回数もカウントされます。


AppExchange Marketplace Analytics での上位の AppExchange 検索

リストで最も使用頻度が多い上位 10 件の AppExchange 検索キーワードを参照します。たとえば、最も多いソリューションのインストール数につながった検索語を確認できます。




 **メモ:** AppExchange Web サイトの検索バーで実行された検索のみが対象です。外部の検索エンジンからの検索語は利用できません。

表示する活動を選択します (1)。活動に関連する検索語 (2) がグラフの左側に表示されます。マウスポインターを視覚化に置いてスクロールすると、利用できるすべての検索語を見ることができます。

 **ヒント:** 仮想化にデータが表示されない場合は、別の総計値で絞り込むか、期間を変更してください。

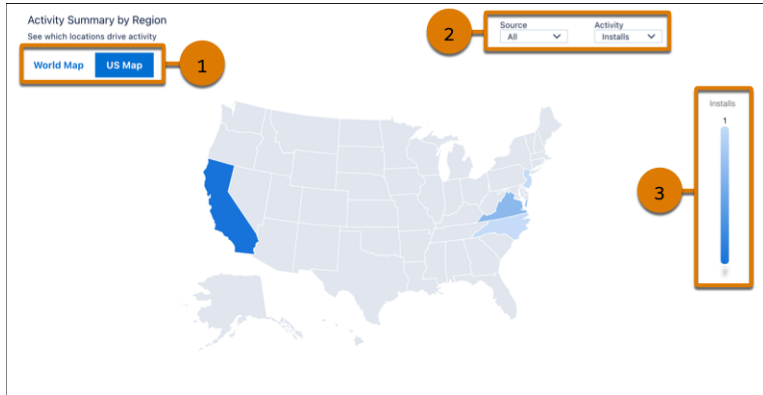
定義

この視覚化に表示される総計値の定義を次に示します。

総計値	説明
インストール数	AppExchange、Web サイト、またはコードリポジトリから開始されたソリューションのインストールの回数。AppExchange のインストールについては、[今すぐ入手] のインストールフローが正常に完了した回数が数えられます。本番組織および Sandbox 組織でのインストール回数がカウントされます。
リードのイベント	リストのリードイベント数。イベントには、デモ、機能制限トライアル、チャットのやりとり、[詳細はこちら] のクリック数、[今すぐ入手] のクリック数またはインストール数が含まれます。[今すぐ入手] をクリックしてソリューションをインストールした顧客は、1 つのリードイベントとして数えられます。
タイルにマウスポインターを置く	リストのタイルにマウスポインターを置いた回数。カーソルを置いたことが認識されるには、タイルの上で十分な時間カーソルを停止する必要があります。これにより、リストの詳細のポップオーバーが表示されます。顧客が繰り返しカーソルを置いた回数もすべてカウントされます。  メモ: 顧客は、AppExchange のカテゴリおよびコレクションのページで、リストタイルにカーソルを合わせることができます。ホームページまたは検索ページのタイルでは、タイルにカーソルを合わせるアクションは使用できません。
タイルビュー	リストのタイルの表示回数。表示として認識されるには、顧客のブラウザでタイル全体が表示される必要があります。顧客が繰り返し表示した回数もすべてカウントされます。
アクセス	リストへのアクセス回数です。顧客が繰り返しアクセスした回数もカウントされます。


AppExchange Marketplace Analytics での地域ごとの活動の概要

米国内や世界中の地理的な条件が AppExchange リスト上での活動にどのように寄与しているかを表示します。たとえば、リストで最も多くのリードイベントを発生させた米国の州を特定できます。




内部トラフィックは AppExchange Web サイトで発生します。たとえば、顧客がパーソナライズされたおすすめをクリックしてリストにアクセスする場合などです。外部トラフィックは AppExchange の外部で発生します。たとえば、顧客が Facebook の広告をクリックしてリストにアクセスする場合などです。

国別にデータを表示したり、米国の州またはテリトリー別にデータを表示したりします。データを国別に表示するには、[世界地図] を選択します。データを米国の州またはテリトリー別に表示するには、[米国地図] を選択します (1)。トラフィックの参照元または活動を変更するには、ローカル検索条件を調整します (2)。グラデーションには、選択した活動の値の範囲が表示されます (3)。[\[世界地図\]](#) で選択した地域の詳細な総計値を表示するには、国にマウスポインターを置きます。[\[米国地図\]](#) の場合は、州またはテリトリーにマウスポインターを置きます。

 **ヒント:** 視覚化にデータが表示されない場合は、別の総計値で絞り込んでください。

定義

この視覚化に表示される総計値の定義を次に示します。

総計値	説明
インストール数	AppExchange、Web サイト、またはコードリポジトリから開始されたソリューションのインストールの回数。AppExchange のインストールについては、 [今すぐ入手] のインストールフローが正常に完了した回数が数えられます。本番組織および Sandbox 組織でのインストール回数がカウントされます。
リードのイベント	リストのリードイベント数。イベントには、デモ、機能制限トライアル、チャットのやりとり、 [詳細はこちら] のクリック数、 [今すぐ入手] のクリック数またはインストール数が含まれます。 [今すぐ入手] をクリックしてソリューションをインストールした顧客は、1つのリードイベントとして数えられます。
タイルにマウスポインターを置く	リストのタイルにマウスポインターを置いた回数。カーソルを置いたことが認識されるには、タイルの上で十分な時間カーソルを停止する必要があります。これにより、リストの詳細のポップオーバーが表示されます。顧客が繰り返しマウスポインターを置いた回数も数えられます。  メモ: 顧客は、AppExchange のカテゴリおよびコレクションのページで、リストタイルにカーソルを合わせることができます。ホームページまたは検

総計値	説明
	索ページのタイルでは、タイルにカーソルを合わせるアクションは使用できません。
タイルビュー	リストのタイルの表示回数。表示として認識されるには、顧客のブラウザでタイル全体が表示される必要があります。顧客が繰り返し表示した回数もすべてカウントされます。
アクセス	リストへのアクセス回数です。顧客が繰り返しアクセスした回数もカウントされます。

次の内部トラフィックの参照元は活動に関連付けられています。

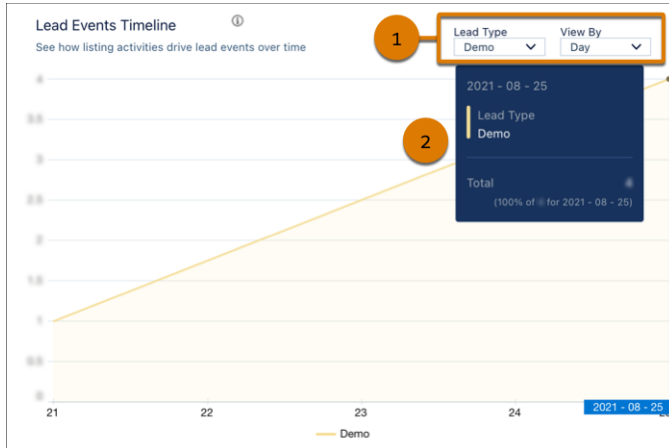
トラフィックの参照元	説明
AppExchange の参照	他の参照元に含まれていない AppExchange の領域からリストにアクセスした顧客の活動。たとえば、製品コレクション、業種コレクション、または AppExchange ホームページを参照した顧客などがあります。
AppExchange カテゴリ	AppExchange の [タイプ別のソリューション] のいずれかのカテゴリからリストにアクセスした顧客の活動。
スポンサー付き AppExchange	AppExchange の [スポンサー付きソリューション] セクションからリストにアクセスした顧客の活動。
AppExchange 推奨	AppExchange のパーソナライズされたおすすりからリストにアクセスした顧客の活動。
AppExchange 検索	AppExchange の検索バーで実行した検索からリストにアクセスした顧客の活動。

次の外部トラフィックの参照元は活動に関連付けられます。

トラフィックの参照元	説明
Facebook	Facebook のページまたは広告からリストにアクセスした顧客の活動。オーガニック検索トラフィックと、Facebook サイトまたは Facebook の Audience Network に表示される広告からのトラフィックが対象となります。
Google	Google の検索または広告からリストにアクセスした顧客の活動。オーガニック検索トラフィックと、Google 検索ネットワークおよび Google ディスプレイネットワークに表示される広告からのトラフィックが対象となります。
Web	Facebook や Google と提携していない Web ソースからリストにアクセスした顧客の活動。会社の Web サイトからのトラフィックが含まれます。

AppExchange Marketplace Analytics でのリードイベントタイムライン

AppExchange リスト上でのリードイベントの経時的な変化を表示します。たとえば、テストドライブまたはデモのパフォーマンスを四半期ごとに追跡できます。



リード種別または時間単位を変更するには、ローカル検索条件を調整します(1)。Y軸は、選択したリード種別に基づいてサイズ変更されます。X軸のサイズを変更するには、[項目ごとの参照] 検索条件を変更します。正確な値を確認するには、グラフの線の上にマウスポインターを置きます(2)。

ヒント: 仮想化にデータが表示されない場合は、別の総計値で絞り込むか、期間を変更してください。

定義

この視覚化に表示される総計値の定義を次に示します。

総計値	説明
チャット	AppExchange チャットのやり取りから生じたリードイベント。これらのやり取りには、人間またはチャットボットとの会話や、予約したミーティングが含まれます。 メモ: Marketplace Analytics でチャットデータを表示するには、AppExchange チャットが必要です。この機能は、使用資格のある Salesforce パートナーが AppExchange マーケティングプログラム (AMP) を通じて使用できます。AppExchange チャットについての詳細は、 Salesforce パートナーコミュニティ を参照してください。
デモ	[デモを見る] ボタンをクリックして生じたリードイベント。
今すぐ入手	[今すぐ入手] ボタンをクリックして生じたリードイベント。
詳細はこちら	[詳細はこちら] ボタンをクリックして生じたリードイベント。
履歴	2021年4月16日より前にリストで発生したリードイベント。履歴リードイベントは、機能制限トライアル数、デモ数、[詳細はこちら] のクリック数、およびイン

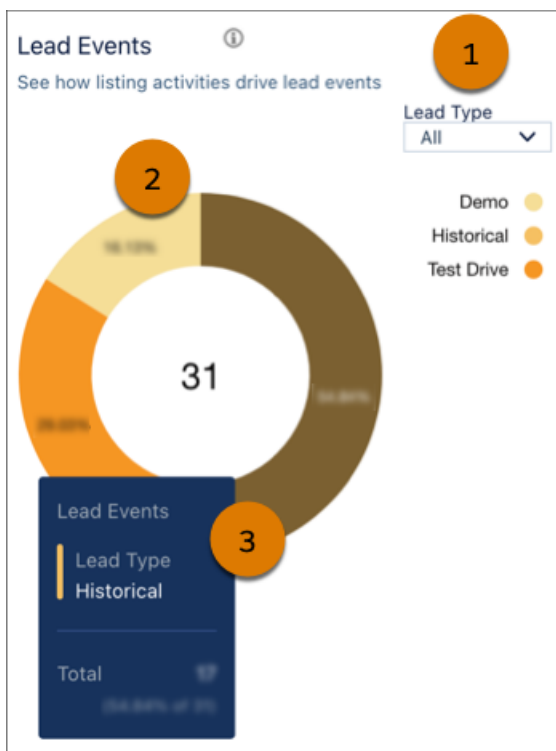
総計値	説明
	ストール数、または[今すぐ入手]のクリック数によって作成されますが、分類はされません。
機能制限トライアル	[機能制限トライアル] ボタンをクリックして生じたリードイベント。

考慮事項

Marketplace Analytics は、2021 年 4 月 16 日以降、リスト活動でリードイベント进行分类しています。この日付以前は、履歴リードイベントのみが表示されます。

AppExchange Marketplace Analytics でのリードイベント


AppExchange リストで活動がどのようにリードイベントに寄与しているかが表示されます。たとえば、デモビューで生成されたリードイベント数と AppExchange チャットインタラクションで生成されたリードイベント数を比較できます。



リード種別を変更するには、ローカル検索条件を調整します (1)。グラフ区分内のパーセント値 (2) は、リードイベントの総数にリード種別がどの程度寄与しているかを表します。正確な値を確認するには、グラフ区分にマウスポインターを置きます (3)。

定義

この視覚化に表示される総計値の定義を次に示します。

総計値	説明
チャット	AppExchange チャットのやり取りから生じたリードイベント。これらのやり取りには、人間またはチャットボットとの顧客の会話や、予約したミーティングが含まれます。  メモ: Marketplace Analytics でチャットデータを表示するには、AppExchange チャットが必要です。この機能は、使用資格のある Salesforce パートナーが AppExchange マーケティングプログラム (AMP) を通じて使用できます。AppExchange チャットについての詳細は、 Salesforce パートナーコミュニティ を参照してください。
デモ	[デモを見る] ボタンをクリックして生じたリードイベント。
今すぐ入手	[今すぐ入手] ボタンをクリックして生じたリードイベント。
詳細はこちら	[詳細はこちら] ボタンをクリックして生じたリードイベント。
履歴	2021 年 4 月 16 日より前にリストで発生したリードイベント。履歴リードイベントは、機能制限トライアル数、デモ数、[詳細はこちら] のクリック数、およびインストール数、または [今すぐ入手] のクリック数によって作成されますが、分類はされません。
機能制限トライアル	[機能制限トライアル] ボタンをクリックして生じたリードイベント。

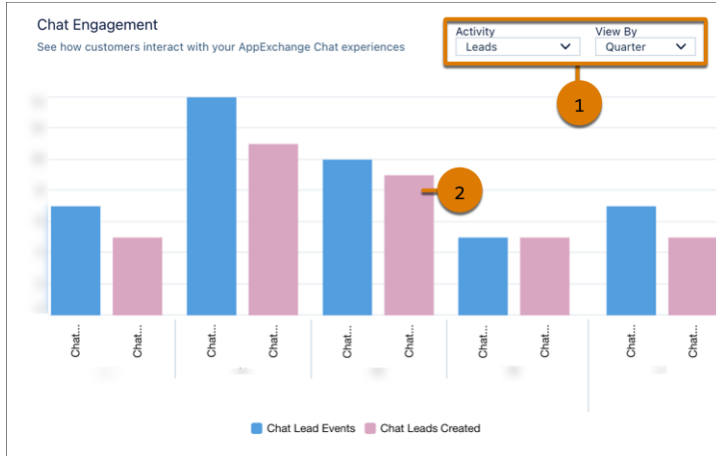
考慮事項

Marketplace Analytics は、2021 年 4 月 16 日以降、リスト活動でリードイベントを分類しています。この日付より前は、履歴リードイベントのみが表示されます。

AppExchange Marketplace Analytics でのチャットエンゲージメント

AppExchange チャット環境をどのように操作しているかを確認します。たとえば、営業担当が先週ホストした会話の数を確認できます。

 **メモ:** Marketplace Analytics でチャットデータを表示するには、AppExchange チャットが必要です。この機能は、使用資格のある Salesforce パートナーが AppExchange マーケティングプログラム (AMP) を通じて使用できます。AppExchange チャットについての詳細は、[Salesforce パートナーコミュニティ](#) を参照してください。



活動を変更するには、ローカル検索条件を調整します (1)。正確な値を確認するには、グラフ区分にマウスポインターを置きます (2)。

ヒント: 視覚化にデータが表示されない場合は、最初に AppExchange チャットがリストで有効になっていることを確認します。次に、別の総計値で絞り込むか、期間を変更してください。

定義

この視覚化に表示される総計値の定義を次に示します。

総計値	説明
Chat Leads Created (作成されたチャットリード数)	AppExchange チャットから Salesforce や Account Engagement などの CRM 実装に渡されたユニークリード数。単一のチャットリードを複数のチャットリードイベントに関連付けることができます。 たとえば、顧客が複数回のリスト訪問で自社の担当者と複数回チャットした場合、やりとりごとにリードイベントが記録されます。ただし、CRM に渡されるチャットリードは1つのみです。この動作により、CRM でリードレコードが不要に重複することが防止されます。
Chat Lead Event (チャットリードイベント)	人間やチャットボットの会話など、AppExchange チャット活動からのリストでのリードイベント。
Chatbot Conversation (チャットボットの会話)	顧客および設定されたチャットボット環境との間の会話。
Human Conversation (人間の会話)	顧客および自社の担当者との間のリアルタイム会話。
Meetings Booked (予約したミーティング)	ライブチャットまたはチャットボットの会話中に予約した顧客とのミーティング。

AppExchange Marketplace Analytics での AMP パフォーマンスタイムライン

AppExchange マーケティングプログラム (AMP) のプロモーションがリスト活動にどのように寄与しているかが経時的に表示されます。たとえば、前四半期に購入した業種のプロモーションによって発生したリストへのアクセス数を確認できます。

メモ: AMP パフォーマンスタイムラインのデータを表示するには、AppExchange マーケティングプログラムに参加する必要があります。AppExchange の AMP の詳細を確認してください。



AMP プロモーション、活動、または時間単位を変更するには、ローカル検索条件を調整します (1)。Y 軸は、選択したプロモーションと活動に基づいてサイズが変化します。X 軸のサイズを変更するには、[項目ごとの参照] 検索条件を変更します。正確な値を確認するには、グラフの線の上にマウスポインターを置きます。AMP プロモーションのデータは、2021 年 8 月 18 日以降から提供されています。

ヒント: 仮想化にデータが表示されない場合は、別の総計値で絞り込むか、期間を変更してください。

定義

この視覚化に表示される総計値の定義を次に示します。

総計値	説明
Installs (インストール数)	AMP プロモーションに寄与する AppExchange、Web サイト、またはコードリポジトリにあるソリューションのインストールの回数。AppExchange のインストールについては、[今すぐ入手] のインストールフローが正常に完了した回数が数えられます。本番組織および Sandbox 組織でのインストール回数がカウントされます。
Lead Events (リードのイベント数)	AMP プロモーションに寄与するユニークリードのイベント数。イベントには、デモ、機能制限トライアル、チャットのやりとり、[詳細はこちら] のクリック数、[今すぐ入手] のクリック数またはインストール数が含まれます。[今すぐ入手] をクリックしてソリューションをインストールした顧客は、1 つのリードイベントとして数えられます。
Visits (訪問)	AMP プロモーションに寄与するリストへのアクセス回数です。顧客が繰り返しアクセスした回数もカウントされます。
Sponsored Tile Hovers (スポンサー付きタイトルにマウス)	スポンサー付きリストタイトルにマウスポインターを置いた回数。カーソルを置いたことが認識されるには、タイトルの上で十分な時間カーソルを停止する必要があります。


総計値	説明
ポインターが置かれた回数 (回数)	ります。これにより、リストの詳細のポップオーバーが表示されます。顧客が繰り返しカーソルを置いた回数もすべてカウントされます。  メモ: 顧客は、AppExchange のカテゴリおよびアプリケーションコレクションのページで、スポンサー付きリストスタイルにカーソルを合わせることができます。ホームページのリストスタイルでは、スポンサー付きスタイルにカーソルを合わせるアクションはできません。
Sponsored Tile Views (スポンサー付きタイルビュー数)	ホームページ、業界、またはカテゴリの各プロモーションの間に、スポンサー付きリストスタイルが表示された回数です。表示として認識されるには、顧客のブラウザでタイル全体が表示される必要があります。顧客が繰り返し表示した回数もすべてカウントされます。

AppExchange Marketplace Analytics の CSV ファイル

AppExchange Marketplace Analytics のデータは、カンマ区切り値 (.csv) 形式でエクスポートできます。データをエクスポートすると、Marketplace Analytics によってダッシュボードの視覚化ごとに個別の .csv ファイルが作成され、すべてのファイルが .zip ファイルにパッケージ化されます。


.csv ファイルは次のような形式でエクスポートされます。

- 1 行目はヘッダーとして表示され、列名に使用されます。以降の行はレコードを表します。
- 行内では、値がカンマで区切られます。
- 負の値の前にはマイナス記号が付きます。

 **メモ:** 地域別の活動の概要および AMP パフォーマンスタイムラインデータは、.csv 形式では提供されません。

活動参照元タイムラインファイル

グローバルおよびローカル検索条件の選択が適用された活動参照元タイムラインの視覚化からのデータを提供します。


 **例:** この例では、ヘッダー行と 4 行のサンプルデータを示しています。次の検索条件が適用されています。

- 過去 30 日間のデータを表示するように設定されたグローバル検索条件。
- AppExchange Featured および AppExchange Search のトラフィックの参照元のアクセスを 1 日ごとに表示するように設定されたローカル検索条件。

```
Date,Source,Activity,Count of Activity
2019-01-01,AppExchange Featured,Visits,25
2019-01-01,AppExchange Search,Visits,50
2019-01-02,AppExchange Featured,Visits,30
2019-01-02,AppExchange Search,Visits,60
```

顧客エンゲージメントファイル

グローバルおよびローカル検索条件の選択が適用された顧客エンゲージメントの視覚化からのデータを提供します。


 **例:** この例では、ヘッダー行と 4 行のサンプルデータを示しています。次の検索条件が適用されています。

- 過去 30 日間のデータを表示するように設定されたグローバル検索条件。
- 1 日ごとにリソースの参照を表示するように設定されたローカル検索条件。

```
Date,Activity,Count of Activity
2019-01-01,Customization Guide,10
2019-01-01,Datasheet,20
2019-01-02,Customization Guide,20
2019-01-02,Datasheet,40
```


活動参照元ファイル

グローバルおよびローカル検索条件の選択が適用された活動参照元の視覚化からのデータを提供します。

 **例:** この例では、ヘッダー行と 4 行のサンプルデータを示しています。次の検索条件が適用されています。


- 過去 30 日間のデータを表示するように設定されたグローバル検索条件。
- アクセスを表示するように設定されたローカル検索条件。

```
Source,Activity,Count of Activity,Percentage of Total Activity,Rank
AppExchange Browse,Visits,500,20.41,1
AppExchange Categories,Visits,450,18.37,2
AppExchange Search,Visits,400,16.33,3
AppExchange Recommended,350,14.29,4
```

 **メモ:** 簡潔にするため、このサンプルでは、AppExchange Browse、AppExchange Categories、AppExchange Search、および AppExchange Recommended の 4 つのトラフィックの参照元のみを示しています。ダッシュボードからエクスポートするファイルには、すべてのトラフィックの参照元が記述されています。

上位の AppExchange 検索ファイル

グローバルおよびローカル検索条件の選択が適用された上位の AppExchange 検索の視覚化からのデータを提供します。

 **例:** この例では、ヘッダー行と 4 行のサンプルデータを示しています。次の検索条件が適用されています。


- 過去 30 日間のデータを表示するように設定されたグローバル検索条件。
- アクセスとデモに関連する上位の検索語を表示するように設定されたローカル検索条件。

```
Search Term,Activity,Count of Activity
Geolocation,Visits,50
Geolocation,Demos,40
```

```
Maps, Visits, 30
Maps, Demos, 20
```

リードイベントタイムラインファイル

グローバルおよびローカル検索条件の選択が適用されたリードイベントタイムラインの視覚化からのデータを提供します。


 **例:** この例では、ヘッダー行と 4 行のサンプルデータを示しています。次の検索条件が適用されています。

- 過去 30 日間のデータを表示するように設定されたグローバル検索条件。
- [今すぐ入手] のクリック数とデモ数を表示するように設定されたローカル検索条件。

```
Date, Lead Type, Count of Leads
2021-05-03, Get It Now, 31
2021-05-03, Watch Demo, 3
2021-05-04, Get It Now, 40
2021-05-04, Watch Demo, 8
```

リードイベントファイル

グローバルおよびローカル検索条件の選択が適用されたリードイベントの視覚化からのデータを提供します。

 **例:** この例では、ヘッダー行と 2 行のサンプルデータを示しています。次の検索条件が適用されています。


- 過去 30 日間のデータを表示するように設定されたグローバル検索条件。
- [今すぐ入手] のクリック数とデモ数を表示するように設定されたローカル検索条件。

```
Lead Type, Count of Leads, Percentage of Total Leads
Get It Now, 666, 87.6
Watch Demo, 94, 12.4
```

チャットエンゲージメントファイル

グローバルおよびローカル検索条件の選択が適用されたチャットエンゲージメントの視覚化からのデータを提供します。

 **メモ:** Marketplace Analytics でチャットデータを表示するには、AppExchange チャットが必要です。この機能は、使用資格のある Salesforce パートナーが AppExchange マーケティングプログラム (AMP) を通じて使用できます。AppExchange チャットについての詳細は、[Salesforce パートナーコミュニティ](#)を参照してください。

 **例:** この例では、ヘッダー行と 4 行のサンプルデータを示しています。次の検索条件が適用されています。

- 過去 30 日間のデータを表示するように設定されたグローバル検索条件。

- 会話を表示するように設定されたローカル検索条件。

```
Date,Activity,Type,Total for Activity
2021-05-03,Conversations,Chatbot Conversations,26
2021-05-03,Conversations,Human Conversations,4
2021-05-04,Conversations,Chatbot Conversations,22
2021-05-04,Conversations,Human Conversations,2
```

AppExchange Marketplace Analytics のリードイベントとリードの違いは何ですか？

AppExchange Marketplace Analytics でのリストのリードイベントの定義と、Salesforce 組織に表示されるリードとの違いについて学習します。

Marketplace Analytics では、顧客がリストにアクセスしたときと、次の場合にリードイベントが記録されます。

- デモを見る
- 機能制限トライアルを試用する
- AppExchange チャットを操作する
- [今すぐ入手] をクリックする
- [詳細はこちら] をクリックする (コンサルタントリストにのみ適用されます)
- ソリューションをインストールする

 **メモ:** Marketplace Analytics でチャットデータを表示するには、AppExchange チャットが必要です。この機能は、使用資格のある Salesforce パートナーが AppExchange マーケティングプログラム (AMP) を通じて使用できます。AppExchange チャットについての詳細は、Salesforce パートナーコミュニティを参照してください。

Web-to-リードを設定し、リストのリード収集を有効にしている場合は、上記の各活動によっても組織にリードが作成されます。ただし、カスタムリード転送ルール、顧客の連絡設定、Web-to-リードの reCaptcha により、組織のリードの数と Marketplace Analytics に表示されるリードイベントの数に差異が生じることがあります。

カスタムリード転送ルール

カスタムリード転送ルールは一般に、重複リードや不要なリードが営業チームに送られないようにする目的で設定します。Marketplace Analytics のリードイベントが組織でリードとして記録されない転送ルールの一般的な例として、次のようなものがあります。

リードの転送ルール	例	Marketplace Analytics	組織
ドメインの制限 顧客から会社のドメインのメールアドレスを持つリードを除外します。	会社のある従業員が、リストのデモ動画を見て、AppExchange が連絡先情報を要求したときに会社のメールアドレスを使用します。 このシナリオでは、Marketplace Analytics でリードイベントが記録されますが、組織では、リード転	リードイベントが記録されます。	リードが記録されません。リード転送ルールによってリードが除外されます。

リードの転送ルール	例	Marketplace Analytics	組織
	送ルールによってリードが除外されます。		
メールアドレスの重複 既存のリードで取り込まれているメールアドレスに関連するリードを除外します。	ある新規顧客が、リストにアクセスして動画を視聴し、機能制限トライアルを取得して、ソリューションをインストールします。それぞれの活動で、この顧客は同じメールアドレスを指定します。 このシナリオの場合、Marketplace Analytics では、活動ごとに1つずつ、3つのリードイベントが記録されます。組織では、リード転送ルールにより、最初の活動のリードが作成されます。他の活動は、同じメールアドレスに関連付けられているため、重複としてマークされます。	各活動に1つずつ、計3つのリードイベントが記録されます。	最初の活動のみリードが作成されます。他の活動は、同じメールアドレスに関連付けられているため、重複としてマークされます。

Trailblazer.me の連絡設定

顧客は各自の Trailblazer.me 設定で、AppExchange プロバイダーと連絡先情報を共有し、AppExchange プロバイダーからの連絡を許可するかどうかを選択できます。この選択が組織のリード作成に影響します。プロバイダーからの連絡を許可する顧客については、Marketplace Analytics に AppExchange のリードイベントが記録され、組織にリードとして伝達されます。連絡設定がリード作成に影響を及ぼす一般的な例として、次のようなものがあります。

Trailblazer.me の連絡設定	例	Marketplace Analytics	組織
許可	プロバイダーからの連絡を許可している見込み客が、リストのデモ動画を視聴します。	リードイベントが記録されます。	カスタムリード転送ルールによってリードが除外されない場合は、組織でリードが作成されます。
禁止	プロバイダーからの連絡を禁じている見込み客が、ソリューションの機能制限トライアルを試用します。	リードイベントが記録されます。	カスタムリード転送ルールによってリードが除外されない場合は、組織でリードが作成されます。このリードには、連絡禁止のフラグが設定されません。

顧客は、AppExchange リストを操作するときに、Trailblazer.me のデフォルトの連絡設定を上書きできます。リードの収集を選択した方法で顧客がリストを操作したときに AppExchange が認識します。これらの顧客に AppExchange リードのサインアップフォームへの記入を求めるメッセージが表示されます。

フォームには、Trailblazer.me 設定から顧客の連絡先情報と連絡設定が事前入力されます。顧客はこのフォームで、プロバイダーからの連絡を許可するか禁止するかを選択でき、各自の Trailblazer.me プロファイルで設定した連絡設定を効率的に上書きできます。

Web-to-リードの reCaptcha 確認

AppExchange リードを受信するためには、組織の Web-to-リード設定で [reCaptcha 確認が必要] を無効にします。

関連トピック:

[AppExchange リードの収集](#)

[AppExchange リードのトラブルシューティング](#)

AppExchange Marketplace Analytics の使用開始

AppExchange Marketplace Analytics のナビゲーション方法について学習します。AppExchange Marketplace Analytics へのアクセス権を付与して、チームメンバーが視覚化とデータを表示できるようにします。AppExchange Marketplace Analytics データをエクスポートして、Salesforce や他のツールで分析します。

[AppExchange Marketplace Analytics へのアクセス権の付与](#)

チームメンバーが AppExchange Marketplace Analytics にアクセスできるようにするには、Salesforce パートナーコミュニティの「リストの管理」権限を割り当てます。

[AppExchange Marketplace Analytics へのアクセス](#)

AppExchange Marketplace Analytics にアクセスするには、Salesforce パートナーコミュニティのパートナーコンソールに移動します。

AppExchange Marketplace Analytics 用語集での用語と定義の表示


AppExchange Marketplace Analytics の使用中に意味のわからない用語があった場合は、アプリケーション内の用語集を開きます。

AppExchange Marketplace Analytics からのデータのエクスポート

AppExchange Marketplace Analytics データを Salesforce や他のツールで調査するには、データをエクスポートします。データは、グローバルおよびローカル検索条件が適用されて、カンマ区切り値 (.csv) 形式でエクスポートされます。

AppExchange Marketplace Analytics へのアクセス権の付与

チームメンバーが AppExchange Marketplace Analytics にアクセスできるようにするには、Salesforce パートナーコミュニティの「リストの管理」権限を割り当てます。

 **メモ:** 「リストの管理」権限では、リストの作成、編集、および公開を行う機能など、パートナーコンソールのすべての機能にアクセスできます。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [ユーザーの管理] をクリックします。
3. 会社のユーザーを検索します。
4. [リスト] の下のチェックボックスを選択します。

ユーザ権限

パートナーコミュニティユーザーに権限を割り当てる

- 「ユーザーの管理」

AppExchange Marketplace Analytics へのアクセス

AppExchange Marketplace Analytics にアクセスするには、Salesforce パートナーコミュニティのパートナーコンソールに移動します。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [Publishing (公開)] をクリックします。
3. [ホーム] > [分析] をクリックします。
4. 表示するリストを選択します。


ユーザ権限

Marketplace Analytics を表示する

- 「リストの管理」

AppExchange Marketplace Analytics 用語集での用語と定義の表示

AppExchange Marketplace Analytics の使用中に意味のわからない用語があった場合は、アプリケーション内の用語集を開きます。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [Publishing (公開)] をクリックします。
3. [ホーム] > [分析] をクリックします。
4.  をクリックします。

ユーザ権限


Marketplace Analytics を表示する

- 「リストの管理」

AppExchange Marketplace Analytics からのデータのエクスポート

AppExchange Marketplace Analytics データを Salesforce や他のツールで調査するには、データをエクスポートします。データは、グローバルおよびローカル検索条件が適用されて、カンマ区切り値 (.csv) 形式でエクスポートされます。

 **メモ:** 地域別の活動の概要および AMP インサイトの視覚化では、エクスポートは使用できません。

1. Salesforce [パートナーコミュニティ](#) にログインします。
2. [Publishing (公開)] をクリックします。
3. [ホーム] > [分析] をクリックします。
4. リストを選択し、期間を選択します。
5. 視覚化ごとに活動総計値を選択し、可能な場合は時間単位を変更します。
6.  をクリックし、[エクスポート] をクリックします。

ユーザ権限

Marketplace Analytics を表示する

- 「リストの管理」

AppExchange Marketplace Analytics の FAQ

AppExchange Marketplace Analytics に関するよくある質問への回答を確認してください。

AppExchange Marketplace Analytics ダッシュボードへのアクセスを許可して、他の公開機能へのアクセスは許可しないようにできますか?

AppExchange Marketplace Analytics のデータを利用できる最も早い日付はいつですか?

AppExchange Marketplace Analytics は、すべての公開リストのデータを集計して提供しますか?

AppExchange Marketplace Analytics API はありますか?

AppExchange Marketplace Analytics の活動の概要または視覚化に、データが表示されないのはなぜですか?

AppExchange Marketplace Analytics でコンサルティングサービスのリストを表示できますか?

AppExchange Marketplace Analytics のデータはどのくらいの頻度で更新されますか?

AppExchange Marketplace Analytics の視覚化をカスタマイズできますか?

AppExchange Marketplace Analytics に外部データをインポートできますか?

インストール、デモ、機能制限トライアルの合計が AppExchange Marketplace Analytics のリード数と一致しないのはなぜですか?

ライセンス管理アプリケーションのライセンスレコード数が AppExchange Marketplace Analytics のインストール数と一致しないのはなぜですか?

AppExchange Marketplace Analytics で [今すぐ入手] をクリックした場合と、インストールした場合は、何が違うのでしょうか?

AppExchange Marketplace Analytics ダッシュボードへのアクセスを許可して、他の公開機能へのアクセスは許可しないようにできますか?

いいえ、「リストの管理」権限では、パートナーコンソールのすべての機能にアクセスが許可されます。この権限は、会社の AppExchange リストを管理するチームのメンバーにも割り当てておくことをお勧めします。


AppExchange Marketplace Analytics のデータを利用できる最も早い日付はいつですか?

AppExchange Marketplace Analytics のデータは、2019 年 8 月以降にリストで発生した活動に対して利用できます。

AppExchange Marketplace Analytics は、すべての公開リストのデータを集計して提供しますか?

いいえ。AppExchange Marketplace Analytics は、ユーザーの公開リストに関連付けられているデータのみを提供します。

AppExchange Marketplace Analytics API はありますか?

いいえ。ただし、AppExchange Marketplace Analytics から未加工データを .csv 形式でエクスポートして、他のツールで処理することができます。データをエクスポートするには、Marketplace Analytics を開いて、 をクリックします。

AppExchange Marketplace Analytics の活動の概要または視覚化に、データが表示されないのはなぜですか?

この問題は通常、選択した期間または活動総計値のデータを AppExchange Marketplace Analytics で検出できない場合に発生します。別の総計値で絞り込むか、期間を変更してください。

AppExchange Marketplace Analytics でコンサルティングサービスのリストを表示できますか?

はい。AppExchange Marketplace Analytics は、コンサルティングサービスリストを含む、すべてのリスト種別をサポートしています。リストに管理パッケージがない場合、インストール数などの活動総計値は使用できません。

AppExchange Marketplace Analytics のデータはどのくらいの頻度で更新されますか?

AppExchange Marketplace Analytics のデータは 1 日に 1 回更新されます。

AppExchange Marketplace Analytics の視覚化をカスタマイズできますか?

はい。グローバル検索条件メニューから、視覚化で期間を調整できます。視覚化内では表示する活動総計値を選択でき、さらに特定の視覚化では、表示する期間の時間単位を選択できます。

ダッシュボードのレイアウトを変更したり、個々の視覚化のスタイルやフォーマットを変更したりすることはできません。

AppExchange Marketplace Analytics に外部データをインポートできますか?


いいえ。AppExchange Marketplace Analytics データをエクスポートしてから、別のツールを使用して外部データと組み合わせてください。

インストール、デモ、機能制限トライアルの合計が AppExchange Marketplace Analytics のリード数と一致しないのはなぜですか?

通常この問題は、組織で Web-to-リードが設定されていない場合、または Web-to-リードの設定が正しくない場合に発生します。Web-to-リードの詳細については、[Salesforce ヘルプ](#)の「営業チームの Web サイトからのリードの生成」を参照してください。

ライセンス管理アプリケーションのライセンスレコード数が AppExchange Marketplace Analytics のインストール数と一致しないのはなぜですか?

ほとんどの場合、ライセンス管理アプリケーション (LMA) のライセンスレコード数は、AppExchange Marketplace Analytics で表示されるインストール数と同じになりますが、これらの数字が異ってすることがあります。その原因としては、まだインストールプロセスが完了していないか、あるいは何らかの理由でインストールが成功していないことが考えられます。

 **例:** 顧客が AppExchange リストにアクセスして、ソリューションをインストールするとします。顧客は、インストールを開始する前に、インストールの詳細を確認して、Salesforce の契約条件に同意することが求められます。顧客が [確認してインストール] をクリックすると、インストールが Marketplace Analytics に記録されます。インストールを完了するため、顧客は自分の Salesforce 組織にログインして、最後にもう一度 [インストール] をクリックします。インストールが完了すると、LMA でインストールレコードが作成されます。

もし、顧客が [確認してインストール] をクリックした後でインストールプロセスを終了してしまったらどうなるでしょうか。この場合、Marketplace Analytics にインストールが記録されますが、LMA ではライセンスレコードは作成されません。

AppExchange Marketplace Analytics で [今すぐ入手] をクリックした場合と、インストールした場合は、何が違うのでしょうか?

顧客がソリューションをインストールすると、AppExchange Marketplace Analytics はいくつかのインタラクションを記録します。

インストールプロセスを開始するには、顧客がリストで [今すぐ入手] をクリックします。Marketplace Analytics では、この操作が [今すぐ入手] のクリックとして記録されます。次に、顧客はパッケージの対象を選択し、契約条件に同意します。次に、顧客は [確認してインストール] をクリックします。Marketplace Analytics では、この操作がインストールとして記録されます。

AppExchange App Analytics (AppExchange アプリケーションの Analytics)

AppExchange の App Analytics は、登録者が AppExchange ソリューションをどのように操作しているかに関する利用状況データを提供します。これらの詳細を利用して、減少のリスクを特定したり、機能開発の決定を知らせたり、ユーザーエクスペリエンスを向上させたりすることができます。

- ☑ **メモ:** AppExchange の App Analytics には、「AppExchange Program Policies (AppExchange プログラムポリシー)」で説明されている使用制限があります。Government Cloud および Government Cloud Plus 組織からの利用状況データは、App Analytics では使用できません。

App Analytics は、セキュリティレビューに合格し、ライセンス管理アプリケーションに登録されている第一および第二世代(1GP および 2GP)管理パッケージで使用できます。利用状況データは、パッケージ利用状況ログ、月次パッケージ利用状況概要、または登録者のスナップショットとして提供されます。また、利用状況データはすべて、ダウンロード可能なカンマ区切り値 (.csv) ファイルとして提供されます。データをダッシュボードまたは視覚化された形式で表示するには、CRM Analytics やサードパーティの分析ツールを使用します。

24 時間以内に、AppExchange アプリケーションの Analytics データを最大 20 GB ダウンロードできます。

App Analytics のデータにアクセスするには、次の手順に従って App Analytics を有効にします。

- 第一世代管理パッケージでの App Analytics の有効化
- 第二世代管理パッケージでの App Analytics の有効化

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.pkg2_dev.meta/pkg2_dev/app_analytics_intro_2gp.htm

Channel Order App を使用した Salesforce への注文の報告

Salesforce に対する注文の作成、管理、および送信は、Channel Order App (COA) を使用して行います。OEM パートナーの場合は、COA を Salesforce ライセンスのプロビジョニングおよび収益分配に使用できます。ISV パートナーの場合は、COA を収益分配に使用できます。AppExchange Checkout を使用して顧客の支払を管理する場合は、COA を使用しないでください。Checkout を使用するパートナーの収益は、顧客が AppExchange ソリューションを購入したときに自動的に Salesforce に報告されます。

COA はパートナービジネス組織にあらかじめインストールされていますが、使用する前にパートナー事業部チームが提供するトレーニングを完了する必要があります。パートナービジネス組織を取得し、ソリューションセキュリティレビューに合格したら、COA トレーニングにサインアップします。

サインアップするには、Salesforce パートナーコミュニティでサポートケースを登録します。商品には、「ISV Billing & Order Support (ISV 請求と注文サポート)」と指定します。トピックには、[Channel Order App Setup & Product Catalog Support (Channel Order App の設定と商品カタログのサポート)]を指定します。

- ☑ **メモ:** パートナー契約に従い、顧客へのソリューションの販売とライセンス供与に基づいて注文を送信します。

Channel Order App

顧客が AppExchange 製品を購入した、または顧客がサブスクリプションの変更を要求した場合、Channel Order App (COA) で注文を送信します。Salesforce が注文を受信したら、顧客の組織で注文が有効化またはプロビジョニングされ、パートナーシップ契約の条件に基づいて請求されます。

 **メモ:** COA は使用資格のある Salesforce パートナーが英語で使用できます。資格要件を含むパートナープログラムの詳細は、<https://partners.salesforce.com> を参照してください。

COA では、次のことができます。

- 新規顧客の初注文を送信する
- 既存の顧客のアドオン注文、アップグレード注文、更新注文、削減注文、解約注文を送信する
- 送信した注文の編集、取り消し、コピーを行う
- 注文のドラフトを削除する
- 顧客に関する詳細 (注文履歴など) を表示する

収益分配契約に準拠するため、すべての顧客のトランザクション後に注文を送信します。提供した情報によりレコードが最新の状態に保たれ、受信する請求書が正確になります。

契約に関する質問がある場合は、[Salesforce パートナーヘルプ](#)でサポートケースを登録します。商品には、「**Partner Programs & Benefits** (パートナープログラムと特典)」と指定します。トピックには、「**AppExchange パートナープログラム**」と指定します。

 **ヒント:** COA の概要を理解するため、Trailhead にアクセスして「**Channel Order App の基礎**」のバッジを獲得してください。次に、Partner Learning Camp (Salesforce パートナー学習キャンプ) にアクセスして「**Channel Order App: Order Management & Reporting (Channel Order App: 注文の管理とレポート)**」コースにサインアップしてください。

Channel Order App オブジェクト

Channel Order App (COA) の使用を開始する前に、アプリケーションのオブジェクトについて学習しましょう。オブジェクトに何が含まれるかを理解することで、より簡単に正確な注文を作成し、Salesforce による処理を高速化できます。

注文の種別

Channel Order App (COA) で注文を作成するときに、注文の商品をどのように処理するのかを Salesforce に指示する注文種別を選択します。顧客のニーズに基づいて、適切な種別を選択する方法について説明します。

注文状況

Channel Order App (COA) で注文を作成すると、Salesforce は注文状況を割り当てます。これは、進行状況を追跡するのに役立つほか、必要な場合は問題を解決するのに役立ちます。また、注文状況によって、注文に対して実行できるアクション (編集、コピーなど) が決まります。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

Channel Order App 権限セット

「COA ユーザー」と「COA 管理ユーザー」権限セットを使用して、Channel Order App (COA) へのアクセスを制御します。権限セットにより、ユーザーがCOAのオブジェクトと機能を実行できる方法が決まります。ユーザーのチームでのロールに基づいて、適切な権限セットを割り当てる方法について説明します。

Channel Order App オブジェクト

Channel Order App (COA) の使用を開始する前に、アプリケーションのオブジェクトについて学習しましょう。オブジェクトに何が含まれるかを理解することで、より簡単に正確な注文を作成し、Salesforce による処理を高速化できます。

名前	説明
Customer (顧客)	<p>商品を購入した顧客に関する詳細 (請求先住所、Salesforce 組織 ID など) が含まれます。</p> <p>注文の送信ウィザードで初注文を作成すると、入力した顧客情報に基づいて COA によって顧客レコードが作成されます。</p>
Partner Product Catalog (パートナー商品カタログ)	<p>顧客に販売できるカタログ内の商品が含まれます。たとえば、顧客の組織の API コール数やストレージの増加などです。</p> <p>カタログの商品は、パートナーシップ契約に基づいて Salesforce によって設定されます。設定時に、カタログを COA にインポートします。契約で許可されている場合を除き、商品カタログは編集できません。</p>
Partner Contract Terms (パートナー契約条件)	<p>商品に適用される契約条件が含まれます。たとえば、デフォルトの契約期間、顧客への請求頻度などです。</p> <p>契約条件は、パートナーシップ契約に基づいて Salesforce によって設定されます。設定時に、条件を COA にインポートします。契約で許可されている場合を除き、契約条件は編集できません。</p>
Service Orders (サービス注文)	<p>Salesforce に送信する注文に関する情報が含まれます。たとえば、顧客が Salesforce の契約に署名した日付などです。</p> <p>注文の送信ウィザードで注文を作成すると、COA によって自動的にサービス注文が作成されます。</p>
Service Order Detail (サービス注文の詳細)	<p>注文の商品品目に関する案件固有の情報が含まれます。たとえば、顧客が購入するライセンス数、ライセンスあたりの価格などです。</p> <p>注文の送信ウィザードで注文の商品を追加すると、COA によって自動的にサービス注文の詳細が設定されます。サービス注文の詳細レコードに直接アクセスできるのは、Channel Order Apex API で注文を送信する場合のみです。</p>

次の例で、これらのオブジェクトの相互関係について説明します。

AppExchange で人事用アプリケーションを販売しています。新規顧客がライセンスをいくつか購入することを決定しました。購入の条件について顧客の同意を得たら、ライセンス管理アプリケーション (LMA) を使用して顧客の組織のライセンスをプロビジョニングします。次に、COA で注文を送信してSalesforce に販売について通知します。

1. [Service Orders (サービス注文)] タブで、注文の送信ウィザードを起動します。COA によって、サービス注文レコードが作成されます。
2. 請求先住所など、顧客の詳細を入力します。COA では、これらの詳細を使用して顧客レコードが作成されます。後で顧客がサブスクリプションの変更を要求した場合、この詳細を検索して再利用できます。
3. 商品に適用される契約条件を選択します。COA では、対応するパートナー契約条件レコードが検索されます。
4. カタログから販売した商品を選択します。COA では、対応するパートナー商品カタログレコードが検索されます。
5. 販売したライセンス数とその価格を入力します。COA では、注文のサービス注文の詳細が設定されます。
6. 開始日を選択し、注文を確認した後、Salesforce に送信して請求します。COA では、既存の注文のリストにサービス注文レコードが追加されます。

その他の Channel Order App オブジェクト

Salesforce は、注文の処理および管理やデバッグを支援するために、その他のオブジェクトを使用します。ほとんどの場合、これらのオブジェクトは表示されず、操作することはありません。

名前	説明
Customer Order Product History (顧客の注文商品履歴)	<p>注文の有効な商品に関する案件固有の情報と、対応する顧客の詳細が含まれます。</p> <p>Salesforce が注文の有効化またはプロビジョニングを行った後、注文の商品ごとに顧客の注文商品履歴レコードが作成されます。これらのレコードは顧客の注文履歴の一部となります。注文履歴には、顧客に関連付けられたすべての有効な商品が含まれます。顧客の注文商品履歴レコードに直接アクセスすることはできません。顧客の注文履歴を表示するには、COA で顧客レコードを開き、[Products (商品)] 関連リストに移動します。</p>
Partner Pricebook Entry (パートナー価格表エントリ)	<p>カタログの 1 つ以上の商品が含まれます。</p> <p>Salesforce はパートナー価格表エントリを使用して、商品カタログを整理します。指示がない限り、組織のパートナー価格表エントリは変更しないでください。</p>
Service Order Log (サービス注文ログ)	<p>デバッグ目的で COA のパフォーマンスに関する情報が保存されます。</p> <p>Salesforce はサービス注文ログを使用して、COA の問題のトラブルシューティングを行います。指示がない限り、組織のサービス注文ログは変更しないでください。</p>

注文の種別

Channel Order App (COA) で注文を作成するときに、注文の商品をどのように処理するのかを Salesforce に指示する注文種別を選択します。顧客のニーズに基づいて、適切な種別を選択する方法について説明します。

 **メモ:** 選択可能な注文種別は、Salesforce との契約によって異なります。

注文種別は、顧客との関係のフェーズ(開始、中間、終了)を反映します。顧客の注文がいつ有効化またはプロビジョニングされるかも注文種別によって決定されます。

型	フェーズ	用途	発効日
Initial (新規)	Beginning (開始)	新規顧客の最初の注文を送信します。	注文に指定したサービス開始日。
Add On (追加)	Middle (中間)	顧客の契約上の商品を追加したり、ライセンス数を増やしたりします。	注文に指定したサービス開始日。
Upgrade (アップグレード)	Middle (中間)	契約期間中にライセンスの数や価格を増加したり、契約期間中に顧客をより高価格の商品にアップグレードしたりします。	注文に指定したサービス開始日。
Reduction (削減)	Middle (中間)	顧客の契約上の商品を削除したり、ライセンス数を減らしたりします。	顧客の契約更新日。 パートナーシップ契約の条件に従って、(通常は契約更新の30日以上前に) Salesforce に削減を通知します。契約更新日の5日以内は削減注文を送信できません。
Renewal (更新)	Middle (中間)	自動更新に設定されていない契約を更新するか、契約更新時に既存の商品の価格を変更します。	顧客の契約更新日。
Cancellation (解約)	End (終了)	顧客との契約を終了し、すべての商品をキャンセルします。解約注文によって、顧客の組織から商品が完全に削除されます。	顧客の契約更新日。 パートナーシップ契約の条件に従って、(通常は契約更新の30日以上前に) Salesforce に解約を通知します。契約更新日の5日以内は解約注文を送信できません。
New Cloud (新規クラウド)	Beginning (開始)	既存の顧客に対する次の新しいクラウドオファーの新規注文を送信します。	注文に指定したサービス開始日。

注文状況

Channel Order App (COA) で注文を作成すると、Salesforce は注文状況を割り当てます。これは、進行状況を追跡するのに役立つほか、必要な場合は問題を解決するのに役立ちます。また、注文状況によって、注文に対して実行できるアクション(編集、コピーなど)が決まります。

注文状況は次のように割り当てられます。

状況	割り当てられる条件
Draft (ドラフト)	注文を保存しましたが、Salesforce に送信していません。 注文の作成、コピー、または取り消し後、その状況はデフォルトでドラフトになります。
Received (受信済み)	Salesforce は注文を受信しましたが、処理を開始していません。 Salesforce が注文を受信してから、その取り消しや商品、ライセンス数、価格設定の編集を行うまで 2 時間かかります。
In Process (処理中)	Salesforce は注文を確認し、処理しています。
Activated (有効化済み)	Salesforce は注文を処理し、収益分配を請求する準備ができています。 この状況は次の注文に適用されます。 <ul style="list-style-type: none"> 顧客の組織にライセンスをプロビジョニングしない、将来の開始日の ISVforce 注文 将来の開始日の処理済み OEM 注文 すべての OEM および ISVforce の解約注文と削減注文
Provisioned (提供済み)	Salesforce は注文を処理し、収益分配を請求する準備ができています。
Error (エラー)	Salesforce で注文を処理できない問題が発生しています。注文が返され、再送信する前に問題を修正するように求められます。

注文状況により、その注文でできることが決まります。次の注文状況アクションは実行できません。

注文状況	実行できるアクション				
	編集	取り消し	削除	送信	コピー
Draft (ドラフト)	*		*	*	*
Received (受信済み)	*	*			*
In Process (処理中)					*
Activated (有効化済み)					*
Provisioned (提供済み)					*
Error (エラー)					*

Channel Order App 権限セット

「COA ユーザー」と「COA 管理ユーザー」権限セットを使用して、Channel Order App (COA) へのアクセスを制御します。権限セットにより、ユーザーがCOAのオブジェクトと機能を実行できる方法が決まります。ユーザーのチームでのロールに基づいて、適切な権限セットを割り当てる方法について説明します。

権限セット	ユーザーが可能な操作	任命先
「COA ユーザー」	顧客を作成および管理する。 注文を送信、編集、取り消し、コピーしたり、注文のドラフトを削除したりする。 COA カスタムオブジェクトを表示する。	顧客の注文を送信および管理するチームメンバー。
「COA 管理ユーザー」	顧客を作成および管理する。 注文を送信、編集、取り消し、コピーしたり、注文のドラフトを削除したりする。 注文がSalesforceとテスト環境のどちらに送信されるかを設定する。 COA カスタムオブジェクトを変更する。	COAを管理するチームメンバーと、次のタスクを含むロールを持つロールを持つチームメンバー。 <ul style="list-style-type: none"> COA の設定 COA へのアクセス権の割り当て COA オブジェクトを使用したカスタムインテグレーションの作成 COA メールサービスのコンテキストユーザーとしての役割の遂行

Channel Order App の設定

Channel Order App (COA) をインストールし、Salesforce の商品データを同期できるようにします。アプリケーションを設定した後、チームの適切なメンバーに権限セットを割り当てて、アクセス権を付与します。次に、顧客情報(注文履歴、関連商品など)を表示するためのタブを設定します。

1. Channel Order App のインストール

Channel Order App (COA) を、製品のライセンス管理を行う Salesforce 組織 (通常はパートナービジネス組織) にインストールします。COA がすでに組織にインストールされている既存のパートナーの場合は、アップグレードを受信するためにアプリケーションを再インストールする必要はありません。新しいバージョンのアプリケーションは Salesforce から組織にプッシュされます。

2. Channel Order App ユーザーへの権限セットの割り当て

Channel Order App (COA) 権限セットを割り当てて、チームメンバーにアプリケーションへのアクセス権を付与します。顧客の注文を送信および管理するユーザーには、「COA ユーザー」権限セットを割り当てます。Salesforce への接続を設定する権限を含む、アプリケーションのオブジェクトと機能へのフルアクセスが必要なユーザーには、「COA 管理ユーザー」権限を割り当てます。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

3. Channel Order App メールサービスの定義

Channel Order App (COA) 権限セットを割り当てたら、メールサービスを定義して、組織が商品カタログと契約条件を同期できるようにします。

4. Channel Order App の Salesforce への接続

Channel Order App (COA) のインストール後、アプリケーションを Salesforce に接続して商品カタログをインポートします。商品カタログには、販売できる商品と、注文に適用する契約条件が含まれます。接続が設定された後に、Salesforce からカタログの更新が組織にプッシュされます。

5. Channel Order App での顧客の表示

Channel Order App (COA) のインストール後、顧客情報を表示するためのカスタムタブを作成します。


6. Channel Order App でのページレイアウトの割り当て

Channel Order App (COA) のインストール後、カスタムページレイアウトをカスタムオブジェクトに割り当てます。

Channel Order App のインストール

Channel Order App (COA) を、製品のライセンス管理を行う Salesforce 組織 (通常はパートナービジネス組織) にインストールします。COA がすでに組織にインストールされている既存のパートナーの場合は、アップグレードを受信するためにアプリケーションを再インストールする必要はありません。新しいバージョンのアプリケーションは Salesforce から組織にプッシュされます。

1. COA をインストールする組織のログイン情報を使用して AppExchange にログインします。
2. COA の AppExchange リスト (<https://appexchange.salesforce.com/listingDetail?listingId=a0N300000055ailEAA>) に移動します。
3. [今すぐ入手] をクリックします。
4. [本番環境にインストール] をクリックします。
5. 契約条件に同意し、[確認してインストール] をクリックします。
6. COA をインストールする組織にログインします。
7. パッケージインストールの詳細を確認し、[続行] をクリックします。
8. サードパーティ Web サイトによるアクセスを承認し、[続行] をクリックします。
9. パッケージの API アクセス要件を確認し、[次へ] をクリックします。
10. パッケージ内容へのアクセス権を付与し、[次へ] をクリックします。

 **メモ:** アクセス権はシステム管理者にのみ付与し、他のユーザーにはアプリケーションのインストール後に必要に応じてアクセス権を割り当てることをお勧めします。

11. [インストール] をクリックします。

12. インストールが完了したら、アプリケーションランチャーに移動し、使用可能なアプリケーションのリストに Partner Order が表示されることを確認します。

ユーザ権限

パッケージをインストールする

- 「AppExchange パッケージのダウンロード」

Channel Order App ユーザーへの権限セットの割り当て

Channel Order App (COA) 権限セットを割り当てて、チームメンバーにアプリケーションへのアクセス権を付与します。顧客の注文を送信および管理するユーザーには、「COAユーザー」権限セットを割り当てます。Salesforce への接続を設定する権限を含む、アプリケーションのオブジェクトと機能へのフルアクセスが必要なユーザーには、「COA 管理ユーザー」権限を割り当てます。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ユーザー」と入力し、[ユーザー] をクリックします。
3. ユーザーを選択します。
4. [権限セットの割り当て] 関連リストで、[割り当ての編集] をクリックします。
5. [COA ユーザー] または [COA 管理ユーザー] 権限セットを選択して、[追加] をクリックします。
6. [保存] をクリックします。

ユーザ権限

権限セットを割り当てる

- 「権限セットの割り当て」

Channel Order App メールサービスの定義

Channel Order App (COA) 権限セットを割り当てたら、メールサービスを定義して、組織が商品カタログと契約条件を同期できるようにします。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「メールサービス」と入力し、[メールサービス] をクリックします。
3. [新規メールサービス] をクリックします。
4. 次の項目の値を指定します。他の項目はそのままにします。

ユーザ権限

Apex メールサービスとメールサービスアドレスを作成する

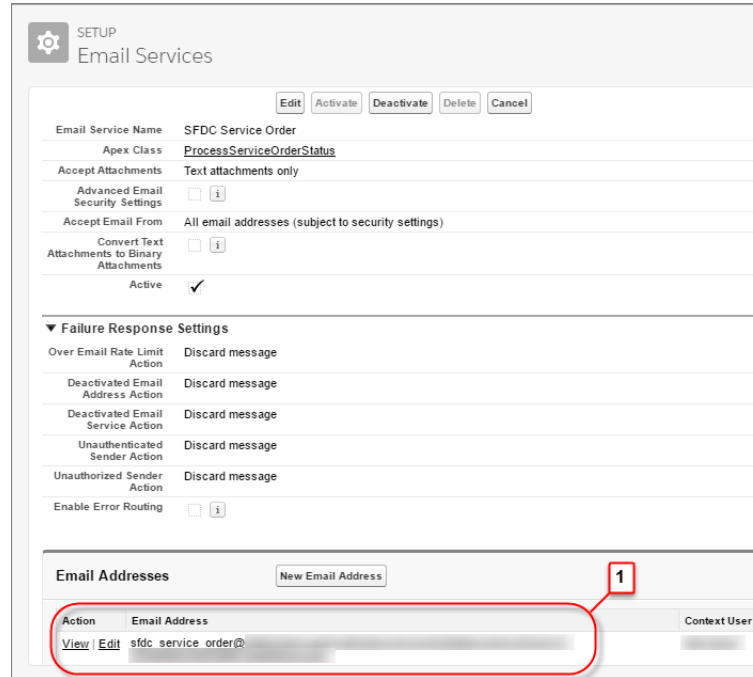
- 「すべてのデータの編集」

項目	値
メールサービス名	SFDC サービス注文
Apex クラス	ProcessServiceOrderStatus
受け入れる添付ファイル	テキスト形式の添付ファイルのみ
有効	選択して有効にする

5. [保存 & 新規メールアドレス] をクリックします。
6. 次の項目の値を指定します。他の項目はそのままにします。

項目	値
メールサービス名	SFDC_Service_Order
有効	選択して有効にする
コンテキストユーザー	組織の Salesforce システム管理者を選択

7. [許可する送信元] で、自動入力されたメールアドレスを削除します。この項目は空白にしてください。そうでないと、メールサービスを Salesforce に接続できません。
8. [保存] をクリックします。Salesforce はメールサービスの一意のアドレスを生成します (1)。これは COA が商品データの同期に使用します。



9. [COA 管理ユーザー] 権限セットがメールサービスのコンテキストユーザーに割り当てられていることを確認します。コンテキストユーザーにこの権限セットがない場合は割り当てます。

Channel Order App の Salesforce への接続

Channel Order App (COA) のインストール後、アプリケーションを Salesforce に接続して商品カタログをインポートします。商品カタログには、販売できる商品と、注文に適用する契約条件が含まれます。接続が設定された後に、Salesforce からカタログの更新が組織にプッシュされます。

ヒント: 接続を設定する前に、COA 商品接続用のログイン情報があることを確認してください。このログイン情報は会社固有のものであり、Salesforce によって提供されます。ログイン情報がない場合は、Salesforce パートナーコミュニティでサポートケースを登録してください。商品には、「ISVBilling & Order Support (ISV 請求と注文サポート)」と指定します。トピックには、「Channel Order App Setup & Product Catalog Support (Channel Order App の設定と商品カタログのサポート)」と指定します。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開きます。
3. [すべての項目] で [COA Setup (COA 設定)] をクリックします。

ユーザ権限

カスタムアプリケーションを管理する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

商品データをインポートする

- COA 管理ユーザー

4. [Production Settings (本番設定)] に移動し、ユーザー名、API キー、有効化コードを入力します。

5. [Save (保存)] をクリックします。
COA が商品カタログと契約条件をインポートします。

Channel Order App での顧客の表示

Channel Order App (COA) のインストール後、顧客情報を表示するためのカスタムタブを作成します。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「タブ」と入力し、[タブ] をクリックします。
3. [カスタムオブジェクトタブ] 関連リストで [新規] をクリックします。
4. 次の項目の値を指定します。他の項目はそのままにします。

項目	値
オブジェクト	Customer
タブスタイル	好みのタブスタイルを選択します。

ユーザ権限

カスタムタブを作成、編集する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

5. [次へ] をクリックします。
6. タブを使用できるユーザープロファイルを選択して、[次へ] をクリックします。
7. タブを Partner Order カスタムアプリケーションに追加します。
8. [保存] をクリックします。

Channel Order App でのページレイアウトの割り当て

Channel Order App (COA) のインストール後、カスタムページレイアウトをカスタムオブジェクトに割り当てます。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「オブジェクトマネージャー」と入力し、[オブジェクトマネージャー] をクリックします。
3. [顧客] をクリックします。
4. [Page Layouts (ページレイアウト)] をクリックします。
5. [ページレイアウトの割り当て] をクリックします。
6. [割り当ての編集] をクリックします。
7. 少なくとも 1 つのプロファイルを選択します。
8. 使用できるレイアウトのリストから、[COA Customer Layout (COA カスタマーレイアウト)] を選択します。
9. [保存] をクリックします。

ユーザ権限

カスタムオブジェクトを作成、編集する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

Channel Order App のアップグレード

すでに以前のバージョンの Channel Order App (COA) がインストールされている場合、新しいバージョンが利用可能になると、組織にプッシュされます。アップグレードをインストールする前に、考慮事項を確認し、組織内でのカスタマイズにどのような影響があるのかを把握してください。使用している COA のバージョンによっては、アップグレード後に追加の設定が必要になる場合があります。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

Channel Order App のアップグレードに関する考慮事項

Channel Order App (COA) の新しいバージョンをインストールする前に、アプリケーションで変更された内容と、その変更がカスタマイズにどのような影響を及ぼす可能性があるのかを把握してください。

Channel Order App のアップグレード

次の手順の従って、Channel Order App (COA) の以前のバージョンを v2 以降にアップグレードします。

Channel Order App v2 以降での項目の対応付け

Channel Order App (COA) v2 では、サービス注文詳細オブジェクトの一部の項目が廃止されました。v1.39 以前から v2 にアップグレードする場合は、廃止された項目が新しい項目にどのように対応付けられるのかをこの表で確認してください。

Channel Order App のアップグレードに関する考慮事項

Channel Order App (COA) の新しいバージョンをインストールする前に、アプリケーションで変更された内容と、その変更がカスタマイズにどのような影響を及ぼす可能性があるのかを把握してください。

v1.39 以前から v2 へのアップグレード

COA v1.39 以前を使用している場合、v2 以降にアップグレードするときに次の考慮事項に留意してください。

[Service Order Credentials (Service Order ログイン情報)] ページの置き換え

v2 以降では、[Service Order Credentials (Service Order ログイン情報)] ページが [COA Setup (COA 設定)] ページに置き換えられます。アップグレード後、設定ページに移動して Salesforce への接続を更新します。接続が更新されていない場合、Salesforce は注文を受け付けることができません。

COA にアクセスするための新しい権限セット

v1.39 以前では、カスタムプロファイルで COA へのアクセスを制御します。v2 以降では、権限セットでアクセスを制御します。アップグレード後、カスタムプロファイルを使用してアプリケーションにアクセスしていたユーザーを含め、COA を使用するチームメンバーに権限セットを割り当てます。権限セットがない場合、ユーザーは COA にアクセスできません。

新しい [Customers (顧客)] タブ

v2 以降では、新しい [Customers (顧客)] タブに顧客情報(注文履歴と関連商品を含む)が表示されます。アップグレード後、このタブを作成してアプリケーションで表示するように設定する必要があります。

[Orders (注文)] タブの置き換え

v2 以降では、[Orders (注文)] タブが [Service Orders (サービス注文)] タブに置き換えられます。アップグレード後、アプリケーションから [Orders (注文)] タブを削除して [Service Orders (サービス注文)] タブを設定します。

ページレイアウトの更新

v2 以降では、Customers、Service Orders、Partner Contract Terms、および Partner Product Catalog オブジェクトのページレイアウトが更新されています。アップグレード後、更新されたレイアウトを各オブジェクトに割り当てます。

置き換えられた Partner Order Submit API

v2 以降では、Partner Order Submit API が Channel Order API に置き換えられます。アップグレードしても、依然として Partner Order Submit API を使用して注文を送信でき、既存のインテグレーションは引き続き機能します。ただし、Partner Order Submit API には、Channel Order Apex API で導入された機能が含まれません。注文の編集、取り消し、コピーなどの機能です。

API へのその他の変更

送信された注文の状況を API で設定する方法が変更されました。v1.39 以前では、送信された注文の `Service_Order_Status__c` 項目が Partner Order API によって自動的に更新されていました。v2 以降では、送信操作が成功したかどうかを報告する応答が Channel Order API から返されますが、`Service_Order_Status__c` 項目は更新されません。

Channel Order App のアップグレード

次の手順の従って、Channel Order App (COA) の以前のバージョンを v2 以降にアップグレードします。

1. Channel Order App ユーザーへの権限セットの割り当て

Channel Order App (COA) v2 以降にアップグレードする場合、権限セットを割り当てて、チームメンバーがアプリケーションにアクセスできるようにします。顧客の注文を送信および管理するユーザーには、「COA ユーザー」権限セットを割り当てます。Salesforce への接続を設定する権限を含む、アプリケーションのオブジェクトと機能へのフルアクセスが必要なユーザーには、「COA 管理ユーザー」権限を割り当てます。

2. Channel Order App での顧客の表示

Channel Order App (COA) v2 以降にアップグレードする場合、アプリケーションで顧客情報を表示するためのカスタムタブを作成します。

3. Channel Order App でのサービス注文の表示

Channel Order App (COA) v2 以降にアップグレードしている場合、既存の [Orders (注文)] タブを削除して新しい [Service Orders (サービス注文)] タブに置き換えます。

4. Channel Order App でのページレイアウトの更新

Channel Order App (COA) v2 以降にアップグレードする場合、更新したページレイアウトを Customers、Service Orders、Partner Contract Terms、および Partner Product Catalog オブジェクトに割り当てます。

5. Channel Order App の Salesforce への接続の更新

Channel Order App (COA) を v2 以降にアップグレードする場合、Salesforce への接続を更新します。接続の更新後、Salesforce に注文を送信できます。

Channel Order App ユーザーへの権限セットの割り当て

Channel Order App (COA) v2 以降にアップグレードする場合、権限セットを割り当てて、チームメンバーがアプリケーションにアクセスできるようにします。顧客の注文を送信および管理するユーザーには、「COA ユーザー」権限セットを割り当てます。Salesforce への接続を設定する権限を含む、アプリケーションのオブジェクトと機能へのフルアクセスが必要なユーザーには、「COA 管理ユーザー」権限を割り当てます。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ユーザー」と入力し、[ユーザー] をクリックします。
3. ユーザーを選択します。
4. [権限セットの割り当て] 関連リストで、[割り当ての編集] をクリックします。
5. [COA ユーザー] または [COA 管理ユーザー] 権限セットを選択して、[追加] をクリックします。
6. [保存] をクリックします。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

ユーザ権限

権限セットを割り当てる

- 「権限セットの割り当て」

Channel Order App での顧客の表示

Channel Order App (COA) v2 以降にアップグレードする場合、アプリケーションで顧客情報を表示するためのカスタムタブを作成します。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「タブ」と入力し、[タブ] をクリックします。
3. [カスタムオブジェクトタブ] 関連リストで [新規] をクリックします。
4. 次の項目の値を指定します。他の項目はそのままにします。

項目	値
オブジェクト	Customers (顧客)
タブスタイル	好みのタブスタイルを選択します。

5. [次へ] をクリックします。
6. タブを使用できるユーザープロファイルを選択して、[次へ] をクリックします。
7. タブを Partner Order カスタムアプリケーションに追加します。
8. [保存] をクリックします。

Channel Order App でのサービス注文の表示

Channel Order App (COA) v2 以降にアップグレードしている場合、既存の [Orders (注文)] タブを削除して新しい [Service Orders (サービス注文)] タブに置き換えます。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーションマネージャー」と入力し、[アプリケーションマネージャー] をクリックします。
3. パートナーの注文の場合、() をクリックして [編集] を選択します。
4. [選択されたタブ] リストから [Orders (注文)] を削除します。
5. [Service Orders (サービス注文)] を [選択されたタブ] リストに追加します。
6. [Save (保存)] をクリックします。

ユーザ権限

カスタムタブを作成、編集する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition

ユーザ権限

カスタムアプリケーションを管理する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

Channel Order App でのページレイアウトの更新

Channel Order App (COA) v2 以降にアップグレードする場合、更新したページレイアウトを Customers、Service Orders、Partner Contract Terms、および Partner Product Catalog オブジェクトに割り当てます。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「オブジェクトマネージャー」と入力し、[オブジェクトマネージャー] をクリックします。
3. 更新したページレイアウトを Customer オブジェクトに割り当てます。
 - a. [顧客] をクリックします。
 - b. [Page Layouts (ページレイアウト)] をクリックします。
 - c. [ページレイアウトの割り当て] をクリックします。
 - d. [割り当ての編集] をクリックします。
 - e. 少なくとも 1 つのプロファイルを選択します。
 - f. 使用できるレイアウトのリストから、[COA Customer Layout (COA カスタマーレイアウト)] を選択します。
 - g. [保存] をクリックします。
4. Service Order、Partner Contract Terms、Partner Product Catalog オブジェクトに対してこれらのステップを繰り返します。これらのオブジェクトでは次のページレイアウト名が使用されます。

オブジェクト	ページレイアウト名
Service Orders (サービス注文)	Service Order Layout (サービス注文レイアウト)
Partner Contract Terms (パートナー契約条件)	Partner Contract Terms Layout (パートナー契約条件レイアウト)
Partner Product Catalog (パートナー商品カタログ)	Partner Product Catalog Layout (パートナー商品カタログレイアウト)

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

ユーザ権限

カスタムオブジェクトを作成、編集する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

Channel Order App の Salesforce への接続の更新

Channel Order App (COA) を v2 以降にアップグレードする場合、Salesforce への接続を更新します。接続の更新後、Salesforce に注文を送信できます。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開きます。
3. [すべての項目] で [COA Setup (COA 設定)] をクリックします。
4. [Production Settings (本番設定)] に移動し、[Refresh Connection (接続を更新)] をクリックします。
接続の更新後、注文履歴がアプリケーションにインポートされます。

Channel Order App v2 以降での項目の対応付け

Channel Order App (COA) v2 では、サービス注文詳細オブジェクトの一部の項目が廃止されました。v1.39 以前から v2 にアップグレードする場合は、廃止された項目が新しい項目にどのように対応付けられるのかをこの表で確認してください。

 **メモ:** 項目名には CHANNEL_ORDERS__ というプレフィックスが付きます。

項目

旧項目 (廃止)	新規項目	メモ
Application__c	なし	廃止された項目。この項目には、COA v2 以降で作成された注文のデータは入力されません。
Customer_Price__c	Customer_Price_Per_Month__c	毎月の単位あたりの商品価格を表します。
Fixed_Price__c	pc_Fixed_Price__c	注文作成時の商品の固定価格を表します。
Floor_Price__c	なし	廃止された項目。この項目には、COA v2 以降で作成された注文のデータは入力されません。
Estimated_SFDC_Price_Per_Month__c	SFDC_Price__c	商品の予測値に基づいて Salesforce が算出した合計額を表します。
Number_Of_Users_ISVforce__c	なし	廃止された項目。この項目には、COA v2 以降で作成された注文のデータは入力されません。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

ユーザ権限

カスタムアプリケーションを管理する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

商品データをインポートする

- COA 管理ユーザー

旧項目 (廃止)	新規項目	メモ
pc_Floor_Price__c	なし	廃止された項目。この項目には、COAv2以降で作成された注文のデータは入力されません。
pc_PNR__c	PNR__c	注文作成時の商品の純収益(%)を表します。
pc_Pricing_Unit__c	なし	廃止された項目。この項目には、COAv2以降で作成された注文のデータは入力されません。
pc_Product_ID__c	Product_ID__c	商品の ID を表します。
Pricing_Type__c	pc_Pricing_Type__c	商品の価格設定モデルを表します。
Product_Line_Desc_Overridden__c	なし	廃止された項目。この項目には、COAv2以降で作成された注文のデータは入力されません。
Special_Instructions__c	なし	廃止された項目。この項目には、COAv2以降で作成された注文のデータは入力されません。

Channel Order App での注文の管理

顧客が AppExchange 商品を購入した、または顧客がサブスクリプションの変更を要求した場合、注文を Salesforce に送信します。注文を作成した後、注文の編集、取り消し、コピーができます。注文がドラフトの場合、注文を削除できます。

注文の送信

顧客が新しい商品を購入した場合や、顧客がサブスクリプションの変更を要求した場合に、注文を Salesforce に送信します。新しい顧客の商品を注文する場合、注文を作成する前に、顧客の Salesforce 組織 ID があることを確認してください。

注文の編集

Salesforce に送信後 2 時間以内は、注文の商品、数量、価格設定の詳細を編集できます。2 時間を過ぎると注文は処理され、編集できなくなります。顧客詳細または注文種別を変更するには、注文を取り消して新たに注文を作成する必要があります。

注文のコピー

以前に送信した注文と類似する注文を作成する場合、元の注文をコピーして時間を節約できます。

注文の取り消し

送信した注文の処理を中止したい場合は、注文を取り消します。注文を取り消すと、注文は参照のみになり、編集や再送信はできなくなります。ほとんどの場合、注文は Salesforce に送信してから 2 時間以内であれば取り消すことができます。月末近くになると、注文の取り消し期間は 30 分になります。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic および Lightning Experience の両方

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

ドラフト注文の削除

重複している注文など、送信しないドラフト注文を削除できます。ドラフト注文を削除した後、復元することはできません。

返された注文のエラーの修正

Salesforce が処理できない注文を送信すると、注文が返されて特定されたエラーを修正するように求められます。エラーを解決するには、提供されたコメントを読み、返された注文をコピーし、変更を適用した新しい注文を送信します。

注文の送信

顧客が新しい商品を購入した場合や、顧客がサブスクリプションの変更を要求した場合に、注文を Salesforce に送信します。新しい顧客の商品を注文する場合、注文を作成する前に、顧客の Salesforce 組織 ID があることを確認してください。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[パートナーの注文] をクリックします。
3. [Service Orders (サービス注文)] タブで、[新規] をクリックして、注文の送信ウィザードを開きます。
4. 顧客種別 (1) と契約種別 (2) を指定し、メニューから契約を選択します。

ユーザ権限

注文を送信する

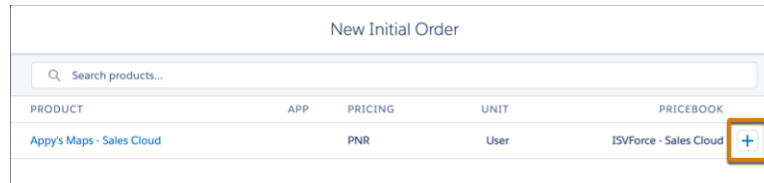
- COA ユーザー

または

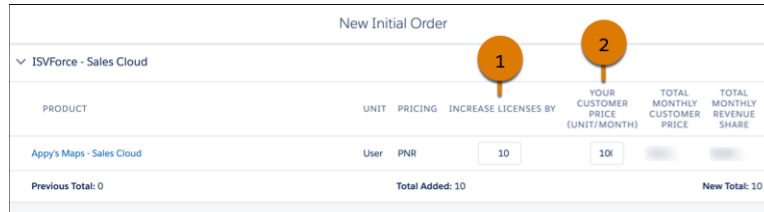
「COA 管理ユーザー」

5. 顧客の詳細 (1) を指定し、注文の契約条件 (2) を確認してから、[次へ] をクリックします。

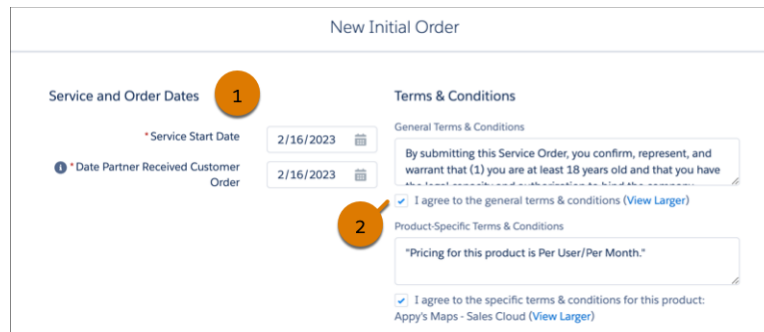
6. 注文に商品を追加するには、[+] をクリックしてから [次へ] をクリックします。



7. ライセンスの数量 (1) と顧客の月額単価 (2) を入力して、[次へ] をクリックします。



8. サービスおよび注文日付 (1) を入力し、契約条件 (2) を確認して同意します。[サービス開始日] 項目には、顧客のサブスクリプションが開始される日付を入力します。最初の注文のサービス開始日により、顧客の月間契約または年間契約の更新日が決まります。請求日は、注文を送信した日ではなく、注文のサービス開始日となります。



9. [Submit (送信)] をクリックするか、注文をドラフトとして保存して後で送信します。

注文を送信すると、注文はSalesforceに送信され、処理されて有効化またはプロビジョニングされます。注文の状況を確認するには、[Service Orders (サービス注文)] タブに移動します。

注文の編集

Salesforce に送信後2時間以内は、注文の商品、数量、価格設定の詳細を編集できます。2時間を過ぎると注文は処理され、編集できなくなります。顧客詳細または注文種別を変更するには、注文を取り消して新たに注文を作成する必要があります。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[パートナーの注文] をクリックします。


ユーザ権限

注文を編集する

- COA ユーザー

または

「COA管理ユーザー」

3. [Service Orders (サービス注文)] タブで、編集する注文を見つけます。
注文が見つからない場合は、正しいリストビューを選択していることを確認します。
4.  をクリックし、[Edit (編集)] を選択します。
5. 注文の商品、数量、価格設定の詳細を更新して、[Resubmit (再送信)] をクリックします。

注文のコピー

以前に送信した注文と類似する注文を作成する場合、元の注文をコピーして時間を節約できます。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[パートナーの注文] をクリックします。
3. [サービス注文] タブで、コピーする注文を見つけます。
注文が見つからない場合は、正しいリストビューを選択していることを確認します。
4. [カスタムアクション] 列で [コピー] をクリックします。
5. 注文をコピーすることを確認して [続行] をクリックします。
6. 必要に応じて注文を編集し、[ドラフトを保存] をクリックします。


ユーザ権限

注文をコピーする

- COA ユーザー
または
「COA 管理ユーザー」

注文の取り消し

送信した注文の処理を中止したい場合は、注文を取り消します。注文を取り消すと、注文は参照のみになり、編集や再送信はできなくなります。ほとんどの場合、注文は Salesforce に送信してから 2 時間以内であれば取り消すことができます。月末近くになると、注文の取り消し期間は 30 分になります。

 **メモ:** この取り消しアクションを使用できない場合は、注文の取り消し期間が過ぎています。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[パートナーの注文] をクリックします。
3. [Service Orders (サービス注文)] タブで、取り消す注文を見つけます。
注文が見つからない場合は、正しいリストビューを選択していることを確認します。
4. [Custom Actions (カスタムアクション)] 列で、[Recall (取り消し)] をクリックします。
5. 注文を取り消すことを確認し、[Continue (続行)] をクリックします。


ユーザ権限

注文を取り消す

- COA ユーザー
または
「COA 管理ユーザー」

ドラフト注文の削除

重複している注文など、送信しないドラフト注文を削除できます。ドラフト注文を削除した後、復元することはできません。

1. COA がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[パートナーの注文]をクリックします。
3. [Service Orders (サービス注文)] タブで、削除する注文を見つけます。
注文が見つからない場合は、正しいリストビューを選択していることを確認します。
4.  をクリックし、[Delete (削除)] を選択します。
5. [削除] を再度クリックして確認します。

ユーザ権限

注文を削除する

- COA ユーザー
または
「COA 管理ユーザー」

返された注文のエラーの修正

Salesforce が処理できない注文を送信すると、注文が返されて特定されたエラーを修正するように求められます。エラーを解決するには、提供されたコメントを読み、返された注文をコピーし、変更を適用した新しい注文を送信します。

1. Channel Order App (COA) がインストールされている組織にログインします。
2. アプリケーションランチャーを開き、[パートナーの注文]をクリックします。
3. [Service Orders (サービス注文)] タブで、返された注文を見つけます。
注文が見つからない場合は、正しいリストビューを選択していることを確認します。
4. 注文をクリックし、[Error Comment (エラーコメント)] に移動してエラーに関する詳細を確認します。
5. [Clone Order (注文をコピー)] をクリックします。
6. 要求された変更を適用し、[Submit (送信)] をクリックします。

エラーを解決できない場合は、Salesforce [パートナーコミュニティ](#) でサポートケースを登録します。商品には、「ISV Billing & Order Support (ISV 請求と注文サポート)」と指定します。トピックには、「Partner Order Errors & Revisions (パートナーの注文のエラーとリビジョン)」と指定します。

ユーザ権限

注文をコピーする

- COA ユーザー
または
「COA 管理ユーザー」

Channel Order Apex API

Channel Order Apex API を使用して、プログラムによって Salesforce に注文を送信できます。注文を送信するには、CHANNEL_ORDERS 名前空間にあるクラスのいずれかを使用します。

CHANNEL_ORDERS 名前空間

CHANNEL_ORDERS 名前空間は、注文を Salesforce パートナー事業部に送信するためのクラスを提供します。注文を送信後、名前空間の他のクラスを使用して、注文を編集、取り消し、コピーできます。

Service Orders (サービス注文)

処理および有効化のために、Salesforce パートナー事業部に送信する注文を表します。

[Service Order Detail \(サービス注文の詳細\)](#)

サービス注文の商品のインスタンスを表します。

[Partner Order Submit API](#)

(サポートは終了し、Channel Order App のバージョン 1.39 以前でのみ使用可能) Salesforce に注文をすぐに送信するか、Partner Order Submit API を使用して非同期で送信します。

CHANNEL_ORDERS 名前空間

CHANNEL_ORDERS 名前空間は、注文を Salesforce パートナー事業部に送信するためのクラスを提供します。注文を送信後、名前空間の他のクラスを使用して、注文を編集、取り消し、コピーできます。

CHANNEL_ORDERS 名前空間クラスを使用するには、Salesforce 組織に Channel Order App v2 以降がインストールされている必要があります。管理パッケージで定義されたメソッドを呼び出す方法についての詳細は、『[Apex 開発者ガイド](#)』を参照してください。

CHANNEL_ORDERS 名前空間には次のクラスがあります。

[COA_ServiceOrderSubmit クラス](#)

処理および有効化のために注文を Salesforce パートナー事業部に送信します。

[COA_ServiceOrderEdit クラス](#)

Salesforce パートナー事業部に送信した注文を編集します。

[COA_ServiceOrderRecall クラス](#)

Salesforce パートナー事業部に送信した注文を取り消します。

[COA_ServiceOrderClone クラス](#)

Channel Order App (COA) がインストールされている組織で既存の注文をコピーします。

COA_ServiceOrderSubmit クラス

処理および有効化のために注文を Salesforce パートナー事業部に送信します。

名前空間

[CHANNEL_ORDERS](#)

使用方法


COA_ServiceOrderSubmit クラスには、注文を Salesforce パートナー事業部に送信するための単一の `@InvocableMethod` が含まれます。このクラスで定義されたメソッドを呼び出す場合、CHANNEL_ORDERS 名前空間プレフィックスを含めます。

```
CHANNEL_ORDERS.class.method(args)
```

名前空間プレフィックスまたは `@InvocableMethod` アノテーションについての詳細は、『[Apex 開発者ガイド](#)』を参照してください。

例

この例では、サービス注文のリストを受信し、そのサービス注文を送信して、送信操作からの出力のリストを返します。

-  **メモ:** 簡潔にするため、この例で呼び出されるメソッドでは CHANNEL_ORDERS 名前空間プレフィックスが省略されています。実装でこのコードを使用する場合、名前空間プレフィックスを含める必要があります。

```
public static void submitOrders(List<Service_Order__c> serviceOrders){
    List<COA_ServiceOrderSubmit.COA_ServiceOrderSubmitInput> serviceOrderSubmitInput = new
    List<COA_ServiceOrderSubmit.COA_ServiceOrderSubmitInput>();

    for(Service_Order__c serviceOrder: serviceOrders){
        COA_ServiceOrderSubmit.COA_ServiceOrderSubmitInput input = new
        COA_ServiceOrderSubmit.COA_ServiceOrderSubmitInput();
        input.serviceOrderId = serviceOrder.Id;
        serviceOrderSubmitInput.add(input);
    }

    List<COA_ServiceOrderSubmit.COA_ServiceOrderSubmitOutput> serviceOrderSubmitOutputs =
    COA_ServiceOrderSubmit.submit(serviceOrderSubmitInput);

    for(COA_ServiceOrderSubmit.COA_ServiceOrderSubmitOutput serviceOrderSubmitOutput:
    serviceOrderSubmitOutputs){
        System.debug('Service Order Id: '+serviceOrderSubmitOutput.serviceOrderId);
        System.debug('Success?: '+serviceOrderSubmitOutput.isSuccess);
        System.debug('Response Messages: '+serviceOrderSubmitOutput.responseMessages);
    }
}
```

注文状況

COA_ServiceOrderSubmit クラスを使用してドラフト注文を送信すると、応答で操作が成功したかどうか通知されます。応答では、関連するサービス注文レコードの状況は設定されないため、Service_Order_Status__c 項目は Draft のままです。送信された注文の状況を設定する実装を構築する場合、次のロジックをお勧めします。応答に成功コードが含まれている場合、注文状況を Received に設定します。含まれていない場合、状況を Error に設定します。エラーのある注文の場合、Salesforce パートナー事業部からのメモを Error_Comment__c 項目に保存できます。

[COA_ServiceOrderSubmit のメソッド](#)

[COA_ServiceOrderSubmitInput クラス](#)

送信操作に渡される入力パラメーターのラッパークラス。

[COA_ServiceOrderSubmitOutput クラス](#)

送信操作から返される出力パラメーターのラッパークラス。

COA_ServiceOrderSubmit のメソッド

COA_ServiceOrderSubmit のメソッドは次のとおりです。

[submit\(serviceOrderSubmitInput\)](#)

注文を Salesforce パートナー事業部に送信するためのエントリポイントを提供します。

`submit (serviceOrderSubmitInput)`

注文を Salesforce パートナー事業部に送信するためのエントリポイントを提供します。

署名

```
global static List<COA_ServiceOrderSubmit.COA_ServiceOrderSubmitOutput>
submit(List<COA_ServiceOrderSubmit.COA_ServiceOrderSubmitInput> serviceOrderSubmitInput)
```

パラメーター

serviceOrderSubmitInput

型: List<COA_ServiceOrderSubmit.COA_ServiceOrderSubmitInput>

送信操作の入力として渡すラッパークラスのリスト

戻り値

型: List<COA_ServiceOrderSubmit.COA_ServiceOrderSubmitOutput>

COA_ServiceOrderSubmitInput クラス

送信操作に渡される入力パラメーターのラッパークラス。

名前空間

[CHANNEL_ORDERS](#)

[COA_ServiceOrderSubmitInput](#) のプロパティ

[COA_ServiceOrderSubmitInput](#) のプロパティ

[COA_ServiceOrderSubmitInput](#) のプロパティは次のとおりです。

[serviceOrderId](#)

送信している注文の ID を指定します。この項目は必須です。

`serviceOrderId`

送信している注文の ID を指定します。この項目は必須です。

署名

```
global Id serviceOrderId;
```

プロパティ値

型: Id

COA_ServiceOrderSubmitOutput クラス

送信操作から返される出力パラメーターのラッパークラス。

名前空間

`CHANNEL_ORDERS`

COA_ServiceOrderSubmitOutput のプロパティ

COA_ServiceOrderSubmitOutput のプロパティ

COA__ServiceOrderSubmitOutput のプロパティは次のとおりです。

`isSuccess`

送信操作が成功したことを示します。true の場合、注文は正常に送信されています。

`responseMessages`

送信操作によって生成された返信メッセージを保持します。

`serviceOrderId`

送信操作によって渡された注文 ID を参照します。

`isSuccess`

送信操作が成功したことを示します。true の場合、注文は正常に送信されています。

署名

```
global Boolean isSuccess;
```

プロパティ値

型: Boolean

`responseMessages`

送信操作によって生成された返信メッセージを保持します。

署名

```
global List<String> responseMessages;
```

プロパティ値

型: List<String>

`serviceOrderId`

送信操作によって渡された注文 ID を参照します。

署名

```
global Id serviceOrderId;
```

プロパティ値

型: Id

COA_ServiceOrderEdit クラス

Salesforce パートナー事業部に送信した注文を編集します。

名前空間

`CHANNEL_ORDERS`

使用方法


COA_ServiceOrderEdit クラスには、Salesforce パートナー事業部に送信したが処理されていない注文を編集するための単一の `@InvocableMethod` が含まれます。このクラスで定義されたメソッドを呼び出す場合、`CHANNEL_ORDERS` 名前空間プレフィックスを含めます。

```
CHANNEL_ORDERS.class.method(args)
```

名前空間プレフィックスまたは `@InvocableMethod` アノテーションについての詳細は、『[Apex 開発者ガイド](#)』を参照してください。

例

この例では、編集されたサービス注文のリストを受信し、そのサービス注文を送信して、編集操作からの出力のリストを返します。

 **メモ:** 簡潔にするため、この例で呼び出されるメソッドでは `CHANNEL_ORDERS` 名前空間プレフィックスが省略されています。実装でこのコードを使用する場合、名前空間プレフィックスを含める必要があります。

```
public static void editOrders(List<Service_Order__c> serviceOrders) {
    List<COA_ServiceOrderEdit.COA_ServiceOrderEditInput> serviceOrderEditInput = new
List<COA_ServiceOrderEdit.COA_ServiceOrderEditInput>();

    for(Service_Order__c serviceOrder: serviceOrders) {
        COA_ServiceOrderEdit.COA_ServiceOrderEditInput input = new
COA_ServiceOrderEdit.COA_ServiceOrderEditInput();
        input.serviceOrderId = serviceOrder.Id;
        serviceOrderEditInput.add(input);
    }

    List<COA_ServiceOrderEdit.COA_ServiceOrderEditOutput> serviceOrderEditOutputs =
COA_ServiceOrderEdit.edit(serviceOrderEditInput);

    for(COA_ServiceOrderEdit.COA_ServiceOrderEditOutput serviceOrderEditOutput:
serviceOrderEditOutputs) {
        System.debug('Service Order Id: '+serviceOrderEditOutput.serviceOrderId);
        System.debug('Success?: '+serviceOrderEditOutput.isSuccess);
        System.debug('Response Messages: '+serviceOrderEditOutput.responseMessages);
    }
}
```

[COA_ServiceOrderEdit のメソッド](#)

[COA_ServiceOrderEditInput クラス](#)

編集操作に渡される入力パラメーターのラッパークラス。

[COA_ServiceOrderEditOutput クラス](#)

編集操作から返される出力パラメーターのラッパークラス。

COA_ServiceOrderEdit のメソッド

COA_ServiceOrderEdit のメソッドは次のとおりです。

[edit\(serviceOrderEditInput\)](#)

Salesforce パートナー事業部に送信した注文を編集するためのエントリポイントを提供します。処理されていない注文のみ編集できます。

`edit (serviceOrderEditInput)`

Salesforce パートナー事業部に送信した注文を編集するためのエントリポイントを提供します。処理されていない注文のみ編集できます。

署名

```
global static List<COA_ServiceOrderEdit.COA_ServiceOrderEditOutput>  
edit (List<COA_ServiceOrderEdit.COA_ServiceOrderEditInput> serviceOrderEditInput)
```

パラメーター

`serviceOrderEditInput`

型: List<COA_ServiceOrderEdit.COA_ServiceOrderEditInput>

編集操作の入力として渡すラッパークラスのリスト

戻り値

型: List<COA_ServiceOrderEdit.COA_ServiceOrderEditOutput>

COA_ServiceOrderEditInput クラス

編集操作に渡される入力パラメーターのラッパークラス。

名前空間

[CHANNEL_ORDERS](#)

[COA_ServiceOrderEditInput のプロパティ](#)

COA_ServiceOrderEditInput のプロパティ

COA_ServiceOrderEditInput のプロパティは次のとおりです。

[serviceOrderId](#)

編集している注文の ID を指定します。この項目は必須です。

`serviceOrderId`

編集している注文の ID を指定します。この項目は必須です。

署名

```
global Id serviceOrderId;
```

プロパティ値

型: Id

COA_ServiceOrderEditOutput クラス

編集操作から返される出力パラメーターのラッパークラス。

名前空間

[CHANNEL_ORDERS](#)

COA_ServiceOrderEditOutput のプロパティ

COA_ServiceOrderEditOutput のプロパティ

COA_ServiceOrderEditOutput のプロパティは次のとおりです。

[isSuccess](#)

編集操作が成功したことを示します。true の場合、注文は正常に編集されています。

[responseMessages](#)

編集操作によって生成された返信メッセージを保持します。

[serviceOrderId](#)

編集操作によって渡された注文 ID を参照します。

`isSuccess`

編集操作が成功したことを示します。true の場合、注文は正常に編集されています。

署名

```
global Boolean isSuccess;
```

プロパティ値

型: Boolean

responseMessages

編集操作によって生成された返信メッセージを保持します。

署名

```
global List<String> responseMessages;
```

プロパティ値

型: List<String>

serviceOrderId

編集操作によって渡された注文 ID を参照します。

署名

```
global Id serviceOrderId;
```

プロパティ値

型: Id

COA_ServiceOrderRecall クラス

Salesforce パートナー事業部に送信した注文を取り消します。

名前空間

[CHANNEL_ORDERS](#)

使用方法


COA_ServiceOrderRecall クラスには、Salesforce パートナー事業部に送信され、まだ処理はされていない注文を取り消すための単一の @InvocableMethod が含まれます。注文を取り消すと、処理中のキューから注文が削除されて有効化されません。このクラスで定義されたメソッドを呼び出す場合、CHANNEL_ORDERS 名前空間プレフィックスを含めます。

```
CHANNEL_ORDERS.class.method(args)
```

名前空間プレフィックスまたは @InvocableMethod アノテーションについての詳細は、『[Apex 開発者ガイド](#)』を参照してください。

例

この例では、サービス注文のリストを受信し、そのサービス注文を取り消して、取り消し操作からの出力のリストを返します。

 **メモ:** 簡潔にするため、この例で呼び出されるメソッドでは CHANNEL_ORDERS 名前空間プレフィックスが省略されています。実装でこのコードを使用する場合、名前空間プレフィックスを含める必要があります。

```
public static void recallOrders(List<Service_Order__c> serviceOrders){
    List<COA_ServiceOrderRecall.COA_ServiceOrderRecallInput> serviceOrderRecallInput
= new List<COA_ServiceOrderRecall.COA_ServiceOrderRecallInput>();
```

```
for(Service_Order__c serviceOrder: serviceOrders){
    COA_ServiceOrderRecall.COA_ServiceOrderRecallInput input = new
COA_ServiceOrderRecall.COA_ServiceOrderRecallInput();
    input.serviceOrderId = serviceOrder.Id;
    serviceOrderRecallInput.add(input);
}

List<COA_ServiceOrderRecall.COA_ServiceOrderRecallOutput> serviceOrderRecallOutputs
= COA_ServiceOrderRecall.recall(serviceOrderRecallInput);

for(COA_ServiceOrderRecall.COA_ServiceOrderRecallOutput serviceOrderRecallOutput:
serviceOrderRecallOutputs){
    System.debug('Service Order Id: '+serviceOrderRecallOutput.serviceOrderId);
    System.debug('Success?: '+serviceOrderRecallOutput.isSuccess);
    System.debug('Response Messages: '+serviceOrderRecallOutput.responseMessages);
}
}
```

[COA_ServiceOrderRecall のメソッド](#)

[COA_ServiceOrderRecallInput クラス](#)

取り消し操作に渡される入力パラメーターのラッパークラス。

[COA_ServiceOrderRecallOutput クラス](#)

取り消し操作から返される出力パラメーターのラッパークラス。

COA_ServiceOrderRecall のメソッド

COA_ServiceOrderRecall のメソッドは次のとおりです。

[recall\(serviceOrderRecallInput\)](#)

Salesforce パートナー事業部に送信した注文を取り消すためのエントリポイントを提供します。処理されていない注文のみ取り消すことができます。

recall (serviceOrderRecallInput)

Salesforce パートナー事業部に送信した注文を取り消すためのエントリポイントを提供します。処理されていない注文のみ取り消すことができます。

署名

```
global static List<COA_ServiceOrderRecall.COA_ServiceOrderRecallOutput>
recall(List<COA_ServiceOrderRecall.COA_ServiceOrderRecallInput> serviceOrderRecallInput)
```

パラメーター

serviceOrderRecallInput

型: List<COA_ServiceOrderRecall.COA_ServiceOrderRecallInput>

取り消し操作の入力として渡すラッパークラスのリスト

戻り値

型: List<COA__ServiceOrderRecall.COA__ServiceOrderRecallOutput>

COA_ServiceOrderRecallInput クラス

取り消し操作に渡される入力パラメーターのラッパークラス。

名前空間

[CHANNEL_ORDERS](#)

[COA_ServiceOrderRecallInput のプロパティ](#)

COA_ServiceOrderRecallInput のプロパティ

COA_ServiceOrderRecallInput のプロパティは次のとおりです。

[serviceOrderId](#)

取り消している注文の ID を指定します。この項目は必須です。

serviceOrderId

取り消している注文の ID を指定します。この項目は必須です。

署名

```
global Id serviceOrderId;
```

プロパティ値

型: Id

COA_ServiceOrderRecallOutput クラス

取り消し操作から返される出力パラメーターのラッパークラス。

名前空間

[CHANNEL_ORDERS](#)

[COA_ServiceOrderRecallOutput のプロパティ](#)

COA_ServiceOrderRecallOutput のプロパティ

COA_ServiceOrderRecallOutput のプロパティは次のとおりです。

`isSuccess`

取り消し操作が成功したことを示します。true の場合、注文は正常に取り消されています。

`responseMessages`

取り消し操作によって生成された返信メッセージを保持します。

`serviceOrderId`

取り消し操作によって渡された注文 ID を参照します。

`isSuccess`

取り消し操作が成功したことを示します。true の場合、注文は正常に取り消されています。

署名

```
global Boolean isSuccess;
```

プロパティ値

型: Boolean

`responseMessages`

取り消し操作によって生成された返信メッセージを保持します。

署名

```
global List<String> responseMessages;
```

プロパティ値

型: List<String>

`serviceOrderId`

取り消し操作によって渡された注文 ID を参照します。

署名


```
global Id serviceOrderId;
```

プロパティ値

型: Id

COA_ServiceOrderClone クラス

Channel Order App (COA) がインストールされている組織で既存の注文をコピーします。

 **メモ:** 作成権限のある項目のみがコピーされます。十分な権限がない場合、DML エラーが発生する可能性があります。

名前空間

`CHANNEL_ORDERS`

使用方法


COA_ServiceOrderClone クラスには、注文および関連付けられている品目数(省略可能)をコピーするための単一の @InvocableMethod が含まれます。このクラスで定義されたメソッドを呼び出す場合、CHANNEL_ORDERS 名前空間プレフィックスを含めます。

```
CHANNEL_ORDERS.class.method(args)
```

名前空間プレフィックスまたは @InvocableMethod アノテーションについての詳細は、『[Apex 開発者ガイド](#)』を参照してください。

例

この例では、サービス注文のリストを受信し、そのサービス注文をコピーして、コピー操作からの出力のリストを返します。

 **メモ:** 簡潔にするため、この例で呼び出されるメソッドでは CHANNEL_ORDERS 名前空間プレフィックスが省略されています。実装でこのコードを使用する場合、名前空間プレフィックスを含める必要があります。

```
public static void cloneOrders(List<Service_Order__c> serviceOrders){
    List<COA_ServiceOrderClone.COA_ServiceOrderCloneInput> serviceOrderCloneInput =
    new List<COA_ServiceOrderClone.COA_ServiceOrderCloneInput>();

    for(Service_Order__c serviceOrder: serviceOrders){
        COA_ServiceOrderClone.COA_ServiceOrderCloneInput input = new
    COA_ServiceOrderClone.COA_ServiceOrderCloneInput();
        input.serviceOrderId = serviceOrder.Id;
        input.cloneProducts = true;
        serviceOrderCloneInput.add(input);
    }

    List<COA_ServiceOrderClone.COA_ServiceOrderCloneOutput> serviceOrderCloneOutputs
    = COA_ServiceOrderClone.clone(serviceOrderCloneInput);
    //Further processing of serviceOrderCloneOutputs
}
```

[COA_ServiceOrderClone のメソッド](#)

[COA_ServiceOrderCloneInput クラス](#)

コピー操作に渡される入力パラメーターのラッパークラス。

[COA_ServiceOrderCloneOutput クラス](#)

コピー操作から返される出力パラメーターのラッパークラス。

COA_ServiceOrderClone のメソッド

COA_ServiceOrderClone のメソッドは次のとおりです。

`clone(serviceOrderCloneInput)`

組織の注文および関連付けられている品目数 (省略可能) をコピーするためのエントリポイントを提供します。

`clone (serviceOrderCloneInput)`

組織の注文および関連付けられている品目数 (省略可能) をコピーするためのエントリポイントを提供します。

署名

```
global static List<COA_ServiceOrderClone.COA_ServiceOrderCloneOutput>  
edit (List<COA_ServiceOrderClone.COA_ServiceOrderCloneInput> serviceOrderCloneInput)
```

パラメーター

`serviceOrderCloneInput`

型: List<COA_ServiceOrderClone.COA_ServiceOrderCloneInput>

コピー操作の入力として渡すラッパークラスのリスト

戻り値

型: List<COA__ServiceOrderClone.COA__ServiceOrderCloneOutput>

COA_ServiceOrderCloneInput クラス

コピー操作に渡される入力パラメーターのラッパークラス。

名前空間

`CHANNEL_ORDERS`

`COA_ServiceOrderCloneInput` のプロパティ

`COA_ServiceOrderCloneInput` のプロパティ

`COA_ServiceOrderCloneInput` のプロパティは次のとおりです。

`serviceOrderId`

コピーしている注文の ID を指定します。この項目は必須です。

`cloneProducts`

元の注文の品目数をコピーするかどうかを示します。true の場合、品目数がコピーされます。この項目は必須です。

`serviceOrderId`

コピーしている注文の ID を指定します。この項目は必須です。

署名

```
global Id serviceOrderId;
```

プロパティ値

型: Id

cloneProducts

元の注文の品目数をコピーするかどうかを示します。true の場合、品目数がコピーされます。この項目は必須です。

署名

```
global Boolean cloneProducts;
```

プロパティ値

型: Boolean

COA_ServiceOrderCloneOutput クラス

コピー操作から返される出力パラメーターのラッパークラス。

名前空間

[CHANNEL_ORDERS](#)

[COA_ServiceOrderCloneOutput のプロパティ](#)

COA_ServiceOrderCloneOutput のプロパティ

COA__ServiceOrderClone.COA__ServiceOrderCloneOutput のプロパティは次のとおりです。

[isSuccess](#)

コピー操作が成功したことを示します。true の場合、注文は正常に取り消されています。

[responseMessages](#)

コピー操作によって生成された返信メッセージを保持します。

[originalServiceOrderId](#)

コピーした元の注文の ID を指定します。

[cloneServiceOrderId](#)

新たに作成されたコピー注文の ID を指定します。

isSuccess

コピー操作が成功したことを示します。true の場合、注文は正常に取り消されています。

署名

```
global Boolean isSuccess;
```

プロパティ値

型: Boolean

responseMessages

コピー操作によって生成された返信メッセージを保持します。

署名

```
global List<String> responseMessages;
```

プロパティ値

型: List<String>

originalServiceOrderId

コピーした元の注文の ID を指定します。

署名

```
global Id originalServiceOrderId;
```

プロパティ値

型: Id

cloneServiceOrderId

新たに作成されたコピー注文の ID を指定します。

署名

```
global Id cloneServiceOrderId;
```

プロパティ値

型: Id

Service Orders (サービス注文)

処理および有効化のために、Salesforce パートナー事業部に送信する注文を表します。

 **メモ:** 項目名には CHANNEL_ORDERS__ というプレフィックスが付きます。

Channel Order App API を使用して注文を送信するときには、次の項目を含めます。

項目

項目	詳細
表示ラベル	型
Created with New COA (新しい COA で作成されている)	boolean
名前	プロパティ
Created_with_new_COA__c	Create、Defaulted on create、Filter、Group、Sort、Update

項目	詳細
	<p>説明</p> <p>ChannelOrderApp(COA)の最新バージョンを使用していることを示します。注文が確実に処理されるように、この項目を確認してください。</p>
<p>表示ラベル Contract (契約)</p> <p>名前 Partner_Contract_Rules__c</p>	<p>型 reference</p> <p>プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update</p> <p>説明 関連する契約条件レコードの参照。この項目は必須です。</p>
<p>表示ラベル Customer Name (顧客名)</p> <p>名前 Customer__c</p>	<p>型 reference</p> <p>プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update</p> <p>説明 顧客レコードの参照。既存の顧客レコードを指定します。APIを使用して顧客の詳細を入力することはできません。この項目は必須です。</p>
<p>表示ラベル Date Partner Received Customer Order (パートナーが顧客の注文を受信した日付)</p> <p>名前 Date_Partner_Received_Customer_Order__c</p>	<p>型 date</p> <p>プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update</p> <p>説明 顧客から注文を受信した日付。この項目は必須です。</p>
<p>表示ラベル Date Customer Accepted SFDC Service Agreement (顧客が SFDC サービス契約に同意した日付)</p> <p>名前 Date_Customer_Accepted_SFDC_Svc_Agmt__c</p>	<p>型 date</p> <p>プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update</p> <p>説明 顧客が Salesforce サービス契約に同意した日付。OEM 契約では、この項目は必須です。</p>
<p>表示ラベル Error Comment (エラーコメント)</p> <p>名前 Error_Comment__c</p>	<p>型 textarea</p> <p>プロパティ Create、Nillable、Sort、Update</p>

項目	詳細
	<p>説明</p> <p>送信された注文を処理できないときの Salesforce パートナー事業部からのコメントまたは指示を保存します。</p>
<p>表示ラベル</p> <p>I Certify a Corresponding Order is Rec'd (対応する注文を受信したことを証明します)</p> <p>名前</p> <p>I_certify__c</p>	<p>型</p> <p>picklist</p> <p>プロパティ</p> <p>Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update</p> <p>説明</p> <p>注文を受信したことの確認。可能な値は、Yes (はい) と No (いいえ) です。この項目は必須項目です。</p>
<p>表示ラベル</p> <p>Order Type (注文種別)</p> <p>名前</p> <p>Order_Type__c</p>	<p>型</p> <p>picklist</p> <p>プロパティ</p> <p>Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update</p> <p>説明</p> <p>処理と有効化のために送信する注文の種別。可能な値は、Initial (新規)、Add-On (追加)、Reduction (削減)、Cancellation Order (解約注文)、Upgrade - Partner App (アップグレード - パートナーアプリケーション)、Upgrade - Org Edition (アップグレード - 組織のエディション) です。更新注文の場合は、[Upgrade - Partner App (アップグレード - パートナーアプリケーション)] を指定します。アップグレード注文の場合は、[Upgrade - Org Edition (アップグレード - 組織のエディション)] を指定します。この項目は必須です。</p>
<p>表示ラベル</p> <p>Service Order Status (サービス注文の状況)</p> <p>名前</p> <p>Service_Order_Status__c</p>	<p>型</p> <p>picklist</p> <p>プロパティ</p> <p>Create、Defaulted on create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update</p> <p>説明</p> <p>注文の状況。可能な値は、Draft (ドラフト)、Submitted (送信済み)、Received (受信済み)、In Process (処理中)、Error (エラー)、Activated (有効化済み)、Provisioned (提供済み) です。状況が [Draft (ドラフト)] の注文のみ送信できます。</p>
<p>表示ラベル</p> <p>Service Start Date (サービス開始日)</p>	<p>型</p> <p>date</p>

項目	詳細
名前 Service_Start_Date__c	プロパティ Create、Filter、Group、Sort、Update
	説明 顧客の注文を有効化または提供する日付。今日の日付または将来の日付を指定できます。この項目は必須です。

Service Order Detail (サービス注文の詳細)

サービス注文の商品のインスタンスを表します。

 **メモ:** 項目名には CHANNEL_ORDERS__ というプレフィックスが付きます。

Channel Order App API を使用して注文を送信するときには、次の項目を含めます。

項目

項目名	詳細
表示ラベル App (アプリケーション)	型 string
名前 Application__c	プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort
	説明 商品に関連付けられているアプリケーションの名前。
表示ラベル Billing Frequency (請求サイクル)	型 double
名前 pc_Billing_Frequency__c	プロパティ Create、Filter、Nillable、Sort、Update
	説明 顧客に請求する年間あたりの頻度。上書き権限が付与されていない限り、この値は Salesforce との契約と一致する必要があります。
表示ラベル Cancellation Terms (days) (解約期間 (日))	型 double
名前 pc_Cancellation_Terms__c	プロパティ Create、Filter、Nillable、Sort、Update
	説明 顧客の契約満了までの日数。上書き権限が付与されていない限り、この値は Salesforce との契約と一致する必要があります。

項目名	詳細
表示ラベル Contract Auto Renew (契約の自動更新)	型 picklist
名前 pc_Contract_Auto_Renew__c	プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update
	説明 契約期間の終了時に自動的に更新するかどうか。可能な値は、Yes (はい) と No (いいえ) です。上書き権限が付与されていない限り、この値はSalesforceとの契約と一致する必要があります。
表示ラベル Contract Length (契約期間)	型 double
名前 pc_Contract_Length__c	プロパティ Create、Filter、Nillable、Sort、Update
	説明 月単位の契約期間。上書き権限が付与されていない限り、この値はSalesforceとの契約と一致する必要があります。
表示ラベル Currency (通貨)	型 string
名前 Currency__c	プロパティ Filter、Nillable、Sort
	説明 この注文に関連付けられている契約条件のデフォルトの契約通貨。参照のみ。
表示ラベル Customer Price (顧客価格)	型 double
名前 Customer_Price_Per_Month__c	プロパティ Create、Filter、Nillable、Sort、Update
	説明 毎月の単位あたりの価格。PNR 商品では、この項目は必須です。
表示ラベル Fixed Price (固定価格)	型 double
名前 pc_Fixed_Price__c	プロパティ Create、Filter、Nillable、Sort、Update
	説明 注文作成時の商品の固定価格。API を使用する場合は、この項目は明示的に設定する必要があります。

項目名	詳細
表示ラベル Partner Contract Term (パートナー契約条件)	型 reference
名前 pc_Partner_Contract_Term__c	プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update
	説明 関連する契約条件レコードの参照。
表示ラベル PNR % (純収益 (%))	型 double
名前 pc_PNR__c	プロパティ Create、Filter、Nillable、Sort、Update
	説明 注文作成時の商品の純収益 (%)。API を使用する場合は、この項目は明示的に設定する必要があります。
表示ラベル Pricing (価格設定)	型 picklist
名前 pc_Pricing_Type__c	プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update
	説明 商品の価格設定モデル。可能な値は、Fixed (固定) と PNR です。API を使用する場合は、この項目は明示的に設定する必要があります。
表示ラベル Product (商品)	型 reference
名前 Product_Name__c	プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update
	説明 関連する商品カタログの参照。
表示ラベル Product ID (商品 ID)	型 string
名前 pc_Product_ID__c	プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update
	説明 商品の ID。API を使用する場合は、この項目は明示的に設定する必要があります。

項目名	詳細
表示ラベル Renewal Terms (months) (更新 期間 (月))	型 double
名前 pc_Renewal_Terms__c	プロパティ Create、Filter、Nillable、Sort、Update
	説明 月単位の更新期間。上書き権限が付与されていない限り、この値はSalesforceとの契約と一致する必要があります。
表示ラベル ServiceOrders (サービス注文)	型 reference
名前 Partner_Order__c	プロパティ Create、Filter、Group、Sort
	説明 関連するサービス注文レコードの参照。
表示ラベル SFDC Invoice Description (SFDC 請求書の説明)	型 string
名前 Product_Line_Description__c	プロパティ Create、Filter、Group、Nillable、Sort、Update
	説明 商品または注文の請求書の追加詳細を含みます。この項目は省略可能です。
表示ラベル Total Quantity (合計数量)	型 double
名前 Quantity__c	プロパティ Create、Filter、Nillable、Sort、Update
	説明 サービス注文の商品カタログの数。

Partner Order Submit API

(サポートは終了し、Channel Order App のバージョン 1.39 以前でのみ使用可能) Salesforce に注文をすぐに送信するか、Partner Order Submit API を使用して非同期で送信します。

重要: Channel Order App (COA) v2.0 以降では、Partner Order Submit API が Channel Order Apex API に置き換えられます。Partner Order Submit API との既存のインテグレーションがある場合、Channel Order Apex API に移行してください。

構文

```
channel_orders.ServiceOrderProcessor.sendOrder()
channel_orders.ServiceOrderProcessor.sendOrderAsync()
```

- 📌 **メモ:** `sendOrder` または `sendOrderAsync` を使用して注文を送信するときには、引数として注文 ID または注文 ID のセットを含めます。たとえば、「`channel_orders.ServiceOrderProcessor.sendOrder(orderId)`」などです。

使用方法

複数の注文を作成または更新し、同じトランザクションで送信する場合、`sendOrderAsync` を使用します。詳細は、このセクションの例を参照してください。

ルールとガイドライン

これは Apex 実装であるため、Apex のすべての使用ルールおよび制限が適用されます。Salesforce はコールごとに 1 つの注文のみをサポートします。

有効な [Service Order ID (サービス注文 ID)] を使用して注文を作成した後、Partner Submit API を使用して注文を送信します。ChannelOrderApp、データ読み込み、または自動処理を使用して、サービス注文およびサービス注文の詳細レコードを作成できます。

各注文には、Service Order (サービス注文) オブジェクトと Service Order Detail (サービス注文の詳細) オブジェクトにリストされた項目を含める必要があります。

メソッド

ServiceOrderProcessor オブジェクトでは、次のメソッドがサポートされています。

名前	引数	説明
<code>sendOrder</code>	ID	1 つの ID を使用してすぐに注文を送信します。
<code>sendOrder</code>	ID のセット	ID のセットを使用してすぐに注文を送信します。
<code>sendOrderAsync</code>	ID	1 つの ID を使用して非同期に注文を送信します (@future)。
<code>sendOrderAsync</code>	ID のセット	ID のセットを使用して非同期に注文を送信します (@future)。

例: Partner Order Submit API の一括処理

ServiceOrderProcessor は、Apex トランザクションごとに一度だけ呼び出すことができます。ID のセットを `sendOrder` または `sendOrderAsync` に渡す場合、最大セットサイズは 5 です。次の例では、一括処理ジョブを使用してこの制限を回避しています。

次の例では、状態が [Draft (ドラフト)] の注文が 100 件ある場合、100 回の実行が含まれる 1 つの一括処理ジョブが作成されます (1 回の実行で処理できるレコードは 1 つのみであるためです)。

```
//Batch Apex class
global class COABatchClass implements Database.batchable<SObject>, Database.AllowsCallouts,
Database.Stateful{
    final String DRAFT_STATUS = 'Draft';
    global final String query =
        'select Id, CHANNEL_ORDERS__Service_Order_Status__c ' +
        ' from CHANNEL_ORDERS__Service_Order__c where CHANNEL_ORDERS__Service_Order_Status__c
=: DRAFT_STATUS';


    global Database.QueryLocator start(Database.BatchableContext BC){
        return Database.getQueryLocator(query);
    }

    global void execute(Database.BatchableContext info, List<CHANNEL_ORDERS__Service_Order__c>
scope){
        for(CHANNEL_ORDERS__Service_Order__c s : scope){
            CHANNEL_ORDERS__Service_Order__c.Processor.sendOrder(s.Id);
        }
    }
    global void finish(Database.BatchableContext BC){}
}

//Batch call
Id batchInstanceId = Database.executeBatch(new COABatchClass(), 1);
```

AppExchange ソリューションの無料トライアルの提供

AppExchange ソリューションの無料トライアルを提供することで、顧客への転換率を高めます。トライアルの選択肢を調べて、ソリューションに最適な種類を決定できます。

 **メモ:** この機能は使用資格のあるパートナーが使用できます。資格要件を含むパートナープログラムの詳細は、<https://partners.salesforce.com> を参照してください。

AppExchange ソリューションに適したトライアルの提供方法の選択

AppExchange ソリューションのトライアルを提供する最初のステップは、提供方法を選択することです。AppExchange のリストで機能制限トライアルまたは Trialforce 組織を使用してトライアルを提供するか、SignupRequest API を使用して Web サイトでトライアルを提供できます。トライアルの提供方法の違いについて確認して、ビジネスに最適な選択肢を決定してください。

Trialforce による AppExchange のトライアルの提供

Trialforce を使用して、AppExchange ソリューションの無料トライアルを Salesforce 組織に提供します。顧客はこのトライアルを保持してカスタマイズできます。ここでは、Trialforce の主要概念、関係、およびベストプラクティスについて学習します。次に、Trialforce を設定し、ソリューション用の Trialforce テンプレートを作成して AppExchange のリストに追加します。

機能制限トライアルで AppExchange のトライアルを提供


機能制限トライアルを使用して、読み取り専用の Salesforce 組織で、AppExchange ソリューションの無料トライアルとサンプルデータを提供します。事前設定された Trialforce テンプレートを使用して、環境ハブで機能制限トライアル組織を作成します。次に、テスト組織にソリューションをインストールして設定し、Salesforce パートナーコンソールに接続します。機能制限トライアル組織の有効期限がすぐに切れる場合は、延長を申請するケースを登録してください。

Web サイトでの無料トライアルの提供

HTML フォームを使用して、自社のビジネスに対するトラフィックを増やし、ソリューションを見込み客に紹介することができます。見込み客がフォームを送信したら、Trialforce テンプレートに基づいて Salesforce でトライアルが提供されるようになります。

AppExchange ソリューションに適したトライアルの提供方法の選択

AppExchange ソリューションのトライアルを提供する最初のステップは、提供方法を選択することです。AppExchange のリストで機能制限トライアルまたは Trialforce 組織を使用してトライアルを提供するか、SignupRequest API を使用して Web サイトでトライアルを提供できます。トライアルの提供方法の違いについて確認して、ビジネスに最適な選択肢を決定してください。

 **ヒント:** トライアルの提供方法をいくつ選ぶかは自由です。一般的に、選択肢の種類が多いほど、見込み客が転換する可能性が高くなります。

トライアルの方法	トライアルの提供場所	しくみ	メリット
Trialforce	AppExchange リスト	<p>Trialforce 管理組織または環境ハブを使用して、Trialforce ソース組織 (TSO) を作成し、ソリューションをインストールして、サンプルデータを追加します。TSO を使用して、Trialforce テンプレートを作成します。</p> <p>AppExchange で、見込み客がトライアルを要求します。見込み客は、Trialforce テンプレートをベースにしたトライアル組織への一意のログイン認証情報を受け取ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見込み客が保持およびカスタマイズ可能な環境を使用して、柔軟なトライアル体験を提供します。 トライアル環境にブランド設定を追加できます (省略可能)。
機能制限トライアル	AppExchange リスト	<p>事前設定された Trialforce テンプレートを使用して、機能制限トライアルを作成し、ソリューションをインストールし、サンプルデータを追加します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 設定やカスタマイズが不要な環境を使用して、厳選したトライアル体験を提供します。

トライアルの方法	トライアルの提供場所	しくみ	メリット
		AppExchange で、見込み客が機能制限トライアルをリクエストします。見込み客は、ログイン情報が不要な読み取り専用の組織に誘導されます。	<ul style="list-style-type: none"> • Salesforce の経験が浅い見込み客も含めて、幅広い見込み客にソリューションを検討する機会を提供します。 • 見込み客に、すぐにアクセスできるテスト組織を提供できます。
SignupRequest API	Web サイトで HTML サインアップフォームを使用	<p>Trialforce 管理組織または環境ハブを使用して、Trialforce ソース組織 (TSO) を作成し、ソリューションをインストールして、サンプルデータを追加します。TSO を使用して、Trialforce テンプレートを作成します。</p> <p>Web サイトで、見込み客がトライアルを要求します。見込み客は、Trialforce テンプレートをベースにしたトライアル組織への一意のログイン認証情報を受け取ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Web サイトに訪れた見込み客に、ソリューションを試してもらうことができます。 • 見込み客が保持およびカスタマイズ可能な環境を使用して、柔軟なトライアル体験を提供します。 • トライアル環境にブランド設定を追加できます (省略可能)。

Trialforce による AppExchange のトライアルの提供

Trialforce を使用して、AppExchange ソリューションの無料トライアルを Salesforce 組織に提供します。顧客はこのトライアルを保持してカスタマイズできます。ここでは、Trialforce の主要概念、関係、およびベストプラクティスについて学習します。次に、Trialforce を設定し、ソリューション用の Trialforce テンプレートを作成して AppExchange のリストに追加します。

Trialforce の主要概念と関係

Trialforce の設定は、Trialforce 管理組織、Trialforce ソース組織、および Trialforce テンプレートという複数の部分から構成されます。Trialforce を設定する前に、これらの各部分が連動して AppExchange ソリューションのトライアルを提供している仕組みについて確認します。

Trialforce のベストプラクティス

次のベストプラクティスを実践することで、見込み客を惹きつけ、転換率を高めるトライアル体験を作成してください。

Trialforce 管理組織の要求

Trialforce 管理組織 (TMO) は、Trialforce でトライアルを作成するための出発点です。TMO を要求するには、ケースを登録します。

Trialforce のカスタムブランド

Trialforce を使用する場合、必要に応じてログインサイトとメールをブランド設定できます。ログインサイトと E メールに自社のデザインを適用することで、顧客に、登録からログインまで自社のブランドを表示することができます。カスタムブランドは CRM 以外のソリューションにのみ使用できます。Salesforce CRM を拡張した、リード、商談、ケースなどの Salesforce 標準オブジェクトを必要とするソリューションには使用しないでください。

Trialforce ソース組織の作成および管理

Trialforce ソース組織 (TSO) は、Trialforce テンプレートを作成するために使用します。Trialforce テンプレートは、顧客トライアル組織の基になります。TSO は、環境ハブまたは Trialforce 管理組織 (TMO) で作成することができます。ほとんどの場合、どちらの方法でも問題ありませんが、2つの例外があります。メールやログインページにブランドを設定する場合は、TMO を使用します。Professional Edition の TSO を作成するには、環境ハブを使用します。TSO の有効期限が近づいている場合は、延長を申請してください。

Trialforce テンプレートを作成する

Trialforce テンプレートは、ある時点における Trialforce ソース組織 (TSO) のインスタンスのスナップショットです。

Salesforce パートナーコンソールへの Trialforce テンプレートの接続

Trialforce テンプレートを作成または更新したら、Salesforce パートナーコンソールに接続することで、AppExchange リストに追加できるようになります。

Trialforce テンプレートを使用した AppExchange リストでの無料トライアルの提供

AppExchange リストで無料トライアルを使用可能にするには、Salesforce パートナーコンソールに接続した Trialforce テンプレートのいずれかを追加します。顧客が Trialforce テンプレートを使用してトライアルを開始した際にリードを受け取れるようにリード収集を有効にします (省略可能)。

Trialforce テンプレートの更新

ソリューションまたはカスタムブランド設定を更新する場合は、その変更が反映されるように Trialforce テンプレートを更新します。SignupRequest API を使用してトライアルを提供する場合は、新しいテンプレートの承認を受けるためにケースを登録します。AppExchange のみでトライアルを提供する場合は、この手順をスキップします。

Trialforce の主要概念と関係

Trialforce の設定は、Trialforce 管理組織、Trialforce ソース組織、および Trialforce テンプレートという複数の部分から構成されます。Trialforce を設定する前に、これらの各部分が連動して AppExchange ソリューションのトライアルを提供している仕組みについて確認します。

主要概念

Trialforce 管理組織

Trialforce 管理組織 (TMO) は、Trialforce でトライアルを作成するための出発点です。TMO では、次の作業を実行できます。

- 1つ以上の Trialforce ソース組織の作成。
- カスタムブランド設定のテンプレートの定義。

Trialforce ソース組織

Trialforce ソース組織 (TSO) は、Trialforce テンプレートを作成するために使用します。Trialforce テンプレートによってトライアル組織のプロビジョニングを行えます。TSO では、次の作業を実行できます。

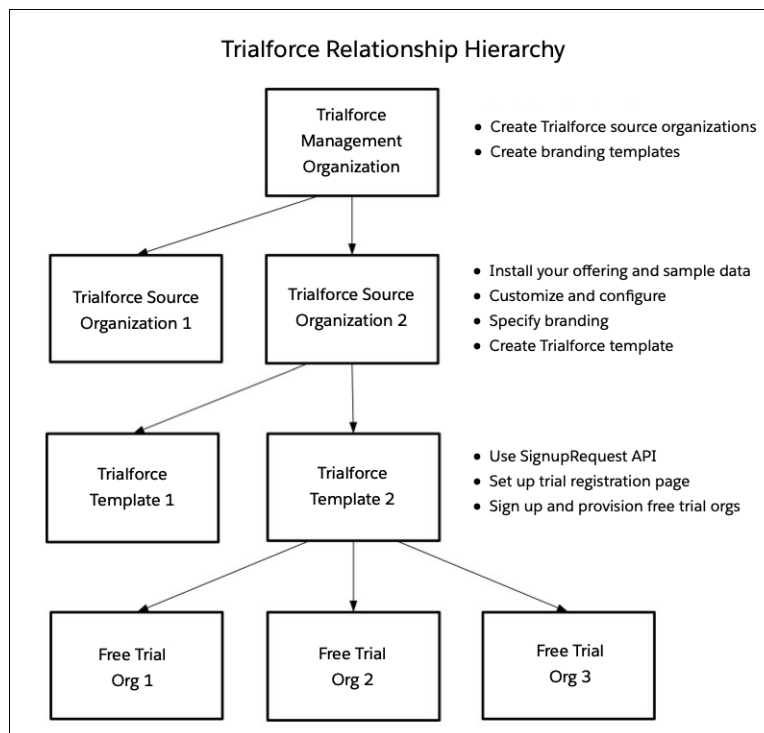
- ソリューションをインストールして、サンプルデータを追加します。
- 顧客に提供したいデザインや機能を組み込んで TSO を設定します。
- (省略可能) テンプレートを使用してカスタムブランドを指定します。
- 1 つ以上の Trialforce テンプレートを作成します。

Trialforce テンプレート

Trialforce テンプレートは TSO のスナップショットです。このテンプレートは、顧客が製品のトライアルにサインアップしたときに提供するトライアル組織を定義します。Trialforce テンプレートは、SignupRequest API を使用したトライアル組織の生成や、環境ハブからデモ組織を作成する場合にも使用します。テンプレートは、TSO にソリューションをインストールして設定した後に作成します。

Trialforce 組織種別間の関係

TMO、TSO、および Trialforce テンプレートには、階層関係があります。




TMO は、階層の最上部に位置します。1 つの TMO から複数の TSO を作成できます。同様に、1 つの TSO から複数の Trialforce テンプレートを作成できます。AppExchange のリストに Trialforce テンプレートを追加すると、そのテンプレートが顧客のトライアル組織の提供に使用されます。

TMO は会社に 1 つ作成し、TSO は提供するソリューションごとに 1 つ、Trialforce テンプレートはソリューションのバージョンごとに 1 つ作成することをお勧めします。この構成により、トライアルの管理と更新が容易にな

ります。バージョン、ブランド設定、トライアル組織の設定詳細など、何かを変更するたびに、階層内の1つのレベルを変更するだけで済みます。

これらの関係を示した例を確認しましょう。

 **例:** あなたの会社は Appy の電子署名と、Codey のマップという 2 つのソリューションを提供しています。社内の TMO については、2 つの TSO を作成しています。1 つは Appy の電子署名用で、もう 1 つは Codey のマップ用です。Appy の電子署名 TSO を使用して、Trialforce テンプレートを作成し、関連する AppExchange リストに接続します。Codey のマップにもこの手順を繰り返します。

しばらくして、Codey のマップに機能を追加し、ソリューションの新しいバージョンを作成します。既存の Codey のマップの TSO に、最新のソリューションバージョンをインストールし、更新した Trialforce テンプレートを作成します。次に、新しい Trialforce テンプレートによって Codey のマップのリストを更新し、顧客がこの機能を体験できるようにします。

Trialforce のトライアルの提供オプション

TMO、TSO、および Trialforce テンプレートを設定したら、トライアルを見込み客に提供する方法を選択します。

- AppExchange: 顧客が AppExchange のリストでトライアルを開始する場合は、この方法は、設定ステップが最も少なく、トライアルを最速で提供できる方法です。
- SignupRequest API: 顧客は、ブランド化されたサインアップフォームを使用して、Web サイトからトライアルを開始します。この方法では高度なカスタマイズが可能で、サインアッププロセスを完全に制御できます。

Trialforce のベストプラクティス


次のベストプラクティスを実践することで、見込み客を惹きつけ、転換率を高めるトライアル体験を作成してください。

- トライアルを特定の対象者に合わせるために、Trialforce のソース組織 (TSO) を複数作成する。たとえば、サービスを提供する業種ごとに固有の TSO を作成します。
- トライアルを実用可能にするために、TSO にサンプルデータを追加する。
- トライアルのサインアップフォーム、ログインページ、メールにカスタムブランド設定を適用する。
- Trialforce を設定したら、サインアップの操作をテストして、すべてが予期したとおりに機能することを確認する。テストは、サインアッププロセスを改善できる領域を特定することにも役立ちます。
- ソリューションの新しいバージョンをリリースするときには、関連する Trialforce テンプレートを更新します。

Trialforce 管理組織の要求

Trialforce 管理組織 (TMO) は、Trialforce でトライアルを作成するための出発点です。TMO を要求するには、ケースを登録します。

TMO を取得するには、適格な ISV パートナーであり、ソリューションが AppExchange セキュリティレビューに合格している必要があります。

 **メモ:** TMO は、パートナービジネス組織から独立しています。

1. Salesforce パートナーコミュニティへの登録に使用したユーザー名で [Salesforce ヘルプ](#) にログインします。

2. [サポートに連絡] をクリックします。
3. [ケースを作成] をクリックします。
4. 必須の詳細情報を入力します。
 - a. [Subject (件名)] に 「*Trialforce Management Org (TMO) Request*」 (Trialforce 管理組織 (TMO) の要求) と入力します。
 - b. [説明] には、自分が Salesforce パートナーであり、TMO を要求しているということを記入します。
 - c. 商品を選択するように要求されたら、[Pick a different product / topic (別の商品/トピックを選択)] をクリックします。
 - d. [Product (商品)] では、[Partner Programs & Benefits (パートナープログラムとメリット)] を選択します。
 - e. [Topic (トピック)] では、[ISV Technology Request (ISV テクノロジー要求)] を選択します。
 - f. [組織 ID] には、TMO として使用する組織の組織 ID を入力します。これは多くの場合、名前空間付きの Developer Edition 組織です。
 - g. インスタンス種別と重大度を選択します。
5. [ケースを作成] をクリックします。

ケースの確認後、追加の情報が必要な場合には連絡が送られてきます。

Trialforce のカスタムブランド

Trialforce を使用する場合、必要に応じてログインサイトとメールをブランド設定できます。ログインサイトと E メールに自社のデザインを適用することで、顧客に、登録からログインまで自社のブランドを表示することができます。カスタムブランドは CRM 以外のソリューションにのみ使用できます。Salesforce CRM を拡張した、リード、商談、ケースなどの Salesforce 標準オブジェクトを必要とするソリューションには使用しないでください。

ブランドログインページには、ログインドメインとログインサイトを指定できます。

- ログインドメイン名の末尾は、.cloudforce.com です。会社名が「mycompany」の場合、ログインドメインは mycompany.cloudforce.com になります。
- カスタムログインサイトには、テキストと会社のロゴ、モバイル対応バージョンのログインサイトが含まれます。

ブランドメールにより、会社名や住所などの関連する詳細情報がメール通信に使用されるように自動生成メールの項目を指定できます。さまざまなキャンペーンや顧客区分向けに、ブランド名が入った複数のメールセットを作成できます。

ブランドは、環境ハブ内で作成された Trialforce ソース組織では使用できません。

ブランドメールの作成

新しいトライアルの組織の登録者に送信されるメールのブランド設定をカスタマイズできます。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic

使用可能なエディション: Developer Edition

ユーザ権限

Trialforce を管理する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

ブランド名が入ったログインページの作成

顧客は通常、従来の `login.salesforce.com` サイトを使用してアプリケーションにログインします。ブランド名が入ったログインページを使用することで、このドメインとログインページの各部分をカスタマイズし、ブランド情報を提供できます。

ブランドメールの作成

新しいトライアルの組織の登録者に送信されるメールのブランド設定をカスタマイズできます。

1. Trialforce 管理組織 (TMO) にログインします。
2. ブランドメール設定を作成します。
 - a. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ブランド」と入力して [ブランド] を選択し、[メール設定] をクリックします。
 - b. [新規メールセット] をクリックするか、既存のメールセットの横にある [編集] をクリックします。
 - c. メールセットおよび組織情報の名前を入力します。
 - d. [メールのプレビュー] エリアで、さまざまな種類の作成済みメールをクリックして、正しく読み取れることを確認します。ブランド名が入ったログインページを使用している場合でも、プレビューに表示されるログイン URL は、必ず、`https://login.salesforce.com` です。これら 2 つは、別個のプロセスです。
 - e. 作業内容を保存します。
 - f. Trialforce ソース組織 (TSO) がこれらのメールを使用できる準備が整ったら、[公開] をクリックします。今すぐ公開しない場合、変更が保存され、後で公開できます。
3. TSO にブランドメール設定を割り当てます。
 - a. [設定] の [クイック検索] ボックスに「ソース組織」と入力し、[ソース組織] を選択します。
 - b. TSO の横にある [編集] をクリックします。
 - c. メールセットを選択します。
 - d. 作業内容を保存します。
 - e. 実際にブランドログインページを確認する場合は、[ログイン] をクリックします。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic

使用可能なエディション: Developer Edition

ユーザ権限

Trialforce を管理する


- 「アプリケーションのカスタマイズ」

ブランド名が入ったログインページの作成

顧客は通常、従来の `login.salesforce.com` サイトを使用してアプリケーションにログインします。ブランド名が入ったログインページを使用することで、このドメインとログインページの各部分をカスタマイズし、ブランド情報を提供できます。

カスタムログインサイトには、テキストと会社のロゴ、モバイル対応バージョンのログインサイトも含まれます。

1. Trialforce 管理組織にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「ログインサイト」と入力し、[ログインサイト] を選択します。
3. [ログインサイトを設定] をクリックします。
4. 表示される項目に名前を指定して、ログインサイトのサブドメインを選択します。通常、このサブドメインは会社の名前です。

 **メモ:** ログインドメイン名の末尾は、`.cloudforce.com` です。会社名が「mycompany」の場合、ログインドメインは `mycompany.cloudforce.com` になります。

5. ドメインが利用可能であることを確認し、利用規約に同意します。
6. [保存してエディターを起動] をクリックします。
7. ログインページのデザインを変更するには、ログインブランドエディターを使用します。エディターの使用方法については、[このページのヘルプ] をクリックしてください。
8. [保存 & 閉じる] をクリックします。
9. TSO がこれらの変更を使用できる準備が整ったら、[公開] をクリックします。

後から公開することにした場合、変更内容が保存されます。さらに、サブドメインは変更が必要になった時点で編集できます。ログインページを公開した後にサブドメインを変更することはできません。

Trialforce ソース組織の作成および管理

Trialforce ソース組織 (TSO) は、Trialforce テンプレートを作成するために使用します。Trialforce テンプレートは、顧客トライアル組織の基になります。TSO は、環境ハブまたは Trialforce 管理組織 (TMO) で作成することができます。ほとんどの場合、どちらの方法でも問題ありませんが、2つの例外があります。メールやログインページにブランドを設定する場合は、TMO を使用します。Professional Edition の TSO を作成するには、環境ハブを使用します。TSO の有効期限が近づいている場合は、延長を申請してください。

環境ハブでの Trialforce ソース組織の作成

環境ハブを使用して、Trialforce ソース組織 (TSO) を作成します。TSO を作成したら、パッケージをインストールします。次に、顧客に提供したいデザインや機能を組み込んで TSO を設定します。

Trialforce 管理組織での Trialforce ソース組織の作成

Trialforce 管理組織を使用して、Trialforce ソース組織 (TSO) を作成します。TSO を作成したら、そこにパッケージをインストールします。次に、顧客に提供したいデザインや機能を組み込んで TSO を設定します。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic

使用可能なエディション: Developer Edition

ユーザ権限

Trialforce を管理する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

Trialforce ソース組織の延長の申請

Trialforce ソース組織 (TSO) は 1 年で失効します。TSO の期限切れを防止するために、サポートケースを登録して延長を申請してください。

関連トピック:

[Trialforce テンプレートを作成する](#)

環境ハブでの Trialforce ソース組織の作成

環境ハブを使用して、Trialforce ソース組織 (TSO) を作成します。TSO を作成したら、パッケージをインストールします。次に、顧客に提供したいデザインや機能を組み込んで TSO を設定します。

TSO にソリューションをインストールする前に、ソリューションをライセンス管理アプリケーション (LMA) に関連付けます。この手順を先に行わなかった場合、TSO から提供されるトライアルの組織で、LMA によるリードまたはライセンスの生成が行われません。

1. パートナービジネス組織へログインします。
2. 環境ハブに移動します。
3. [組織を作成] をクリックします。
4. [目的] で、[Trialforce ソース組織] を作成します。
5. [以下を使用して作成] で、[Standard Edition] を選択します。
6. [Professional TSO] または [Enterprise TSO] を選択します。
7. 組織名を入力します。
8. (省略可能) [私のドメイン] の一意の名前を入力します。
9. 管理者アカウントのユーザー名とメールアドレスを入力します。
10. TSO の名前を入力します。
11. メインサービス契約を読んだことを確認します。
12. [作成] をクリックします。

TSO が環境ハブに表示され、ログインの詳細が記載されたメールが送付されます。

13. TSO にログインして、ソリューションをインストールします。
14. サンプルレコード、カスタムプロファイル、新規ユーザーなど、ソリューションのビジネス価値を具体的に示すための設定を追加します。
15. TSO にインストールされているソリューションのライセンスが TSO 管理者に与えられていることを確認します。

顧客に提供したいデザインや機能を組み込んで TSO を設定したら、Trialforce テンプレートを作成する準備は完了です。テンプレートを作成する前に、TSO にインストールされたソリューションに対するライセンスが TSO 管理者に与えられていることを確認します。

ユーザ権限

環境ハブを設定および管理する

- 「環境ハブの管理」

Trialforce 管理組織での Trialforce ソース組織の作成

Trialforce 管理組織を使用して、Trialforce ソース組織 (TSO) を作成します。TSO を作成したら、そこにパッケージをインストールします。次に、顧客に提供したいデザインや機能を組み込んで TSO を設定します。

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic のみ。

TSO にソリューションをインストールする前に、ソリューションをライセンス管理アプリケーション (LMA) に関連付けます。この手順を先に行わなかった場合、TSO から提供されるトライアルの組織で、LMA によるリードまたはライセンスの生成が行われません。

1. TMO にログインします。
2. 必要に応じて、Salesforce Classic に切り替えます。
3. [設定] の [クイック検索] ボックスに「ソース組織」と入力し、[ソース組織] を選択します。
4. [新規] をクリックします。
5. 管理者アカウントの新しいユーザー名とメールアドレスを入力します。
6. TSO の名前を入力します。
7. 必要に応じて、ブランド名が入ったメールセットまたはログインサイトを選択して、カスタムブランド設定を指定します。
8. [作成] をクリックします。
TSO のログインの詳細に関するメールを受信します。
9. TSO にログインして、ソリューションをインストールします。
10. サンプルレコード、カスタムプロファイル、新規ユーザーなど、ソリューションのビジネス価値を具体的に示すための設定を追加します。
11. TSO にインストールされているソリューションのライセンスが TSO 管理者に与えられていることを確認します。

TSO の設定が完了したら、Trialforce テンプレートの作成準備は完了です。

Trialforce ソース組織の延長の申請

Trialforce ソース組織 (TSO) は 1 年で失効します。TSO の期限切れを防止するために、サポートケースを登録して延長を申請してください。

1. Salesforce パートナーコミュニティへの登録に使用したユーザー名で [Salesforce ヘルプ](#) にログインします。
2. [サポートに連絡] をクリックします。
3. [ケースを作成] をクリックします。
4. 必須の詳細情報を入力します。
 - a. [Subject (件名)] に「*Trialforce Source (TSO) Org Extension (Trialforce ソース組織 (TSO) の延長)*」と入力します。
 - b. [Description (説明)] には、自分が Salesforce パートナーであり、TSO の有効期限の延長について要求していることを記入します。

ユーザ権限

Trialforce を管理する

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

- c. 商品を選択するように要求されたら、[Pick a different product / topic (別の商品/トピックを選択)] をクリックします。
- d. [Product (商品)] では、[Partner Programs & Benefits (パートナープログラムとメリット)] を選択します。
- e. [Topic (トピック)] では、[Trial Org Extensions (トライアル組織の延長)] を選択します。
- f. TSO の ID を入力します。
- g. インスタンス種別と重大度を選択します。


5. [ケースを作成] をクリックします。

ケースの確認後、追加の情報が必要な場合には連絡が送られてきます。

Trialforce テンプレートを作成する

Trialforce テンプレートは、ある時点における Trialforce ソース組織 (TSO) のインスタンスのスナップショットです。

ただし、セキュリティ上の理由から、ユーザーオブジェクトの個人識別情報 (PII)、たとえば、住所項目の情報などは、テンプレートから削除されます。カスタムオブジェクトとカスタム項目の PII は、変更されません。テンプレートを作成する前に、パッケージが TSO にインストールされていることを確認します。次に、適切なサンプルデータ、プロファイル、ユーザーおよびレコードを使用して顧客に提供したいデザインや機能を組み込んで設定します。

 **メモ:** テンプレートは、TSO が 1 GB 以下の場合にのみ作成できます。

1. TSO にログインします。
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Trialforce*」と入力し、[Trialforce] を選択します。
3. [新規 Trialforce テンプレート] をクリックします。

TSO ごとに最大 10 件の Trialforce テンプレートを作成できます。このボタンがグレー表示になっている場合は、新しいテンプレートを作成する前に超過分のテンプレートを削除する必要があります。追加テンプレートが必要なパートナーは Salesforce パートナーサポートにお問い合わせください。

4. テンプレートの説明を入力し、省略可能な機能を必要に応じて指定します。

テンプレートはデフォルトで公開されます。非公開テンプレートを作成するには、[承認された組織のみがサインアップできるように、このテンプレートを非公開としてマークします] を選択します。選択すると、このテンプレートを使用して新しい組織にサインアップする権限を持つ組織を指定できます。

テンプレートが非公開でない場合、ほとんどの場合はデフォルトのオプションが適しています。

5. [保存] をクリックします。
6. (省略可能) 非公開テンプレートを作成した場合、このテンプレートを使用してサインアップできる組織の組織 ID を入力し、[保存] をクリックします。

最大 51 個の組織 ID を 1 行に 1 個ずつ入力できます。

エディション

使用可能なインターフェース: Salesforce Classic (使用できない組織もあります) および Lightning Experience

使用可能なエディション: Developer Edition、Professional Edition、および Enterprise Edition

ユーザ権限

Trialforce を管理する

- 「すべてのデータの編集」

新しいテンプレートの生成後に、その組織 ID がメールで通知されます。TSO を更新するたびに新しいテンプレートを作成してください。それによって、トライアルに常に最新の状態が反映されます。

各テンプレートの状況には、次の値の1つが設定されます。

処理中

この状況は、テンプレートが初めて作成されたときに必ず設定されます。その後、成功またはエラーのいずれかの状況に移行します。

成功

テンプレートを使用して、トライアル組織を作成できます。

エラー

テンプレートで問題が発生し、デバッグが必要なため、このテンプレートを使用できません。

削除

テンプレートは今後使用できません。削除されたテンプレートは、システム更新中に除去されます。

Salesforce パートナーコンソールへの Trialforce テンプレートの接続

Trialforce テンプレートを作成または更新したら、Salesforce パートナーコンソールに接続することで、AppExchange リストに追加できるようになります。

1. [Salesforce パートナーコミュニティ](#)にログインします。
2. **[Publishing (公開)] > [Technologies (テクノロジー)] > [Trial Templates (トライアルテンプレート)]** をクリックします。
3. **[Connect Technology (技術を接続)] > [Trial Template (トライアルテンプレート)]** をクリックします。
4. **[Connect Org (組織を接続)]** をクリックし、Trialforce テンプレートを含む組織のログイン情報を入力します。組織を接続すると、関連するトライアルテンプレートがパートナーコンソールに表示され、リストに追加することができます。

ユーザ権限

Salesforce パートナーコンソールでリストを管理する

- 「リストの管理」

Trialforce テンプレートを使用した AppExchange リストでの無料トライアルの提供

AppExchange リストで無料トライアルを使用可能にするには、Salesforce パートナーコンソールに接続した Trialforce テンプレートのいずれかを追加します。顧客が Trialforce テンプレートを使用してトライアルを開始した際にリードを受け取れるようにリード収集を有効にします (省略可能)。

1. [Salesforce パートナーコミュニティ](#)にログインします。
2. **[Publishing (公開)]** をクリックします。
3. **[Listings (リスト)]** をクリックし、リストを選択します。
4. **[Grow Your Business (ビジネスを成長させる)]** をクリックします。
5. 無料トライアルの場合は、検索項目をクリックし、接続されている Trialforce テンプレートを選択します。
6. (省略可能) 顧客がトライアルを開始したときにリードを収集します。

ユーザ権限

Salesforce パートナーコンソールでリストを管理する

- 「リストの管理」

- a. [Leads (リード)] には、[Web-to-リード] が有効になっている組織の ID を指定します。
- b. 無料トライアルのチェックボックスをオンにします。

7. [Done (完了)] をクリックします。

Trialforce テンプレートの更新

ソリューションまたはカスタムブランド設定を更新する場合は、その変更が反映されるように Trialforce テンプレートを更新します。SignupRequest API を使用してトライアルを提供する場合は、新しいテンプレートの承認を受けるためにケースを登録します。AppExchange のみでトライアルを提供する場合は、この手順をスキップします。

1. 更新された管理パッケージまたは拡張パッケージを Trialforce のソース組織 (TSO) にインストールします。
2. TSO を更新します。たとえば、新しいサンプルデータを追加したり、カスタムブランドを更新したりします。
3. Trialforce テンプレートを作成または更新します。
4. AppExchange でトライアルを提供する場合は、Salesforce パートナーコンソールのリストに更新したテンプレートを追加します。
5. SignupRequest API を使用してトライアルを提供する場合は、新しいテンプレートの承認を受けるためにケースを登録します。
 - a. Salesforce パートナーコミュニティへの登録に使用したユーザー名で [Salesforce ヘルプ](#) にログインします。
 - b. [サポートに連絡] をクリックします。
 - c. [ケースを作成] をクリックします。
 - d. [Subject (件名)] には「*Requesting Trialforce Template Approval (Trialforce テンプレートの承認要求)*」と入力します。
 - e. [Description (説明)] には、自分が Salesforce パートナーであり、TMO を要求しているということを記入します。TSO ID、更新された Trialforce テンプレート ID、およびサインアップの作成に使用する組織を含めてください。
 - f. 商品を選択するように要求されたら、[Pick a different product / topic (別の商品/トピックを選択)] をクリックします。
 - g. [Product (商品)] では、[Partner Programs & Benefits (パートナープログラムとメリット)] を選択します。
 - h. [Topic (トピック)] では、[ISV Technology Request (ISV テクノロジー要求)] を選択します。
 - i. インスタンス種別と重大度を選択します。

ユーザ権限

Trialforce を管理する

- 「すべてのデータの編集」

Salesforce パートナーコンソールでリストを管理する

- 「リストの管理」

j. [ケースを作成] をクリックします。

関連トピック:

[Trialforce ソース組織の作成および管理](#)

[Trialforce テンプレートを作成する](#)

[Trialforce テンプレートを使用した AppExchange リストでの無料トライアルの提供](#)

機能制限トライアルで AppExchange のトライアルを提供

機能制限トライアルを使用して、読み取り専用の Salesforce 組織で、AppExchange ソリューションの無料トライアルとサンプルデータを提供します。事前設定された Trialforce テンプレートを使用して、環境ハブで機能制限トライアル組織を作成します。次に、テスト組織にソリューションをインストールして設定し、Salesforce パートナーコンソールに接続します。機能制限トライアル組織の有効期限がすぐに切れる場合は、延長を申請するケースを登録してください。

環境ハブでの機能制限組織の作成

環境ハブと事前設定された Trialforce テンプレートを使用して、機能制限トライアル組織を作成します。Trialforce テンプレートは Salesforce によって管理されており、いくつかの機能制限トライアルの設定手順を処理します。組織のプロビジョニングが完了したら、管理者ユーザーのパスワードを設定します。後から、管理者ユーザーとして機能制限トライアル組織にログインし、ソリューションをインストールして、追加の設定を行います。また、管理者ユーザーを使用して読み取り専用の評価ユーザーを作成できます。これにより、顧客は、ログイン情報なしに機能制限トライアル組織を探索することができます。

機能制限トライアル組織の準備

ソリューションをインストールし、評価ユーザーを設定することで、機能制限トライアル組織を準備します。

AppExchange リストでの機能制限トライアルの提供

AppExchange リストで機能制限トライアルを利用できるようにするには、Salesforce パートナーコンソールに移動して、機能制限トライアル組織をリストに接続します。

機能制限トライアル組織の延長の申請

機能制限トライアル組織は 1 年で失効します。機能制限トライアル組織の期限切れを防止するために、サポートケースを登録して延長を申請してください。

環境ハブでの機能制限組織の作成

環境ハブと事前設定された Trialforce テンプレートを使用して、機能制限トライアル組織を作成します。Trialforce テンプレートは Salesforce によって管理されており、いくつかの機能制限トライアルの設定手順を処理します。組織のプロビジョニングが完了したら、管理者ユーザーのパスワードを設定します。後から、管理者ユーザーとして機能制限トライアル組織にログインし、ソリューションをインストールして、追加の設定を行います。また、管理者ユーザーを使用して読み取り専用の評価ユーザーを作成できます。これにより、顧客は、ログイン情報なしに機能制限トライアル組織を探索することができます。

ユーザ権限

環境ハブを設定および構成する

- 「環境ハブの管理」

1. パートナービジネス組織 (PBO) にログインします。
2. 環境ハブに移動します。
3. [組織を作成] をクリックします。
4. [目的] で [機能制限トライアル] または [デモ] を選択します。
5. [以下を使用して作成]、[Trialforce テンプレート ID] を選択します。
6. [Trialforce テンプレート ID] には、`「0TT5Y000004aUeY」` を入力します。
7. 組織の名前を指定します。
8. 組織の管理ユーザーの姓、名、ユーザー名を入力します。
9. 契約条件に同意し、[作成] をクリックします。
数分後に、機能制限トライアル組織へのログイン手順がメールで送付されます。
10. ログイン手順に従い、管理者ユーザーのパスワードを設定します。

機能制限トライアル組織の準備

ソリューションをインストールし、評価ユーザーを設定することで、機能制限トライアル組織を準備します。

機能制限トライアル組織のセキュリティを次の方法で強化します。

- 機能制限トライアル組織から機密データを削除する。
- 管理者アカウントと評価テストアカウントのそれぞれに指定したパスワードが一意であることを確認する。
- 管理者アカウントでログインする場合の多要素認証を設定する。
- リストで機能制限トライアルを無効にした場合、機能制限トライアル組織を削除する。

潜在顧客が AppExchange のリストで [Test Drive (機能制限トライアル)] をクリックすると、リストの機能制限トライアル組織に自動的にログインします。このログインプロセスを客観的な観点から使いやすくするために、評価ユーザーを設定します。

1. 機能制限トライアル組織にログインします。
2. ソリューションをインストールします。
3. [設定] → [ユーザー] で、[Eval Test (評価テスト)] ユーザーを編集します。
 - a. [Test Drive Eval Profile (機能制限トライアル評価プロファイル)] が割り当てられていることを確認します。
 - b. メールアドレスには、自分のメールアドレスに `「+evaluser」` を付加したものを使用してください。例: `johndoe+evaluser@example.com`。
 - c. メールによる確認を待ちます。
 - d. [Eval Test (評価テスト)] ユーザーのパスワードを再設定します。
4. 評価ユーザーに必要な追加の設定を行います。たとえば、ソリューションのカスタム Apex クラスや Lightning コンポーネントへの読み取り専用アクセスを有効にします。

ユーザー権限

ソリューションをインストールし、機能制限トライアル組織をカスタマイズする

- 「アプリケーションのカスタマイズ」

5. 評価ユーザーが、機能制限トライアル組織への参照のみアクセス権や、オブジェクトへの最小限のアクセス権など、必要なアクセス権しか持っていないことを再確認してください。

次に、設定が完了した機能制限トライアル組織を AppExchange リストに接続します。

AppExchange リストでの機能制限トライアルの提供

AppExchange リストで機能制限トライアルを利用できるようにするには、Salesforce パートナーコンソールに移動して、機能制限トライアル組織をリストに接続します。

ユーザ権限

Salesforce パートナーコンソールでリストを管理する

- 「リストの管理」

1. [Salesforce パートナーコミュニティ](#)にログインします。
2. **[Publishing (公開)]** をクリックします。
3. **[Listings (リスト)]** をクリックし、リストを選択します。
4. **[Grow Your Business (ビジネスを成長させる)]** をクリックします。
5. **[Test Drives (機能制限トライアル)]** で、**[Offer test drives (機能制限トライアルを提供する)]** を有効に切り替えます。
6. 機能制限トライアル組織 ID と評価ユーザーのユーザー名とパスワードを入力します (1)。

Test Drives

A test drive is an easy way to give customers hands-on experience with your solution. As a bonus, customers don't have to install anything in an org. Instead, they try your solution in a preconfigured Developer Edition org that includes sample data. Customers launch test drives from your AppExchange listing, and access your test drive org as read-only users.

Offer test drives
Active

Org ID

Username

Password

AppExchange でライブリストを表示し、機能制限トライアルが期待どおりに機能していることを確認します。

機能制限トライアル組織の延長の申請

機能制限トライアル組織は1年で失効します。機能制限トライアル組織の期限切れを防止するために、サポートケースを登録して延長を申請してください。

1. Salesforce パートナーコミュニティへの登録に使用したユーザー名で [Salesforce ヘルプ](#) にログインします。
2. **[サポートに連絡]** をクリックします。
3. **[ケースを作成]** をクリックします。
4. 必須の詳細情報を入力します。
 - a. [Subject (件名)] に「*Test Drive Org Extension (機能制限トライアル組織の延長)*」と入力します。
 - b. [Description (説明)] には、自分が Salesforce パートナーであり、機能制限トライアルの有効期限の延長について要求していることを記入します。

- c. 商品を選択するように要求されたら、[Pick a different product / topic (別の商品/トピックを選択)] をクリックします。
- d. [Product (商品)] では、[Partner Programs & Benefits (パートナープログラムとメリット)] を選択します。
- e. [Topic (トピック)] では、[Trial Org Extensions (トライアル組織の延長)] を選択します。
- f. 機能制限トライアル組織の ID を入力します。
- g. インスタンス種別と重大度を選択します。

5. [ケースを作成] をクリックします。

ケースの確認後、追加の情報が必要な場合には連絡が送られてきます。

Web サイトでの無料トライアルの提供

HTML フォームを使用して、自社のビジネスに対するトラフィックを増やし、ソリューションを見込み客に紹介することができます。見込み客がフォームを送信したら、Trialforce テンプレートに基づいて Salesforce でトライアルが提供されるようになります。

Web サイトで無料トライアルを提供するには、最初に [Trialforce](#) を設定します。次のタスクを完了すると、稼働準備が整います。

SignupRequest API の有効化

Salesforce 組織で SignupRequest API を有効にするには、ケースを登録します。

サインアップフォームのホスティングオプションの選択

サインアップフォームは、見込み客がトライアルにサインアップする登録ページとして機能します。サインアップフォームのホスティングオプションを確認して選択します。

API を使用したサインアップ

SignupRequest オブジェクトへの API コールを使用して、見込み客向けのサインアップを作成します。

OAuth と API アクセス用のプロキシサインアップの作成

SignupRequest オブジェクトを使用して、システムが生成するメールをユーザーに送信することなく、組織をプログラマ的に作成できます。

トライアル組織の提供

Trialforce を使用して、ソリューションの無料トライアルを見込み客に提供します。

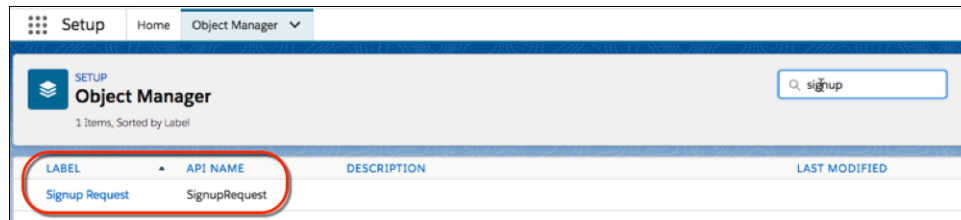
SignupRequest API の有効化

Salesforce 組織で SignupRequest API を有効にするには、ケースを登録します。

ビジネス組織で SignupRequest API を有効にします。そうすることでサインアップデータを既存のビジネスプロセスと簡単に統合できます。たとえば、各サインアップ要求をリードに変換するワークフロールールを作成したり、特定期間のサインアップ数を追跡するレポートを実行したりするワークフロールールを作成します。

1. ビジネス組織にログインし、ビジネス組織で SignupRequest API が有効になっているか確認します。
2. [設定] の [クイック検索] ボックスに「オブジェクトマネージャー」と入力し、[オブジェクトマネージャー] を選択します。

- サインアップ要求オブジェクトが表示されていることを確認します。このオブジェクトが表示されていない場合、SignupRequest API を有効にするケースを登録します。



- SignupRequest API を有効化するには、Salesforce パートナーコミュニティへの登録に使用したユーザー名で [Salesforce ヘルプ](#) にログインします。
- [サポートに連絡] をクリックします。
- [ケースを作成] をクリックします。
- 必須の詳細情報を入力します。
 - [Subject (件名)] に「*SignupRequest API Request*」(SignupRequest API の要求) と入力します。
 - [Description (説明)] には、自分が Salesforce パートナーであり、SignupRequest API を要求しているということを入力します。
 - 商品を選択するように要求されたら、[Pick a different product / topic (別の商品/トピックを選択)] をクリックします。
 - [Product (商品)] では、[Partner Programs & Benefits (パートナープログラムとメリット)] を選択します。
 - [Topic (トピック)] では、[ISV Technology Request (ISV テクノロジー要求)] を選択します。
 - インスタンス種別と重大度を選択します。
- [ケースを作成] をクリックします。

ケースの確認後、追加の情報が必要な場合には連絡が送られてきます。

サインアップフォームのホスティングオプションの選択

サインアップフォームは、見込み客がトライアルにサインアップする登録ページとして機能します。サインアップフォームのホスティングオプションを確認して選択します。

SignupRequest API は、いくつかの HTML フォームのホスティングオプションをサポートしています。次のいずれかを選択します。

- Heroku でホストされる Node.js および React アプリケーション
- Experience Cloud サイトでホストされる Lightning コンポーネント
- サイトでホストされる Visualforce ページ
- プロセスビルダーを使用した Web-to-リードフォーム

デフォルトでは、SignupRequest API は認証されたコールでのみ使用できます。認証されていないユーザーがサインアップフォームを使用できるようにする場合など、認証されていないコールが必要な使用事例がある場合は、次のコードサンプルのパターンに従います。

```
public with sharing class newTrialSignupController {
    @AuraEnabled
    public static void getNewLead(Lead newLead, String templateId, String username, Boolean
createLead, String domain) { }
    // SignupCreation is an inner class without sharing. It runs in the system context
    // and is used to handle SignupRequest calls for unauthenticated users.
    public without sharing class SignupCreation {
        public void createNewTrial(Lead newLead, String templateId, String username, String domain)
        {
        }
    }
}
```

API を使用したサインアップ

SignupRequest オブジェクトへの API コールを使用して、見込み客向けのサインアップを作成します。

SignupRequest オブジェクトへの API コールを使用すれば、ビジネス組織のすべてのサインアップについての詳細な情報を収集して分析できます。サインアッププロセスを制御し、見込み客の状況をより正確に把握できます。たとえば、次のような操作が可能です。

- レポートを実行して、1日あたりのサインアップ数や国別のサインアップ数などの総計値を収集します。
- SignupRequest オブジェクトをカスタマイズして、自社が特に関心を寄せている項目を追加します。
- 新しいサインアップ要求が作成されたときにメール通知を送信するなど、特定のアクションを開始するトリガーを作成します。
- 幅広いクライアントアプリケーションおよびデバイスからのサインアップを有効にすることで、顧客を獲得するためのチャンネルが増加します。

これらのオブジェクトを使用した操作についての詳細は、『Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス』を参照してください。

関連トピック:

Web サイトでの無料トライアルの提供

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.object_reference.meta/object_reference/sforce_api_objects_signuprequest.htm

<https://medium.com/inside-the-salesforce-ecosystem/signuprequest-api-and-trials-part-1-a8031258163a>

<https://medium.com/inside-the-salesforce-ecosystem/make-it-easy-for-your-customers-to-provision-trials-part-2-99cb9578675a>

https://github.com/coope08/nodejs_react_sfdc_isv_webform

<https://github.com/CairlinnSolutions/srpoc>

ユーザ権限

サインアップ要求を作成または表示する

- SignupRequest API

OAuth と API アクセス用のプロキシサインアップの作成

SignupRequest オブジェクトを使用して、システムが生成するメールをユーザーに送信することなく、組織をプログラマ的に作成できます。

その後、その組織にログインするための OAuth アクセストークンを取得し、その組織から API 要求を行えるようになります。ユーザーの操作は必要ありません。このプロキシサインアップでは、Salesforce を使用していることをユーザーに知らせず、ユーザーの代理として組織の作成や操作ができるためです。

従来のサインアッププロセスでは、組織を作成すると、ユーザーには、ログイン URL と初期パスワードが記載された、システム生成メールが送信されます。ユーザーは、その後ログインし、ユーザーの代わりに組織に対するコールを実行してもらうための API アクセス権を明示的に付与する必要があります。プロキシサインアップを使用すると、そうした従来の手順なしで API アクセス権を取得できます。

代理として組織を作成および管理できるため、他のプラットフォームにある外部アプリケーションと Salesforce を統合するための選択肢が広がります。これにより、Salesforce ユーザーインターフェース (UI) を公開することなく、自分のアプリケーションに Lightning プラットフォームの任意の機能を取り込むことができます。すべての Salesforce 機能を UI から切り離せるほか、他のアプリケーションのランタイムや UI に、シームレスで目に見えない形で統合することができます。

たとえば、.NET プラットフォームに構築された、企業が旅費の報告および社員への払い戻しを管理するのに役立つ Web アプリケーションが ISV にあるとします。ISV は、アプリケーションに Chatter を統合して、企業のすべての従業員が、フィードバックや旅費についてのヒントを共有できるようにしようとしています。ISV は、適切な Salesforce API を使用して、次のソリューションを実装できます。ゼロから開発するのではなく、顧客に Chatter 機能へのアクセス権を付与できるようになります。ISV の顧客は、既存のアプリケーションの拡張として、特別に意識することなく Chatter を体験し、慣れ親しんだインターフェースを使用できます。Salesforce のことを知る必要も、ログインする必要もありません。このアプローチは、標準オブジェクトやカスタムオブジェクト、Apex、Visualforce など、Salesforce の他の機能にも拡張できます。プロキシサインアップによって ISV では Salesforce をサービスとして使用することが可能になり、Salesforce UI を公開することなく、その機能を任意のプラットフォームのアプリケーションに統合できるようになります。ISV の構想力次第で、どのようなアプリケーションでも作り出すことができます。

- プロキシサインアップを使用して、各顧客に 1 つずつ Salesforce 組織を作成します。
- その会社のすべての従業員のために、各顧客組織のユーザーを作成します。
- 旅行情報を共有する Chatter グループを設定して管理します。
- 各ユーザーの Chatter フィードを監視し、各投稿から情報を抽出します。
- アプリケーションにこの情報を挿入し、既存の UI に表示します。

1. プロキシサインアップを作成するには、Developer Edition 組織 (デフォルトで、接続アプリケーションのユーザー権限が有効になっている) にログインします。
2. Lightning Experience では、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーションマネージャー」と入力し、[新規接続アプリケーション] をクリックします。(組織で Salesforce Classic を使用している場合は、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーション」と入力します。[ビルド] で [アプリケーション] を選択します。[接続アプリケーション] で、[新規] をクリックします。)
3. 必須項目に値を入力します。X.509 証明書を指定し、[選択した OAuth 範囲] セレクターで OAuth 範囲へのフルアクセスと更新トークンアクセスを許可します。コールバック URL は必須ですが、最初は未使用なので、任意の有効な URL を設定できます。終了したら、[保存] をクリックします。

ユーザ権限

サインアップ要求を作成または表示する

- サインアップ要求 API

4. 同じページの [コンシューマー鍵] の値を記録します。また、[クリックして公開] をクリックして、[コンシューマーの秘密] の値を記録します。
5. 接続アプリケーションを新しいパッケージのコンポーネントとして追加し、パッケージ化します。そのパッケージのインストール URL の値を記録します。
6. Trialforce 管理組織にログインし、そこから Trialforce ソース組織を作成します。
7. Trialforce ソース組織にログインし、インストール URL を使用して接続アプリケーションを含むパッケージをインストールします。
8. 接続アプリケーションを Trialforce ソース組織にインストールすると、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーションを管理する」と入力して [管理アプリケーション] を選択することで、その接続アプリケーションをカスタマイズできます。接続アプリケーションを表示して、属性を編集することができます。適切なプロファイルと権限セットを指定します。OAuth ポリシーセクションで [管理者が承認したユーザーは事前承認済み] オプションをオンにします。これにより、これらの条件にあてはまるユーザーの代理として組織への認証を行うことができます。
9. 要件に合わせて Trialforce ソース組織を設定し終わったら、そこから Trialforce テンプレートを作成します。Trialforce テンプレートを作成するときに、[すべてのデータおよび設定] のラジオボタンを選択します。
10. パートナーコミュニティにケースを申請し、そのテンプレートを使用してサインアップを作成するための承認を取得します。
11. テンプレートが承認されたら、SignupRequest オブジェクトを使用して新しい組織をサインアップできます。組織に接続するために必要な OAuth 値 (コンシューマーキーおよびコールバック URL) を指定します。

```
POST https://mycompany-tmo.salesforce.com/services/data/v27.0/subjects/SignupRequest/
Authorization Bearer
  00Dxx0000001gR6!ARoAQAS3Uc6brlY8q8TWrrI_u1THuUGmSAP
  XrksSniyjom9kXfDac4UP.m9FApjTw9ukJfKqWuD8pA9meeLaltRmNFvPqUn7
Content-Type application/json Body:
{
  "TemplateId": "0TT000000000001",
  "SignupEmail": "john.smith@mycompany.com",
  "Username": "gm@trial1212.org",
  "Country": "US",
  "Company": "salesforce.com",
  "LastName": "Smith",
  "ConnectedAppConsumerKey":
    "3MVG9AOp4kbriZOLfSVjG2Pxa3cJ_nOkwhxL1J1AuV22u8bm82FtDtWfVv__
    Vs6mvqoVbAnwsChp9YT4bfrYu",
  "ConnectedAppCallbackUrl":
    "https%3A%2F%2Fwww.mysite.com%2Fcode_callback.jsp" }
```

ConnectedAppConsumerKey 項目および ConnectedAppCallbackUrl 項目が SignupRequest オブジェクトで指定されている場合、プロキシサインアップフローでは、この組織で既存の接続アプリケーションを使用することが自動的に承認されます。そのフローでは、サインアップ関連のメールがユーザーに送信されることはありません。システム管理者のユーザー名、コンシューマーキー、およびコンシューマーの秘密を知っていれば、次の操作を行うために必要な情報はすべて揃っています。

- 組織の管理ユーザーとして、その組織に API 要求を行う。
- 今後任意の時点で、更新されたアクセストークンを要求する。

トライアル組織の提供

Trialforce を使用して、ソリューションの無料トライアルを見込み客に提供します。

Trialforce を設定したら、次の 2 つの方法でトライアル組織を提供できます。

- 転送 — 見込み客の代わりに、見込み客の情報を登録フォームに入力してトライアルを提供します。
- プル — 見込み客が公開 Web サイトの登録フォームに入力して、独自にトライアルを要求します。

会社の Web サイトのフォームを公開することなく、フォームにアクセスできるすべてのユーザーが見込み客の代わりにトライアルを作成できます。単にブラウザー内で登録フォーム HTML ファイルを起動し、顧客の代わりに項目に入力してフォームを送信します。新しいトライアルを使用できることが見込み客にメールで通知されます。必要に応じて、組織情報を使用してメールにブランド情報を含められます。

1. 公開 Web サーバーに HTML 登録フォームをアップロードします。
2. Trialforce 登録フォームへのリンクを含める会社の Web サイトで、該当する HTML ページを編集して公開します。
3. 会社の Web サイトから登録ページに移動します。
4. 必須項目に入力してフォームを送信します。

OEM ユーザーライセンスガイド

OEM パートナーが使用できるライセンスの種類について説明します。

ライセンスの種類と使用可能かどうか

新規および既存の OEM パートナーには、次のライセンスを再販売できます。

内部ユーザーライセンス:

- Force.com Platform (組み込み) — 契約上の制限がある Enterprise Edition Platform のライセンス。
- Force.com Platform (組み込み) システム管理者 — 契約上の制限がある Enterprise Edition Salesforce システム管理者のライセンス。初注文で必ず必要です。OEM アプリケーションを設定および管理するために使用します。このライセンスでは、CRM 機能へのアクセス権の付与や CRM 機能の使用が禁止されています。禁止される操作には、リード、商談、ケース、ソリューション、予測、キャンペーンに対する作成、参照、更新、削除 (CRUD) が含まれますが、これに限定されません。
- OEM (組み込み) パートナーシステム管理者 — 契約上の制限がある Enterprise Edition Salesforce システム管理者のライセンス。Partner Admin User サブスクリプションは、パートナーだけが OEM アプリケーションの設定および管理に使用できます。このライセンスでは、CRM 機能へのアクセス権の付与や CRM 機能の使用が禁止されています。顧客はこのライセンスを使用できません。
- Financial Service Cloud (組み込み) Starter — 契約上および技術的な制限がある、Financial Services Cloud – Sales & Service 製品の Enterprise Edition バージョン。このライセンスには、Force.com プラットフォーム (組み込み) の機能と Financial Services Cloud データモデル部分が含まれます。

外部ユーザーライセンス: このライセンスは、外部ユーザーにのみ割り当てることができます。


- コマースポータル — 外部関係者を引き込むカスタムデジタルエクスペリエンス (ブランドエンゲージメント、顧客ロイヤルティなど)。

- カスタマーコミュニティ — Salesforce ナレッジにアクセスする必要がある外部ユーザーが多いコミュニティに適した B2C エクスペリエンス。
- カスタマーコミュニティプラス — カスタマーコミュニティライセンスと類似するものですが、ストレージが増量されており、レポートとダッシュボードへのアクセスが可能で、共有が高度化されています。
- パートナーコミュニティ — セールスデータにアクセスする必要があるユーザー向けの B2B エクスペリエンス。ここでは、OEM パートナーのソリューションを使用して、セールスオブジェクトへのアクセスが可能です。パートナーコミュニティライセンスは、個人取引先では使用できません。

OEM パートナーによって販売されるライセンスは、パートナーソリューションへのアクセスにのみ使用できません。パートナーソリューションを拡張するために、エンドユーザーは、ソリューションあたりさらに最大 10 個のカスタムオブジェクトを作成、アクセス、使用できます。これらのカスタムオブジェクトは、パートナーソリューションでのみ使用できます。

次の表は、ユーザーライセンスの種類が OEM (組み込み) である場合のオブジェクトへのアクセス、ユーザー権限、機能と、組織の制限を示しています。外部ユーザーライセンスの制限と CRUD アクセス情報については、「[Experience Cloud ユーザーライセンス](#)」を参照してください。

表中では次の記号を使用します。

-  — ライセンスに含まれている
- \$ — 有料でアドオンとして使用できる
- C — オブジェクトへの「作成」アクセス権
- R — オブジェクトへの「参照」アクセス権
- U — オブジェクトへの「更新」アクセス権
- D — オブジェクトへの「削除」アクセス権

重要: Success プランは OEM サブスクリプションに含めたり、OEM サブスクリプションで修正することはできません。Success プランについての詳細は、Salesforce の「[Agreements and Terms \(契約および規約\)](#)」を参照してください。

オブジェクト

アクセス対象オブジェクト	Force.com Platform (組み込み)	Financial Services Cloud (組み込み) Starter
取引先	CRUD	CRUD
活動	CRUD	CRUD
住所	R	R**
納入商品	CRUD	CRUD
承認フォーム	CRUD	CRUD
認証フォーム同意	CRUD	CRUD
承認フォームデータ使用	CRUD	CRUD

アクセス対象オブジェクト	Force.com Platform (組み込み)	Financial Services Cloud (組み込み) Starter
承認フォームテキスト	CRUD	CRUD
バックグラウンド操作	R	R**
ビジネスブランド	CRUD	CRUD
カレンダー	CRUD	CRUD
コミュニケーション登録	CRUD	CRUD
コミュニケーション登録チャンネル種別	CRUD	CRUD
コミュニケーション登録の同意	CRUD	CRUD
コミュニケーション登録タイミング	CRUD	CRUD
取引先責任者	CRUD	CRUD
連絡先住所	CRUD	CRUD
連絡先の同意	CRUD	CRUD
連絡先メール	CRUD	CRUD
連絡先電話番号	CRUD	CRUD
連絡先種別に関する同意	CRUD	CRUD
コンテンツ	CRUD	CRUD
契約*	CRUD	CRUD
顧客	CRUD	CRUD
データ使用の法的根拠	CRUD	CRUD
データ使用目的	CRUD	CRUD
ドキュメント	CRUD	CRUD
支持	CRUD	CRUD
イベント	CRUD	CRUD

アクセス対象オブジェクト	Force.com Platform (組み込み)	Financial Services Cloud (組み込み) Starter
アイデア	CR	CR**
個別	CRUD	CRUD
ナレッジ	R	R
場所	R	R**
注文*	CRUD	CRUD
個人取引先	CRUD	CRUD
関係者の同意	CRUD	CRUD
転送トピック	CRUD	CRUD
販売者	CRUD	CRUD
スキル	CRUD	CRUD
スキルユーザー	CRUD	CRUD
ソーシャル投稿	CRUD	CRUD
ストーリーミングチャンネル	CRUD	CRUD
ToDo	CRUD	CRUD
ユーザーの外部ログイン情報	CRUD	CRUD
商品と価格表*	CRUD	CRUD
ISV カスタムオブジェクト	CRUD	CRUD

* OEM パートナーのみが取得できる Orders Platform 権限セットライセンス (PSL) によって、システム管理者は、Salesforce Platform ユーザーライセンスを持つユーザーに、契約、商品、価格表、注文へのアクセス権を付与できます。注文機能は、Salesforce Platform ライセンス (アクセス権を付与する場合、明示的に新しい PSL が要求される) を除く、すべてのライセンスで自動的に使用可能になります。

** CRUD アクセスは、Force.com Platform (埋め込み) に合わせて契約上制限されています。

Financial Services Cloud 専用オブジェクト

Financial Services Cloud (組み込み) Starter ライセンスのみで使用できるオブジェクトのアクセス権限を確認してください。

アクセス対象オブジェクト	Financial Services Cloud (組み込み) Starter
取引先間リレーション	CRUD
アラート	CRUD
資産と負債	CRUD
Billing Statement (請求書)	CRUD
ビジネスマイルストーン	CRUD
カード	CRUD
契約-取引先責任者間リレーション	CRUD
金融口座	CRUD
Financial Account Role (金融口座ロール)	CRUD
金融口座取引	CRUD
財務目標	CRUD
保有銘柄	CRUD
身分証明書	CRUD
ライフイベント	CRUD
個人ライフイベント	CRUD
収益	CRUD
証券	CRUD

ユーザー機能

ユーザー機能	Force.com Platform (組み込み)	Financial Services Cloud (組み込み) Starter
コンソール	✓	✓
分析 (CRM Analytics)	\$	\$
ナレッジ記事の作成	\$	\$
Salesforce モバイルアプリケーション	✓	✓
オフライン	✓	✓
フローおよびプロセスビルダー	✓	✓

ユーザー機能	Force.com Platform (組み込み)	Financial Services Cloud (組み込み) Starter
承認プロセス	✓	✓
元のテリトリー管理*	—	—
エンタープライズテリトリー管理	✓	✓

* Summer '21 リリースで、元のテリトリー管理は、すべての顧客において廃止されました。ユーザーは元のテリトリー管理機能やその基盤となるデータにアクセスできません。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。詳細は、「[元のテリトリー管理モジュールの廃止](#)」の記事を参照してください。

ユーザー権限

ユーザー権限	Force.com Platform (組み込み)	Financial Services Cloud (組み込み) Starter
取引先チーム	✓	✓
高度な共有	✓	✓
Chatter	✓	✓
カスタムプロファイル	✓	✓
カスタム権限セット	✓	✓
Einstein 検索	✓	✓
レポートのカスタマイズ	✓	✓
ダッシュボードのカスタマイズ	✓	✓
ダッシュボードの表示*	✓	✓
ID	✓	✓
組織でカスタムプロファイルとページレイアウトを許可	✓	✓
組織でレコードタイプを許可	✓	✓

ユーザー権限	Force.com Platform (組み込み)	Financial Services Cloud (組み込み) Starter
メールの送信	✓	✓
ワークフロー承認の送信	✓	✓
Next Best Action 戦略実行数の制限なし**	✓	✓
カスタムタブの制限	25	25
カスタムオブジェクトの制限	400***	400***

*ダッシュボードを表示するには、ダッシュボードの実行ユーザーが Salesforce Platform ユーザーでなければなりません。Salesforce Platform システム管理者を実行ユーザーとして使用するダッシュボードは、他の種類の Salesforce Platform ライセンスでは表示できません。

** この権限を持つユーザーが行った Next Best Action 要求は、月次エンタイトルメントに計数されません。

***400個のカスタムオブジェクト数制限は、主ソリューション製品に適用されます。エンドユーザーは、さらに最大10個のカスタムオブジェクトを作成およびアクセスできます。これらのカスタムオブジェクトは、パートナーソリューションの範囲内に存在する必要があり、パートナーソリューションでのみ使用する必要があります。

ディスク使用制限

新規の取引先の場合、Enterprise Edition 組織に Force.com Platform (組み込み) システム管理者のライセンスが付属しています。顧客が Unlimited Edition (UE) 組織をすでに所有している場合、パートナーは、注文を通常どおり実行します。パートナー事業部チームは、パートナーに代わって、該当する Force.com Platform (組み込み) UE ライセンスをプロビジョニングします。パートナーの Force.com Platform (組み込み) 契約条件は、プロビジョニングされた Force.com Platform (組み込み) UE ライセンスに適用されます。ユーザーごとのストレージ制限は、UE ライセンスの割り当てによって管理されます。

追加の組織の制限 (ユーザーあたりに追加)	OEM (組み込み)
データストレージ	20 MB
ファイルストレージ	2 GB

データストレージの場合、各 Force.com Platform (組み込み) 組織に 10 GB 以上が割り当てられます。たとえば、ユーザーあたりの割り当てが 20 MB で、20 人のユーザーがいる Force.com Platform (組み込み) 組織の場合は、 $400 \text{ MB} + 10 \text{ GB} = 10.4 \text{ GB}$ の合計データストレージが与えられます。100 人のユーザーがいる Force.com Platform (組み込み) 組織の場合は、ユーザー数 $100 \times$ ユーザーあたりの割り当て $20 \text{ MB} = 2 \text{ GB}$ であるため、12 GB が与えられます。

ファイルストレージの場合、各 Force.com Platform (組み込み) 組織では、ユーザーあたりの制限に組織のユーザー数を掛けて、組織単位の割り当て 11 GB を追加したストレージ容量が割り当てられます。たとえば、600 人のユーザーがいる Force.com Platform (組み込み) 組織の場合は、ユーザーあたりのストレージ容量 $2 \text{ GB} \times \text{ユーザー数} + 11 \text{ GB} = 1,211 \text{ GB}$ のファイルストレージが割り当てられることになります。

他の Salesforce エディションのデータストレージとファイルストレージの制限については、「[データストレージとファイルストレージの割り当て](#)」を参照してください。

API の制限

Enterprise Edition 組織に Force.com Platform (組み込み) システム管理者のライセンスが付属しています。Force.com Platform (組み込み) は、プラットフォームライセンスを提供します。

Salesforce のエディション	ライセンスの種類ごとの API 要求数 (コール数)	24 時間あたりの合計要求数 (コール数)
Enterprise Edition	1000	$100,000 + (\text{ライセンス数} \times \text{ライセンスの種類ごとのコール数})$

コール数の制限は、24 時間あたりに組織に対して行われた API コール数の集計に対して適用されます。この制限は、ユーザーごとに適用されるものではありません。組織がこの制限を超過した場合、組織内のすべてのユーザーが一時的にブロックされ、コールを行うことができなくなります。直近 24 時間の使用状況が制限値内に収まるまで、コールはブロックされます。

外部ユーザーライセンスによる API 制限など、Enterprise Edition 組織の API 制限については、「[API 要求の制限と割り当て](#)」を参照してください。

Government Cloud Plus の顧客に関する考慮事項

Government Cloud Plus の顧客との取引では、次の考慮事項に留意してください。

- Government Cloud Plus の顧客への販売では、追加料金と制限が適用されます。詳細は、パートナーアカウントマネージャー (PAM) にお尋ねください。
- Government Cloud Plus の顧客には、Government Cloud Plus 製品リストに含まれているサービスのみを再販できます。このリストは頻繁に更新されており、Salesforce の「[Agreements and Terms](#)」ページにあります。
- Government Cloud Plus の顧客を識別するには、その組織が存在する Salesforce インスタンスを確認してください。インスタンスは、ライセンス管理アプリケーション (LMA) の顧客のライセンスレコードにリストされています。組織が存在するインスタンスを特定したら、Salesforce ヘルプで [Government Cloud Plus インスタンス](#) と比較してください。

従来のライセンスの種類

これらのライセンスは、新規のパートナーは使用できませんが、再販売契約がすでに済んでいる既存のパートナーは、再販売することができます。これらのライセンスは外部ユーザーにのみ割り当てることができます。

- ISV ポータル — 基本的なデータ共有オプションを含む Authenticated Website ライセンス。ユーザーとの共有の直接設定と共有グループへの参加は許可されていません。ユーザーは Salesforce Platform サイト経由でしかログインできません。ISV ポータルライセンスは、予想ユーザー数が 100,000 人を超える場合に適しています。
- 共有機能搭載 ISV ポータル — すべての共有機能を使用できるカスタマーポータルマネージャーカスタムライセンス。ユーザーは Salesforce Platform サイト経由でしかログインできません。このライセンスは、予想ユーザー数が 100,000 人未満で、詳細なセキュリティアクセスが必要な場合に適しています。

関連トピック:

https://help.salesforce.com/s/articleView?id=sf.users_license_types_communities.htm&type=5

https://help.salesforce.com/articleView?id=000273181&type=1&language=en_US

https://help.salesforce.com/articleView?id=sf.overview_storage.htm&type=5

https://developersalesforce.com/docs/atlasen-us/salesforce_app_limits_cheatsheet/meta/salesforce_app_limits_cheatsheet/salesforce_app_limits_platform_api.htm